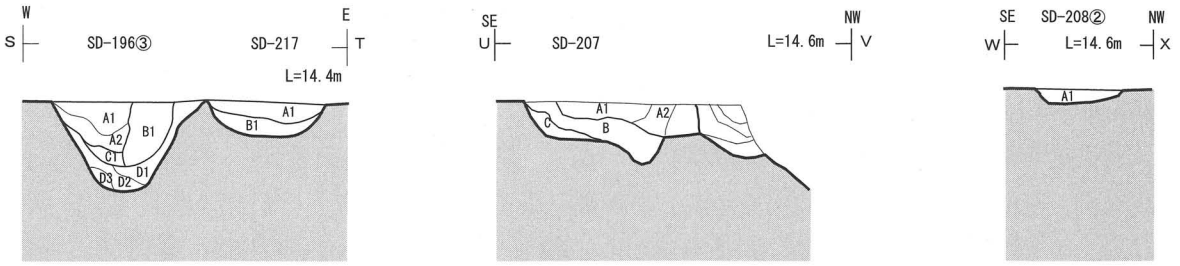
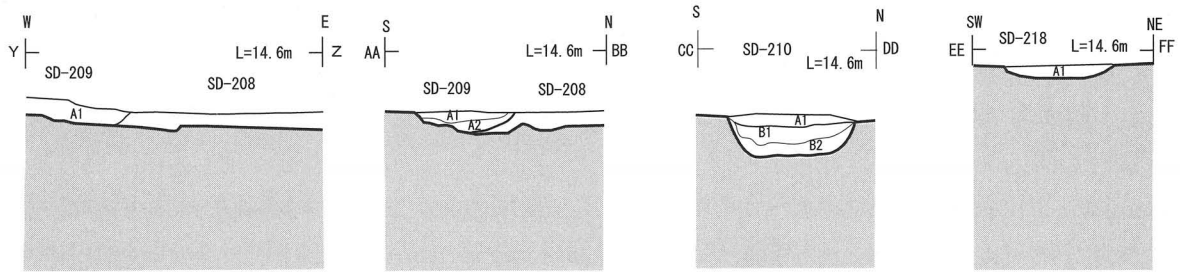


SD-196③
A1: Sicl10YR3/3,HC10YR5/1 0.3～1cm大ブロック 30% 軟 中-疎 Sil5YR5/8 0.5cm大焼土粒少量含, 0.5～1cm大レキやや多く含。
A2: Sicl10YR3/3,HC10YR5/1 0.3～1cm大ブロック 30-40% 中-軟 中-疎 0.5～1cm大レキやや多く含。
B1: Sicl10YR3/1,HC10YR4/1 粉 40-50% 軟 中-密 0.5～2cm大レキやや多く含。
C1: HC10YR5/1,Sil10YR4/4 粒 20-30% 軟 中-疎 0.5cm大レキ少量含。
D1: HC10YR4/1,Sil10YR6/1 粒～0.5cm大 15-20% 軟 中-密 2～3cm大レキやや多く含。
D2: HC10YR4/1,Sil10YR6/8 0.5～1cm大ブロック 20-30% 中-軟 中-密 1～2cm大レキ少量含。
D3: HC10YR4/1,Sic10YR6/8 ～0.5cm大 40% 軟 疎 0.2～0.5cm大レキ多量に含。

SD-217
A1: Sicl10YR3/1,Sil10YR6/1 粒 30-40% 中-軟 中-密 1～2cm大レキ多量に含。
B1: Sil10YR6/1,HC10YR3/1 1～3cm大ブロック 20% 中-軟 中-疎 2～3cm大レキやや多く含。

SD-207
A1: Sicl10YR2/3,Sic10YR4/3 粒 30% 軟 中-疎 0.3cm大砂やや多く含, HC10YR6/1 ～1cm大ブロック 15%含。
A2: Sicl10YR2/3,Sic10YR4/3 粒 40-50% 中-軟 中-疎 ～0.2cm大白色粒やや多く含, HC10YR6/1 ～1cm大ブロック 10%含。
B1: Sicl10YR3/1,Sil10YR5/6 粒～1cm大ブロック 20-30% 軟 中-疎 ～0.2cm大白色粒やや多く含。
C1: Sicl10YR2/1,Sil10YR7/8 粒～0.5cm大 40-50% 中-軟 中-密 ～0.2cm大白色粒少量含。

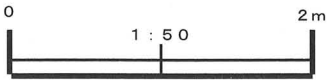
SD-208②
A1: Sicl10YR3/2～3/3,Sil10YR5/1 粒～1cm大ブロック 30% 中-軟 中-疎 0.5cm大炭化物少量含。



SD-209
A1: Sicl10YR3/2～3/3,Sil2.5Y7/6 粒～1cm大ブロック 10-15% 中-軟 中-疎 ～0.1cm大白色粒少量含。
A2: Sicl10YR3/2～3/3,Sil2.5Y7/6 粒～1cm大ブロック 30% 軟 疎 ～0.1cm大白色粒少量含。

SD-210
A1: Sicl10YR2/1,Sil7.5Y6/2 粒 15-20% 中-軟 密 ～0.2cm大白色粒および1cm大レキやや多く含。
B1: HC2.5Y5/1,HC10YR2/2 1～2cm大ブロック 20-25% 中-軟 中-密 1～5cm大レキ多量に含。
B2: HC2.5Y5/1,HC10YR2/2 1～2cm大ブロック 30% HC2.5Y3/2 0.5～1cm大ブロック 30% 中-軟 中-密。

SD-218
A1: Sicl10YR3/2,Sic10YR5/4 粒 30% 中-硬 中-密 0.3～0.5cm大レキ多量に含。



第 50 図　方形周溝墓 22・23 断面図 (2)

(XV) 方形周溝墓 24 ～ 27

方形周溝墓 24(第 3・52 図)

位置 調査区南東側。 **平面形** 方形。 **軸方向** N° 61E。 **規模** 北西 - 南東 6.1m。南西 - 北東 7.6m。 **墳丘規模** 北西 - 南東 4.6m。南西 - 北東 5.4m。 **主体部** 楕円形土壙 1 基 ?。 (SK113-N68° E。) **陸橋** 北東 (幅 1.65m。) に開口。 **周溝の幅** 0.35 ～ 2.1m。 **深さ** 0.2 ～ 0.32m。 **断面形** 逆台形。 **溝の共有** SZ15(SD238)SZ16(SD224)。 **重複関係** SD219・220 に切られる。 **掘込面** 削平。**検出面** VII 層上面。
主体部 なし。
埋土 北東辺 SD229 は A ～ B 層に分けられ、A1 層は褐灰色粘土に暗褐色ブロック土や礫を多く含む。A2 層は褐灰色粘土に暗褐色ブロック土や礫を含み、黄褐色の焼土ブロックを含む。B1 層は褐灰色シルト質埴土に灰黄褐色ブロック土や礫を含む。B2 層は褐灰色シルトに灰黄褐色ブロック土や礫を多量に含む。南東辺 SD235 は A ～ B 層に分けられ、A1 層は暗褐色土に褐灰色シルトや礫を含む。B1 ～ 3 層は褐灰色粘土に暗褐色ブロック土や礫を含む。SZ16 と共有する北西辺 SD224 ③は A ～ C 層の 3 層に大別され、A1 ～ 3 層は黒褐色土に褐灰色粘土ブロックと多量の礫を含む。B1 ～ 2 層は黒褐色土に多量の褐灰色シルトブロックと多量の礫を含む。C1 層は明黄褐色シルトに褐灰色シルトを含む。SZ15 と共有する南西辺 SD238 は A ～ B 層に大別され A1 層は黒褐色土ににぶい黄褐色シルトや礫を多量に含む。A2 ～ 3 層は黒褐色土に褐灰色シルトや礫を多く含む。B1 層は黒褐色シルト質埴土に黄褐色砂壌土と礫を多量に含む。 **壁・底の状態** 南東辺は SD220(南東) 側の方が壁の立ち上がりがきつく、北西側よりも 0.15m ほど深い。
出土遺物 SD224・238 からは摩滅した体部破片のみである。

方形周溝墓 25(第 3 図)

位置 調査区南東隅。 **平面形** 方形。 **軸方向** N18° E。 **規模** 南北 8.6m、東西 6.5m ～。 **墳丘規模** 南北5.3m、東西5.9m ～。 **主体部** 削平。 **陸橋** 北西 (幅2.0m。) に開口。 **周溝の幅** 0.5 ～ 2.4m。 **深さ** 0.1 ～ 0.5m。 **断面形** U 字形。 **溝の共有** なし。 **重複関係** SK135・SD196 に切られる。 **掘込面** 削平。**検出面** VII 層上面。
埋土 北辺 SD-231(A-B 断面) は A1 ～ 3 層は黒褐色土に褐灰色シルトや礫、明赤褐色の焼土粒を少量含む。B1 ～ 2 層は黒色粘土に褐灰色シルトや礫を含む。B3 層は黒色粘土ににぶい黄橙色シルト、多量の礫を含む。南辺 SD-228 ① (C-D 断面) は A1・B1 層ともに黒褐色粘土に褐灰色シルトや礫を含む。西辺 SD-228 ② (E-F 断面) は A 層のみで、黒褐色粘土に褐色シルトを含む。
出土遺物 北辺 SD231 から弥生時代中期の櫛描直線文がみられる体部破片、底部が出土している。

方形周溝墓 26(第 3・45 図)

位置 調査区北東隅。 **平面形** 方形 ?。 **軸方向** N61° E。 **規模** 不明。 **墳丘規模** 北西 - 南東 3.8m ～。 **主体部** 不明。 **陸橋** 不明。 **周溝の幅** 1.3m ～。(SD206) **深さ** 0.54m。 **断面形** V 字形。 **溝の共有** 不明。 **重複関係** 不明。 **掘込面** 削平。**検出面** VII 層上面。
埋土 SD-206 は A1 ～ 4 層の単層で灰黄褐色粘土に明オリーブ灰色シルトを含む。A2 層に遺物を含む。
出土遺物 (第 54 図 20・22/ 表 1)20 は弥生土器の広口壷口縁部である。復元口径は 22.0cm で、内外面共に摩滅している。22 は弥生土器の鉢で、その器形は平底の底部に椀形の体部、口縁部が外反する。器高 25.5cm、口径 (最大径)34.3cm、底径 9.5cm を測る。外面は口縁部にヨコナデ、体部にハケメが施され内面は摩滅が著しい。また、口縁外面に赤彩された痕跡が残る。

方形周溝墓 27(第 3 図)

位置 調査区南東隅。 **平面形** 方形。 **軸方向** N40° E。 **規模** 北西 - 南東 2.0m ～、南西 - 北東 3.0m ～。 **墳丘規模** 不明。 **主体部** 不明。 **陸橋** 不明。 **周溝の幅** 0.65 ～ 0.95m。(SD227) **深さ** 0.28m。 **断面形** U 字形。 **溝の共有** 不明。 **重複関係** 不明。 **掘込面** 削平。 **検出面** VII 層上面。

埋土 SD-227 は A ～ C 層の 3 層に大別され、A1 ～ 3 層は黒褐色土に明黄褐色シルトや礫を含む。B1 層は黒褐色粘土に灰黄褐色シルトを含む。C1 層は黒褐色土に褐色シルトと礫を多量に含む。 **出土遺物** なし。

(XVI) その他 溝・土壙

SD(溝)196(第 3・45・46・48・50 ～ 54 図)

位置 調査区東端。 **平面形** 調査区北側では北北西に延び、弧を描いて調査区南側では南西方向に延びる。 **規模** 全長 48m ～。 **幅** 0.85 ～ 1.65m。 **深さ** 0.33 ～ 0.65m。底面の標高は北側が 13.6m、南側が 13.4m を測り、ほとんど差がない。 **断面形** 一様ではなく、場所によって逆台形、V 字、U 字形を呈する。 **重複関係** SD220・SZ25(SD231) を切る。 **掘込面** 削平。 **検出面** VII 層上面。

埋土 北側から 6 箇所の断面を精査している。SD196 ①(第 45・46 図)は A ～ D 層に大別され、A1 ～ B1 層は黒色粘土にオリーブ灰色シルトや礫、土器を含む。C1 層は褐灰色粘土に灰黄褐色シルトと多量の土器を含む。C2 層は黒褐色粘土に灰黄褐色シルトや礫を多く含む。D1 層は褐灰色粘土にオリーブ灰色シルトを多量に含む。SD196 ②(第 45・46 図)は A ～ C 層の 3 層に大別され、A1 ～ 3 層は黒色粘土に灰白色シルトや礫を含む。B1 ～ 2 層は褐色灰粘土に灰白色シルトや礫を含む。C1 層は褐灰色粘土に多量の灰白色シルトと礫を含む。SD196 ③(第 48・50 図)は A ～ D 層の 4 層に大別され、A1 ～ 2 層は暗褐色土に褐灰色粘土ブロックや礫を多く含み、A1 層には明赤褐色の焼土粒を少量含む。B1 層は黒褐色土に多量の褐灰色粘土や礫を多く含む。C1 層は褐灰色粘土に褐色シルトや礫を含む。D1 層は褐灰色粘土に褐灰色シルトや礫を含む。D2 ～ 3 層は褐灰色粘土に明黄褐色シルトや礫を含む。SD196 ④・⑤(第 3・51 図)は A ～ D 層の 4 層に大別され、A1 層は灰黄褐色土に褐灰色粘土ブロックや礫を多く含み、橙色の焼土粒を少量含む。B1 ～ 3 層は暗褐色土に褐灰色粘土ブロックやにぶい黄橙色シルト、礫を含む。C1 層は褐灰色粘土に明黄褐色砂壌土や礫を多量に含む。C2 ～ 3 層は褐灰色土に灰黄褐色シルトや礫を多く含む。D1 層は褐灰色シルトに多量の黄褐色シルトを含む。SD196 ⑥(第 3・51 図)は A ～ B 層に分けられ、A1 ～ 2 層は暗褐色土に褐灰色シルトや多量の礫を含む。B1 ～ 2 層は褐灰色粘土ににぶい黄褐色シルトや礫を含む。

壁の状態 SD196 ④・⑤(第 3・51 図)は逆台形・V 字形を呈するが弧を描く溝の外側(南東側)の壁がきつく立ち上がっており、溝の内側(北西側)は段を有し、幅広になっている。 **底の状態** ほぼ平坦。

出土遺物(第 54 図 21・23/ 表 1) 21 は弥生土器広口壷の口縁部で、復元口径は 16.7cm を測り、内外面は摩滅している。23 は弥生時代中期後葉 (IV 様式) 頃のものと思われる広口壷の体部破片である。櫛描直線文が施される。その他に器台、「く」の字口縁甕、底部などが出土しており、南端では壷・甕類の底部が 15 点、甕の口縁部などが出土している。SD196 ③のアゼからは櫛描直線文を挟んで円形竹管文を施した壷の体部破片、北端の上層からは弥生時代後期 (VI 様式) のタタキ甕が出土しているが、ほとんどが弥生時代中期の範疇におさまるもので、開削はこの時期と考えられる。

SD(溝)220(第 3・51 図)

位置 調査区南東側。 **平面形** ほぼ直線的に北東 - 南西方向に延びる。 **軸方向** N47° E。 **規模** 全長 35m ～。 **幅** 1.3 ～ 2.2m。 **深さ** 0.5 ～ 0.7m。底面の標高は北東側が 13.5m、南西側が 13.3m を測り、ほとんど差がない状況である。 **断面形** ほぼ逆台形を呈するが、南西側では溝の重複が見られ、U 字形を呈する。 **重複関係** SD229・235 を切る。SD196・240・SK110・119・SE02・SI22 に切られる。 **掘込面** 削平。 **検出面** VII 層上面。

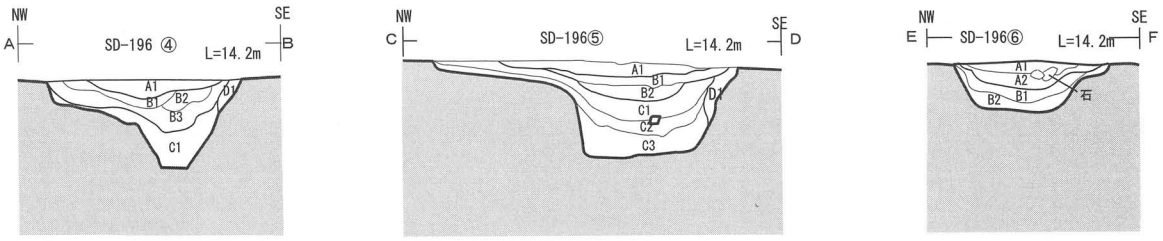
埋土 北東側から4箇所の断面を精査している。SD220①(第3・51図)はA～E層の5層に大別され、A1層は褐灰色粘土に褐色シルトや礫、炭化物を含む。B1～3層は褐灰色シルトににぶい黄褐色シルトや礫を含み、グライ化する。(水性堆積)C1層は褐灰色粘土ににぶい黄褐色シルト質埴土や礫を含み、グライ化する。D1層は褐灰色シルトに褐灰色粘土ブロックを含み、グライ化する。D2～3層は褐灰色シルトに褐灰色粘土ブロックや黄褐色シルトブロック、炭化物を含む。E1層はにぶい黄褐色シルトに黒褐色粘土ブロックや浅黄色シルト、礫を含む。SD220②(第3・51図)は同じくA～E層の5層に大別され、A1層は黒褐色土に褐色シルトや礫、炭化物を含む。B1～D1層は褐灰色粘土に黄褐色シルトや礫を含む。C1・D1層には炭化物も含む。D2層は黒褐色粘土ににぶい黄橙色粘土や礫、黄褐色の焼土粒をやや多く含む。D3層は褐灰色粘土に黄褐色シルトや礫、炭化物を含む。E1層は灰黄褐色粘土に多量のオリーブ色シルトや礫を含む。SD220③(第3・51図)はA～G層の7層に大別され、A～E層まではSD220②と同様である。F1～2層は褐灰色粘土に灰オリーブ色シルトブロックや礫を含む。G1層は褐灰色土に灰色シルトや多量の礫を含む。SD220④(第3・51図)は溝が重複しており、方形周溝墓群のある北西側が浅い溝となっており、南東側が約0.3mほど深い溝になっている。基本的な層の堆積は同じで、異なる部分のみ記述する。D´2・D´´2層は黒褐色粘土に褐灰色シルトブロックや多量の礫を含む。E1層は暗褐色土に褐灰色シルトや礫を多量に含む。 **壁の状態** 方形周溝墓群のある北西側の壁がやや崩落気味で緩くなっている。 **底の状態** ほぼ平坦。 **出土遺物** 北東部から弥生時代中期の櫛描直線文の壷破片や底部、「く」の字口縁甕、体部破片が多数出土している。南端からは把手付鉢や底部、櫛描直線文の壷体部が数点出土している。

その他の土壙

SE(井戸)101・SK(土壙)102・105・114・115・116・119・120・121・126は、いずれも調査区南東部に位置し、前述したが上記の土壙以外にSK97・100・103・104・106・110・132・135等多数の土壙群が存在する。SK102・114・119・121・126・132は東西方向を主軸とし、SK105・116は南北方向を主軸にしている。平面形はSE101・SK120は円形、SK102～106・119・132・135は長方形または長楕円形、これら以外は楕円形を呈する。遺物の出土がみられる遺構はSK114・119のみで少量である。SE101は深さが0.95mを測り、他の土壙は0.15～0.5m程度の深さにとどまる。

遺物包含層の出土遺物(第55図・表1・10)

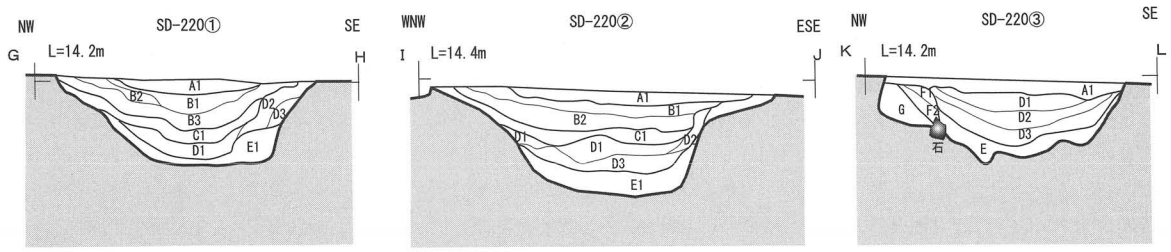
24・25はI-3G(SZ23・SD196直上)のVI層(黒褐色土主体層)から出土した弥生土器の壷口縁部である。24は広口壷で復元口径20.3cmを測り、赤褐色を呈するが、器面は摩滅している。25は有段口縁壷で復元口径26.0cmを測り、同じく赤褐色を呈するが、摩滅が著しい。26はサヌカイト製の削器である。1側縁に刃部調整が見られる。27は石べらで両側縁に刃部調整が見られる。28はI-1G(SZ20・21「SD195」・SD196)のVI層から出土した滑石製勾玉である。真二つに割れ、穿孔部で先端が欠損する。



SD-196④
A1: Sicl10YR4/2,HC10YR6/1 ～1cm大ブロック 30% 中-軟 中-密 1～3cm大レキやや多く含, Sil5YR6/8 0.5cm大焼土粒少量含。
B1: Sicl10YR3/3,HC10YR5/1 0.5～1cm大ブロック 20% Sil10YR6/4 粒 15% 中-軟 中-疎 ～0.3cm大レキ少量含。
B2: Sicl10YR3/3,HC10YR5/1 0.5～1cm大ブロック 30% Sil10YR6/4 粒 5% 中-軟 中-密 ～0.3cm大レキ少量含。
B3: Sicl10YR3/3,HC10YR5/1 0.5～1cm大ブロック 40-50% Sil10YR6/4 粒 10-15% 中-軟 中-密 3～10cm大レキ少量含。
C1: HC10YR6/1,Sic10YR4/1 粒 20% SL10YR6/6 ～0.5cm大 20% 軟 中-疎 3～10cm大レキ多量に含。
D1: Sil10YR5/1,Sil10YR5/6 粉～粒 40% 中-軟 中-疎。

SD-196⑤
C2: Sicl10YR4/1,Sil10YR6/2 粒 20% 軟 中-疎 3～10cm大レキ多量に含。
C3: Sicl10YR4/1,Sil10YR6/2 粒 30-40% 軟 疎 ～0.5cm大レキおよび3～10cm大レキ多量に含。

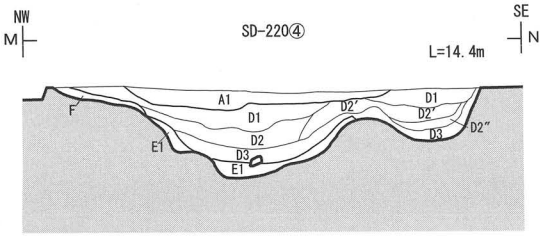
SD-196⑥
A1: Sicl10YR3/4,Sil10YR4/1 粒～1cm大ブロック 25% 軟 中-疎 ～0.5cm大レキ多量に含, 1～3cm大レキやや多く含。
A2: Sicl10YR3/4,Sil10YR4/1 粒～1cm大ブロック 30-40% 中-軟 疎 1cm大レキ多量に含, 5～10cm大レキやや多く含。
B1: HC10YR4/1～5/1,Sil10YR4/3 粒～2cm大ブロック 30% 軟 中-密 0.5cm大レキやや多く含, 1～3cm大レキ少量含。
B2: HC10YR4/1～5/1,Sil10YR4/3 粒～1cm大ブロック 15% 軟 中-密 0.5cm大レキ多量に含。



SD-220 ①
A1: HC10YR4/1,Sil10YR4/4 0.5cm大 30% 中-軟 密 ～0.2cm大白色粒および0.5～1cm大レキ少量含, ～0.3cm大炭化物少量含。
B1: Sil10YR5/1,Sil10YR5/4 粒 20% 中-軟 密 ～0.2cm大白色粒および0.5～1cm大レキ少量含。
B2: Sil10YR5/1,Sil10YR5/4 粒 30% 軟 中-密 ～0.2cm大白色粒および2～3cm大レキ少量含。
B3: Sil10YR5/1,Sil10YR5/4 粒 10% 軟 中-密 ～0.3cm大白色粒および1cm大レキ少量含。B層はグライ化。
C1: HC10YR6/1,Sic10YR5/4 粒～0.2cm大 40% 軟 中-疎 1cm大レキ少量含, グライ化。
D1: Sil10YR6/1,HC10YR4/1 1～3cm大ブロック 15% 軟 疎 グライ化。
D2: Sil10YR6/1,HC10YR4/1 1～3cm大ブロック 5% Sil10YR5/6 0.5～1cm大ブロック 30% 軟 疎 3cm大レキおよび～1cm大炭化物少量含。
D3: Sil10YR6/1,HC10YR4/1 1～3cm大ブロック 3% Sil10YR5/6 0.5～1cm大ブロック 20% 軟 疎 0.5cm大炭化物少量含。
E1: Sil10YR5/3,HC10YR3/1 3～5cm大ブロック 15～20% 軟 中-密 Sil5Y7/4 粒 20% 5cm大レキやや多く含。

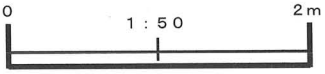
SD-220②
A1: Sicl10YR3/2,Sic10YR4/4 粒 30% 中-硬 中-密 ～0.1cm大白色粒多量に含, 1cm大レキやや多く含。
B1: HC10YR5/1,Sil10YR5/6 粒～0.5cm大 20% 中-軟 中-密 1cm大レキやや多く含。
B2: Hc10YR5/1,Sil10YR5/6 粒～0.5cm大 30% 中-軟 中-密 1cm大レキ少量含。
C1: HC10YR6/1,Sil10YR5/6 粒～1cm大ブロック 20-30% 軟 中-疎 ～0.3cm大炭化物少量含, ～1cm大レキやや多く含。
D1: HC10YR6/1,Sil10YR5/6 粒～0.5cm大 15-20% 軟 疎 ～0.5cm大炭化物少量含, ～1cm大レキやや多く含。
D2: HC10YR3/1,HC10YR7/2 0.3～0.5cm大 20-30% Sil10YR5/8 粒～0.5cm大焼土粒 20-30% 軟 疎 ～0.5cm大レキやや多く含。
D3: HC10YR6/1,Sil10YR5/6 粒～0.5cm大 20-30% 軟 中-疎 ～0.5cm大炭化物少量含, ～1cm大レキやや多く含。
E1: HC10YR5/2,Sil5Y6/6 粒 30-40% 軟 中-密 0.5～3cm大レキ少量含。

SD-220③
F1: HC10YR4/1,Sil7.5Y6/2 粒～5cm大ブロック 30% 軟 密 ～0.1cm大白色粒やや多く含。
F2: HC10YR4/1,Sil7.5Y6/2 粒～5cm大ブロック 15-20% 軟 中-密 ～0.5cm大レキおよび1～5cm大レキやや多く含。
G1: Sicl10YR4/1,Sil7.5Y6/1 粒 10% 中-軟 中-密 ～0.2cm大白色粒やや多く含, 5～20cm大レキ多量に含。

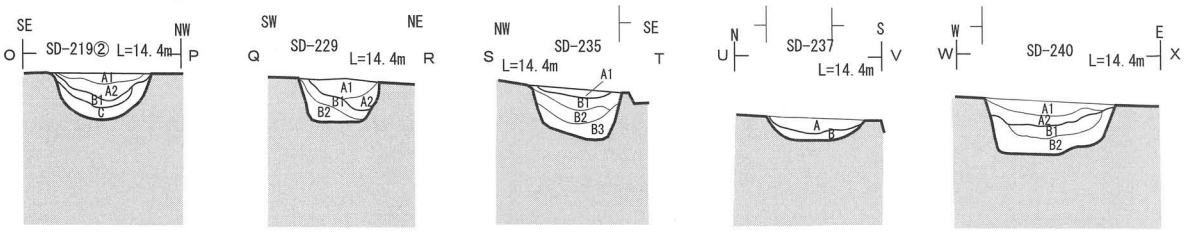


SD-220④
D`2: HC10YR3/1,Sil7.5YR6/1 0.5～1cm大 15% 1cm大レキ多量に含,中-軟 中-密。
D``2:HC10YR3/1,Sil7.5YR6/1 0.5～1cm大 30% 1cm大レキ多量に含,中-軟 中-密。
E1: Sicl10YR3/4,Sil10YR5/1 0.5cm大 30～40% ～0.3cm大白色粒やや多く含,1～2cm大レキ多量に含,中-硬 中-密。

※ 第３・46・50図参照



第51図 SD-196・220他 断面図(1)



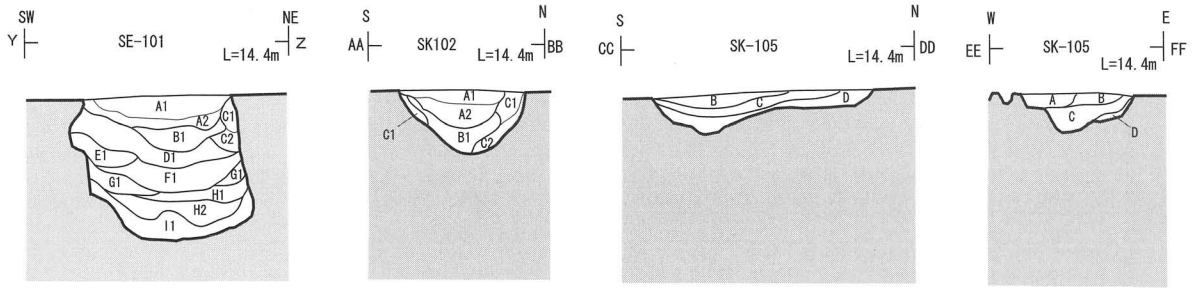
SD-219②
A1:Sicl10YR2/2,Sil10YR5/6 ～0.3cm大 20% 中-軟 中-密 1cm大礫少量含。
A2:Sicl10YR2/2,Sil10YR5/6 ～0.3cm大 10-15% 中-軟 中-密 1-3cm大礫少量含, Ⅲ～Ⅳ様式対応層
B1:Sicl10YR2/3,Sil10YR5/8-5/6 粒～0.5cm大 20-30% 軟 中-疎 Hc10YR5/1 0.5-1cm大ブロック 15% 0.2cm大炭化物粒少量含。
C1:Sil10YR5/1,Sil10YR5/8 0.3-1cm大ブロック 30-40% 中-軟 中-密

SD-229
A1: HC10YR5/1,Sicl10YR3/4 0.5～1cm大ブロック 40% 中-硬 中-密 ～0.2cm大白色粒多量に含, 1～3cm大レキやや多く含。
A2: HC10YR5/1,Sicl10YR3/4 0.5～1cm大ブロック 20-25% 中-軟 中-疎 ～0.2cm大白色粒微量に含, 1cm大レキ少量含, Sic10R5/8 粒～2cm大焼土ブロック 15%含。
B1: Sic10YR6/1,Sicl10YR4/2 粒～1cm大ブロック 15-20% 中-軟 中-疎 0.3～0.5cm大レキやや多く含。
B2: Sil10YR6/1,Sicl10YR4/2 粒～1cm大ブロック 30-40% 軟 中-密 0.3～0.5cm大レキ多量に含。

SD-235
A1: Sicl10YR3/3,Sil10YR5/1 粒～0.3cm大 20-30% 中-硬 中-密 ～0.4cm大白色レキ多量に含, 1～3cm大レキ少量含。
B1: HC10YR5/1,Sicl10YR3/3 粒～1cm大ブロック 20-30% 中-軟 中-疎 ～0.2cm大白色粒やや多く含, 0.5～2cm大レキやや多く含。
B2: HC10YR5/1,Sicl10YR3/3 粒～1cm大ブロック 15% 中-軟 中-疎 ～0.2cm大白色粒および0.5～2cm大レキ少量含。
B3: HC10YR5/1,Sicl10YR3/3 ～0.5cm大 5-7% 軟 中-密 ～0.2cm大白色粒微量に含, 3～5cm大レキやや多く含。

SD-237
A1: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/1 1～3cm大ブロック 30% 軟 中-疎 ～0.2cm大白色粒少量含。
B1: Sil10YR5/1,Sil10YR6/8 粒 15-20% 軟 中-疎 0.5cm大レキ少量含。

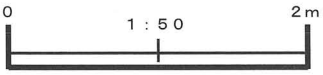
SD-240
A1: HC10YR2/1,Sil10YR4/4 粉 10% 中-軟 中-密 ～0.5cm大白色レキやや多く含, 1～3cm大レキ多量に含。
A2: HC10YR2/1,Sil10YR4/4 粉 15% 中-軟 中-密 ～0.5cm大白色レキ少量含, 1～3cm大レキやや多く含。
B1: Sicl10YR2/1,Sil7.5Y5/3 粒 30-40% 中-軟 中-密 ～0.5cm大白色レキ少量含, 1～3cm大レキやや多く含。
B2: Sicl10YR2/1,Sil7.5Y5/3 粒 50-60% 中-軟 中-密 ～0.5cm大白色レキ微量に含, 1～5cm大レキやや多く含。



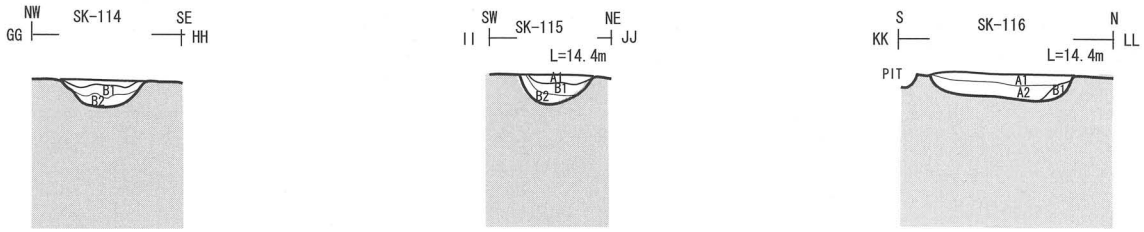
SE-101
A1: Sicl10YR3/4,Sil10YR5/1 0.5cm大 30-40% 軟 中-密 ～0.2cm大白色粒および0.5～1cm大レキ少量含。
A2: Sicl10YR3/3,Sil10YR8/3 0.3～1cm大ブロック 10% Sil10YR4/3 粒 20-30% 中-硬 密 0.2～0.5cm大白色レキおよび0.5～1cm大炭化物少量含, グライ化。
B1: HCN3/0,Sil10YR7/1 0.3～1cm大ブロック 15% 軟 密。
C1: Sil10YR8/3,HC10YR3/1 1～5cm大ブロック 15-20% 軟 中-疎。
C2: Sil10YR8/3,HC10YR3/1 1～2cm大ブロック 40% 軟 中-疎。
D1: HC10YR3/2,Sil10YR8/1 0.5～1cm大ブロック 10-15% 軟 密。
E1: Sil5GY7/1,Sicl10YR3/1 0.5～5cm大ブロック 20% 軟 中-疎。
F1: HC10YR2/1,Sil5GY7/1 粉～粒 15-20% 軟 中-密。
G1: E1と類似。
H1: Sicl10YR3/1,Sil5GY7/1 粒～5cm大ブロック 40% 軟 中-疎。
H2: HC10YR3/1,Sil5GY7/1 1～2cm大ブロック 10-15% 中-軟 中-密 土器出土。
I1: Sil7.5GY7/1,Sicl10YR3/1 粒～1cm大ブロック 10-15% 軟 中-密。

SK-102
A1:Sicl10YR2/2,Sil10YR4/4 粒 20% 軟 中-密 ～0.3cm白色礫少
A2:Sicl10YR2/2,Sil10YR4/4 粒 30-40% 軟 中-疎 1-3cm白色礫少 Sil5YR6/8 0.2-1cm大焼土粒少-中
B1:HC10YR5/1,Sil10YR5/4 粒 30-40% 軟 中-密 0.5-1cm大礫 中-多
C1:Sil10YR5/6,HC10YR7/2 0.5-1cm大 10-15% 中-軟 中-疎 ～0.3cm大礫少
C2:Sil10YR4/6,Sicl10YR3/2 粒 30% 軟 中-疎 0.5-1cm大礫中

SK-105
A1: Sicl10YR4/2,Sil10YR7/6 粒 40% HC10YR6/1 1～2cm大ブロック 20% 中-軟 中-疎 0.5～2cm大レキやや多く含。
B1: Sicl10YR3/3,Sil10YR4/6 0.5cm大 20% 中-軟 密 ～0.3cm大白色粒少量含, 1～5cm大レキ多量に含。
C1: Sicl10YR3/3,Sil10YR5/8 0.5～1cm大ブロック 30-40% 軟 中-密 0.5cm大炭化物少量含。
D1: Sicl10YR4/3,Sil10YR5/8 粒 20% HC10YR6/1 0.5～1cm大ブロック 30% 軟 中-疎。



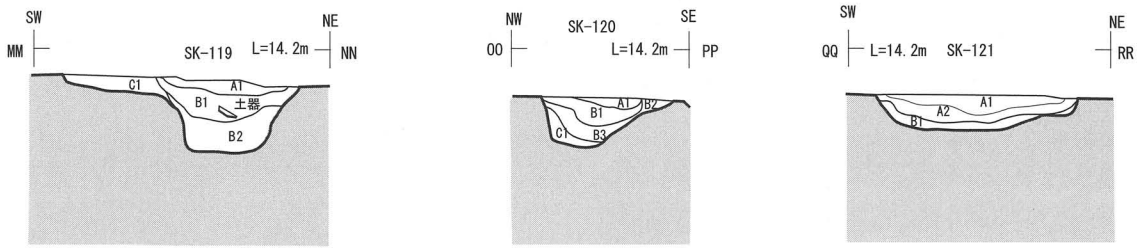
第52図 SD-196・220他断面図(2)



SK-114
A1: HC10YR3/1,Sil10YR4/3 粉 30% 中-硬 中-密 ~0.2cm大白色粒やや多く含, 1~5cm大レキ多量に含。
B1: HC10YR3/1,Sicl10YR3/4 粒 20% 中-軟 中-密 ~0.2cm大白色粒少量含, 1~5cm大レキやや多く含, 土器出土。
B2: HC10YR3/1,Sicl10YR3/4 粒 30% 中-軟 中-密 ~0.2cm大白色粒少量含, 1~5cm大レキやや多く含.

SK-115
A1: HC10YR2/1,Sil10YR3/2 粉 15% 中-硬 密 0.2~1cm大レキやや多く含。
B1: HC10YR2/1,Sil10YR4/4 0.5cm大 15% 中-軟 中-密 1cm大レキやや多く含。
B2: HC10YR2/1,Sil10YR5/6 0.3~0.5cm大 30% 軟 中-疎 1cm大レキ多量に含。

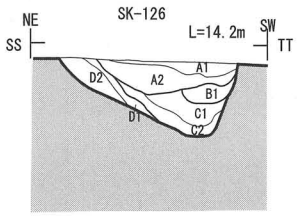
SK-116
A1: HC10YR4/1,Sil10YR4/2 ~0.5cm大 30-40% 中-硬 中-密 ~0.1cm大白色粒やや多く含, 1~2cm大レキ少量含。
A2: HC10YR4/1,Sil10YR4/2 ~0.5cm大 20-25% 中-硬 中-密 ~0.1cm大白色粒やや多く含, 3~5cm大レキ多量に含。
B1: HC10YR5/1,Sil10YR4/4 ~0.5cm大 40-50% 中-硬 中-密 0.3~1cm大レキやや多く含。



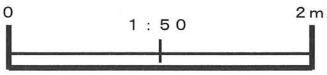
SK-119
A1: Sicl10YR4/1,Sil10YR3/4 粉 30% 中-軟 中-密 ~0.2cm大白色粒多量に含, 1~2cm大レキやや多く含。
B1: HC N2/0,Sil10YR3/4 0.5~1cm大 10~15% 軟 密 1~2cm大レキやや多く含, 土器出土。
B2: HC N2/0,Sil10YR3/4 0.5~1cm大 20~30% 中-軟 密 ~0.5cm大白色レキ少量含, 1~2cm大レキやや多く含, 10cm大レキ少量府含。
C1: Sicl10YR2/1,Sil10YR3/4 粉~粒 30% 中-硬 中-密 ~0.5cm大白色レキ多量に含, 2~5cm大レキやや多く含。

SK-120
A1: Sicl10YR3/2,HC10YR5/1 0.5cm大 10-15% 中-軟 密 ~0.1cm大白色粒および1~2cm大レキ少量含。
B1: HC10YR5/1,Sicl10YR3/3 0.5cm大 20% 軟 中-密 ~0.3cm大白色粒および2~5cm大レキやや多く含。
B2: HC10YR5/1,Sicl10YR3/3 0.5cm大 10-15% 軟 中-密 ~0.1cm大白色粒微量に含, 2~5cm大レキやや多く含。
B3: HC10YR5/1,Sicl10YR3/3 0.5cm大 5-10% 軟 中-密 ~0.2cm大白色粒少量含, 1~5cm大レキやや多く含。土器出土。
C1: HC10YR4/1,Sil10YR5/4 0.5~1cm大ブロック 30% 軟 密 ~1cm大レキ少量含。

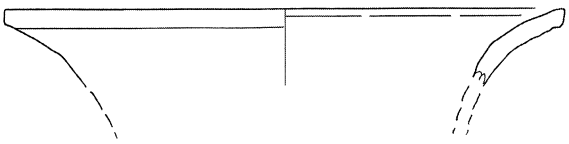
SK-121
A1: Sicl10YR3/1,Sil10YR3/3 粒~0.5cm大 20% 中-硬 密 ~0.2cm大白色粒やや多く含, 1~2cm大レキ多量に含。
A2: Sicl10YR3/1,Sil10YR3/3 粒~0.5cm大 10% Sil10YR6/1 1cm大ブロック 20~30% 中-軟 中-疎 ~0.2cm大白色粒やや多く含, 1~2cm大レキ多量に含。
B1: Sicl10YR4/1,Sil10YR5/6 粒 30% 軟 中-疎 2~5cm大レキやや多く含。



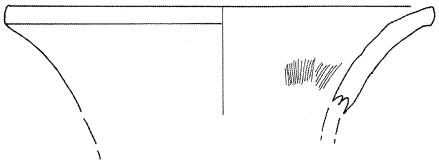
SK-126
A1: Sicl10YR2/2,Sil10YR4/6 1cm大ブロック 30% 中-硬 中-密 ~0.2cm大白色粒および1cm大レキ少量含。
A2: Sicl10YR2/2,Sil10YR5/6 1cm大ブロック 20-30% 中-軟 中-密 ~0.2cm大白色粒微量に含, 1cm大レキやや多く含。
B1: Sil10YR5/6,HC10YR4/1 0.5~1cm大ブロック 20-30% 中-硬 中-密 0.2~0.5cm大レキ少量含。
C1: HC10YR4/1,Sil10YR6/2 粉~粒 15% 中-軟 中-密 0.5cm大レキ少量含。
C2: HC10YR4/1,Sil10YR6/2 粉~粒 30% 軟 中-疎 0.5~3cm大レキ少量含。
D1: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/8 0.5cm大 30-40% 軟 中-密。
D2: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/6 0.5cm大 40-50% 中-軟 中-密 3~5cm大レキ少量含。



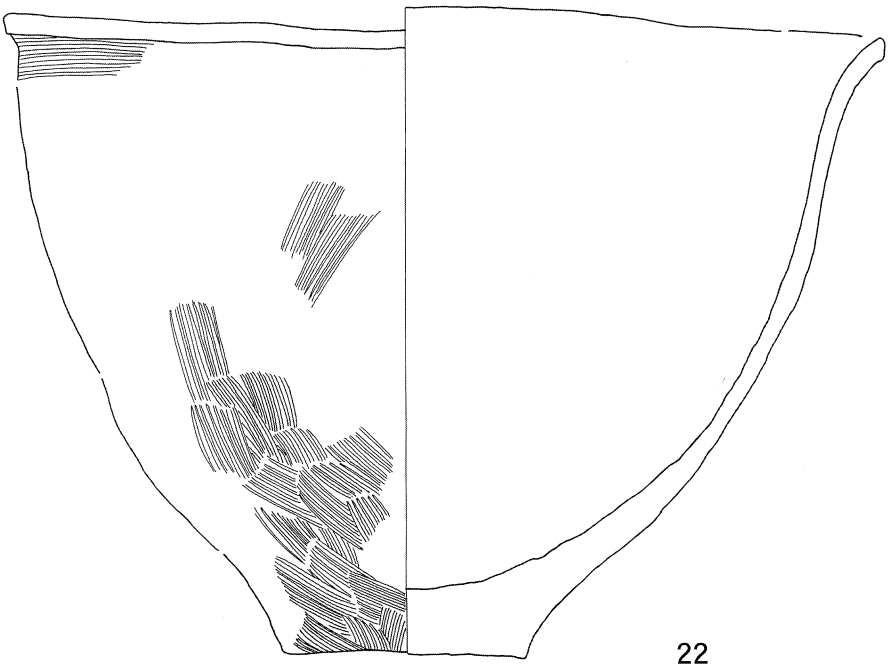
第 53 図　SD-196・220 他 断面図 (3)



20



21

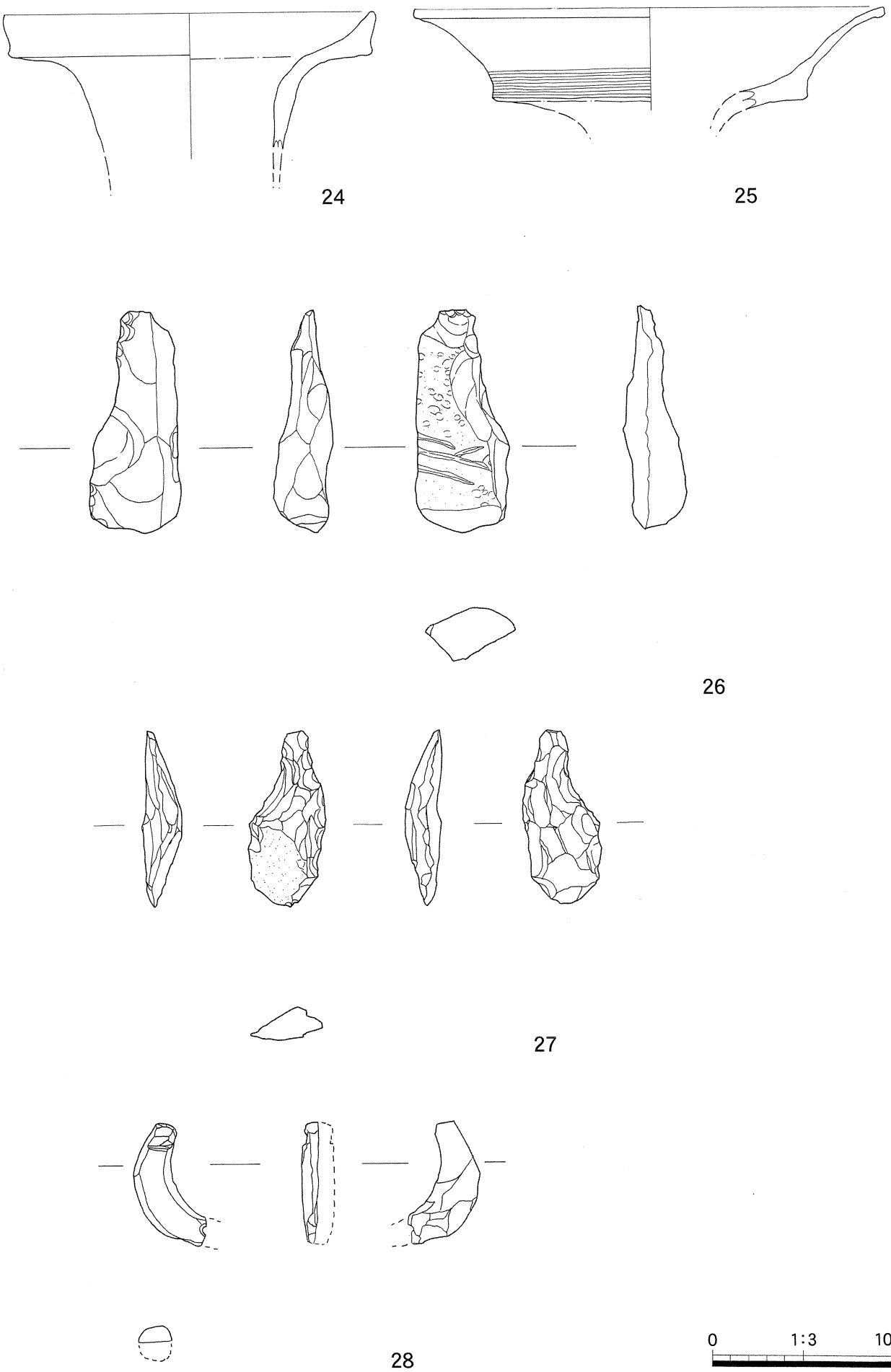


22

23

0　1:3　10cm

第54図　SD（溝）196・206出土遺物



第 55 図　弥生時代遺物包含層出土遺物

(2) 古墳時代

(I) SD(溝)58

SD(溝)58(第56～60図)

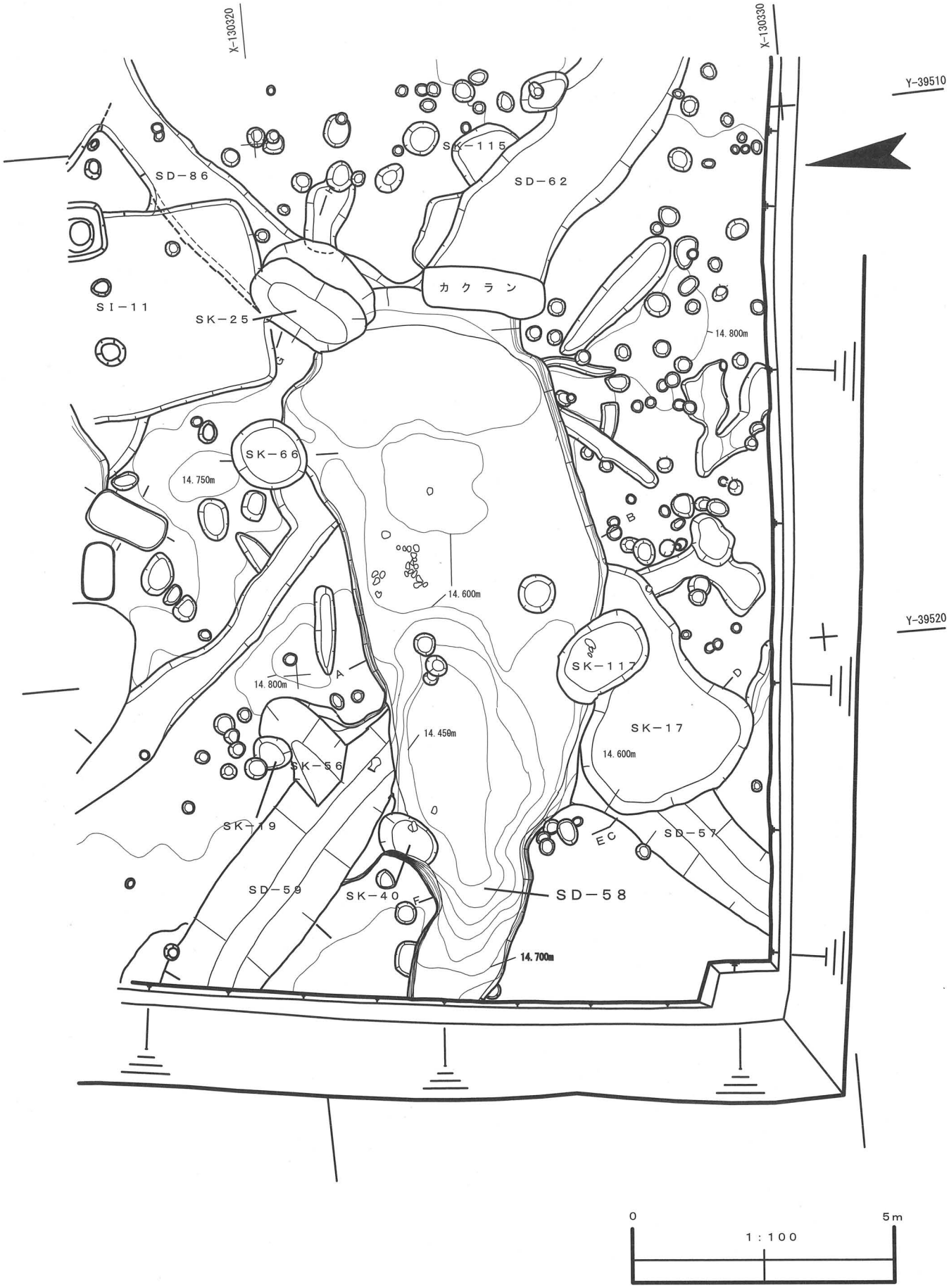
位置 調査区南西端。 **平面形** 東側で溝から浅く広い土壙状に推移。**軸方向** N90° E。 **規模 全長** 13.5m～。 **幅** 1.6～5.2m。 **深さ** 0.13～0.4m。 **断面形** U字形。 **重複関係** SZ07(SD57・59)・SZ08(SD62・86)・SK17を切る。SK25・40・66・117に切られる。 **掘込面** 削平。 **検出面** VIII層上面。(地山)

埋土 東側SD58①(A-B断面)は幅が4～5m程と広く、A～C層の3層に大別されA1～2層は黒褐色土に褐色シルトや礫を含む。B1層は黒褐色土に黄褐色シルトや礫を含む。B2層は黒褐色土に黄褐色シルトや褐灰色シルト、礫を含み、明褐色の焼土粒と炭化物を少量含む。C1層は黄褐色シルトに黒褐色ブロック土や褐灰色粘土を含む。西側SD58②(E-F断面)はA～C層の3層に大別され、A1～2層は黒褐色土に黄褐色シルトや礫を含む。B1層は黒色土に黄褐色シルトや礫、土器を含む。C1層は明黄褐色シルトに大量の黒褐色ブロック土や土器を含む。前者との埋土の差異は、①ではB2層のピット部分に焼土や炭化物が見られることやC層には褐灰色粘土が見られることがあげられる。

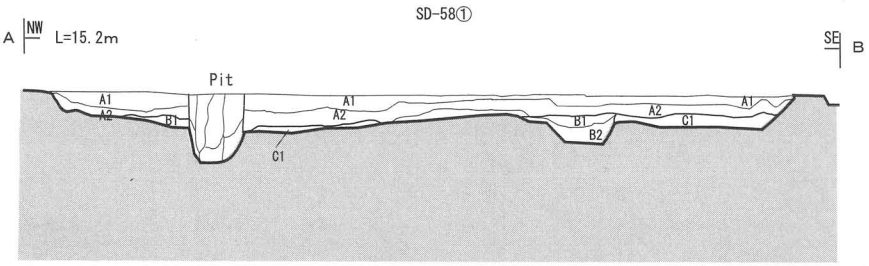
壁の状態 緩やかに立ち上がる。 **底の状態** ほぼ平坦。ピットを有する。

備考 SD58の浅く広い土壙状に推移する部分は、竪穴住居跡が水流等の自然作用を受けて崩壊した果ての姿である可能性がある。付近の調査区南西側には古墳時代中期の竪穴住居跡が5棟(SI11～15)存在し、軸方向もほぼ一致し、平面形や壁がしっかりしておりピットを有する。出土遺物等にも竪穴住居跡と差異はほとんど見られないことなどが理由に挙げられる。しかし、現状では遺物(須恵器)出土量や出土状況から廃棄場所としての機能では一致するところである。

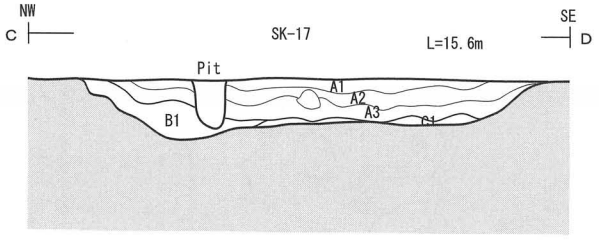
出土遺物(第58～60図・表1・2・10) 29～37は須恵器坏蓋である。口径11.5～13.0cm、器高4.1～4.7cmを測り、いずれも天井部外面は回転ヘラケズリを施す。38～45は須恵器坏身である。口径9.6～11.0cm、器高4.0～5.0cmを測り、いずれも底部外面は回転ヘラケズリを施す。44は底部外面にヘラ描き(記号)がみられる。46～48は須恵器有蓋高坏の蓋である。口径11.9～13.2cm、器高5.0～5.4cm、つまみ径2.7～3.0cmを測り、外面天井部に回転ヘラケズリを施す。49～50は須恵器有蓋高坏である。49は短脚で坏部が大きく、口径10.5cm、器高7.1cm、最大径13.2cm、底径8.7cm、坏部高5.0cm、脚部高2.1cmを測り、脚部に透孔は見られない。外面の坏部下半に回転ヘラケズリを施す。50は短脚の脚部を一部欠損しているが、長方形の透孔が見られ、3孔であると思われる。51～55は須恵器無蓋高坏である。51は短脚で脚部の透孔は3孔であるが、方形の1cmにも満たない孔である。外面の坏部下半および脚部裾にはカキメを施す。52～55は外面坏部に波状文を施し、52～54は脚部を欠損している。いずれも坏部は椀形で口縁部がやや外反して大きく開く。53・54は坏部が深く、52・55は浅いタイプである。55は唯一全体形のわかる無蓋高坏で、復元(口径)15.3cm、(器高)11.3cm、(底径)10.0cm、(坏部高)5.0cm、(脚部高)6.3cmを測る。脚部には台形の大きな透孔が3箇所見られ、内面に朱が付着している。56は須恵器壷である。口縁部のみ残存しており、口径17.6cmを測り、上下2段に波状文を施している。58は脚部を欠損した土師器高坏である。口径13.8cmを測り、内外面共にヘラミガキを施す。59は朱彩された土師器器台であるが、口縁部を欠損している。60は土師器把手付鉢である。復元(口径)37.4cm、(器高)15.8cm～、(最大径)49.8cmを測り、器面調整は外面口縁部ヨコナデ、体部ハケメ、内面がハケメ、ヘラミガキを施す。口唇部に朱彩痕跡が見られる。67は砂岩製の砥石で、2面に使用痕跡が認められる。68は暗赤色の四角柱状の磨石で、4面磨いている。



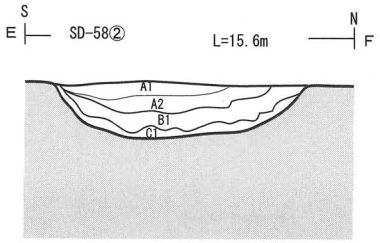
第56図　SD（溝）58　平面図

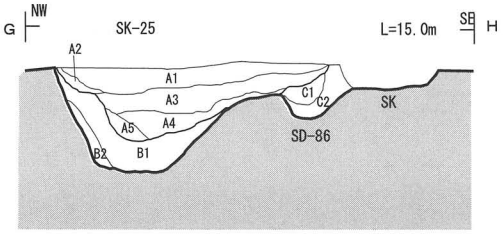


SD-58①
A1:Sicl10YR3/1,Sil10YR4/6　粒～0.5cm大　10-15%　～0.5cm大白色粒多　P-中　中-硬　中-密
A2:Sicl10YR3/1,Sil10YR4/6　粒～0.5cm大　20-30%　～0.5cm大白色粒中　P-中　中-硬　中-密
B1:Sicl10YR3/1,Sil10YR5/6　0.5-1cm大　20%　中-軟　中-疎
B2:Sicl10YR3/1,Sil10YR5/6　0.5-1cm大　15-20%　Sil10YR6/1　～1cm大20%　～0.5cm大礫少　Sil7.5YR5/8　0.5cm大焼土・ｶｰﾎﾞﾝ少
C1:Sil10YR5/8,Sicl10YR3/1　～1cm大10-15%　Hc10YR6/1　0.5cm大20%　～0.5cm大白色粒多　中-硬　中-密



SK-17
A1: Sicl10YR2/2,Sil10YR5/8 粒 20～30%　中-硬　中-密　土器多量出土。
A2: Sicl10YR2/3,Sil10YR5/8 粒 10%　中-硬　中-密　土器多量出土。
A3: Sicl10YR2/3,Sil10YR5/8 3～8cm大ブロック 20%　中-軟　中-密　土器やや多く出土。
B1: Sil10YR7/8,Sic10YR4/3 0.5cm大 30%　中-軟　密。
C1: Sil10YR6/8,Sicl10YR3/2 1～5cm大ブロック 40%　軟　中-疎

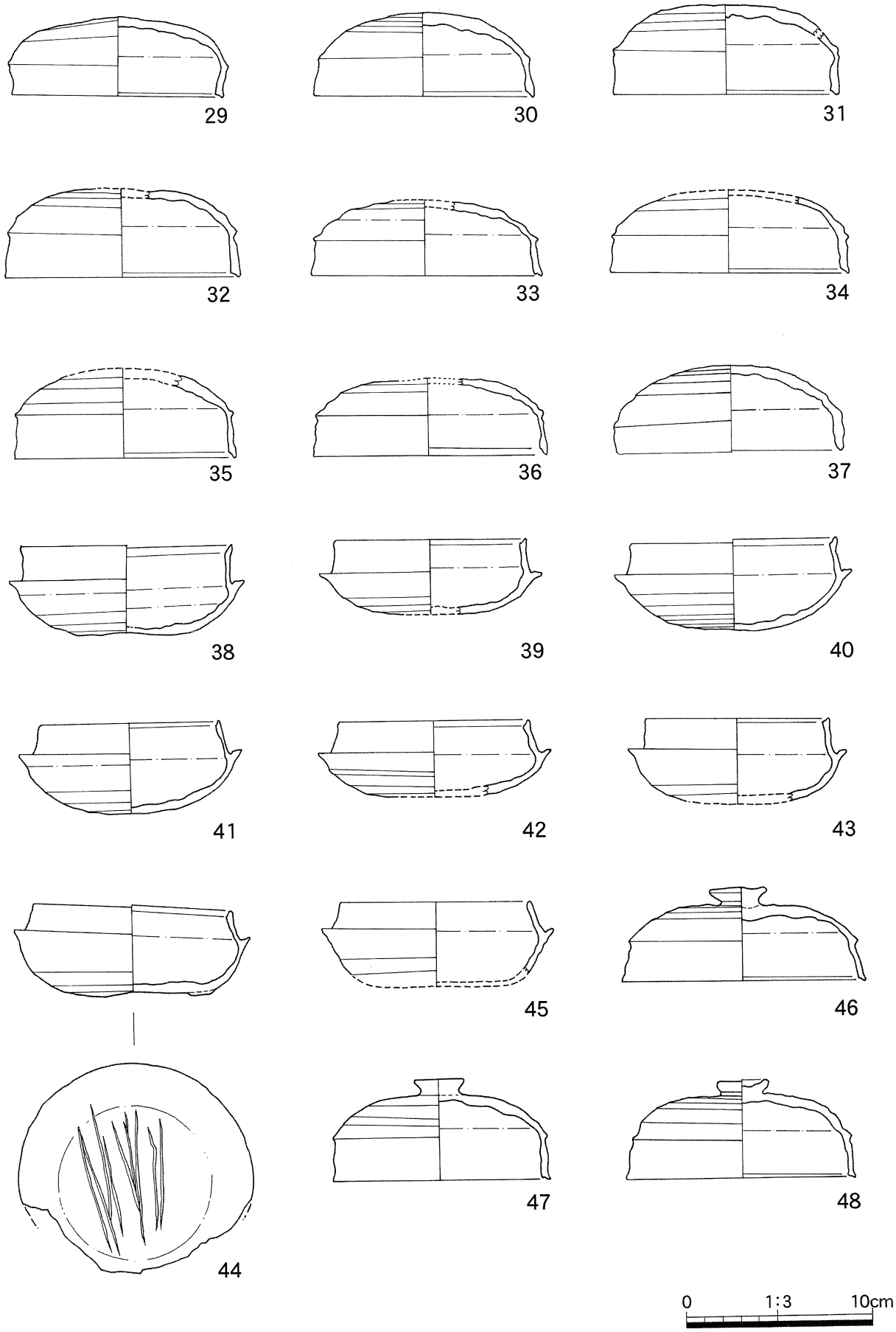




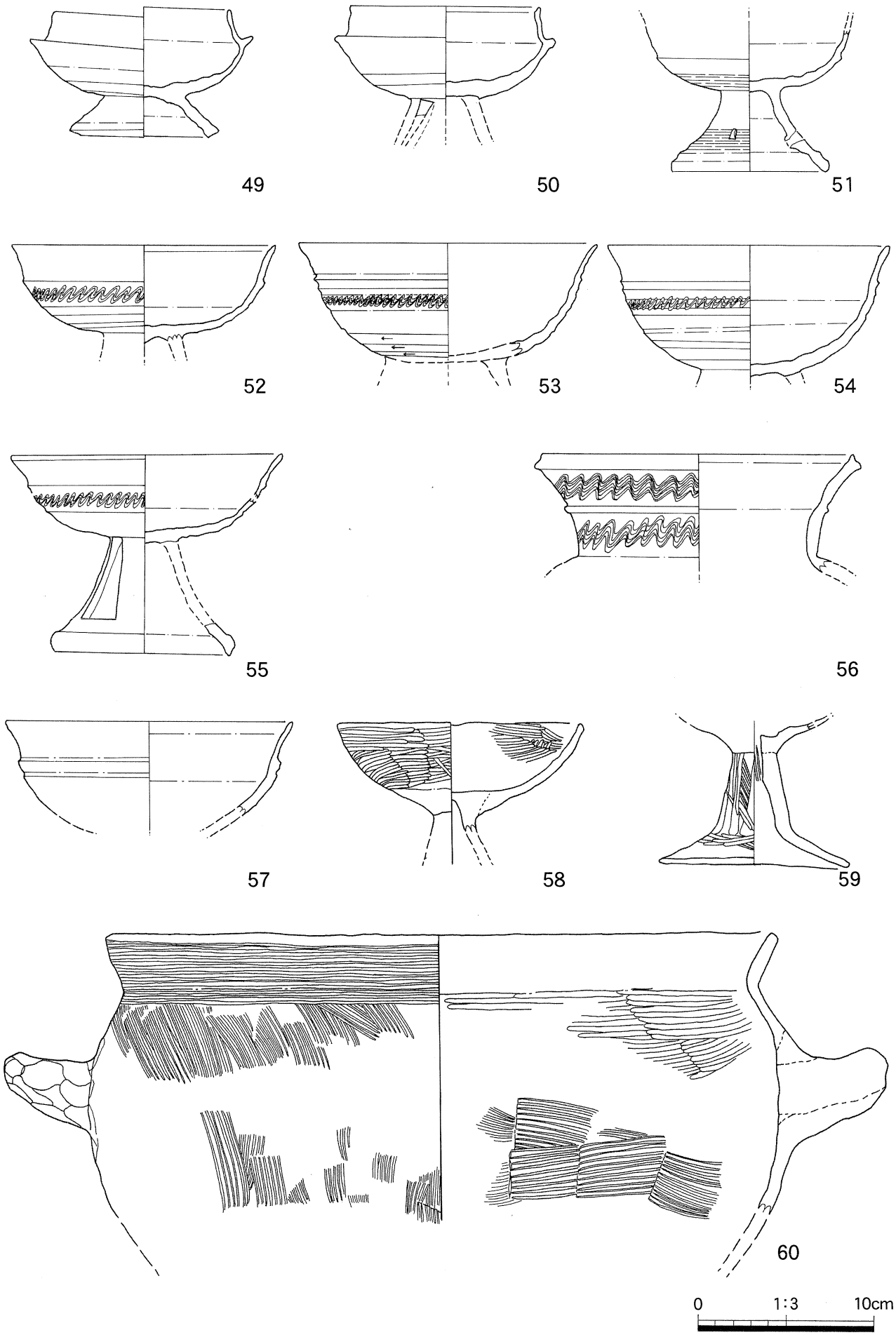
SD-58②
A1: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/6 粒 20～25%　中-硬　密　～0.5cm大レキ少量含。
A2: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/6 粒 15%　中-硬　密　～1cm大レキ少量含。
B1: Sicl10YR2/1,Sil10YR5/6 粒～0.5cm大 15～20%　中-軟　密　～1cm大白色レキ少量含。土器出土。
C1: Sil10YR6/8,Sicl10YR2/2 粒～2cm大ブロック 40%　中-軟　密　土器出土。

SK-25/SD-86
A1:Sicl10YR2/2,Sil10YR5/1　粒～0.5cm大　20-30%　SL0.5-1cm大多　中-軟　中-密
A2:Sicl10YR2/2,Sil10YR5/1　粒～0.5cm大　10%　SL0.5-1cm大中　中-軟　中-密
A3:Sicl10YR3/3,Sil10YR5/1　粒～1cm大　30-40%　SL1-5cm大中　中-軟　中-密
A4:Sicl10YR3/3,Sil10YR5/1　粒～1cm大　60%　SL1-5cm大中　中-軟　中-密
A5:Sicl10YR3/3,Sicl10YR5/1　粒～1cm大　40%　中-軟　中-疎
B1:Hc10YR4/1-5/1,SL10YR4/6　0.1-0.5cm大　40%　LS0.5-1cm大礫多　中-軟　中-疎
B2:Hc10YR4/1-5/1,Sic10YR4/6　0.1-0.2cm大　60%　LS0.5-1cm大礫少　中-軟　中-疎
C1:Srcl10YR2/2,Sil10YR4/4　粒　20%　中-軟　密　～0.3cm大礫少
C2:Hc10YR4/6,Sicl10YR3/3　粒　10-15%　中-軟　中-密　～1cm大礫少

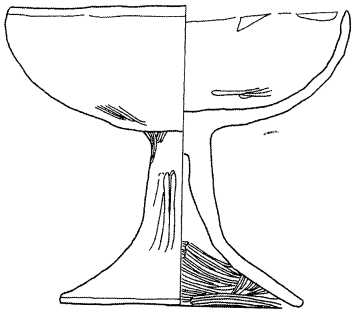
第57図　SD-58/SK-17・25断面図



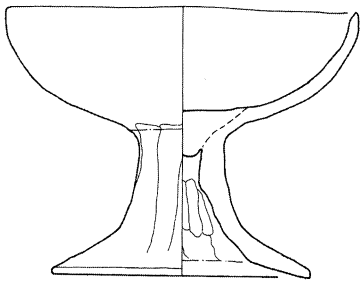
第 58 図　SD（溝）58/SK18 出土遺物（1）



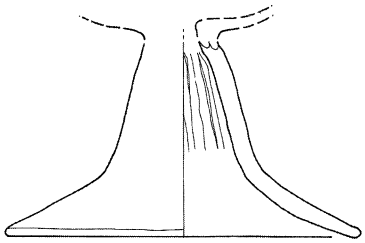
第 59 図　SD（溝）58/SK-17 出土遺物（2）



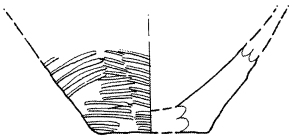
61



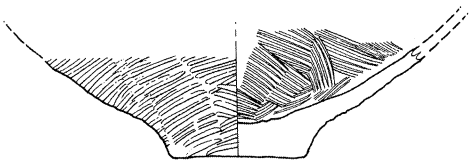
62



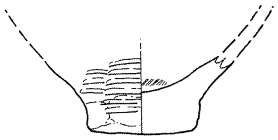
63



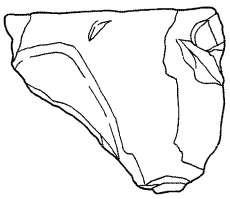
64

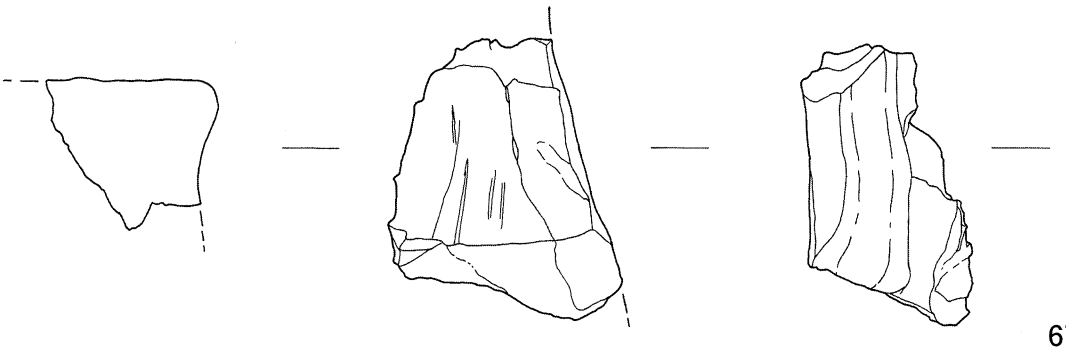


65

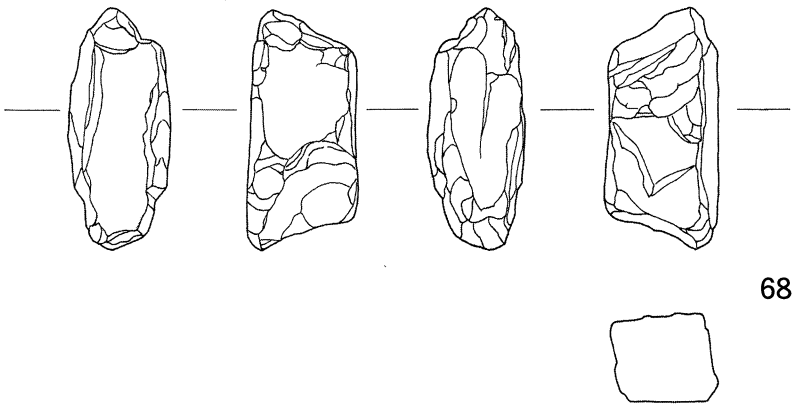


66





67



68

0 1:3 10cm

第 60 図　SD（溝）58/SK-17 出土遺跡 (3)

土壙 (SK)17(第 56 ～ 60 図)

位置 SD58 南側。 **平面形** 隅丸長方形。 **軸方向** N54° E。 **規模** 長軸 4.3m ～、短軸 2.8 ～ 3.2m。 **深さ** 0.3 ～ 0.4m。 **断面形** U 字形。 **検出面** VIII 層上面。(地山) **重複関係** SD58・SK117 に切られる。SZ07(SD57) を切る。 **壁の状態** 緩やかに立ち上がる。 **底の状態** ほぼ平坦。

埋土 A ～ B 層に分けられ、A1 ～ 2 層は黒褐色土に黄褐色シルトや土器を含む。A3 層は黒褐色土に黄褐色シルトブロックや土器を含む。B1 層は黄橙色シルトににぶい黄褐色シルト質埴土を含む。C1 層は明黄褐色シルトに黒褐色ブロック土を多量に含む。 **出土遺物** (第 59・60 図 / 表 2)57 は須恵器無蓋高坏である。脚部を欠損するが復元口径 16.0cm を測り、口縁中程に平行沈線をめぐらす。61・62 は土師器高坏で、坏部は口縁が垂直に延びる浅い皿形で脚部は下半～裾で大きく「八」の字状に開くタイプである。61 は口径 13.4cm、器高 11.8cm、底径 9.7cm、坏部高 6.5cm、脚部高 6.9cm を測り、外面は坏部にハケメ、脚部にハケメ、のちヘラミガキ、内面は坏部にヘラミガキ、脚部にハケメを施す。62 は口径 12.8cm、器高 10.6cm、底径 10.2cm、坏部高 5.1cm、脚部高 5.5cm を測り、坏部は内外面ともに摩滅しており、脚部は外面ヘラミガキ、内面ケズリを施す。63 は土師器器台で坏部を欠損する。64 ～ 66 は土師器甕の底部である。いずれも外面に平行タタキを施す。

土壙 (SK)25(第 56・57 図)

位置 SD58 東側。 **平面形** 円形。 **軸方向** N39° E。 **規模** 長軸 2.3m、短軸 1.8m。 **深さ** 0.7m。 **断面形** 逆台形。 **検出面** VIII 層上面。(地山) **重複関係** SZ08(SD86)・SI11・SD58 を切る。 **壁の状態** きつく立ち上がる。 **底の状態** ほぼ平坦。 **埋土** A ～ B 層に分けられ、A1 ～ 2 層は黒褐色土に褐灰色シルトや多量の礫を含む。A3 ～ 5 層は暗褐色土に多量の褐灰色シルトブロックと礫を含む。B1 ～ 2 層は褐灰色粘土に多量の褐色砂壌土や礫を含む。C1 層は黒褐色土に褐色シルトや礫を含む。C2 層は褐色粘土に暗褐色土と礫を含む。 **出土遺物** なし。

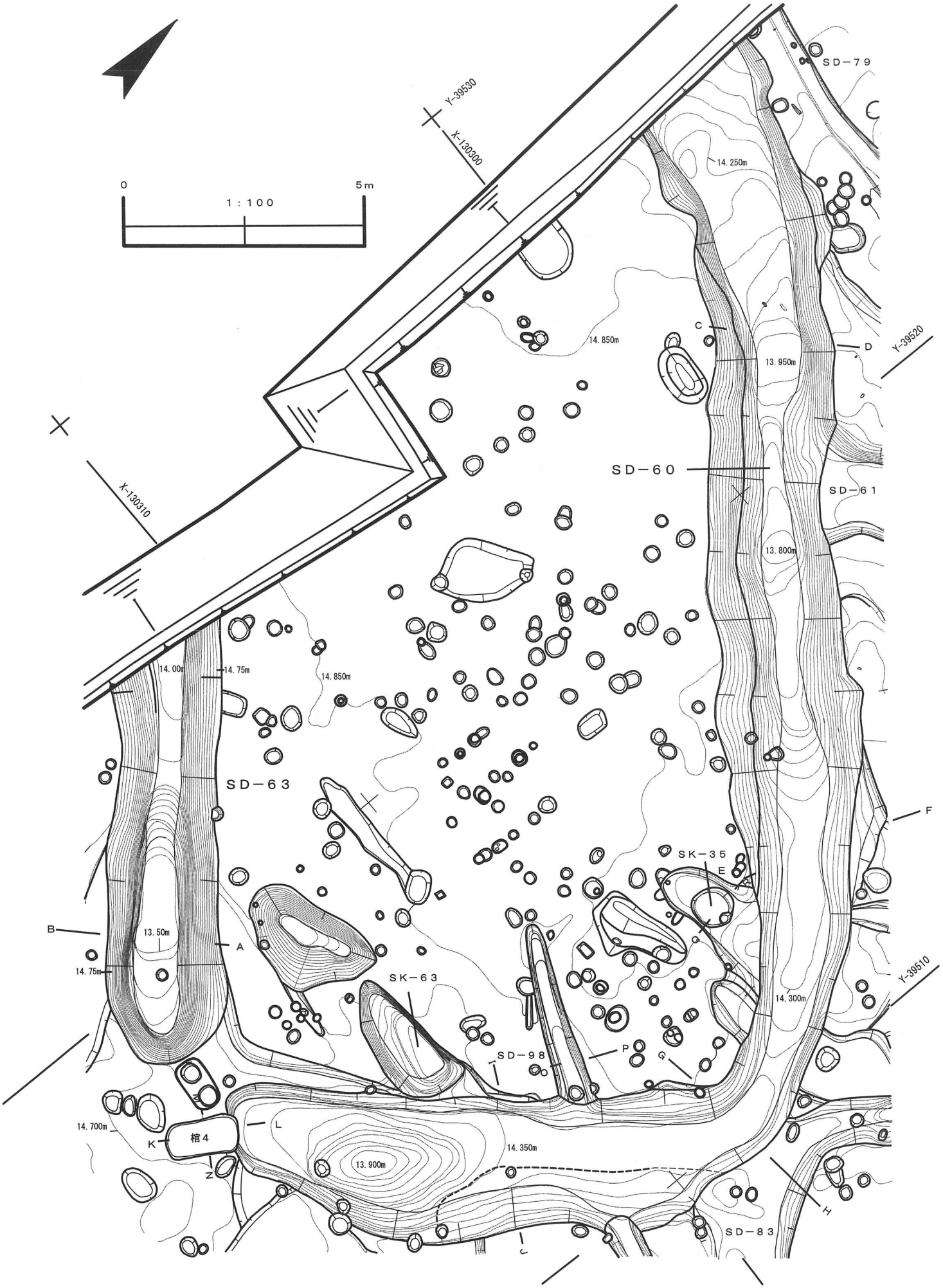
(II) SD60・63 (方形区画溝)

SD(溝)60・63(第 61 ～ 64 図)

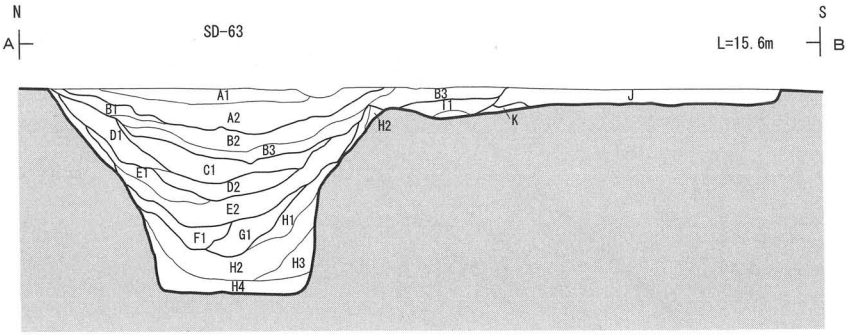
位置 調査区中央西端。 **平面形** 長方形。 **軸方向** N50° W。 **規模** 北西 - 南東 24.7m ～×北東 - 南西 15.4m。 **溝の内径** 北西 - 南東 19.6m ～×北東 - 南西 10.2 ～ 11.2m。 **区画内面積** 210 ㎡～。 **区画内施設** なし? **陸橋** 南(幅 1.15m。)に開口。 **周溝の幅** 1.4 ～ 3.0m。 **深さ** (SD60)0.53 ～ 0.9m。(SD63)1.36m。 **断面形** SD60 ①・SD63 は逆台形。SD60 ②～④は U 字形。 **溝の共有** なし。 **重複関係** SZ05(SD83)・SZ06(SD85)・SI26 を切る。 **掘込面** 削平。 **検出面** VIII 層上面。(地山)

埋土 南西辺 SD63(A-B 断面)は A ～ I 層の 9 層に大別され、17 層に細分される。A1 ～ 2 層は暗褐色土に黄褐色シルトと礫を多く含む。B1 層は明黄褐色シルトに褐色ブロック土や礫を多く含む。B2 層は明黄褐色シルトに灰黄褐色土を多く含む。B3 層は黄褐色シルトに暗褐色土や礫を多量に含む。C1 層は暗褐色土に褐色シルトと多量の礫、土器を含む。D1 ～ 2 層は灰黄褐色土に黄褐色シルトブロックを多く含む。E1 ～ 2 層は黒色土ににぶい黄褐色シルトや礫を含む。F1・G1 層は褐灰色粘土に多量の黄褐色シルトブロックと炭化物を多く含む。H1 ～ 3 層は黄褐色シルトに多量の褐灰色粘土ブロックと多くの炭化物を含む。H4 層は褐灰色粘土に黄褐色粘土ブロックを含む。I1 層は褐灰色粘土に明黄褐色シルトと多量の礫を含む。

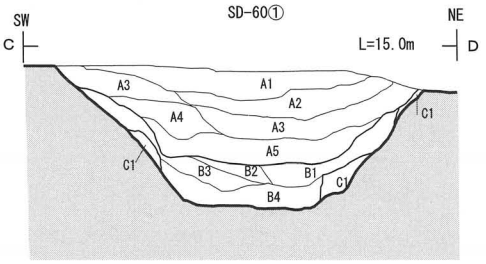
北東辺 SD60 ① (C-D 断面)・② (E-F 断面)および東コーナー SD60 ③ (G-H 断面)、南東辺 SD60 ④ (I-J 断面)は A ～ F 層の 6 層に大別され、16 層に細分される。A1 ～ 5 層は黒色土に灰黄褐色シルトや礫を含む。B1 ～ 2 層は黒褐色シルトに灰黄褐色粘土を含む。B3 層は黒褐色シルト質埴土に灰黄褐色粘土を含む。B4 層は黒褐色粘土に多量の灰黄褐色粘土を含む。C1 層は黄褐色シルトに褐灰色粘土を含む。C2 層は暗褐色土に褐灰色シルト炭化物、多量の礫を含む。D1 ～ 2 層はにぶい黄褐色土に多量の黄褐色シルトブロック

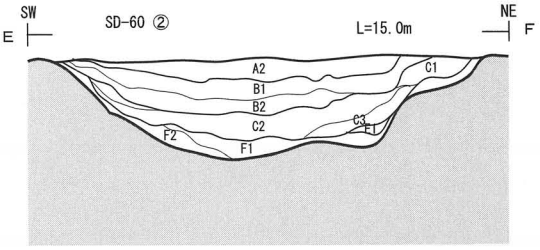


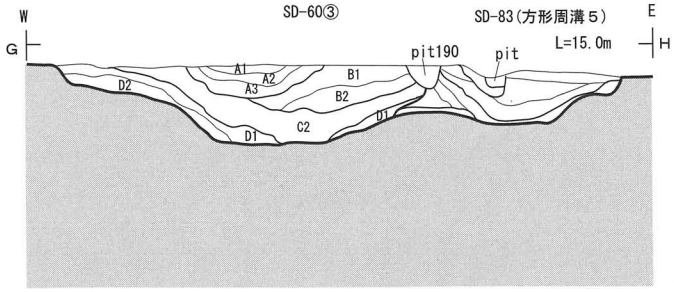
第61図　SD-60平面図

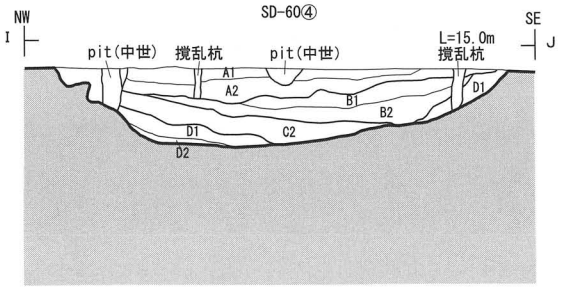


SD-63
A1: Sicl10YR3/3,Sil10YR5/6 粒 15～20% 硬 密 1～3cm大レキやや多く含。
A2: Sicl10YR3/3,Sil10YR5/6 粒 10～15% 硬 密 1～3cm大レキ多量に含。
B1: Sil10YR6/6,Sicl10YR4/6 1cm大ブロック 30% 中-硬 密 ～0.5cm大レキやや多く含。
B2: Sil10YR6/6,Sicl10YR4/2 粒 30～40% 中-軟 密。
B3: Sil10YR5/6,Sicl10YR3/3 粒 50～60% 中-硬 密 1～3cm大レキ多量に含。
C1: Sicl10YR3/3,Sil10YR4/6 粒 15% 中-硬 密 ～5cm大レキ多量に含，土器多量出土。
D1: Sicl10YR5/2,Sil10YR5/6 1～2cm大ブロック 30～40% 中-硬 密。
D2: Sicl10YR5/2,Sil10YR5/6 1～2cm大ブロック 30% 中-軟 密。
E1: Sicl10YR2/1,Sil10YR5/4 粒 30～40% 0.5～1cm大白色レキやや多く含， 中-軟 中-密。
E2: Sicl10YR2/1,Sil10YR5/4 粒 10% 0.5～1cm大白色レキ多量に含，中-軟 中-密。
F1: HC10YR6/1,Sil2.5Y5/6 1～2cm大ブロック 50～60% 軟 中-疎 2～5cm大炭化物やや多く含。
G1: HC10YR5/1,Sil2.5Y5/6 1～2cm大ブロック 20～30% 軟 中-疎 2～5cm大炭化物少量含。
H1: Sil2.5Y5/6,HC10YR6/1 1～5cm大ブロックおよび層状 30% 中-軟 中-疎。
H2: Sil2.5Y5/6,HC10YR6/1 1～5cm大ブロックおよび層状 60% 軟 中-疎 0.5cm大炭化物やや多く含。
H3: Sil2.5Y5/6,HC10YR6/1 1～5cm大ブロックおよび層状 70～80% 軟 中-疎 0.5cm大炭化物やや多く含。
H4: HC10YR6/1,HC2.5Y5/6 1～3cm大ブロック 30% 軟 疎。
I1: HC10YR6/1,Sil10YR6/8 粉 20～30% 0.5～1cm大ブロック 礫多。 中ー硬 中ー疎 炭化物少量含む。

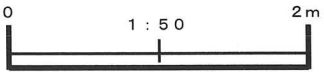




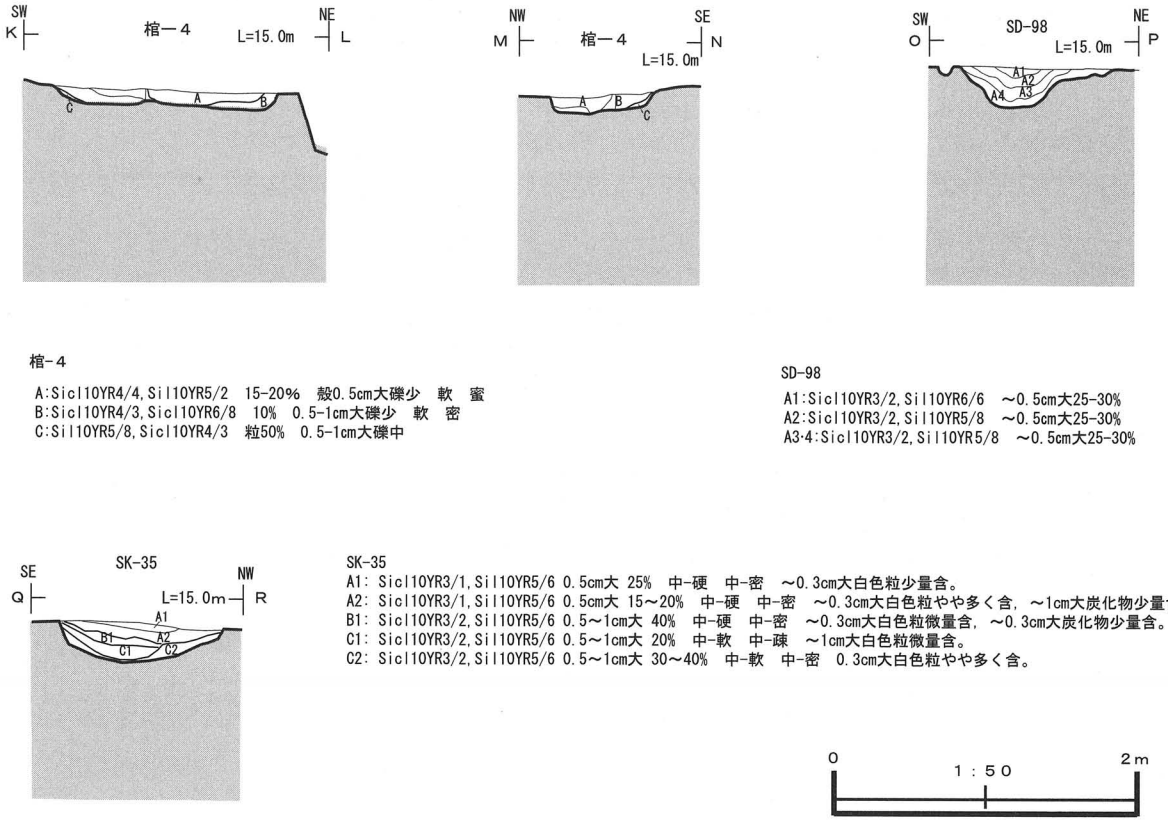




SD-60
A1: Sicl10YR2/1,Sil10YR4/2 粒 10% ～0.2cm大礫多 中-軟 中-疎
A2: Sicl10YR2/1,Sil10YR4/2 粒 20-30% ～0.2cm大礫中-多 中-軟 中-疎
A3: Sicl10YR2/1,Sil10YR4/2 粒 15-20% ～0.2cm大礫少 ～0.3cm大礫中 軟 疎
A4: Sicl10YR2/1,Sil10YR4/2 粒 15% ～0.5cm大礫中 中-軟 中-疎
A5: Sicl10YR2/1,Sil10YR4/2 粒 20-30% ～0.5cm大礫中 ～1cm大礫少 中-軟 中-疎
B1: Sil10YR3/1,Hc10YR5/2 20% 軟 中-疎
B2: Sil10YR3/1,Hc10YR5/2 40% 軟 中-疎
B3: Sic10YR3/1,Hc10YR5/2 30% 軟 中-疎
B4: HC10YR3/1,Hc10YR5/2 40% 軟 中-疎
C1: Sil2.5Y5/6,Hc10YR4/1 ～1cm大 20% 軟 中-疎
C2/3: Sicl10YR3/4,Sil10YR4/1 粒 10% 中-軟 中-密 0.5cm大 ｶｰﾎﾞﾝ少 0.3-1cm大礫多
D1: Sicl10YR4/3,Sil10YR5/8 粒～0.5cm大ﾌﾞﾛｯｸ 40% 中-硬 密 ～0.3cm大礫中-多
D2: Sicl10YR4/3,Sil10YR5/8 粒～0.5cm大ﾌﾞﾛｯｸ 60% 中-軟 中-密 ～0.3cm大礫中-多
E1: Sil10YR4/6
F1: Sicl10YR3/3,Sic10YR4/6 粒 5～7% 軟 中-疎 ～2cm大 レキ少量含，HC10YR5/1 2cm大 5%含。
F2: Sicl10YR3/3,Sic10YR4/6 粒 40% 軟 中-疎 HC10YR5/1 2cm大 5%含。



第 62 図　SD-60 断面図 (1)

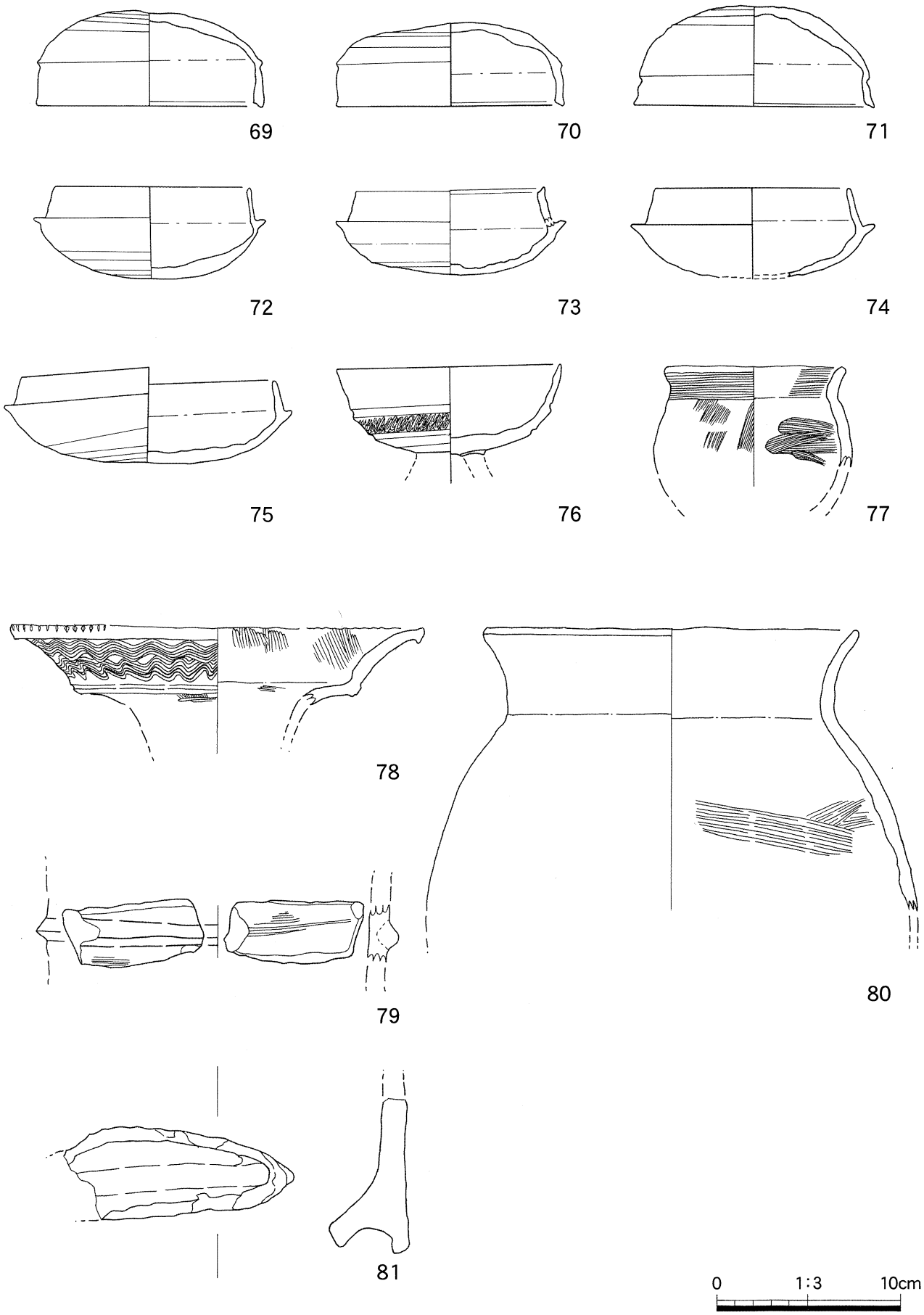


第 63 図　SD-60 他断面図 (2)

や多くの礫を含む。E1 層は褐灰色シルト。F1 ～ 2 層は暗褐色土に褐色シルト質埴土や褐灰色粘土ブロックを含む。 **壁の状態** 逆台形 (SD60 ①･SD63) ではきつく、U 字形 (SD60 ②～④) では緩やかに立ち上がる。
底の状態 陸橋部付近は深くなる傾向があり、凹凸が多所で見受けられる。
出土遺物 (第 64 図・表 2)　69 ～ 71 は須恵器坏蓋である。口径 12.4 ～ 13.0cm、器高 4.4 ～ 5.3cm を測り、いずれも天井部外面は回転ヘラケズリを施す。72 ～ 75 は須恵器坏身である。72 ～ 74 は口径 10.0 ～ 11.0cm、器高 4.6 ～ 4.9cm を測り、75 は器高が低く、口径が大きいタイプのものである。口径 14.0cm、器高 4.5 ～ 5.6cm を測る。いずれも底部外面は回転ヘラケズリを施す。76 は脚部を欠損した須恵器無蓋高坏である。外面の坏部下半には幅広の平行沈線間に波状文を施す。口径は 12.2cm を測る。77 は底部を欠損しているが土師器小型丸底鉢である。口径 9.4cm、最大径 10.7cm を測り口縁部内外面はヨコナデ、体部外面はハケメ、内面はナデを施す。78 は有段口縁壷で復元口径 22.4cm を測り、外面には 2 条の波状文を施す。内面には朱彩された痕跡が残る。頸部外面は横方向のヘラミガキ、内面はハケメを施す。79 は円筒埴輪の破片で、突帯は断面三角形を呈し、復元径は 19.6cm を測り、内外面にはヨコハケが見られる。80 は土師器壷で、やや短く外反する口縁部に大きく球状に張った胴部を持ち底部を欠損する。復元 (口径)20.0cm、(最大径)26.6cm を測る。81 は形象埴輪と考えられる。
備考 これらの事を考えると、古墳時代中期の古墳 (方墳) である可能性がある。

棺 (SK)4(第 61・63 図)

位置 方形区画陸橋部。 **平面形** 隅丸長方形。 **軸方向** N31° E。 **規模** 長軸 1.46m。短軸 0.68m。
深さ 0.1m。 **断面形** U 字形。 **重複関係** SZ60 を切る。 **掘込面** 削平。 **検出面** VIII 層上面。(地山)
埋土 (K-L 断面)・(M-N 断面)A ～ C 層の 3 層に分けられ、A 層は褐色土に灰黄褐色シルトや礫を含む。B 層はにぶい黄褐色土に明黄褐色土や礫を含む。C 層は黄褐色シルトに多量のにぶい黄褐色土と礫を含む。



第 64 図　SD（溝）60 出土遺物

壁の状態 ややきつく立ち上がる。 **底の状態** ほぼ平坦。 **出土遺物** なし。

土壙 (SK)35(第 61・63 図)

位置 方形区画内東隅。 **平面形** 円形。 **規模** 径 0.8 ～ 1.08m。 **深さ** 0.26m。 **断面形** U 字形。 **検出面** VIII 層上面。(地山) **壁の状態** ややきつく立ち上がる。 **底の状態** やや窪む。 **埋土** A ～ C 層に分けられ、A1 ～ 2 層は黒褐色土に黄褐色シルトを含む。B1 ～ C2 層は黒褐色土に黄褐色シルトブロックを含む。A2・B1 層には炭化物を含む。**出土遺物** 須恵器短脚高坏の脚部や甕・壷体部破片が出土している。

(III) SI-01(竪穴住居跡)

SI-01(第 65・69 図)

位置 調査区北西隅。 **平面形** 方形。 **主軸方向** N71° E。 **規模** 南北 4.1m × 東西 3.5m ～。 **深さ** 床面まで 0.16m。柱穴底面まで 0.36m。 **重複関係** SZ01(SD64) を切る。 **掘込面** 削平。 **検出面** VII 層上面。 **埋土** A 層～ C 層まで大きく 3 層に大別され、A1 ～ 3 層は黒褐色土に明黄褐色シルトブロックや炭化物を含む。B1 層は黒褐色土に明黄褐色シルト質埴土や炭化物を含む。C1 層は黄褐色土に黒褐色シルトブロックや褐灰色粘土ブロック、少量の礫を含む。 **壁の状態** 直壁気味に立ち上がる。 **床の状態** ほぼ平坦。 **施設火床面** 不明。**竪穴内土壙** (SK22・28)。SK22 は北東隅に位置し、楕円形を呈する。規模は 1.1 × 0.73m、深さ 0.15m を測る。SK28 は北西隅に位置し、楕円形を呈する。規模は東西 1.65 ×南北 0.68m、深さ 0.15m を測る。 **柱穴** 14 口ほど検出されるが、壁際や (SP747・750)、支柱穴 (SP738) と考えられる柱穴が配される。 **周溝** 西・南壁際。

出土遺物 (第 69 図・表 2) 須恵器坏蓋が出土している。82 は口径 12.2cm、器高 4.8cm、83 は復元口径 12.0cm、器高 3.9cm を測る。いずれも外面天井部回転ヘラケズリを施す。他に朱彩された土師器壷の体部破片が出土している。SK22 から朱彩された壷体部片、SK28 から須恵器坏蓋、土師器小型丸底鉢の底部、壷片、SP737 から須恵器坏身、土師器甕体部片、SP738・750 から土師器体部片、SP748 からは須恵器甕の体部、SP749 からは朱彩された壷の体部等が出土している。SP747 からは陶器片が出土していることから中世の柱穴と思われる。

SD(溝)71(第 56 ～ 60 図)

位置 調査区南西端。 **平面形** 長楕円形。**軸方向** N2° E。 **規模** 全長 2.2m。 **幅** 0.8m。 **深さ** 0.23m。 **断面形** U 字形。 **重複関係** SI01 に切られる。 **掘込面** 削平。 **検出面** VII 層上面。

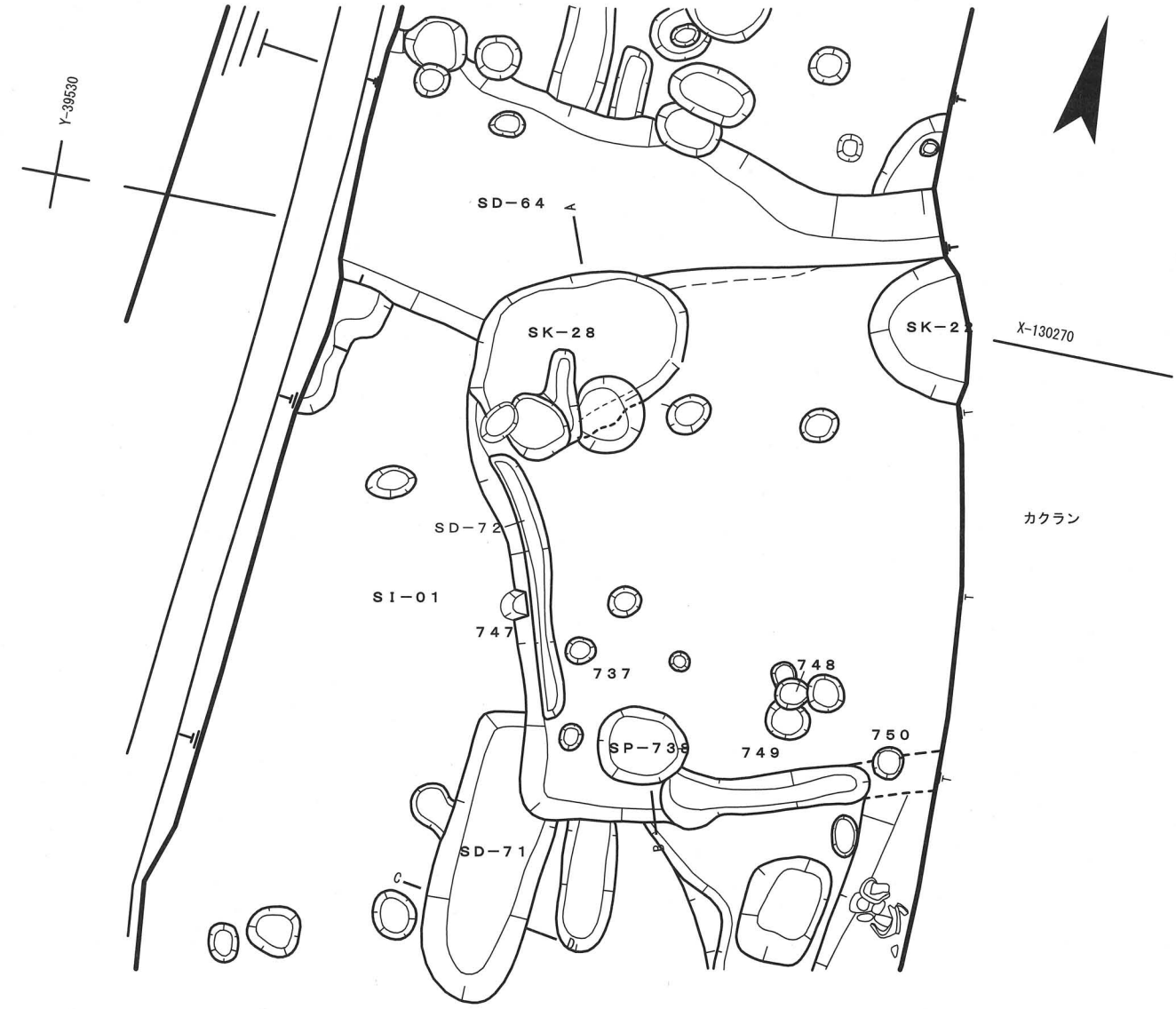
埋土 A ～ B 層に分けられ、A1 ～ 2 層は黒褐色土に黄褐色シルトや炭化物を含む。B1 層は黄褐色シルトに暗褐色ブロック土や褐灰色粘土ブロックを含む。 **壁の状態** 緩やかに立ち上がる。 **床の状態** ほぼ平坦。 **出土遺物** なし。

(IV) SI-02(竪穴住居跡)・SK-23(土壙)

SI-02(第 66・67・69 図)

位置 調査区北西端。 **平面形** 不整長方形。 **主軸方向** N20° E。 **規模** 南北 6.6m × 東西 3.3m ～。 **深さ** 床面まで 0.06 ～ 0.24m。 柱穴底面まで 0.21m。 **重複関係** SZ02(SD66) を切る。 **掘込面** 削平。 **検出面** VII 層上面。 **埋土** A 層～ B 層に分けられ、A1 ～ 2 層は黒褐色土に黄褐色シルトや礫、炭化物を含む。A2 層には土器が多く含まれる。B1 層は黄褐色シルトに黒褐色シルトブロックや多量の礫を含む。 壁の状態 直壁気味に立ち上がる。 **床の状態** 西側の床面がやや下がる。 **施設 火床面** 不明。

竪穴内土壙 (SK02-1・02-2) は北側に位置する。SK02-1 は長方形を呈すると思われ、規模は南北 2.5m ～



A1:Sicl10YR3/2,Sil10YR6/8　1cm大ﾌﾞﾛｯｸ　20-30%　中-硬　中-密　0.5cm大ｶｰﾎﾞﾝ少
A2:Sicl10YR3/2,Sil10YR6/8　0.5-1cm大ﾌﾞﾛｯｸ　15%　中-硬　中-密　2cm大ｶｰﾎﾞﾝ少
A3:Sicl10YR3/2,Sil10YR6/8　1cm大ﾌﾞﾛｯｸ　5-10%　中-軟　中-密　0.3cm大ｶｰﾎﾞﾝ少
B1:Sicl10YR3/2,Sic10YR6/8　1cm大ﾌﾞﾛｯｸ　15%　中-硬　中-密　0.5cm大ｶｰﾎﾞﾝ少
C1:Sicl10YR5/6,Sil10YR3/2　～1cm大ﾌﾞﾛｯｸ　15%　Hc10YR6/1　1-3cm大　30%　中-軟　中-疎　1-3cm大礫少

A1:Sicl10YR3/2,Sil10YR5/6　0.5cm大　30%　～0.2cm大ｶｰﾎﾞﾝ微　中-軟　中ー密
A2:Sicl10YR3/2,Sil10YR5/6　0.5cm大　10-15%　～0.2cm大ｶｰﾎﾞﾝ少　中-ン案　中-密
B1:Sil10YR5/6,Sicl10YR3/3　1cm大　30%　Hc10YR6/1　～1cm大　20%　中　中

0　1：50　4m

第65図　SI-01(竪穴住居跡)平・断面図

× 0.7m ～、深さ 0.67m を測り SK02-2 に切られる。SK02-2 は楕円形を呈すると思われ、規模は南北 1.35m ×東西 1.1m、深さ 0.34m を測る。

竪穴内土壙埋土 (SK02-1) は A ´層～ E ´層の 5 層に大別され、A ´1 ～ 2 層は暗褐色土に明黄褐色シルトブロックや多量の礫、炭化物を少量含む。A ´2 層には焼土粒も含まれる。B ´1 層は黒褐色土で礫や多量の炭化物を含む。C ´1 層は明褐色シルトに多量の暗褐色土や礫を含む。D ´1 ～ 3 層は黒色土に褐色シルトブロックや多量の礫、炭化物を少量含む。E ´1 層は黒色土に黄橙色シルトブロックや明赤褐色の焼土ブロックを含む。(SK02-2) は A 層が竪穴埋土で、B 層が土壙埋土である。B1 ～ 3 層は黒褐色土に黄褐色シルトブロックや礫を含む。B1 ～ 2 層には土器が含まれる。**柱穴** 竪穴内に 13 口、竪穴外では取り囲むように多数検出される。 **周溝** なし。

出土遺物 (第 69 図・表 2) 84 は須恵器坏蓋で復元口径 13.8cm、器高 4.4cm を測り、外面天井部に回転ヘラケズリを施す。85 ～ 87 は須恵器坏身でいずれも外面体部に回転ヘラケズリを施す。竪穴からは須恵器坏蓋・身・甕、土師器体部破片や朱彩された高坏・壷片が出土している。竪穴内土壙からは波状文のある無蓋高坏、坏蓋・身、甕等の多量の須恵器、朱彩された土師器高坏、器台、壷等が出土している。(TK47-6C 初頭頃)SP763 からは須恵器甕体部片や土師器片、SP764 からは須恵器坏蓋、SP801 からは須恵器坏身、SP782・783・800・816 からは土師器片が出土している。

SK(土壙)23(第 66・67 図)

位置 調査区北西端。 **平面形** 不整楕円形。 **規模** 長軸 4.9m × 短軸 4.6m。**深さ** 0.3m。 **断面形** 皿形。 **検出面** VII 層上面。 **壁の状態** 緩やかに立ち上がる。 **底の状態** やや凹凸があり西側が下がる。 **重複関係** SZ02(SD65・66) を切る。

埋土 A ～ B 層に分けられ、A1 層は褐色土に多量の黄褐色シルトや礫、土器を含む。A2 層はにぶい黄褐色土に黄褐色シルトや礫、土器を含む。B1 層は灰黄褐色土に明黄褐色シルトブロックや礫、炭化物を含む。

出土遺物 5 世紀後半～ 6 世紀初頭頃の須恵器坏蓋 1・身 2、壷・甕の体部片が出土している。

(V) SI-03(竪穴住居跡)

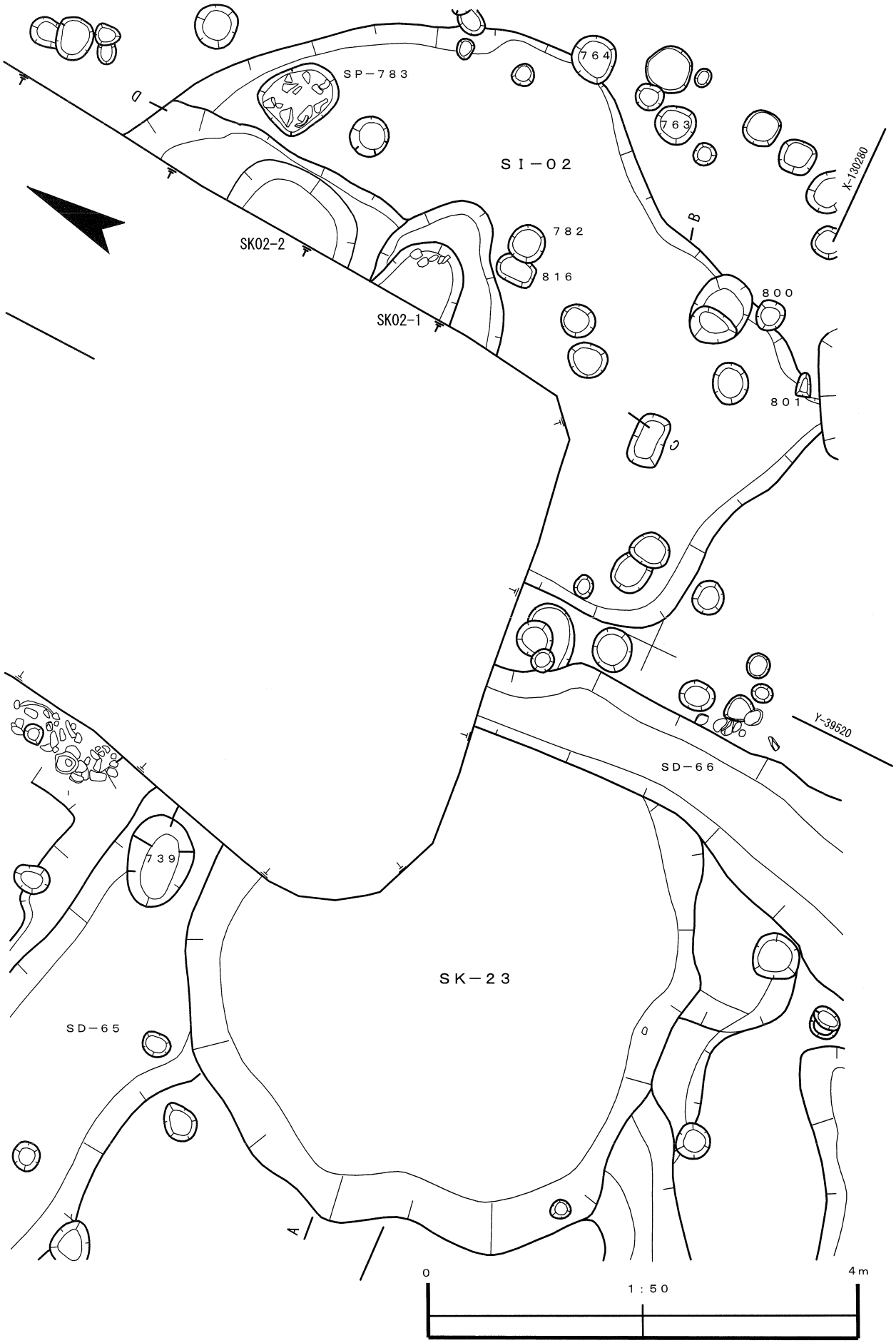
SI-03(第 68・69 図)

位置 調査区北西部。 **平面形** 長方形。 **主軸方向** N8° E。 **規模** 南北 1.9m × 東西 2.7m ～。 **深さ** 床面から構築土底面まで 0.14m。 柱穴底面まで 0.15 ～ 0.38m。 **重複関係** 不明。 **掘込面** 削平。 **検出面** VII 層上面。 **検出状況** 検出時に火床面が検出されたことから、床面がほぼ露出しており正確な竪穴住居跡の規模は不明である。上述した規模よりは大きいものとなることが想定される。

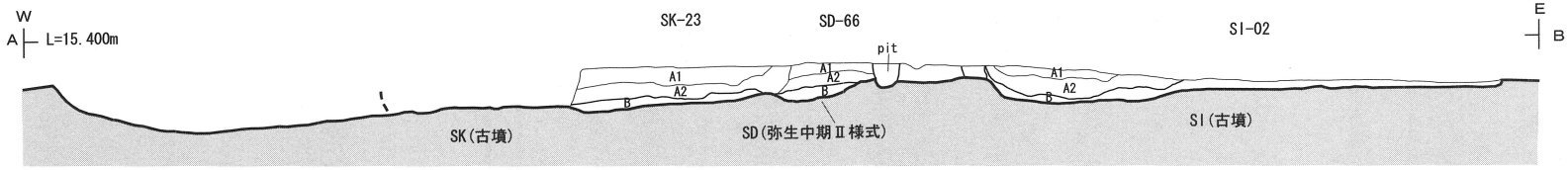
構築土埋土 A1 ～ 3 層は黒褐色土に黄橙色シルトや礫を少量含み、シルトの含有率の違いによって細分される。 **壁の状態** 直壁気味に立ち上がる。 **底の状態** 南側の底面がやや下がる。 **構築面の状態** 場所によって凹凸が著しい。 **施設 火床面** 有り。竪穴内西端やや南寄りに位置し、楕円形を呈し東西 0.5m、南北 0.4m を測る。赤褐色を呈し堅くしまっており、4cm 程の深さまで浸透する。

竪穴内土壙 (SP865 が該当) 竪穴内西端やや東寄りに位置し、火床面と隣接する。方形を呈し東西 0.6m、南北 0.62m、深さは 0.19 ～ 0.26m を測り、東側が低くなっている。埋土は黒褐色土に多量の明黄褐色シルトブロックや炭化物を少量含む。出土遺物は須恵器坏蓋・身、土師器体部破片が検出されている。

柱穴 竪穴内に柱穴・ピットは 13 口、竪穴外壁際には 4 ～ 5 口検出される。 **周溝** なし。 **出土遺物** (第 68・69 図 / 表 2) 88 は須恵器坏身である。口径 10.8cm、器高 4.9cm、最大径 13.4cm を測り、外面底部には回転ヘラケズリを施し重ね焼きの際に付いた火襷が残る。竪穴住居内の南側やや西寄りの床面直上から出土し、他には須恵器坏蓋、土師器高坏等のが破片が出土している。柱穴からは SP863・868 から土師器体部片、SP864・866・887 から土師器壷の体部片が出土している。



第66図　SI-02・SK-23 平面図

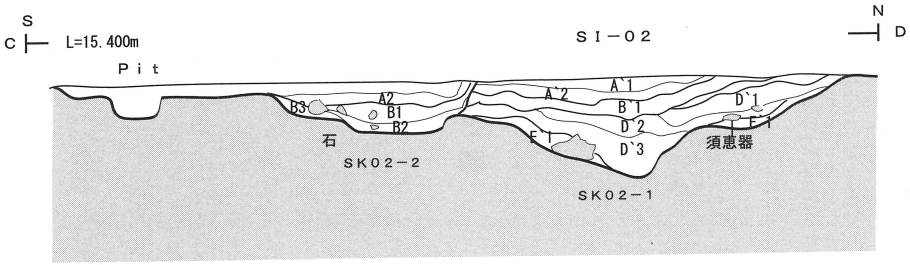


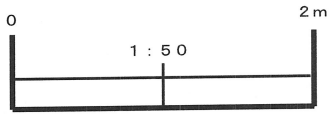
ＳＫ－２３

A1:Sicl10YR4/4,Sil10YR5/6　粒　40%　0.3-0.8センチ代白色礫少　土器片中　疎-密
A2:Sicl10YR4/3,Sil10YR5/6　粒　20%　0.3-0.8センチ代白色礫中　5cm大礫少　土器片中　疎-密
B2:Sicl10YR4/2,Sil10YR6/8　0.5-1cm大　20%　0.3cm大白色礫中　5cm大礫少　0.3cm大ｶｰﾎﾞﾝ少　硬-密

ＳＩ－０２

A1:Sicl10YR3/2,Sil10YR5/6　粒～0.5cm大　20-25%　0.5-1cm大白色礫少　～0.2cmｶｰﾎﾞﾝ少　中-軟　中-密
A2:Sicl10YR3/2,Sil10YR5/6　粒～0.5cm大　5-7%　0.5-1cm大白色礫多　～0.2cmｶｰﾎﾞﾝ中　土器多　中-軟　中-密
B:Sil10YR5/6,Sil10YR3/2　5-10cm大ﾌﾞﾛｯｸ　30%　0.5-1cm大白書K白色礫多　硬-密





ＳＩ－０２

A1: Sicl10YR2/1,Sil10YR4/4粉～0.3cm大20～30% 中-硬，密 0.5～1cm大レキ少～中量土器出土
A2: Sicl10YR2/1,Sil10YR4/4粉～0.3cm大10%　中-硬，密 1～2cm大レキ少～中量　土器多数出土

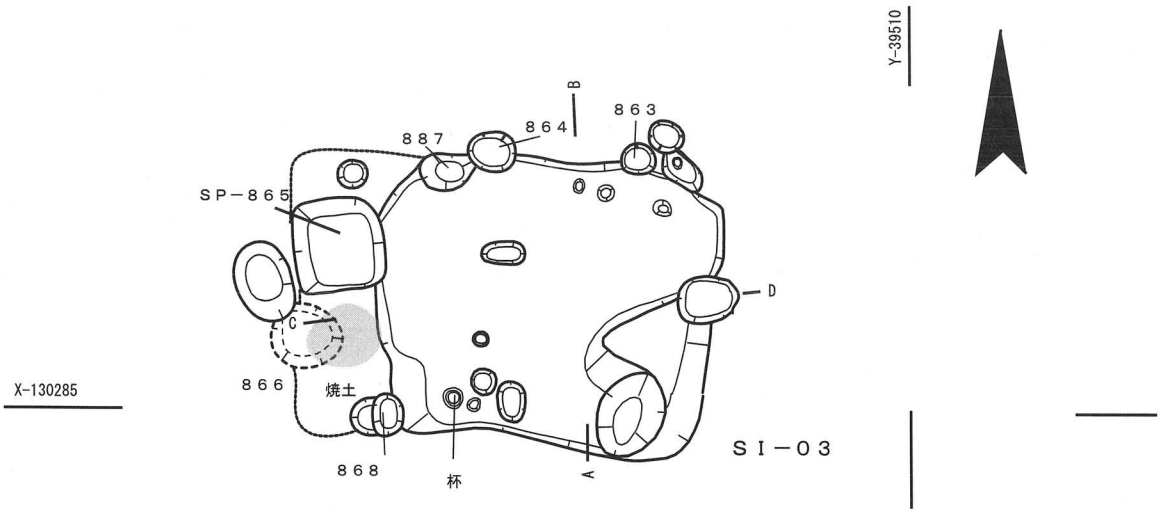
ＳＫ０２－２

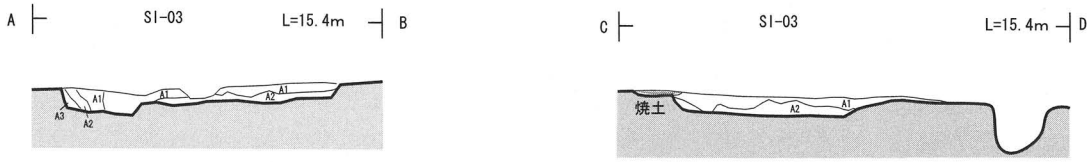
B1: Sicl10YR2/2,Sil10YR5/6 1～3cm大15～20%　中-軟，密　～0.3cm大レキ中量　土器出土
B2: Sicl10YR2/2,Sil10YR5/6 1cm大20%　軟，密　～0.3cm大レキ少量，5～10cm大レキ多量　土器出土
B3: Sicl10YR2/2,Sil10YR5/6 1cm大5～10%　中-軟，密　～0.3cm大レキ少量，5～10cm大レキ少～中量

ＳＫ０２－１

A´1: Sicl10YR3/3,Sil10YR6/6 粉～1cm大ブロック 15-20% 1cm大礫多 ～0.5cm大炭化物少量 中ー硬　密　土器出土
A´2: Sicl10YR3/3,Sil10YR6/6 粉～1cm大ブロック 5% 1cm大礫多 ～0.5cm大炭化物少量 中ー硬　密 焼土粒少量　土器出土
B´1: Sicl10YR3/2,0.3～1cm大礫少～中量　1～5cm大炭化物多量 30%　中ー軟　中ー密　土器出土
C´1: Sil7.5YR5/6,Sicl10YR3/3 粒 40-50%　硬　密　～1cm大礫少～中量
D´1: Sicl10YR2/1,Sil10YR4/6 ～1cm大ブロック 10-15%　中ー硬　中ー密　0.5～1cm大礫多量　1cm大炭化物少量
D´2: Sicl10YR2/1,Sil10YR4/6 ～1cm大ブロック 30%　中ー硬　中ー密　0.5～1cm大礫少量　1cm大炭化物少量
D´3: Sicl10YR2/1,Sil10YR4/6 ～0.5cm大 5-10%　軟　中ー密　0.5～1cm大礫中量　1cm大炭化物少量
E´1: Sicl10YR2/1,Sil10YR7/8 1cm大ブロック 20-30%　中ー軟　中ー密　Sil2.5YR5/8 1～2cm大焼土ブロック 3-5%

第67図　SI-02・SK-23断面図





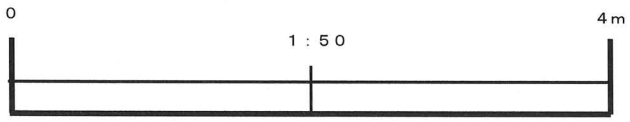
掘込地業　A1:Sicl10YR3/2,Sil10YR7/8～0.5cm大，20-30%　中-軟，中-密，～0.3cm大レキ少

A2:Sicl10YR3/2,Sil10YR7/8～0.5cm大，40-50%　軟　，　密　，～0.3cm大レキ少

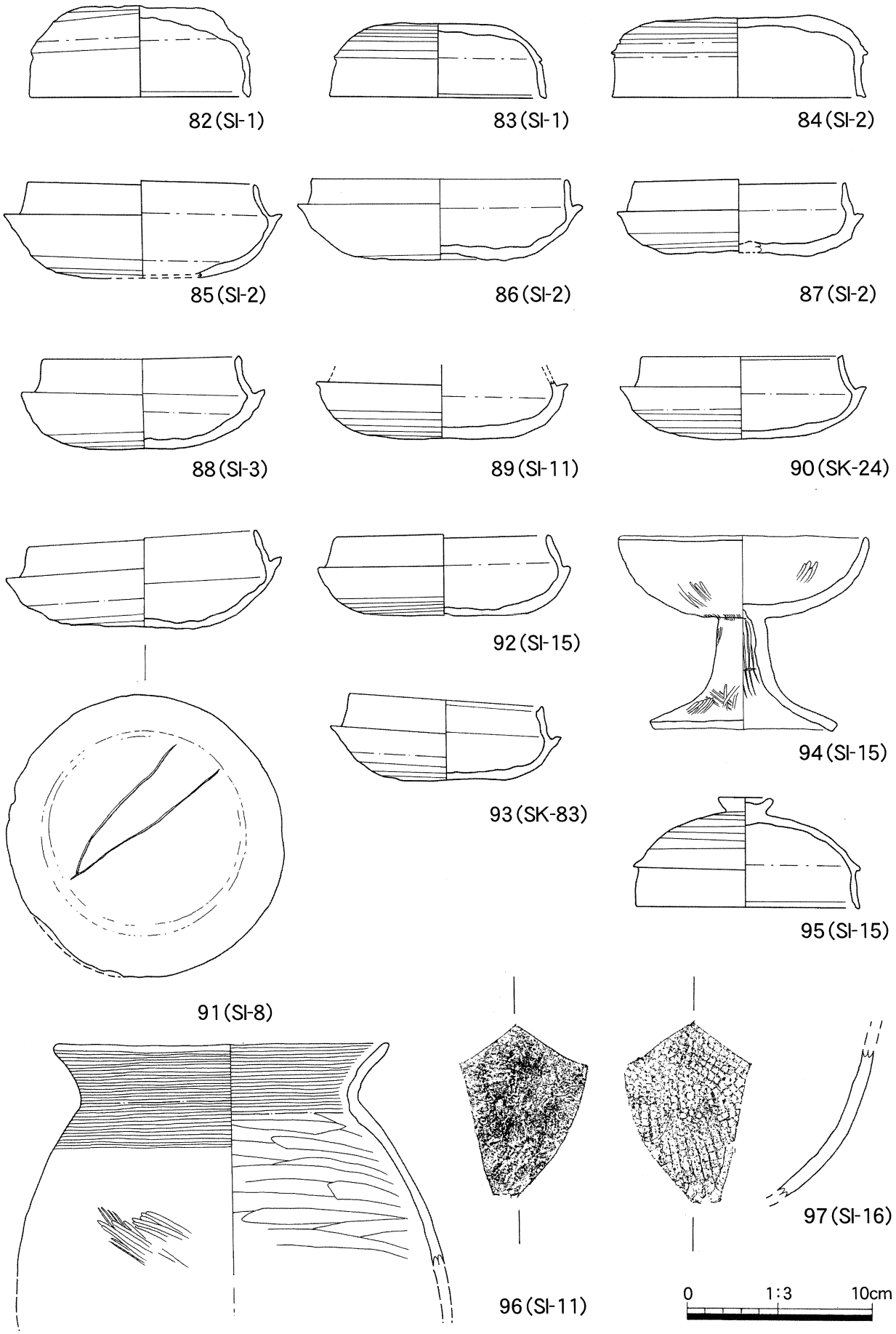
A3:Sicl10YR3/2,Sil10YR7/8～0.5cm大，60%　中-軟，中-密

柱穴：　Sicl10YR3/2,Sil10YR6/8,0.5cm大ﾌﾞﾛｯｸ30-40%　中-軟，中-密，1cm大の炭化物少量含む。

焼土：　Sic5YR4/8 硬



第68図　SI-03平・断面図



第 69 図　SI（竪穴住居跡）1～3・8・11・15・16/SK83 出土遺物

(VI) SI-04・05(竪穴住居跡)

SI-04(第3図)

位置 調査区東側北端。 **平面形** 正方形。 **主軸方向** N47° E。 **規模** 北西-南東 3.2m×南西-北東 3.35m～。 **深さ** 床面から構築土底面まで 0.22m。 柱穴底面まで 0.25～0.30m。 **重複関係** なし。 **掘込面** 削平。 **検出面** VIII 層上面。(地山)

埋土 A1～2層に細分される。黒褐色土に明黄褐色シルトブロックを含む。 **壁の状態** やや緩やかに立ち上がる。 **床の状態** ほぼ平坦。 **施設** 火床面 なし。 **柱穴** ピットが南東壁際に6口検出される。 **周溝** なし。 **出土遺物** タタキ甕、壷、高坏等の体部片が出土している。庄内式併行期と思われる。

SI-05(第3図)

位置 調査区中央北端。 **平面形** 方形。 **主軸方向** N65° E。 **規模** 北西-南東 7.5m～×南西-北東 4.3m～。 **深さ** 床面まで 0.24～0.42m。柱穴底面まで 0.25～0.47m。 **重複関係** なし。 **掘込面** 削平。 **検出面** VIII 層上面。(地山) **検出状況** 既に床面が露出または削平されており(火床面削平)、掘込地業を精査した。 **構築土埋土** A～D層の4層に大別され、A1～2層は黒褐色土に多量の黄褐色シルトブロックと礫、炭化物、橙色の焼土粒を少量含む。B1層は明黄褐色シルトに多量の黒褐色ブロック土と礫、炭化物、橙色の焼土粒を少量含む。C1層は黒褐色土に多量の明黄褐色シルトブロックや炭化物を含む。D1層は明黄褐色シルトに黒褐色ブロック土や炭化物を含む。 **壁の状態** 直壁気味。 **底の状態** ほぼ平坦。 **施設 柱穴** 竪穴内に15口検出され、壁際に等間隔に配置される。竪穴外の周囲にも検出される。 **周溝** なし。 **出土遺物** 須恵器坏蓋・身、甕、土師器壷、甕等の体部片が出土している。

(VII) SI-06・07(竪穴跡・竪穴住居跡)/SK-83(土壙)

SI-06(第70～71図)

位置 調査区中央北側。 **平面形** 長方形。 **主軸方向** N64° E。 **規模** 北西-南東 2.4m×南西-北東 1.9m。 **深さ** 床面まで 0.14m。 **重複関係** SI07を切る。 **掘込面** 削平。 **検出面** VIII 層上面。(地山)

埋土 A～B層分けられ、A1～2層は黒褐色土に橙色シルトや多量の礫、炭化物を少～中量含む。B層は黒褐色土に多量の橙色シルトブロックや炭化物を少～中量含み、堅くしまりがあることから掘込地業を行なった貼床構築土と考えられる。 **壁の状態** 緩やかに立ち上がる。 **床の状態** やや凸凹がある。

出土遺物 竪穴の北半部から須恵器坏蓋・身、波状文を施した無蓋高坏、土師器壷の口縁部、甑等の破片が出土している。

SI-07(第70～78図)

位置 調査区中央北側。 **平面形** 不整方形。 **主軸方向** N75° E。 **規模** 北西-南東 7.4m×南西-北東 7.5m。 **深さ** 床面まで 0.17～0.34m。床面～構築土底面まで 0.18m。 **重複関係** SI06に切られる。 **掘込面** 削平。 **検出面** VIII 層上面。(地山)

埋土 A～E層の5層に大別され、D～E層は掘込地業の貼床構築土である。A1層は黒褐色土に暗褐色シルトや礫、炭化物、土器を含む。B1層は黒褐色土に褐灰色シルトや礫、炭化物、土器を含む。C1～4層は黒褐色土ににぶい黄褐色シルトや炭化物、多量の土器、明赤褐色の焼土粒を含む。D1層は灰色シルトに暗褐色土や炭化物、黄褐色の焼土粒を含む。D2層は灰色シルトに多量の黄褐色シルトブロックを含む。D3層はD1層に類似。E1層は黒褐色土に黄褐色シルトブロックや炭化物、明赤褐色の焼土粒、土器を含む。

壁の状態 緩やかに立ち上がる。 **床の状態** 床面はあまり堅くしまっておらず、貼床部分にやや凹凸がみられる。 **施設 火床面** なし。 **柱穴** 竪穴内に18口検出され、壁際に集中する。竪穴外の周囲にも多数検出

されるが、竪穴住居跡との関連性は不明である。 **周溝** 一部北側にみられる。

出土遺物（第72～78図・表3・4・10） 98～112は須恵器坏蓋である。口径11.6～14.8cmを測るが、11～12cm代が最も多い。器高は4.0～5.5cmである。いずれも外面天井部回転ヘラケズリを施す。104は天井部に重焼きによる火襷が見られる。113～123は須恵器坏身である。115は底部外面にヘラ描きがなされ、記号の「△」に類似する。また、朱彩も見られ、口縁部に蓋が融着している。いずれも口縁部は体部中程からやや内湾気味に立ち上がり、体部には回転ヘラケズリを施す。口径9.4～12.6cm、器高4.4～5.7cm、最大径12.0～15.2cmを測る。124～128は須恵器有蓋高坏の蓋である。128はやや大型の坏蓋で口径14.1cm、器高6.4cmを測り、124～127は口径10.4～11.8cm、器高4.6～5.3cmを測る。いずれも外面上半には回転ヘラケズリを施す。129～138は有蓋高坏で、いずれも短脚である。脚部には透孔が有るものと無いもの(136)の大きく2種類に分かれ、さらに透孔が有るものでも透かしが台形または長方形を呈するもの(129～133・135・138)と円形(137)のものとがある。坏部はいずれも外面下半に回転ヘラケズリを施している。その他には131は脚部外面に脚部外面にカキメが施され、133は坏部の受けに蓋の先端が融着する。概ね口径9.4～10.4cm、器高9.4～9.6cm、最大径11.8～12.7cm、底径7.7～9.2cm、坏部高4.3～4.7cm、脚部高3.9～5.1cmを測り、透孔はすべて3孔である。139は底部を欠損するが須恵器短頸壷である。直口する短い口縁部と体部上半に最大径を有し大きく張る胴部を有する。復元（口径）8.0cm、（器高）7.4cm、（最大径）12.0cmを測り、外面体部下半に回転ヘラケズリを施す。140～143は須恵器無蓋高坏である。140・141は短脚で、142・143は脚部を一部欠損する。いずれも台形の透孔が見られ、140・143が4孔、141・142が3孔である。坏部は143が小型で器形的に長脚タイプに付く坏部を呈する。復元（口径）11.9cm、坏部高4.2cmを測る。141～143は坏部外面に波状文を施すが、140には見られない。いずれも坏部は椀形で口縁部がやや外反して大きく開き、外面下半に回転ヘラケズリを施す。140～142は概ね口径14.0～16.0cm、器高9.5～11.2cm、底径8.2～10.4cm、坏部高4.4～5.8cm、脚部高5.1～5.9cmを測る。144～147は須恵器壷・甕の口縁部で、148は底部である。146・147は口縁部外面に波状文を施し、145はカキメを施す。144は体部上半の内外面にタタキを施している。復元口径は144は26.6cm、145は20.8cm、146は54.4cm、147は42.8cmを測る。148は外面に平行タタキを施す。

149～156は石製品で砥石である。149は楕円礫で2面に使用痕が認められる。150は直方体で片側を欠損しており、条痕、擦痕、窪みが多数見られ4面に使用痕がある。151は緑色凝灰岩製で3面に使用痕がある。152～154は砂岩系で152は4面使用、153は楕円形でV字状の深い条痕がある。154は3面使用、155は四角柱状で3面を使用している。156は大型の砥石で5面に使用痕跡が認められ、火熱を受けている。全長27.5cm～、幅12.9cm～、厚さ6.8～10.4cm、重量5.2kgを測る。SI07の西調査区部分床面直上から出土している。これら以外にも土師器壷・甕の口縁部や椀、把手付鉢、甑、高坏等が出土している。

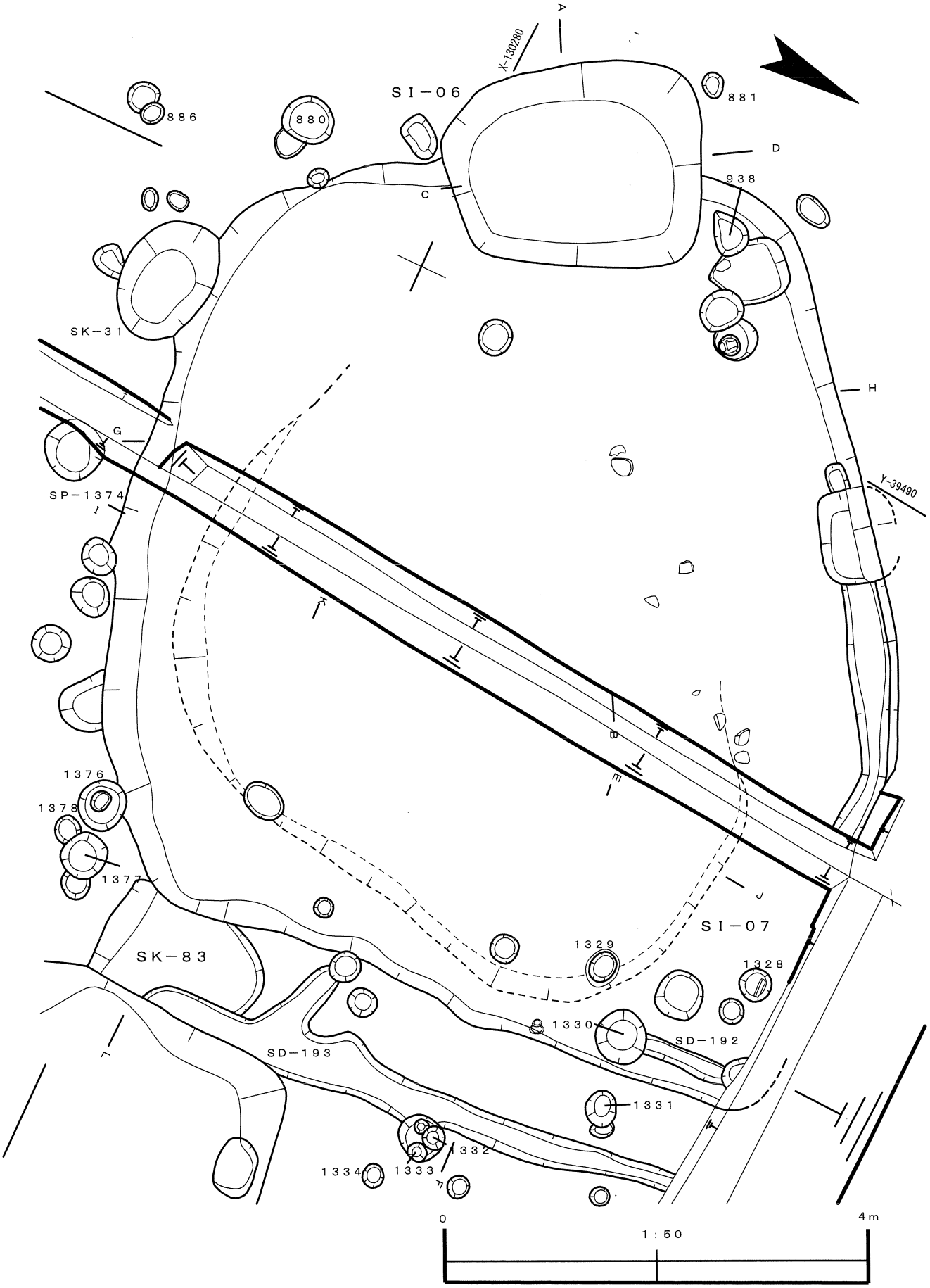
SK（土壙）83（第70・71図）

位置 SI07東側に隣接。 **平面形** 楕円形。 **主軸方向** 不明。 **規模** 南北1.6m×東西0.9m～。 **深さ** 0.58～0.93m。 **重複関係** SI09・SD193に切られる。SI07を切る。 **掘込面** 削平。 **検出面** VIII層上面。（地山）

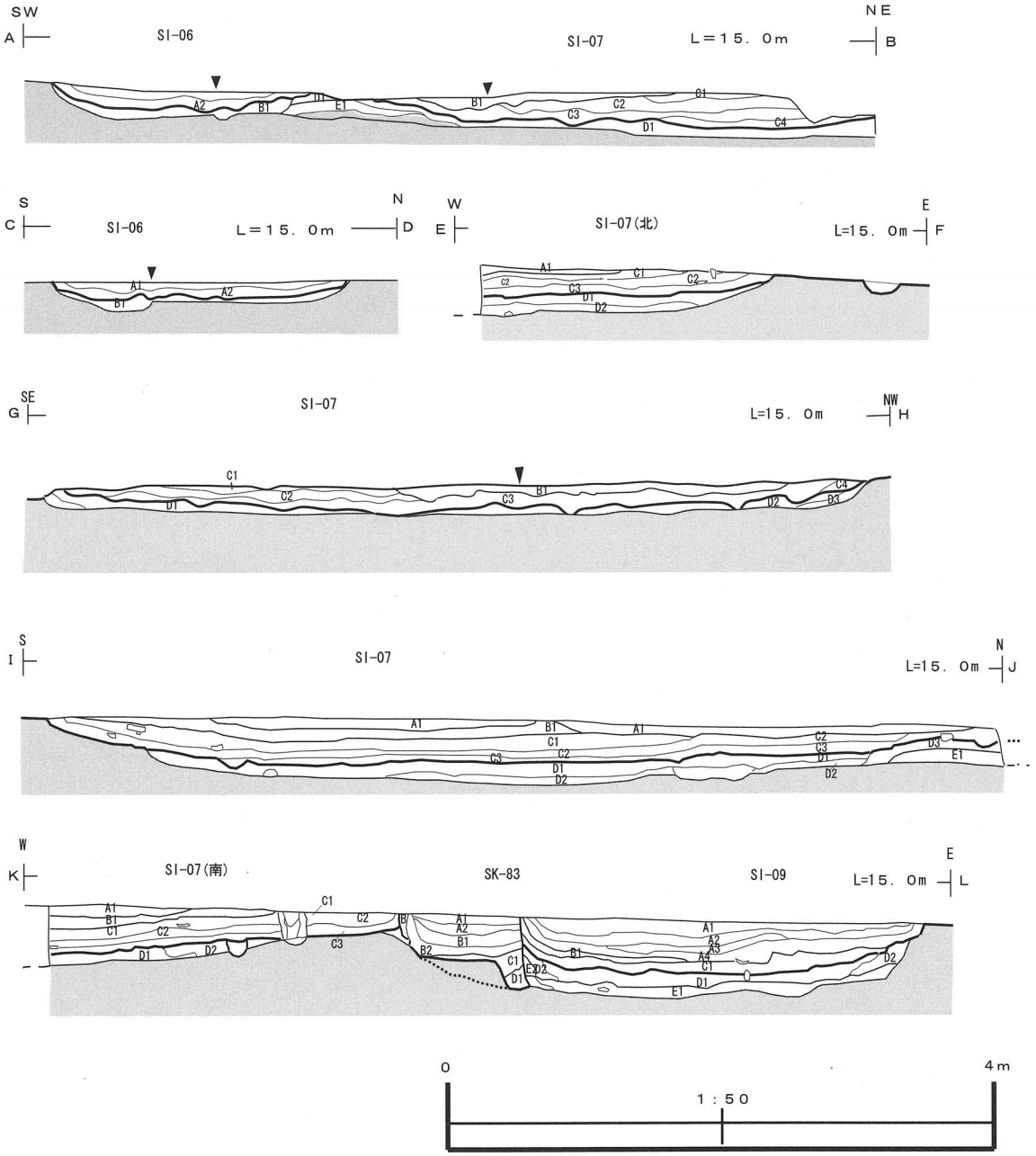
埋土 A～D層までの大きく4層に大別され、A1～2層は暗褐色土に明黄褐色シルトや少量の礫を含む。A1層からは土器が少量出土している。B1層は黒褐色土に黄褐色シルトブロックや礫、土器を少量を含み、明赤褐色の焼土粒を僅かに含む。B2層は黒褐色土に黄褐色シルトブロックを含む。C1層は明黄褐色シルトに多量の褐灰色シルトブロックを含む。D1層は黒褐色土ににぶい黄橙色シルトブロックを含む。

壁・底の状態 直壁気味に立ち上がり、やや底がくぼむ。

出土遺物 6世紀前半頃(MT15)の須恵器坏身が出土しているほかに、須恵器甕の体部破片や土師器甕の体部破片、やや上げ底状の底部が出土している。



第 70 図　SI-06・07・SK-83 平面図



SI-06

A1: Sicl10YR3/2,Sil7.5YR6/8粒～0.4cm大 10～15% 中-軟 中-密 0.5～1cm大砂礫多量に含。1cm大炭物少量含。
A2: Sicl10YR3/2,Sil7.5YR6/8粒～0.4cm大 15～20% 軟 中-疎 0.5～1cm大砂礫中～多量に含。1cm大炭化物中量含。
B1: Sicl10YR2/2,Sil7.5YR6/8 1～3cm大ブロック40～50% 中-硬 密 0.5～1cm大炭化物少～中量含む。（掘込地業）

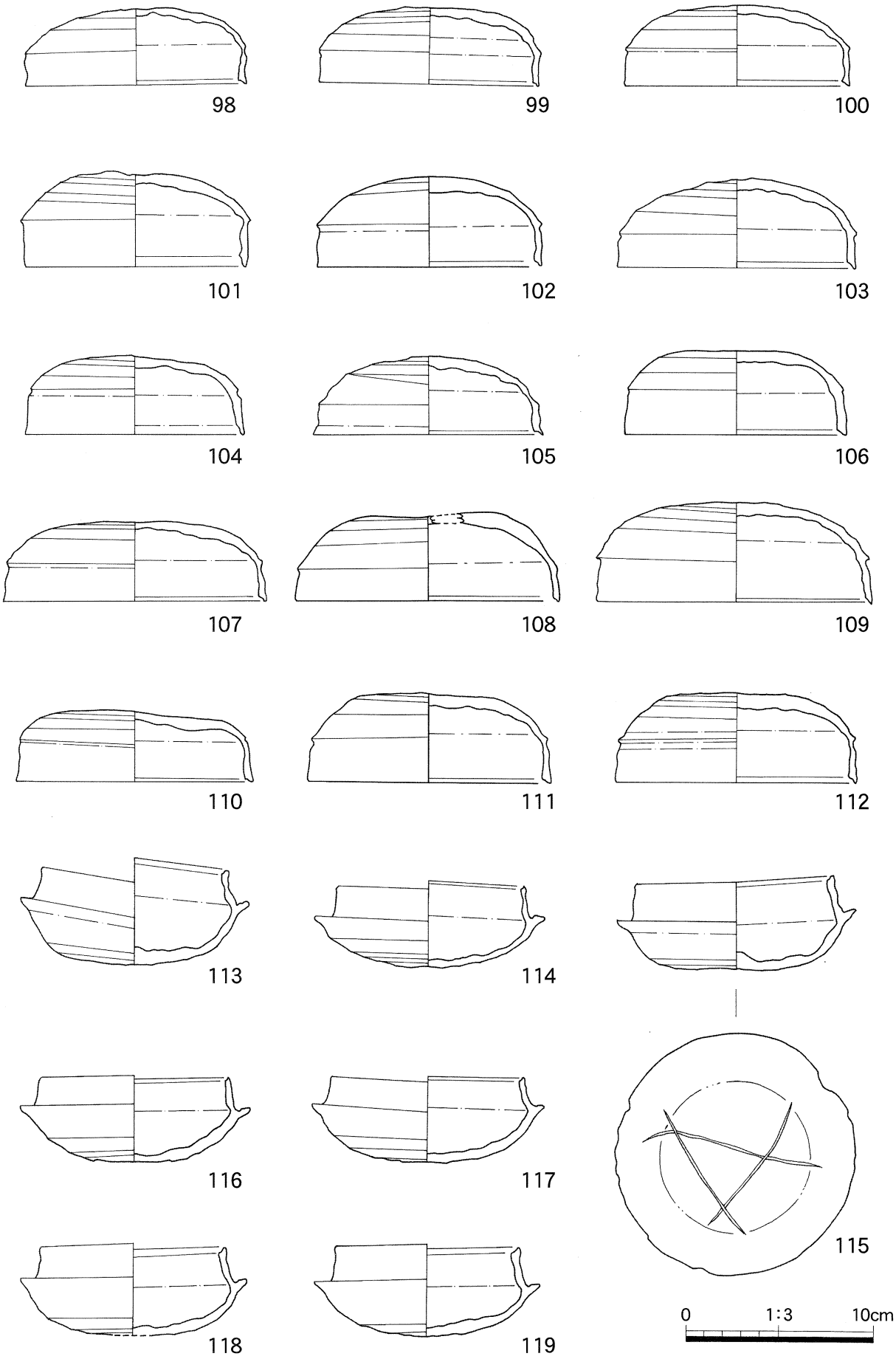
SI-07

A1: Sicl10YR3/1,Sil10YR3/4 粉状30% 中-軟 中-密 1cm大炭化物少～中量，2～3cm大レキ少量含。土器やや多く出土。
B1: Sicl10YR3/2,Sil10YR4/1 粉状30～40% 軟 中-密 0.5～1cm大炭化物中量，～1cm大レキ少～中量含。土器少量出土。
C1: Sicl10YR3/1,Sil10YR4/3 粉～粒状30% 軟 中-密 Sil5YR5/8 0.5～1cm大焼土粒多量，～1cm大炭化物少量含。土器やや多く出土。
C2: Sicl10YR3/1,Sil10YR4/3 粉～粒状15～20% 軟 中-密 Sil5YR5/8 0.5～1cm大焼土粒やや多い，～1cm大炭化物少～中量含。土器やや多く出土。
C3: Sicl10YR3/1,Sil10YR4/3 粉～粒状20～30% 軟 中-密 Sil5YR5/8 0.5～1cm大焼土粒少量，～1cm大炭化物やや多く含。土器やや多く出土。
D1: Sil N4/0,Sicl10YR3/3 粒状20～25% 中-硬 密 Sil10YR5/8 0.5cm大焼土粒 15%程度含，0.5cm大炭化物少量含。（以下掘込地業）
D2: Sil N4/0,Sil10YR5/8 1～5cm大ブロック40～50%含，中-硬 中-密
D3: D1層と類似。
E1: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/8 1～3cm大ブロック20% 硬 密 Sil5YR5/8 粒～0.5cm大少量含，～0.5cm大炭化物やや多く含。土器少量出土。

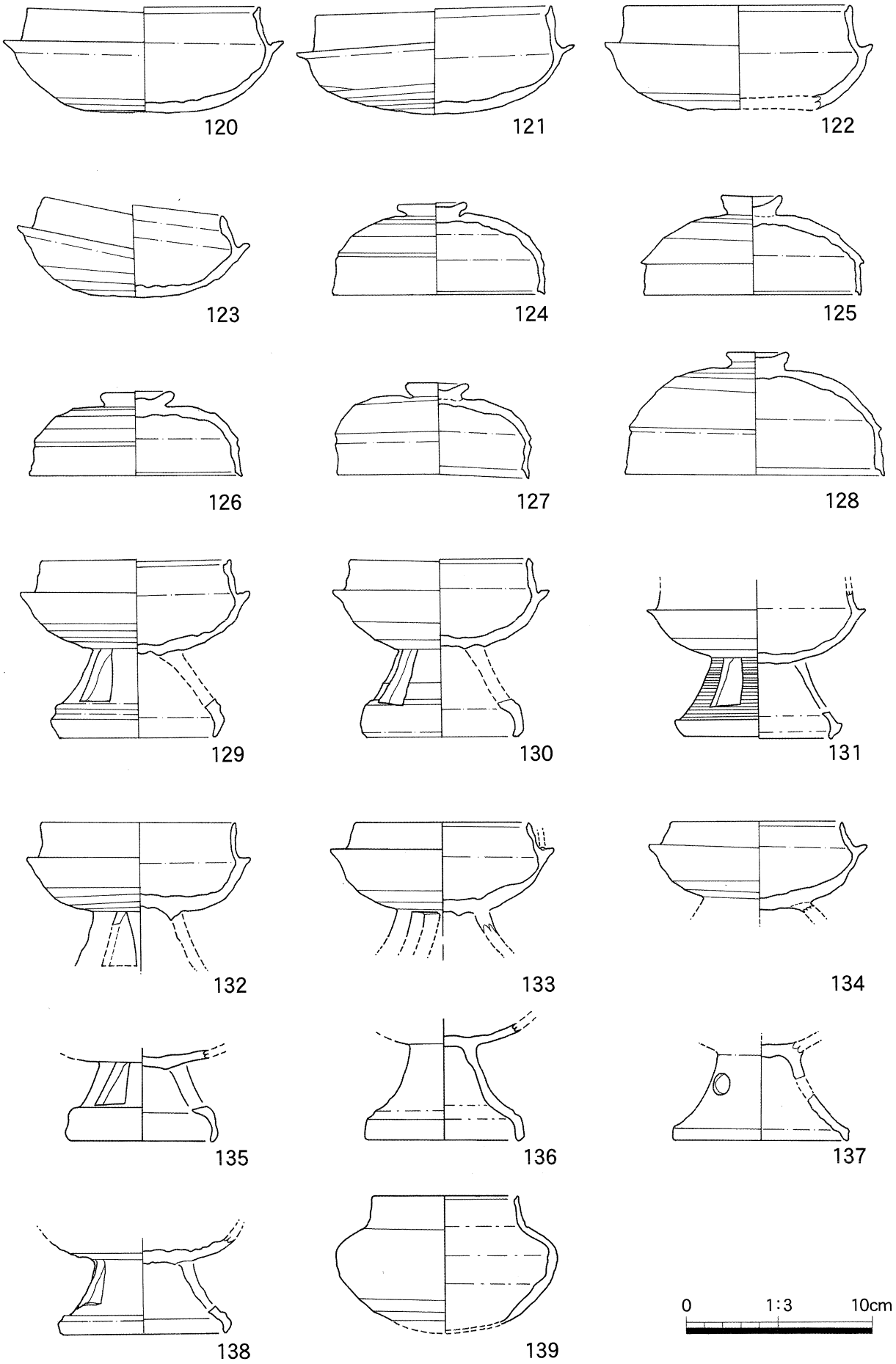
SK83

A1: Sicl10YR3/3,Sil10YR6/6 粒状 20～25% 中-硬 密 ～0.1cm大レキ少量含。土器少量出土。
A2: Sicl10YR3/3,Sil10YR6/6 粒状 10～15% 中-軟 中-密 ～0.1cm大レキ少量含。
B1: Sicl10YR3/1,Sil10YR5/6 0.5～1cm大粒 20% 中-硬 中-密 5cm大レキ少量含。Sil5YR5/8焼土粒僅かに含。土器少量出土。
B2: Sicl10YR3/1,Sil10YR5/6 0.5～1cm大粒 30% 軟 中-疎
C1: Sil10YR6/6,Sil10YR4/1 1～3cm大ブロック 40% 中-硬 密
D1: Sicl10YR3/1,Sil10YR6/4 0.5～3cm大ブロック 30% 中-硬 密

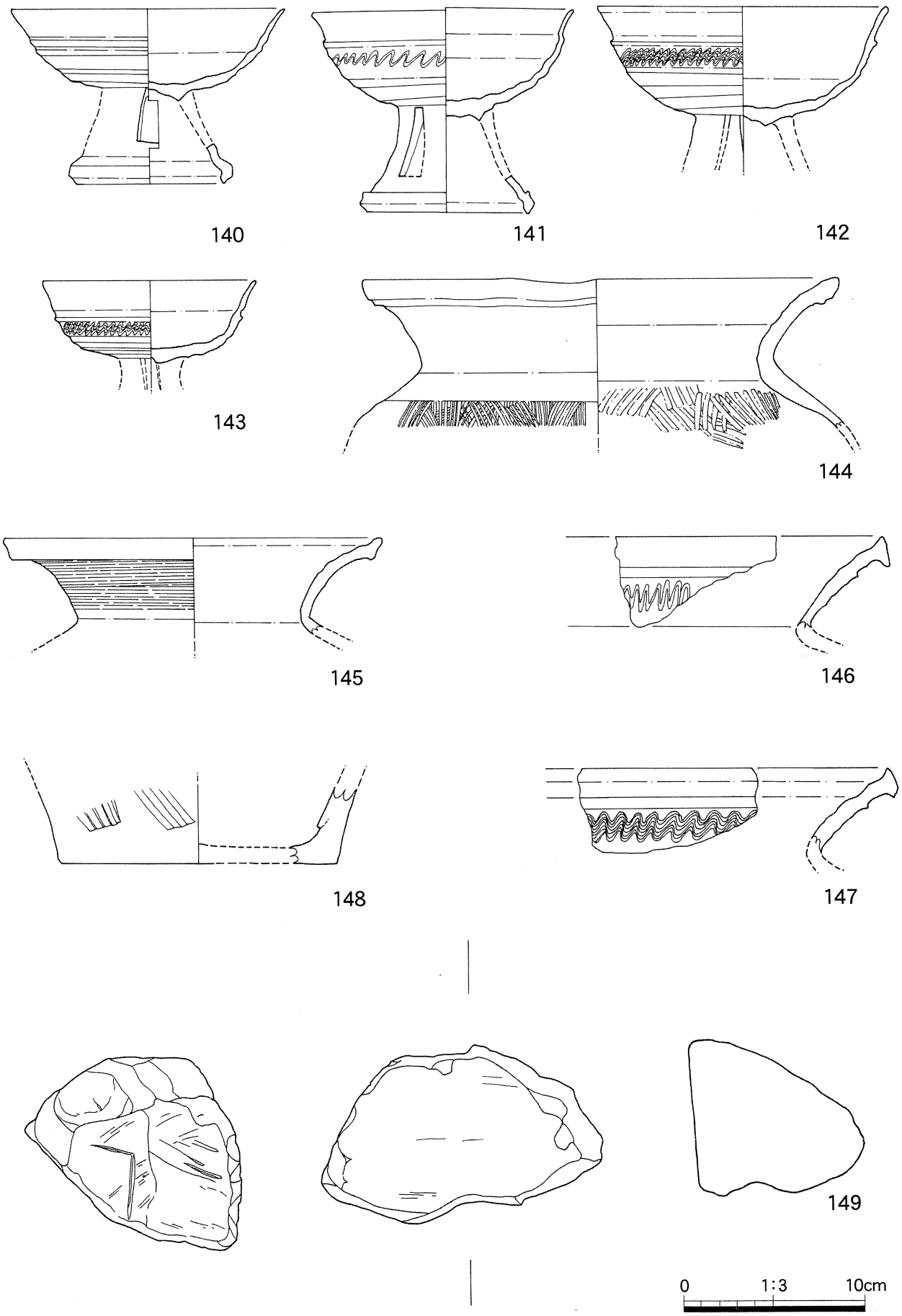
第71図 SI-06・07/SK-83 断面図



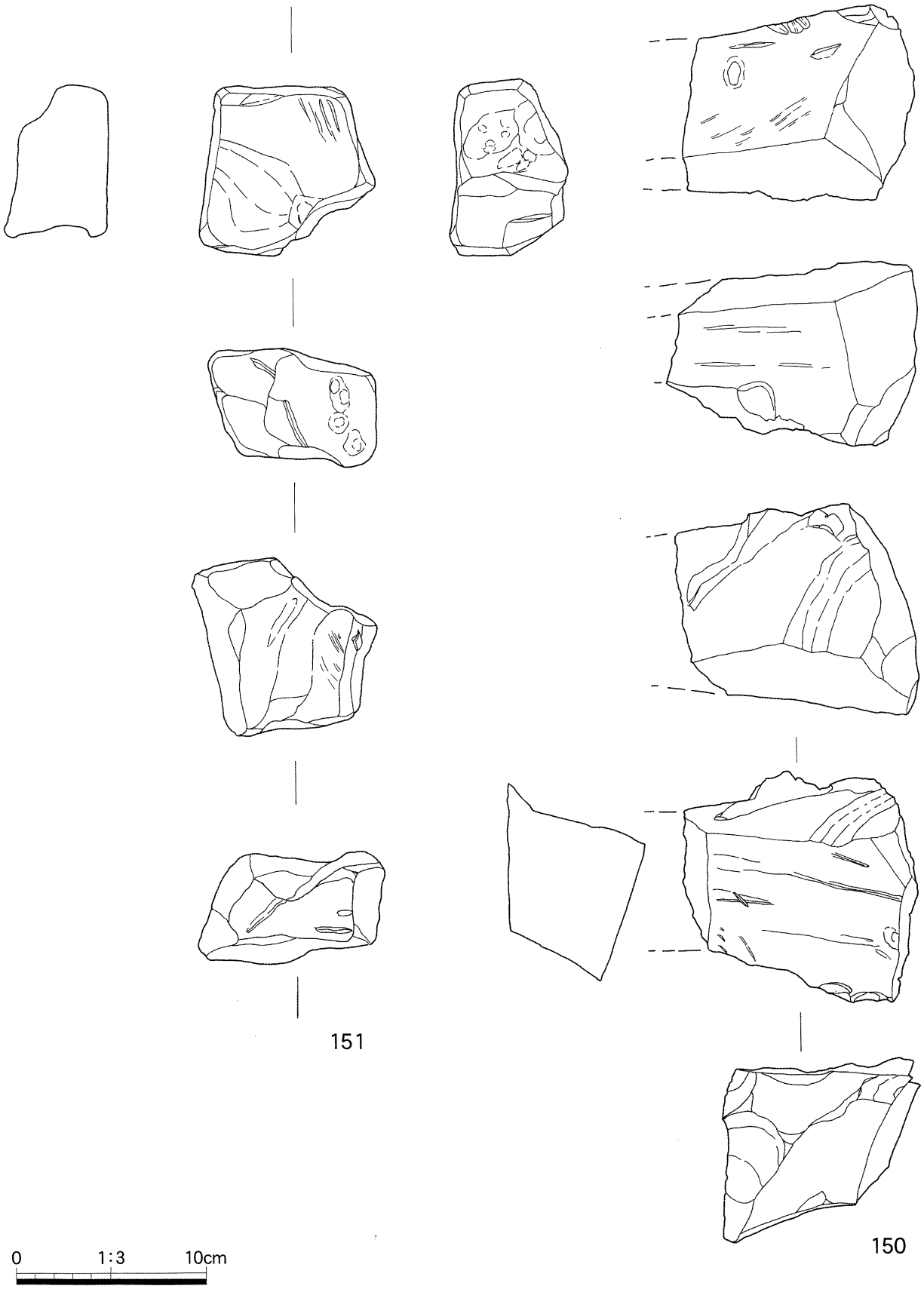
第 72 図　SI（竪穴住居跡）7 出土遺物 (1)



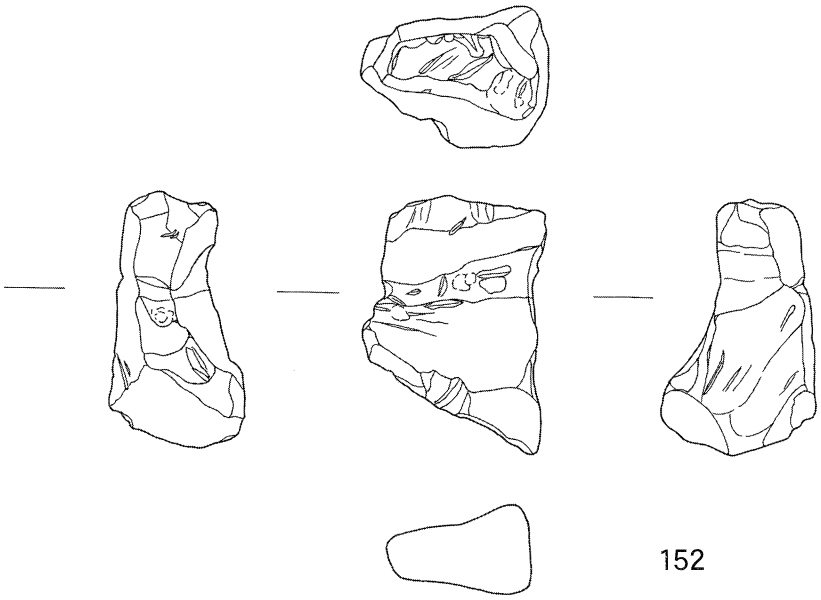
第 73 図　SI（竪穴住居跡）7 出土遺物 (2)

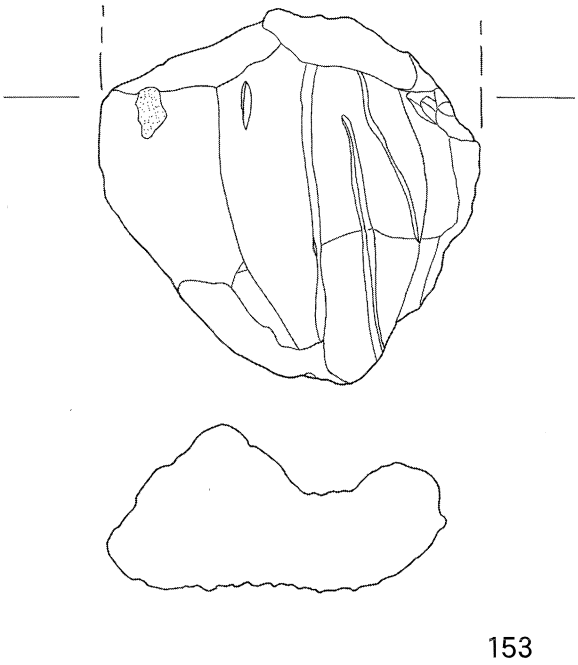


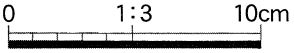
第 74 図　SI（竪穴住居跡）7 出土遺物 (3)



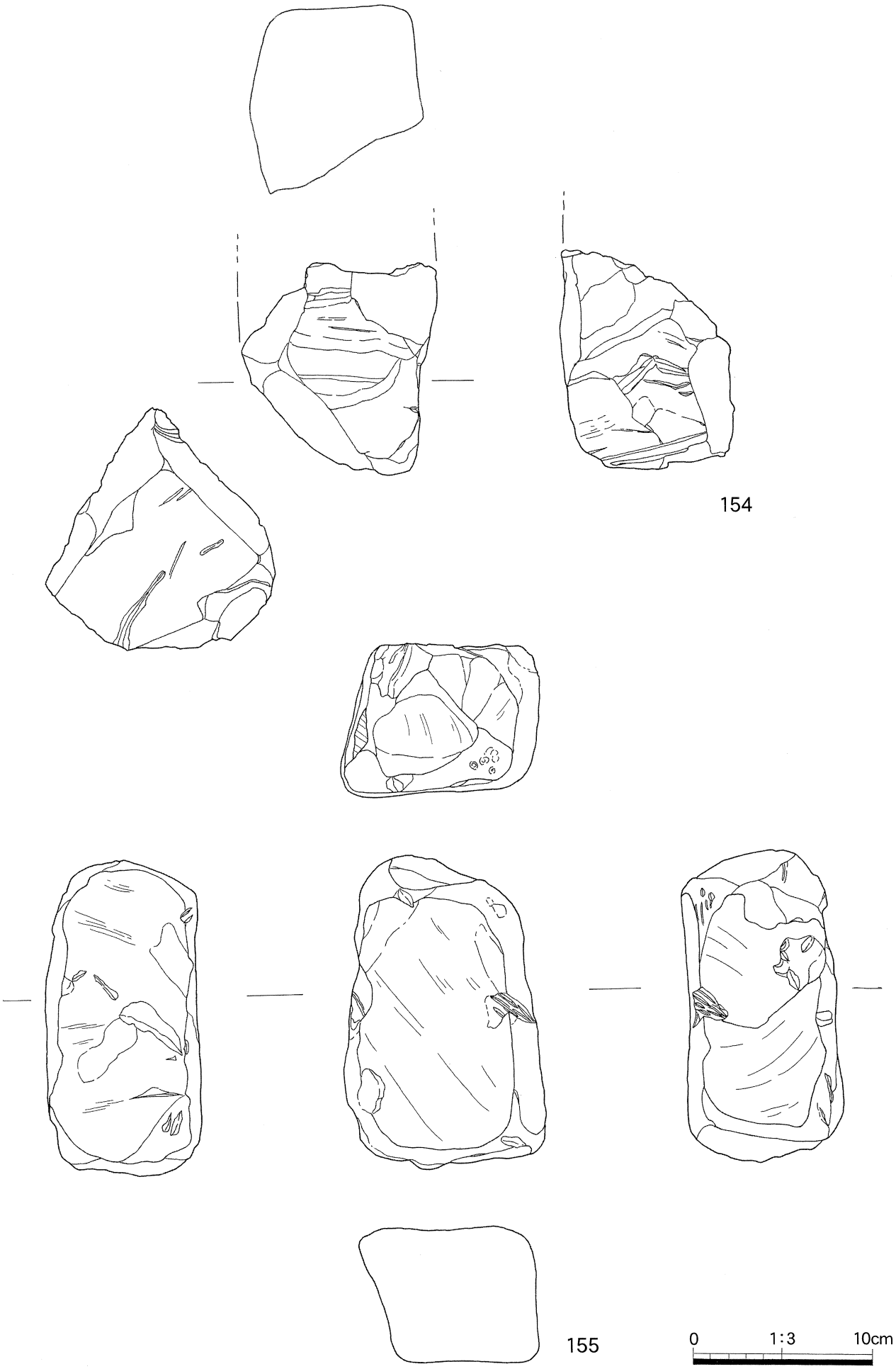
第 75 図　SI（竪穴住居跡）7 出土遺物 (4)



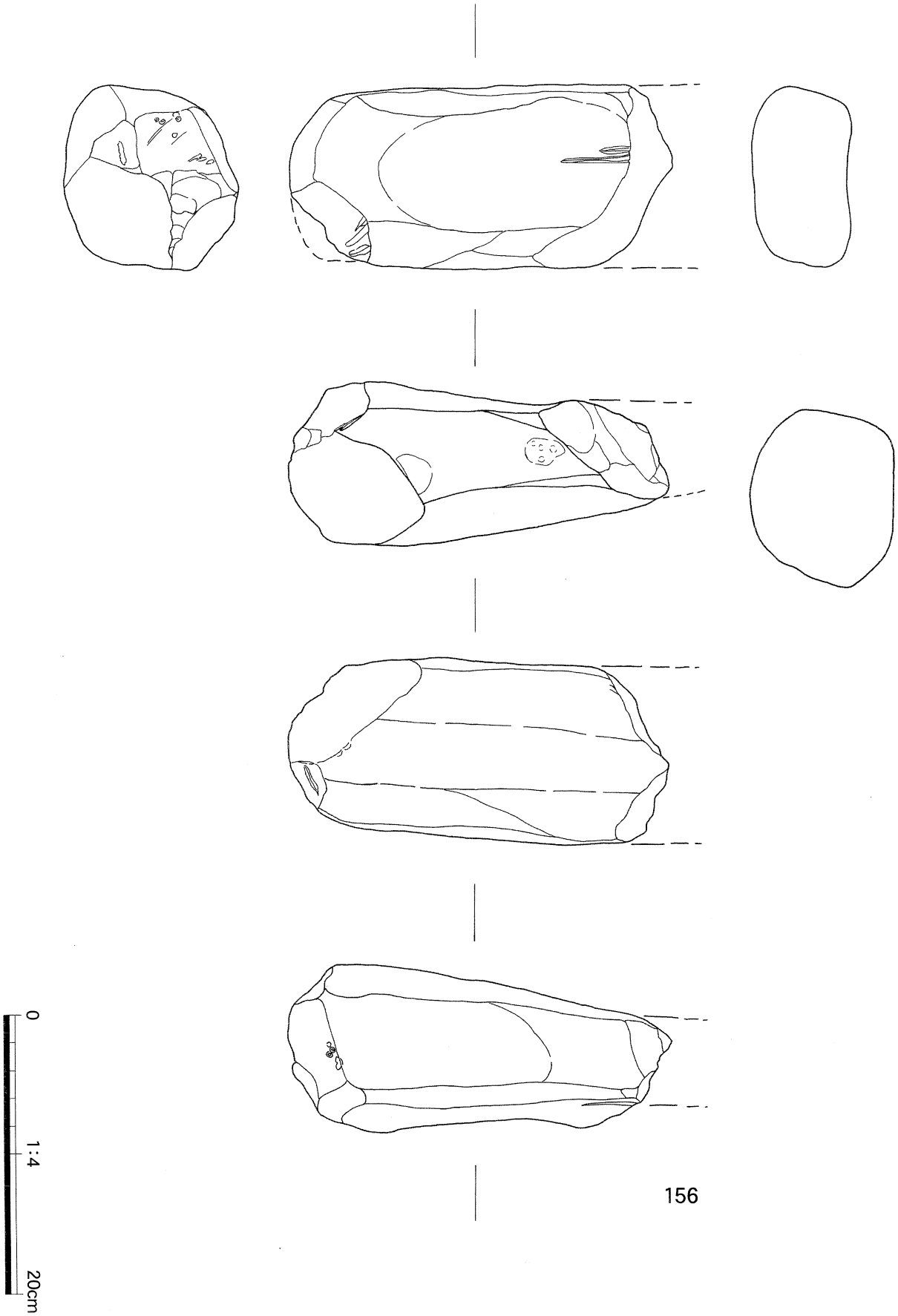




第 76 図　SI（竪穴住居跡）7 出土遺物 (5)



第 77 図　SI（竪穴住居跡）7 出土遺物 (6)



第 78 図　SI（竪穴住居跡）7 出土遺物 (7)

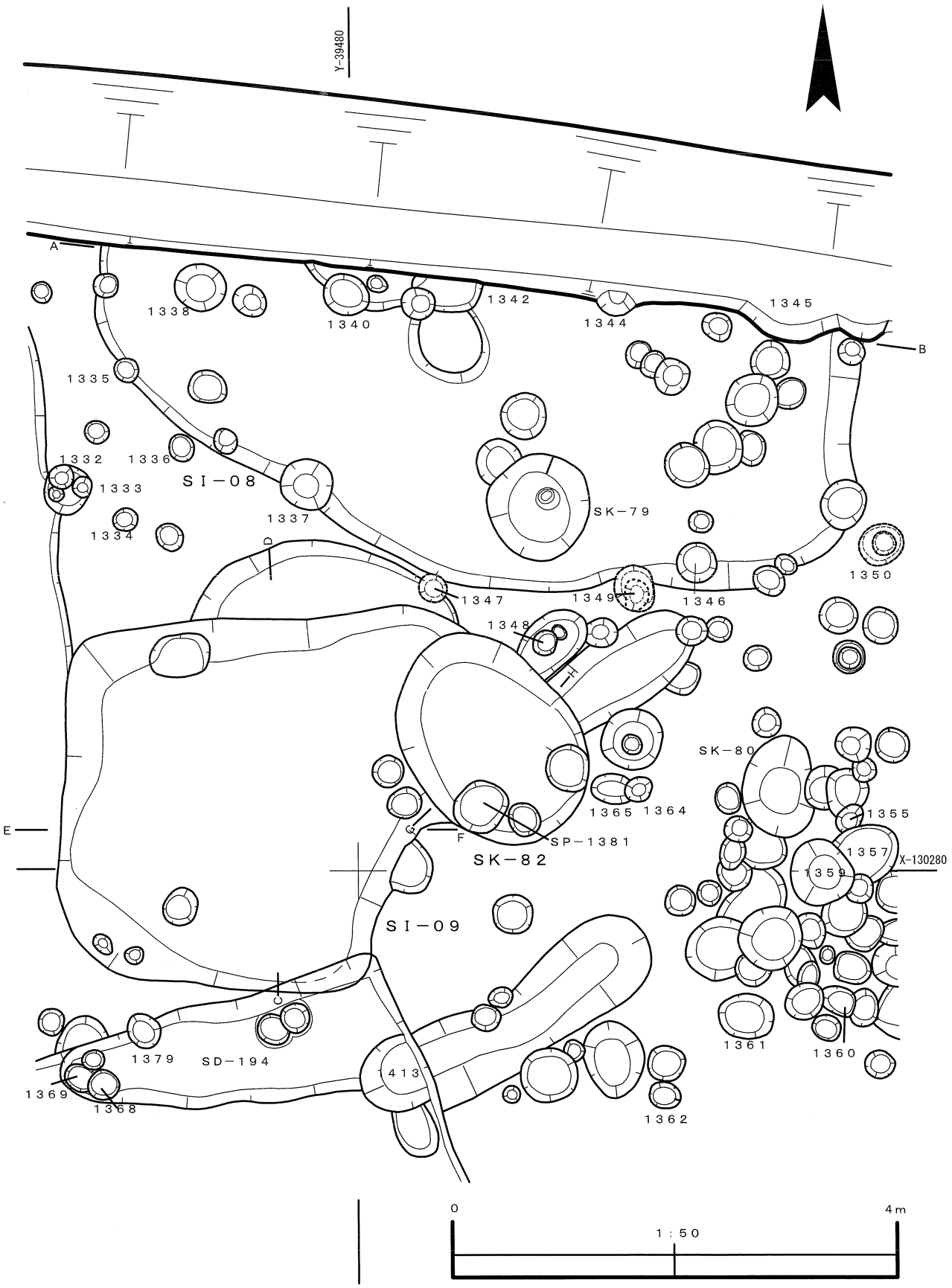
(VIII) SI-08・09(竪穴住居跡)

SI-08(第79・80図)

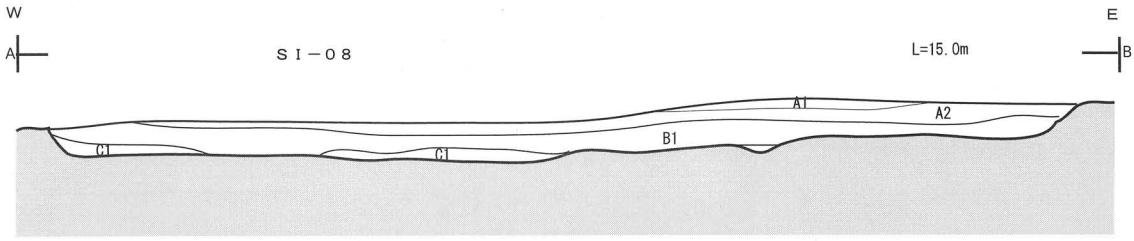
位置 調査区中央北端。 **平面形** 不整方形?。 **主軸方向** N14° E。 **規模** 南北 3.7m ～× 東西 6.8m。 **深さ** 床面まで0.23～0.36m。 **重複関係** SK79に切られる。 **掘込面** 削平。 **検出面** VIII層上面。(地山) **埋土** A～C層までの3層に大別され、A1～2層は黒褐色土に黄褐色シルトや礫を多量に含み,A1層からは土器が出土している。B1層は黒褐色土に明黄褐色シルトブロックや礫を少量含む。C1層は黄褐色シルトに黒褐色ブロック土を多く含む。 **壁の状態** やや緩やかに立ち上がる。 **床の状態** 床面はあまり堅くしまっておらず、貼床はない。やや西側が低くなっている。 **施設 火床面** なし。 **柱穴** 竪穴内に23口、壁際に10口検出され、竪穴外の周囲にも多数検出されるが、竪穴住居跡との関連性は不明である。 **周溝** なし。 **出土遺物** 朱彩された器台・高坏の破片や、壷口縁部、タタキ甕の体部破片等が出土している。(庄内式併行期?)SK79からは7世紀後半頃(TK46)の完形の須恵器坏身が出土している。柱穴からはSP1332・1333・1337・1340からタタキ甕体部、底部片、SP1342から土師器甕体部片、SP1344から朱彩された器台、ハケ甕の体部片、SP1338・1345からも朱彩された器台・高坏・壷体部片、SP1334～1336・1346から体部片が出土している。

SI-09(第79～81図)

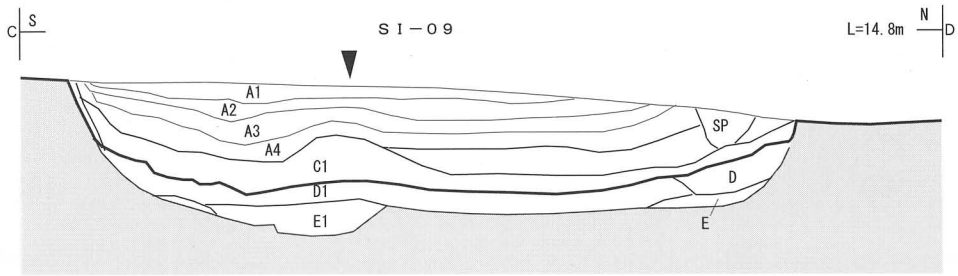
位置 調査区中央北側。 **平面形** 方形～長方形。(北東部に張出しが認められる。) **主軸方向** N5° E。 **規模** 南北 3.3m × 東西 3.2～3.64m～。 **深さ** 床面まで0.5～0.73m。 掘込底面まで 0.7～1.0m。 **重複関係** SK82に切られる。SK83を切る。 **掘込面** 削平。 **検出面** VIII層上面。(地山)。
埋土 A～E層までの5層に大別され、D・E層は貼床構築土の掘込地業である。A1～2層は黒褐色土に黄褐色シルトや少量の炭化物、土器を含む。A3層は暗褐色土に褐色シルトブロックや多量の白色礫を含む。A4～5層は黒褐色土に黄褐色シルトブロックや少量の炭化物、焼土粒を含む。B1層は暗褐色土に多量の黄褐色シルトブロックや少量の炭化物を含む。C1層は褐灰色土に黄橙色シルトブロックや白色礫、土器をやや多く含む。D1～2層は褐灰色土に明黄褐色シルトブロックや炭化物を含み、D1層からは土器が多量に出土している。E1層は黒褐色土に明黄褐色シルトブロックや少量の炭化物を含む。E2層はにぶい黄褐色土に明黄褐色シルトブロックや少量の炭化物を含む。 **壁の状態** 直壁気味に立ち上がる。 **床の状態** 床面はあまり堅くしまっておらず、貼床部分にやや凹凸がみられる。 **施設 火床面** なし。 **柱穴** 竪穴内に6口検出され、壁際に集中する。竪穴外の周囲にも検出されるが、竪穴住居跡との関連性は不明である。 **周溝** なし。 **出土遺物**(第81図・表4) 157は天井部を欠損した須恵器坏蓋である。復元(口径)13.0cm、器高4.2cmを測る。158は有蓋高坏の蓋である。口径12.5cm、器高5.1cmを測る。いずれも外面天井部に回転ヘラケズリを施す。159～161は坏部を欠損するが短脚の須恵器高坏である。脚部透孔は159が孔径0.2～0.7cmの楕円刺突で、160が孔径1.0cmの円形、161が台形でいずれも3孔である。161は脚部にカキメを施す。脚部高3.7～5.0cm、底径8.4～9.2cmを測る。162は土師器高坏で脚部を欠損する。坏部は須恵器無蓋高坏同様、大きく深い坏部で外面下半に沈線による段を有し、内外面にヘラミガキを施す。復元口径は14.9cmを測る。163も土師器高坏で、口縁部・脚裾部を欠損するが、裾部は大きく屈曲して開くものと思われる。164は須恵器甕の口縁部で、復元口径23.5cmを測る。165は土師器坏身で段や稜がなく、底面からカーブを描きながら口縁が直立する。復元口径12.6cm、器高4.2cmを測り、口縁部は内外面ともにヨコナデ、外面体下半は手持ちヘラケズリ、内面ハケメを施している。166は土師器壷底部で、内外面にはハケメを施す。167は土師器把手付鉢で、体部下半～底部を欠損する。口径(20.3cm)、器高11.6cm～、最大径30.4cmを測る。その器形は短く「く」の字に開く口縁部と大きい球状の胴部、胴部中程から2つの棒状の把手が付く。把手は手持ちヘラケズリで調整され、口縁部は内外面ともにヨコナデ、胴部は外面がヘラミガキ、内面がナデを施す。168・169は土師器タタキ甕の底部と思われる。外面は平行タタキ、内面はヘラナデを施す。



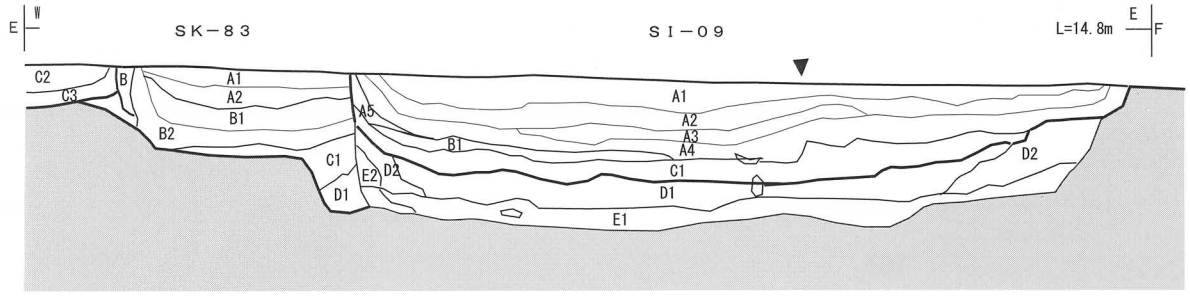
第 79 図　SI-08・09 平面図

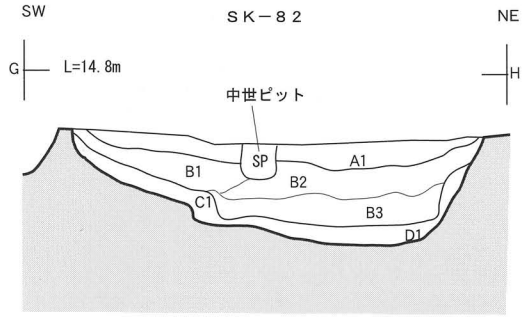


A1: Sicl10YR3/1,Sil10YR5/8～0.5cm大　30% 中-硬　中-密　0.2～1cm大レキ多量に含。土器出土。
A2: Sicl10YR3/1,Sil10YR5/8～0.5cm大　15% 中-硬　中-軟　0.5～1cm大レキやや多く含。
B1: Sicl10YR3/2,Sil10YR6/8 0.5～1cm大　20%　中-軟　密　～0.5cm大レキ少量含。
C1: Sil10YR5/8,Sicl10YR3/2 1～3cm大ブロック　30～40%　中-軟　中-疎

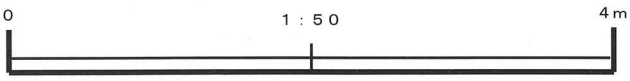


A1: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/6 0.5cm大 20～25%　中-軟　中-密　0.5cm大炭化物少量含,～0.2cm大白色レキ少量含。土器やや多く出土。
A2: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/6 0.5cm大 15%　中-軟　中-密　～0.3cm大炭化物少量含,～0.3cm大白色レキ少量含。土器少量出土。
A3: Sicl10YR3/3,Sil10YR4/6 0.5～2cm大 10～15%　中-軟　密　～0.5cm大白色レキ多量含。
A4: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/8 1～3cm大　20%　軟　中-密　～0.2cm大白色レキ少量含,～0.5cm大炭化物および焼土粒少量含。
A5: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/8 1cm大　5～10%　軟　中-密　～0.2cm大白色レキ少量含,～0.5cm大炭化物少量含,焼土粒やや多く含む。
B1: Sicl10YR3/3,Sil10YR5/6 0.5～2cm大ブロック　40～50%　中-軟　中-密　0.5cm大炭化物少量含。
C1: Sicl10YR4/1～5/1,Sil10YR7/8 0.5～1cm大ブロック　20%　0.5cm大白色レキやや多く含、土器やや多く出土。
D1: Sicl10YR4/1,Sil10YR6/8 1～3cm大ブロック　50%　中-硬　密　～0.5cm大炭化物少量含,土器多量出土。(以下　掘込地業)
D2: Sicl10YR4/1,Sil10YR6/8 1～3cm大ブロック　20%　中-硬　密　～0.5cm大炭化物僅かに含。
E1: Sicl10YR3/1,Sil10YR7/6 1～3cm大ブロック　30～40%　中-軟　中-密　0.5cm大炭化物少量含。
E2: Sicl10YR4/3,Sil10YR7/6 1～3cm大ブロック　20～30%　中-硬　中-密　0.5cm大炭化物少量含。

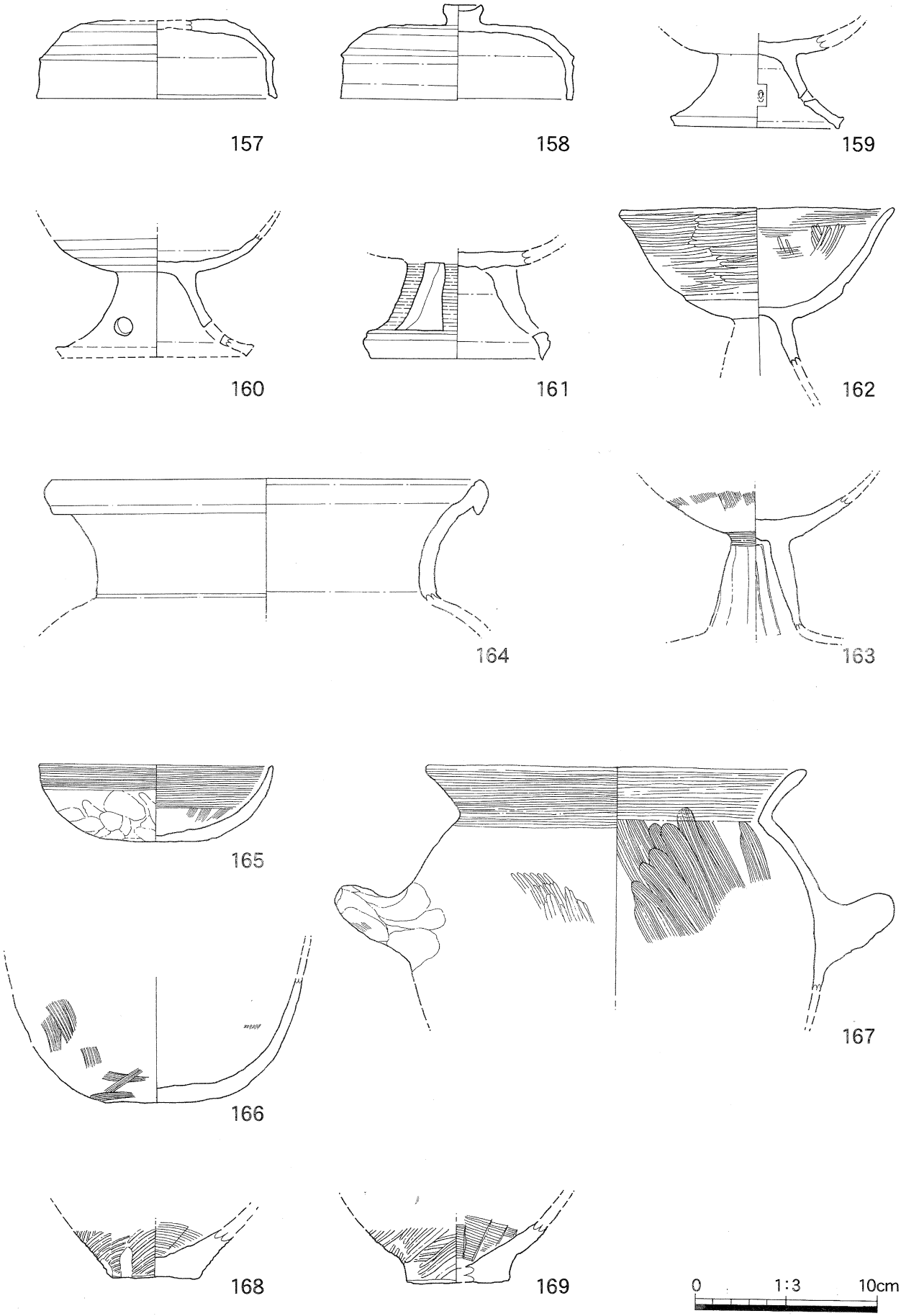




A1: Sicl10YR3/2,Sil10YR4/6 0.5cm大 30%　中-軟　中-密　0.5～2cm大レキやや多く含,1cm大炭化物多量含,土器多量出土。
B1: Sicl10YR2/2,Sil10YR6/6 ～2cm大ブロック 30～40%　中-軟　中-疎　～0.5cm大白色レキ少量含,0.5～1cm大炭化物多量含。
B2: Sicl10YR2/2,Sil10YR6/6 ～1cm大ブロック 20%　中-軟　中-疎　～0.5cm大白色レキ少量含,0.5～1cm大炭化物やや多く含。
B3: Sicl10YR2/2,Sil10YR7/6 ～1cm大ブロック 10～15%　軟　中-疎　～0.5cm大白色レキ少量含,～0.5cm大炭化物少量含。
C1: Sicl10YR2/1,Sil10YR6/8 0.5～5cm大ブロック 40%　中-軟　中-密　Sil5YR5/8　0.5cm大焼土粒僅かに含,～0.5cm大炭化物やや多く含,土器少量出土。



第80図　SI-08・09断面図



第 81 図　SI（竪穴住居跡）9 出土遺物

(IX) SI-10(竪穴住居跡)

SI-10(第82～83図)

位置 調査区東側北端。 **平面形** 方形。 **主軸方向** N52° E。 **規模** 北西-南東3.8m～× 南西-北東3.2m～。 **深さ** 床面まで0.43～0.5m。 **重複関係** なし。 **掘込面** なし。 **検出面** VIII層上面。(地山)。

埋土 A～B層に分けられ、A1層は黒褐色土に褐色砂壌土や多量の礫を含む。B1層は黒褐色土ににぶい黄褐色シルトブロックや礫を多量に含む。 **壁の状態** やや直壁気味に立ち上がる。 **床の状態** 砂礫層が床面になっており、ほぼ平坦である。 **施設 火床面** 不明。 **柱穴** 竪穴内には検出されず、竪穴外周壁際に直径0.2～0.3m程の柱穴が4口ほど見られる。 **周溝** なし。

出土遺物(第83図・表4) 170～171は土師器小型丸底壷である。170は口縁部から体部上半を欠損する。外面はハケメ後ヘラミガキ調整、内面はナデを施す。171は完形で直線的に外上方に延びる口縁部とやや扁平な球状を呈する胴部が付く。口径7.8cm、器高8.0cm、最大径8.4cmを測る。口縁部は内外面ともにヨコナデ、胴部外面はヘラミガキ、内面はナデを施す。172は土師器小型無孔器台で、受部が欠損する。脚部は大きく「八」の字状に直線的に開く。外面は精緻なヘラミガキ、内面はハケメを施す。170～172は古墳時代前期に盛行するいわゆる小型精製三器種である。173は底部を欠損した土師器有段口縁壷で、口縁部を内側に肥厚させて面をもたせたもので、山陰系の特徴を有する。その器形は有段口縁に大きな球状の胴部が付き復元(口径)29.6cm、器高22.7cm～、最大径30.6cmを測る。口縁部は内外面ともにヨコナデ、胴部は外面がハケメ、内面がハケメ後ヘラナデを施す。

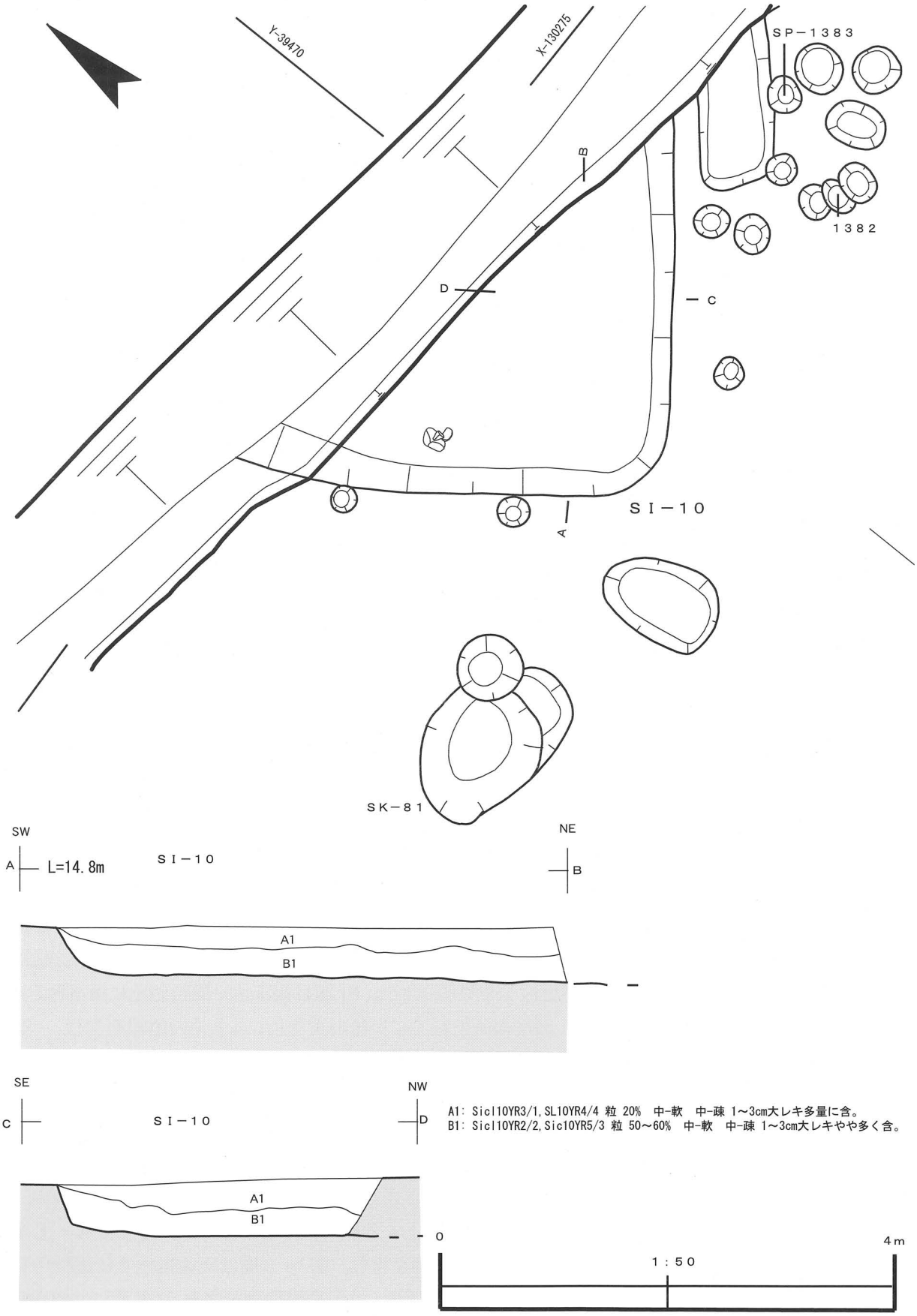
(X) SI-11(竪穴住居跡)/SK-24(土壙)

SI-11・SK-24(第84・85図)

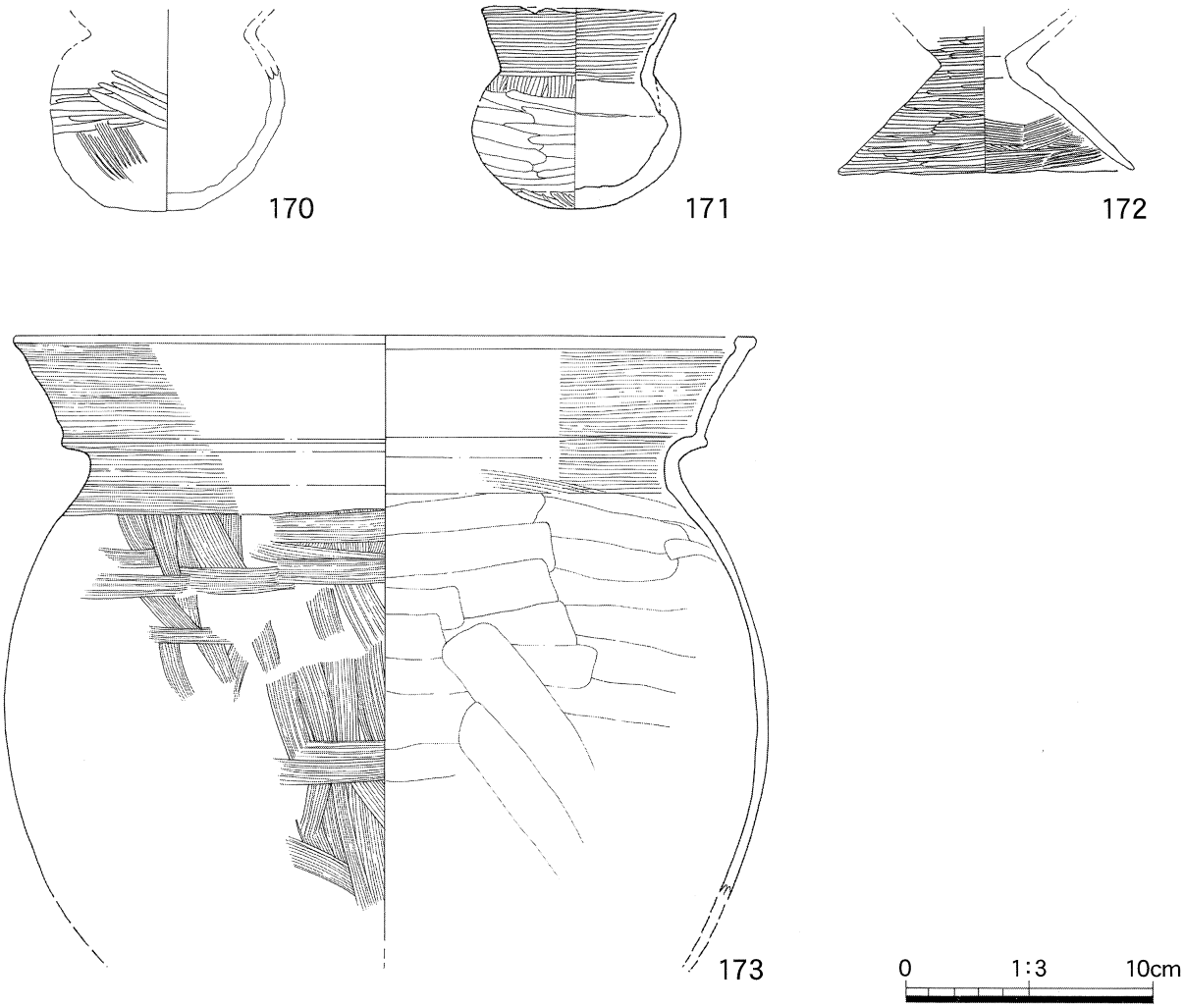
位置 調査区南西部。 **平面形** 方形。 **主軸方向** N83° E。 **規模** 南北4.0m× 東西3.6m **深さ** 床面から構築土底面まで0.13～0.17m。 柱穴底面まで0.18～0.48m。 **重複関係** SZ8(SD86)を切る。SD60・SK24・25に切られる。 **検出状況** 検出時に火床面が検出されたことから床面がほぼ露出しており、正確な竪穴住居跡の規模は不明である。また、重複関係においてもSK24は構築土を掘込んでいるが、竪穴北東隅にほぼ同じ主軸(N2° W。-N88° E。)で位置するため、竪穴内土壙と考えられる。このように想定すると、東西の規模は4.2mと考えることも可能である。 **掘込面** なし。 **検出面** VIII層上面。(地山)。 **構築土埋土** E～G層の3層に大別され、A～D層は床面から掘込まれた柱穴の埋土である。E1～2層は暗褐色土に明黄褐色シルトブロックと明赤褐色の焼土粒をやや多く含む。F1層は褐灰色～黒褐色土に黄褐色シルトや多量の白色礫、炭化物、土器を含む。G1層は褐灰色粘土に多量の黄褐色シルトや白色礫を含む。 **壁の状態** 直壁気味に立ち上がる。 **床面の状態** ほぼ平坦。 **構築面の状態** あまり凹凸は見られない。 **施設 火床面** 2箇所有り。(焼土1)はSK24に隣接し、不整楕円形を呈し長軸0.4m、短軸0.35mを測る。明赤褐色を呈し堅くしまっており、3cm程の深さまで浸透する。(焼土2)は竪穴内東端やや南寄りに位置し、楕円形を呈し東西0.3m、南北0.4mを測る。明赤褐色を呈し堅くしまっており、4cm程の深さまで浸透する。

竪穴内土壙(SK24) 竪穴内北東隅に位置し火床面(焼土1)と隣接する。長方形を呈し東西1.11m、南北1.28m、深さは0.23～0.54mを測り、底面は凹凸が著しく北側が浅くなっている。埋土はA～C層の3層に大別され、A1層は暗褐色土に褐灰色粘土や多量の礫を含む。B1～3層は灰黄褐色土に黄橙色粘土ブロックや礫を多く含む。C1～2層はにぶい黄褐色土に褐灰色シルトや炭化物を含み、C2層には焼土粒も少量含む。C3層は褐灰色シルト質埴土に多量の黄橙色砂壌土や礫を含む。出土遺物は須恵器坏身、甕体部片、土師器壷体部、底部片が出土している。いずれも5世紀後半から6世紀初頭頃のものである。

柱穴 竪穴内に柱穴・ピットは4口、竪穴内外壁際には5口検出される。竪穴住居跡南北断面に土師器甕を伴う主柱穴と思われる柱穴の埋土は、A～D層の4層に大別される。A1～2層は黒褐色土に黄褐色シル

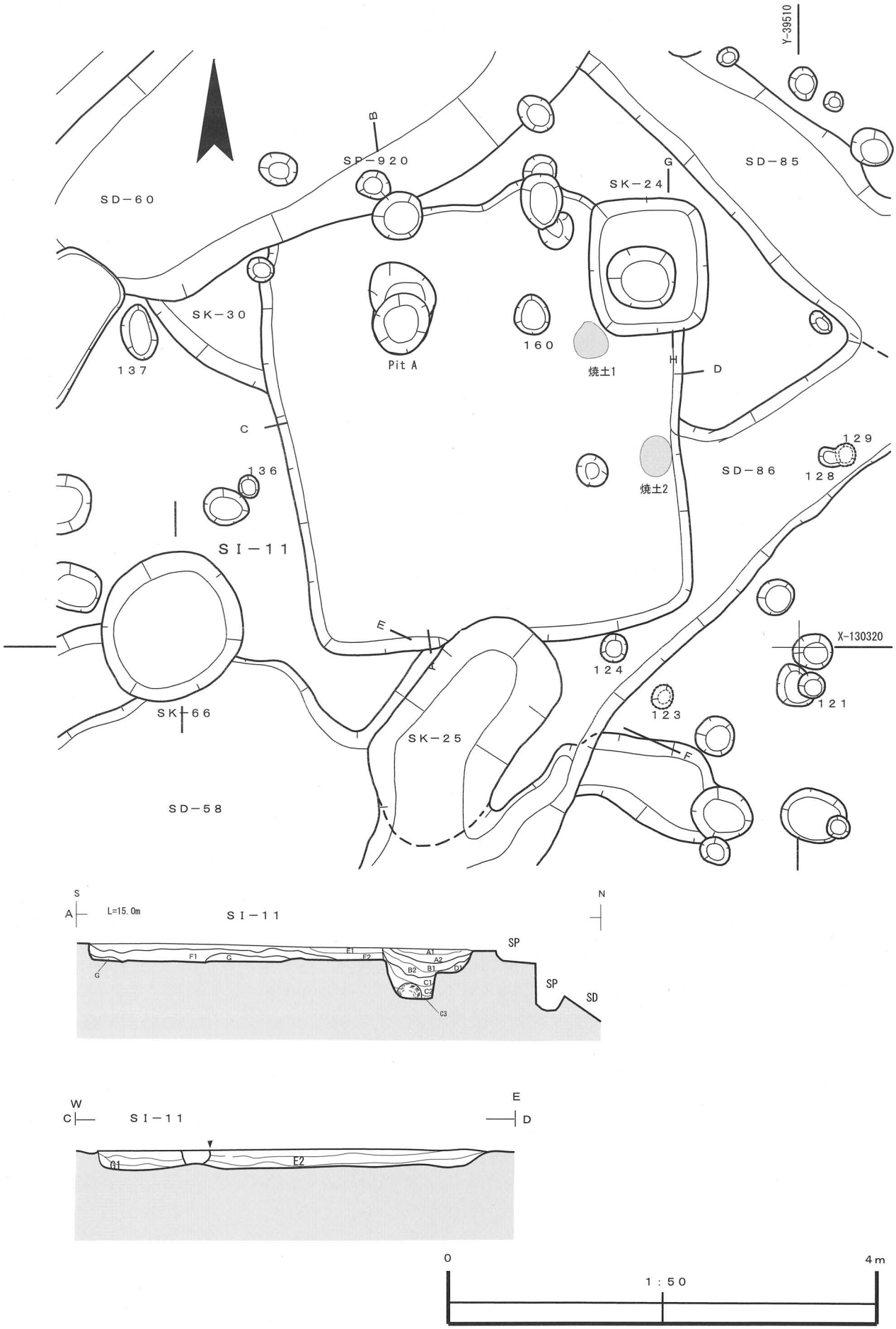


第82図　SI-10平・断面図



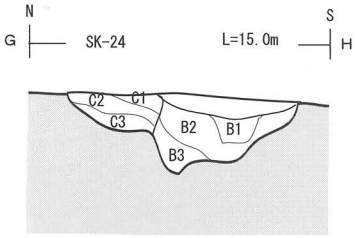
第 83 図　SI（竪穴住居跡）10 出土遺物

トと少量の炭化物を含む。B1 ～ 2 層は黒褐色土に黄褐色シルトや褐灰色粘土や礫、炭化物を含む。C1 ～ 3 層は暗褐色土に黄褐色シルトブロックや礫を含む。D1 層は褐色土に褐灰色ブロック土や礫、橙色の焼土粒、炭化物を少量含む。 **周溝**　なし。 **出土遺物**　須恵器坏身（多数）、高坏、鉢、壷口縁部、甕体部片が出土しており、いずれも 5 世紀後半～ 6 世紀初頭頃のものと思われる。SP121 から須恵器坏蓋、土師器壷の体部片、SP124 から土師器壷の体部片、SP136 から土師器高坏口縁部、SP128・160 から土師器甕の体部片、SP920 から朱彩された壷の底部片が出土している。



第84図　SI-11 平・断面図

ＳＩ－１１/pit A
A1: Sicl10YR2/2,Sil10YR5/6 0.3cm大 20～30% 中-硬 密 ～0.1cm大白色粒かなり多。～0.3cm大炭化物少量含。
A2: Sicl10YR2/2,Sil10YR5/6 0.3cm大 20% 中-硬 密～0.1cm大白色粒多量に含, ～0.3cm大炭化物少量含。
B1: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/6 0.3cm大 15～20% HC10YR4/1 20% 中-軟 中-密 ～0.5cm大白色レキかなり多, ～0.5cm大炭化物少量含。
B2: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/6 0.3cm大 10% HC10YR4/1 10% 軟 中-疎 ～1cm大白色レキおよび～1cm大炭化物やや多く含。
C1: Sicl10YR3/3,Sil10YR5/6 0.5～1cm大 20% 中-軟 中-密 ～0.1cm大白色粒および1cm大レキ少量含。
C2: Sicl10YR3/3,Sil10YR5/6 1cm大 10～15% 軟 中-疎 1cm大レキやや多く含。
C3: Sicl10YR3/3,Sil10YR5/6 0.5～1cm大 5% 軟 疎 1cm大レキやや多く含。
SI-11
D1: Sicl10YR4/4,Sicl10YR4/1 0.5～1cm大 10～20% 中-硬 中-密 1cm大レキやや多く含。Sil7.5YR6/8 0.5cm大焼土粒および炭化物少量含
E1: Sicl10Yr3/4,Sil10YR6/8 粒 15～20% 中-硬 中-密 ～0.2cm大白色粒少量含,Sil5YR5/8 0.3cm大焼土粒やや多く含。
E2: Sicl10YR3/4,Sil10YR6/8 ～5cm大ブロック 15～20% 中-硬 中-密 ～0.4cm大白色レキやや多く含, , Sil5YR5/8 0.3cm大焼土粒やや多く含。
F1: Sicl10YR4/1～3/1,Sil10YR5/6 ～0.5cm大 15～20% 中-硬 中-密 0.2～1cm大白色レキ多量含, ～1cm大炭化物少量含, 土器少量出土。
G1: HC10YR4/1,Sil10YR5/6 ～0.5cm大 40% 中-軟 中-疎 0.2～1cm大白色レキ多量含。



ＳＫ－２４
A1: Sicl10YR3/3,HC10YR5/1 粒 15～20% 中-硬 密 0.1～0.7cm大レキ多量に含。
B1: Sicl10YR4/2,HC10YR7/8 ～1cm大ブロック 40% 中-軟 中-疎 0.1～0.7cm大レキやや多く含。
B2: Sicl10YR4/2,HC10YR7/8 ～0.5cm大 20% 中-軟 中-密 0.1～0.7cm大レキやや多く含。
B3: Sicl10YR4/2,HC10YR7/8 ～0.5cm大 15% 中-軟 中-密 0.1～0.7cm大レキやや多く含。
C1: Sicl10YR5/3,Sil10YR5/1 粒 20～30% 中-軟 中-密 ～0.1cm大炭化物やや多く含。
C2: Sicl10YR5/3,Sil10YR5/1 粒 30～40% 中-軟 中-密 ～0.5cm大炭化物および焼土粒少量含。
C3: Sic10YR5/1,SL10YR7/8 ～0.3cm大 40% 中-軟 中-疎 0.2～0.5cm大レキ多量に含。

第 85 図　SK-24 断面図

(XI) SI-12(竪穴住居跡)/SK56(土壙)

SI-12(第 86・87 図)

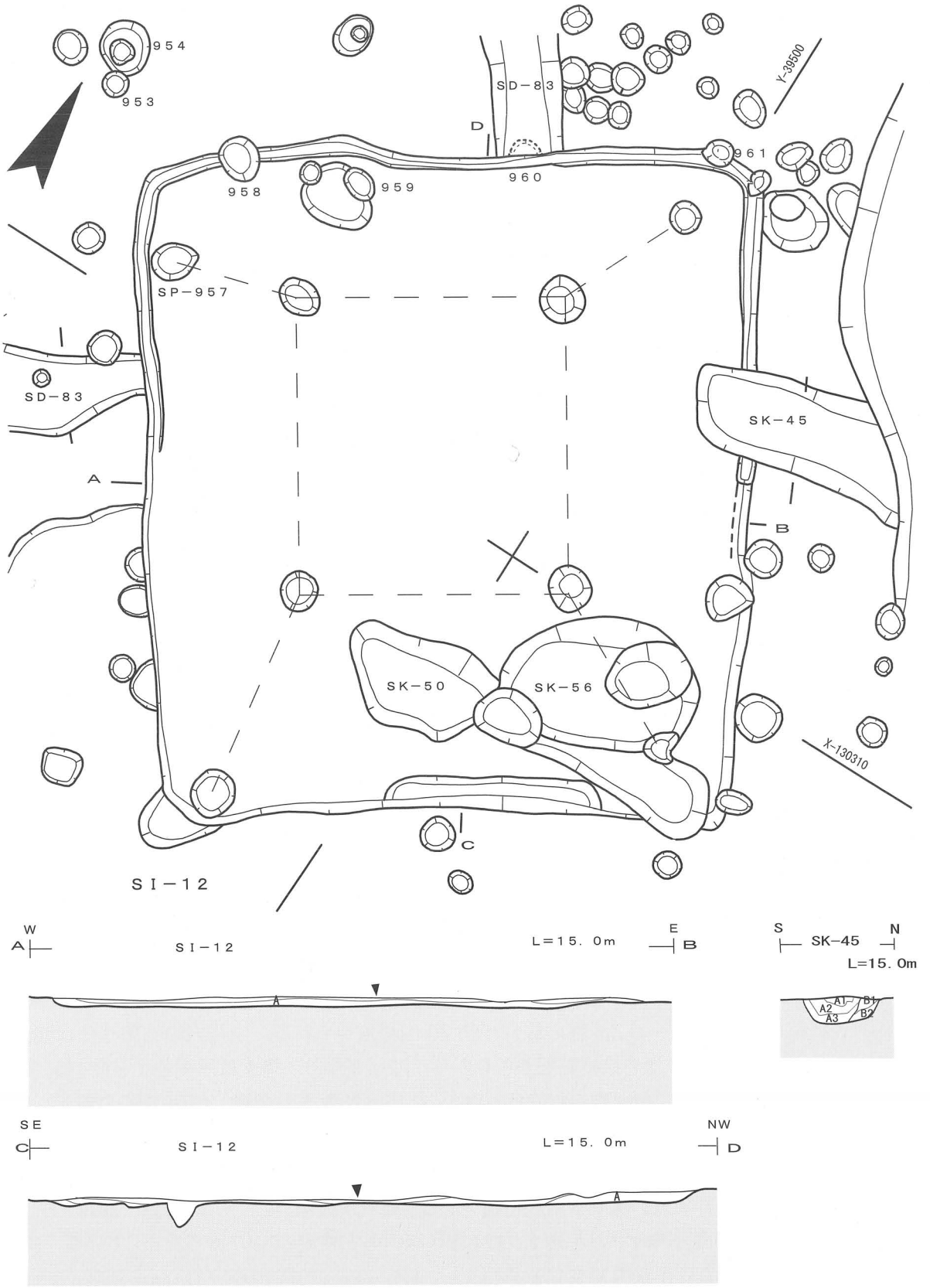
位置 調査区中央南側。 **平面形** 正方形。 **主軸方向** N56° E。 **規模** 北西 - 南東 5.6m × 南西 - 北東 5.2m。 **深さ** 構築底面まで 0.03 ～ 0.1m。 **重複関係** SZ05(SD83) を切る。SK45・50 に切られる。 **掘込面** 削平。 **検出面** VIII 層上面。(地山)

検出状況 検出時には床面が削平されており、掘込地業構築土と周溝の一部が残存する状況であった。

構築土埋土 A 層のみ残存し、黒褐色土に多量の明黄褐色シルトブロックや多量の炭化物を含む。 **壁の状態** やや緩やか。 **床の状態** 地山が床面になっており、ほぼ平坦である。 **施設 火床面** 不明。 **竪穴内土壙** (SK56) は東隅に位置し SK50 と隣接する。楕円形を呈し北西 - 南東 (長軸)1.73m、南西 - 北東 (短軸)1.13m、深さは 0.15 ～ 0.20m を測り底面はほぼ平坦である。埋土は単層で、黒褐色土に明黄褐色シルトブロックを含む。遺物の出土は須恵器有蓋高坏 (第 87 図 178) や土師器片が出土している。。

柱穴 竪穴内には直径 0.3 ～ 0.4m 程の主柱穴がやや北西寄りに 4 口、四隅にやや小さめの支柱穴が 4 口、竪穴内外周壁際に直径 0.15 ～ 0.2m 程の柱穴が約 20 口程度見られる。主柱穴の柱間寸法は北西 - 南東 2.53m、南西 - 北東 2.33m、深さは構築面から 0.2 ～ 0.22m を測り、埋土は黒褐色土を呈する。また、支柱穴の深さは 0.16 ～ 0.19m、周壁際の柱穴は 0.08 ～ 0.15m を測る。 **周溝** 4 辺に見られるが、南から東辺にかけて削平のため一部見られなくなる。周溝の幅は 0.15 ～ 0.28m、深さは 0.03 ～ 0.1m を測る。

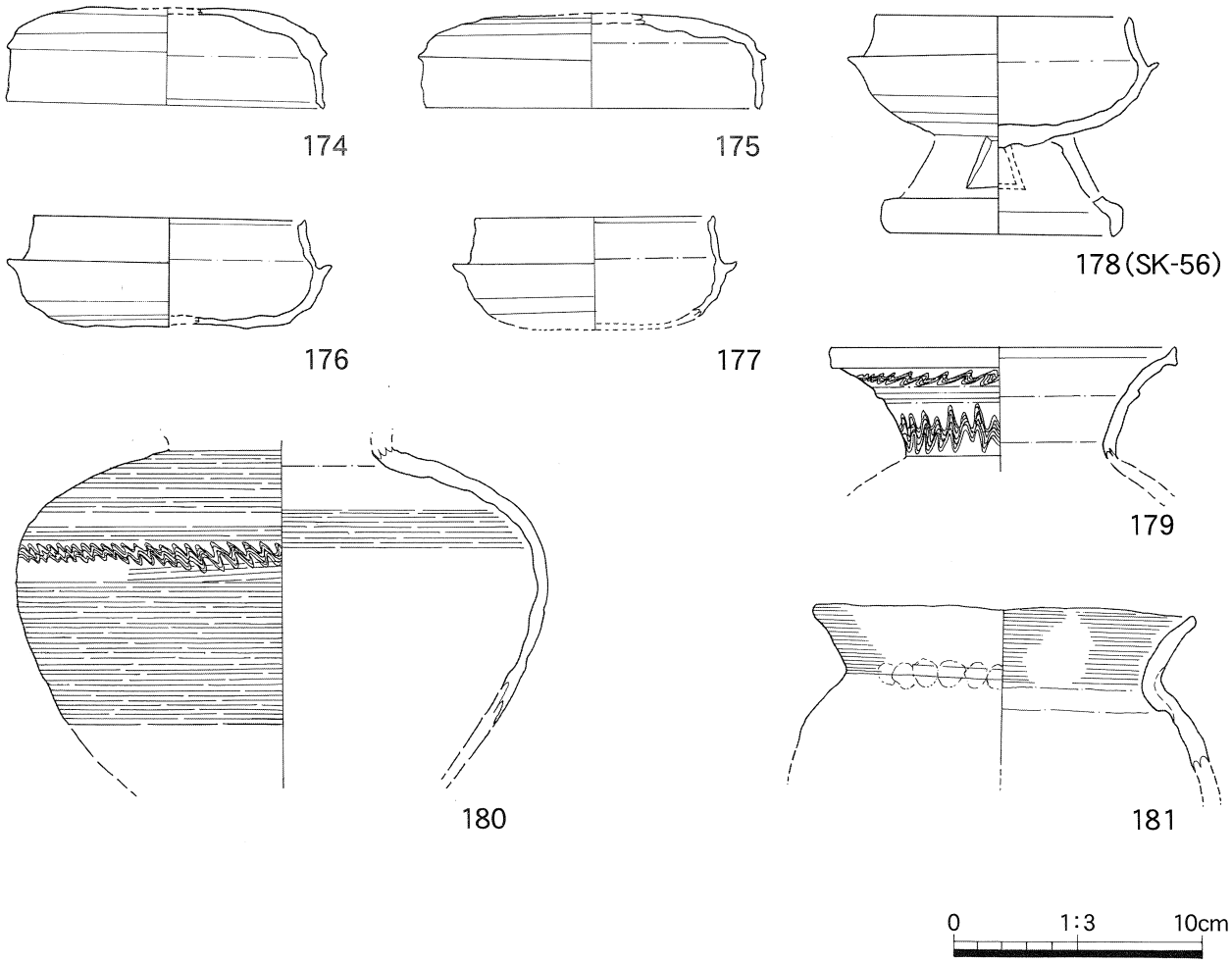
出土遺物 (第 87 図・表 4) 174・175 は須恵器坏蓋である。天井部を一部欠損するが、その器形は天井が平らで器高が低く、口径が大きい扁平な形が特徴である。復元 (口径)12.8 ～ 13.4cm、器高 3.8 ～ 4.0cm を測り、天井部外面に回転ヘラケズリを施す。174 は住居内の支柱穴 SP957 から出土している。176・177 は須恵器坏身である。176 は住居内 SP959 から出土しており、復元 (口径)9.6 ～ 11.0cm、器高 4.0 ～ 4.4cm、最大径 11.4 ～ 13.2cm を測り、底部外面に回転ヘラケズリを施す。178 は SK56 出土の短脚の須恵器有蓋高坏である。口径 10.3cm、器高 8.4cm、最大径 12.6cm、坏部高 4.6cm、脚部高 3.8cm を測り、脚部の透孔は台形で 4 孔である。179 は須恵器壷の口縁部である。復元口径 14.0cm を測り、2 条の波状文をめぐらす。180 は同じく須恵器壷の体部である。最大径は体部上半に持ち、やや肩が張る。21.4cm を測り、内外面にカキメ、外面の肩部に波状文がめぐる。181 は SP957 出土の土師器壷の口縁部～体部上半である。これらの特徴から 5 世紀中頃 (TK208) のものと考えられる。SK50 からは須恵器甕の体部片、土師器片、SP953 から須恵器坏身、SP954・958 から土師器片、SP961 から土師器壷の体部片が出土している。



SI12　A: Sicl10YR3/2,Sil10YR6/8 0.5〜1cm大　30〜40%　中-軟　中-密　〜0.5cm大炭化物やや多く含。（掘込地業）床面は削平。

SK45　A1: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/8 0.5〜1cm大 5〜7%　中-硬　中-密　〜0.2cm大白色レキ少量含。
A2: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/8 0.5〜1cm大 15〜20%　中-硬　密　〜0.2cm大白色レキやや多く含。
A3: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/8 0.5〜1cm大 20〜30%　軟　密　〜0.2cm大白色レキ少量含。
B1: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/6 1〜2cm大ブロック 30%　中-軟　中-疎
B2: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/6 1〜3cm大ブロック 40〜60%　中-軟　中-密

第86図　SI-12平・断面図



第 87 図　SI（竪穴住居跡）12/SK-56 出土遺物

(XII) SI-13・14(竪穴住居跡)/SK-36・52・53・58(土壙)/SP-975(柱穴)

SI-13(第 88 ～ 90 図)

位置　調査区中央南側。　**平面形**　正方形。　**主軸方向**　N67° E。　**規模**　北西 - 南東 4.0m × 南西 - 北東 4.0m。　**深さ**　床面まで 0.05 ～ 0.13m。柱穴底面まで 0.2m。　**重複関係**　SI14・SK54 に切られる。SZ09(SD100) を切る。　**掘込面**　削平。　**検出面**　VIII 層上面。(地山)　**埋土**　A ～ B 層に分けられ、A1 層は黒褐色土に黄褐色シルトブロックや明赤褐色の焼土ブロックを含む。B1 層は黒褐色土に明黄褐色シルトブロックと褐灰色粘土ブロックを含む。　**壁の状態**　直壁気味。　**床の状態**　地山が床面になっており、ほぼ平坦である。　**施設**　**火床面**　不明。　**竪穴内土壙**は SK51 が該当する。SK51 は住居内南隅に位置する。不整円形を呈し径 1.2 ～ 1.33m、深さは 0.3m を測り底面はほぼ平坦である。埋土は 3 層に細分され、B1 ～ 3 層は黒褐色土に黄褐色シルトと多量の礫や土器、炭化物を含む。出土遺物は須恵器坏蓋・身、甕体部片、土師器甕口縁部、体部片等が出土している。(5 世紀末～ 6 世紀前半)。

柱穴　竪穴内には直径 0.2 ～ 0.3m 程の柱穴が 13 口、四隅や周壁際に直径 0.2 ～ 0.3m 程の柱穴が 5 口程度見られ、竪穴周辺にも 10 口程度見られる。埋土は黒褐色土に多量の黄褐色シルトを含む。深さは 0.07 ～ 0.19m を測る。　**周溝**　西側の北西辺･南西辺の 2 辺に見られるが、東側には見られない。周溝の幅は 0.07 ～ 0.26m、深さは床面から～ 0.06m を測る。　**貼床**　不明。

出土遺物(第 90 図・表 5)　194 は須恵器坏蓋で復元(口径)12.0cm、器高 4.6cm を測る。195 はつまみの付く有蓋高坏の蓋で口径 11.6cm、器高 5.6cm を測る。189 は須恵器壷の口縁部～体部上半で体部外面に平行タタキを施す。この他に土師器壷、高坏片等が出土している。柱穴からの出土遺物はない。

SK(土壙)54(第88～91図)

SK54は住居内東隅に位置する。不整楕円形を呈し長軸1.34m、短軸0.97m、深さは0.19mを測り底面はほぼ平坦である。埋土は単層でD1層は黒褐色～褐灰色土に黄褐色シルトや明赤褐色の焼土粒を含む。出土遺物(第91図196・197・表5)は196は土師器鉢で、平底で逆「ハ」の字状に口縁が延びる。口径14.3～15.0cm、器高7.9～8.9cm、底径7.5～8.5cmを測り、内外面共にヘラナデ、体部下端～底部外面に手持ちヘラケズリを施す。また、底部に木葉痕が残る。197は土師器浅鉢で丸底を呈し口縁部が屈曲して水平になる。口径43.5cm、器高10.9cmを測り、外面から口縁部内面まで丹塗りの痕跡を残す。口縁部は内外共にナデ、体部も内外ともにハケメを施す。その他に須恵器坏蓋・身、高坏、甕、土師器壷・甕の口縁部、高坏片が出土している。

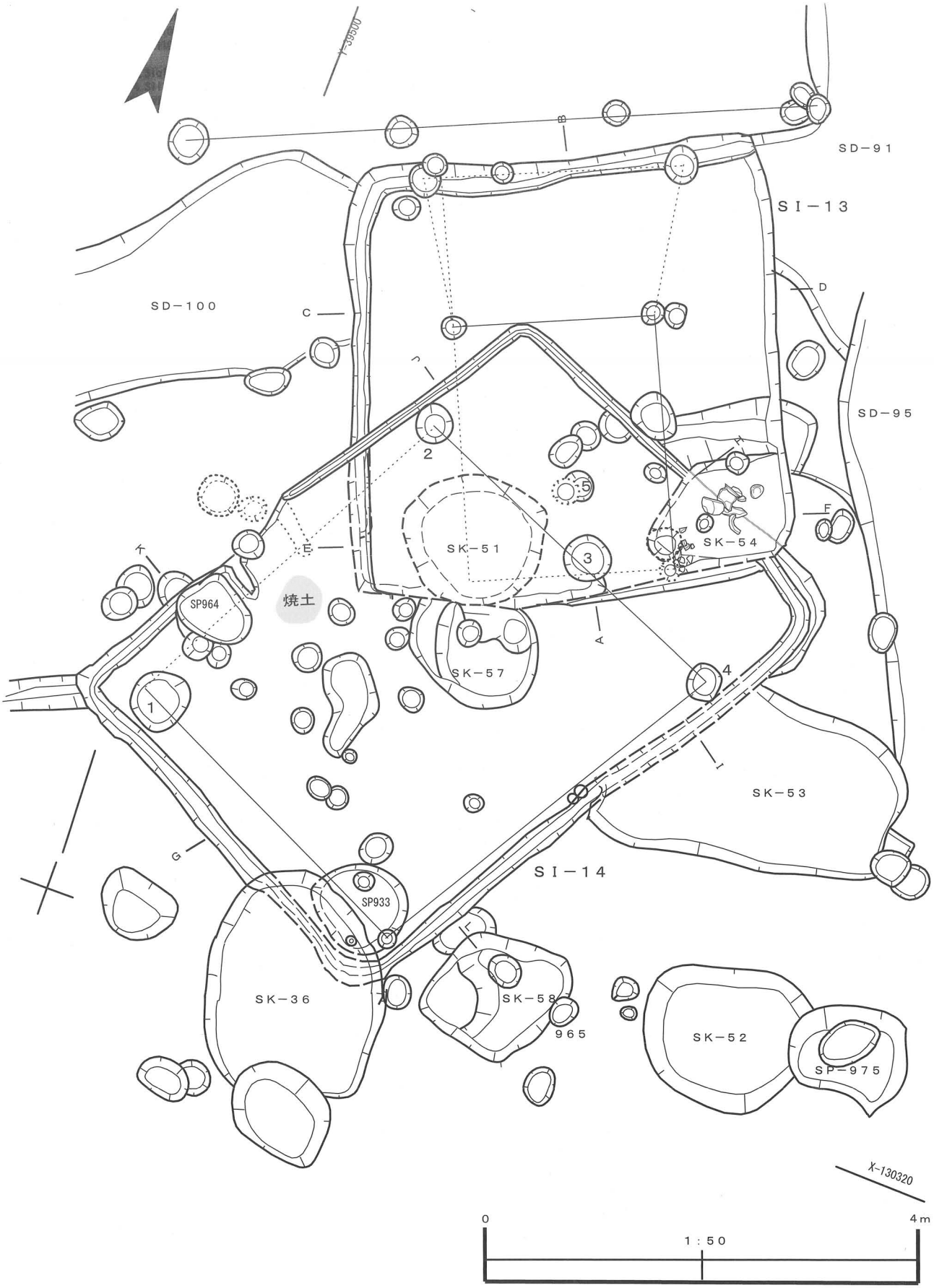
SI-14(第88～90図)

位置 調査区中央南側。 **平面形** 長方形。 **主軸方向** N28°E。 **規模** 北西-南東3.9m×南西-北東5.5m。 **深さ** 床面まで0.05～0.17m。柱穴底面まで 0.06～0.4m。 **重複関係** SI13・53を切る。SK36・54に切られる。 **掘込面** 削平。 **検出面** VIII層上面。(地山) **埋土** A～C層に分けられ、A1～3層は黒褐色土に黄橙色シルトブロックや明赤褐色の焼土粒を含む。B1～2層は黄橙色シルトに灰黄褐色ブロック土を含む。C1層は暗褐色土に多量の黄褐色シルトブロックや礫、明赤褐色の焼土粒をやや多く含む。(周溝埋土) **壁の状態** 直壁。 **床の状態** 地山が床面になっており、ほぼ平坦である。 **施設 火床面** 竪穴内北西辺やや南寄りに位置し、楕円形を呈し長軸0.45m、短軸0.38mを測る。明赤褐色を呈し堅くしまっており、3cm程の深さまで浸透する。また、壁からは約0.5m程離れているが、壁から垂直に火床面を挟み込む形で0.44m程のかまど(造付け)の袖が伸びている。北側には見当たらないが周溝が切れている箇所が存在することから、この位置に袖が付いていたものと推察される。 **竪穴内土壙**は袖の南に隣接するSP964と南隅のSP933、竪穴内中央のSK57が該当する。SK57は楕円形を呈し長軸1.32m、短軸1.03m、深さは0.14mを測り底面はややくぼむ。埋土は単層で黒褐色土を呈し、須恵器坏身(第90図186)や土師器甕底部片を出土する。SP933は不整円形を呈し直径0.8～0.85m、深さ0.07mを測り底面は平坦である。埋土は単層で黒褐色土を呈し、土師器直口壷の破片が出土している。SP964は不整楕円形を呈し長軸0.7m、短軸0.5m、深さ0.28mを測り、底面はほぼ平坦である。埋土は単層で暗褐色土に黄褐色シルトを含み、多量の明赤褐色の焼土粒と炭化物を多く含む。復元(口径)13.8cm、器高4.3cmを測る扁平で口径の大きい須恵器坏蓋(第90図184)が出土している。 **柱穴** 竪穴内には直径0.3～0.5m程の主柱穴が四隅や周壁際に4口、直径0.2～0.3m程の柱穴が約20口程度見られる。主柱穴の埋土は黒褐色土に明黄褐色シルトブロックや炭化物を含む。深さは0.11～0.2mを測る。主柱穴SP931からは須恵器甕の口縁部～体部上半、土師器把手付鉢の口縁部～体部上半が出土している。 **周溝** かまどの袖・貯蔵穴(SP964)を除く4辺壁際にめぐる。周溝の幅は0.1～0.22m、深さは床面から～0.11mを測る。 **貼床** 不明。

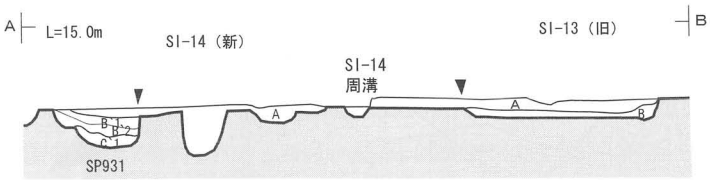
出土遺物(第90図・表4・5・10) 182・183は須恵器坏蓋である。口径11.6～11.8cm、器高4.1～4.3cmを測り、天井部外面は回転ヘラケズリを施す。185は須恵器坏身である。口径10.2cm、器高5.1cm、最大径12.2cmを測り、底部外面に回転ヘラケズリを施す。188は須恵器壷の口縁～体部上半で、口径15.9cmを測り体部外面に平行タタキを施す。190は口径12.0cm、器高4.8cmを測る有蓋高坏の蓋である。191は有蓋高坏である。口径10.4cm、最大径12.1cm、坏部高4.1cmを測り、脚部には長方形の透孔が3つある。192は板状の砥石で、3面に使用が認められる。193は滑石製紡錘車で断面台形、オリーブ灰色を呈し、上底2.2cm、下底4.0cm、厚さ1.5cm、貫通孔0.6cm、重量42gを測る。この他に須恵器高坏脚部(円径3孔)・甕片、土師器壷・甕口縁部片、器台、高坏、鉢、甑等の破片が出土している。

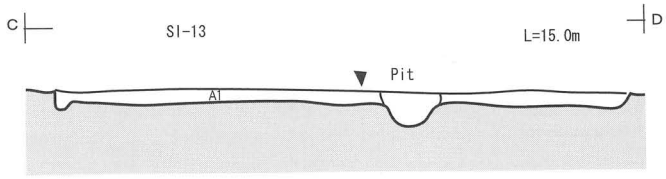
SK(土壙)36・52・53・58(第88・90図)

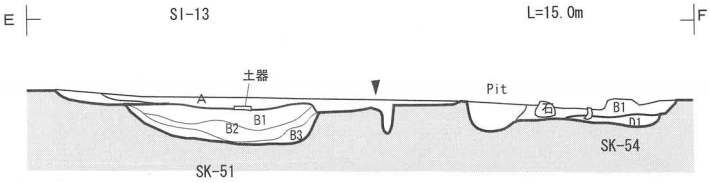
SK36はSI14の南隅を切っており楕円形を呈する。長軸2.06m、短軸1.66m、深さ0.18mを測る。埋土



第88図　SI-13・14平面図





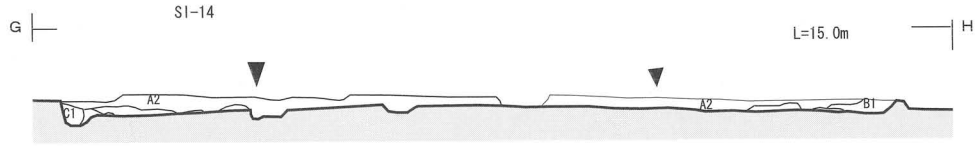


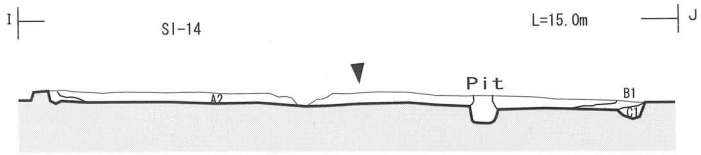
SI-13
A1: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/6 ～0.2cm大 25～30% 中-硬 密 Sil5YR5/8 0.5～3cm 焼土ブロック 20% ～0.2cm大白色レキやや多く含。
B1: Sicl10YR3/2,Sil10YR6/6 0.5～1cm大 15～20% HC10YR5/1,0.5～1cm大 20～40% 中-軟 密。

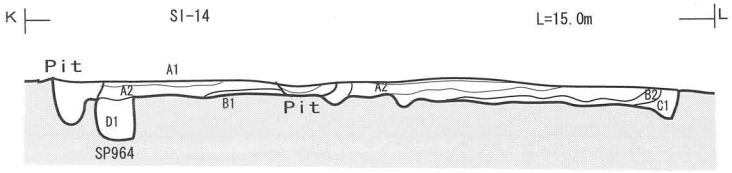
SK-51
B1: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/6 ～0.5cm大 20% 中-硬 密 ～0.5cm大白色レキ多量に含，～1cm大炭化物多量に含，土器多量出土。
B2: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/6 ～0.5cm大 15～20% 中-硬 中-密 ～0.3cm大白色レキやや多く含，～1cm大炭化物少量含 土器やや多く出土。
B3: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/6 ～0.5cm大 30% 中-軟 中-疎 ～0.3cm大白色レキやや多く含，～1cm大炭化物やや多く含

SK-54
D1: Sicl10YR3/1～4/1,Sil10YR7/8 0.3～0.8cm大 20% ,Sil5YR5/8～0.2cm大焼土粒微量に含，中-軟 中-密

Pit
Sicl10YR3/2,Sil10YR5/6 ～0.3cm大50～60% 硬 密 ～0.2cm大白色レキ少量含。

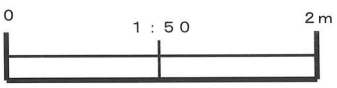




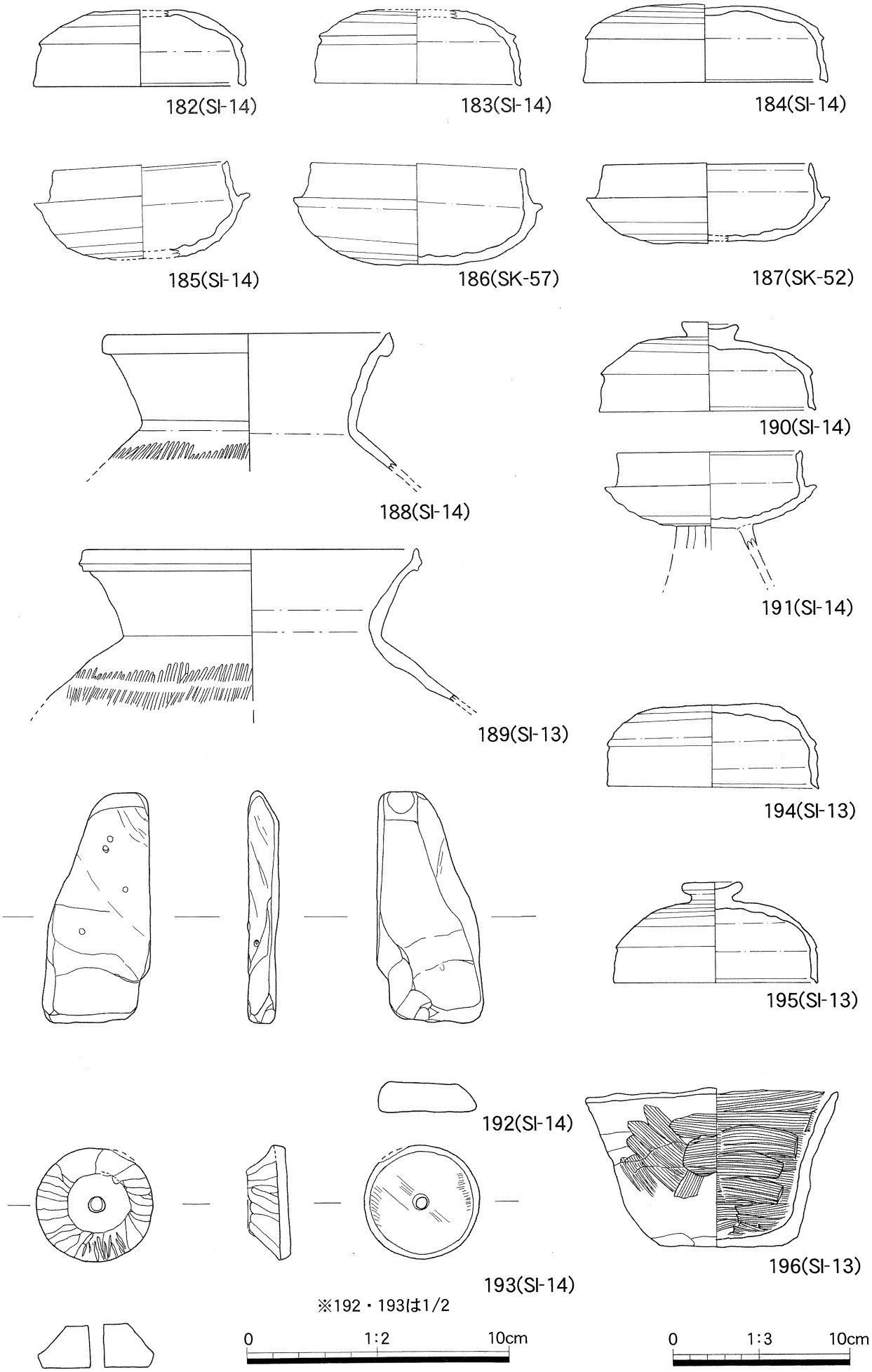


SI-14
A1: Sicl10YR2/3,Sil10YR5/6 0.5～3cm大ブロック 20% 中-軟 中-密 Sil5YR5/8 ～0.3cm大焼土粒少量含，～0.5cm大白色レキ少量含。
A2: Sicl10YR2/3,Sil10YR5/6 0.5～3cm大ブロック 25～30% 中-軟 中-密 Sil5YR5/8 ～0.3cm大焼土粒やや多く含，～0.5cm大白色レキやや多く含。
A3: Sicl10YR2/3,Sil10YR5/6 0.5cm大 15～20% 中-硬 中-密 Sil5YR5/8 ～0.3cm大焼土粒少量含，～0.5cm大白色レキ少量含。
B1: Sil10YR5/6,Sicl10YR5/2 0.5～1cm大 15%中-軟 密
B2: Sil10YR5/6,Sicl10YR5/2 0.5～1cm大 30～40% 中-軟 中-疎
C1:(周溝) Sicl10YR3/3,Sil10YR5/6～5/8 0.5～1cm大 30% 軟 中-疎 Sil5YR5/8 ～0.5cm大焼土粒やや多く含,～0.5cm大白色レキやや多く含.
D1:(柱穴) Sicl10YR3/3,Sil10YR5/6 0.5cm大 15% 中-軟 密 Sil5YR5/8 ～0.5cm大焼土粒多量に含，0.3cm大炭化物やや多く含。

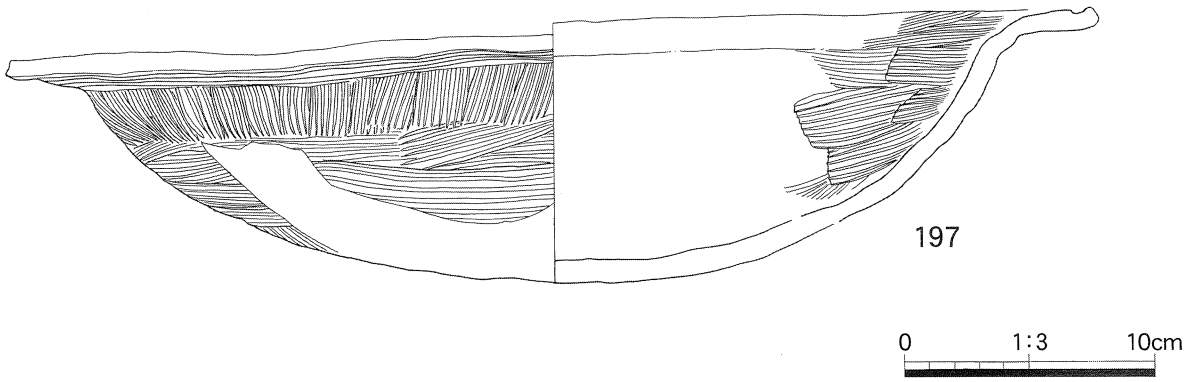
SP931
B`1: Sicl10YR3/2,Sil10YR6/8 0.2～0.5cm大粒 20% 中-軟 中-密 O.1cm大白色粒少量含，0.3cm大炭化物少量含。
B`2: Sicl10YR3/2,Sil10YR6/8 0.5～1cm大 25～30% 中-軟 中-密 O.1cm大白色粒微量含，0.5～1cm大炭化物やや多く含。
C`1: Sicl10YR3/2,Sil10YR6/8 0.5～1cm大 30% 中-硬 中-密Sil5YR5/8 0.5～1cm大焼土粒多量に含，0.5～1cm大炭化物やや多く含。



第89図 SI-13・14断面図



第 90 図　SI（竪穴住居跡）13・14/SK52・54・57 出土遺物



第 91 図　SK（土壙）54 出土遺物

はA～B層に分けられ、A層は黒褐色土に黄褐色シルト、B層は明黄褐色土に灰黄褐色土を含む。壁は直壁で底面は平坦である。出土遺物は須恵器坏蓋、甕、土師器壷、把手付鉢等の破片が出土している。SK52はSI14の南東に位置し楕円形を呈する。長軸1.54m～、短軸1.33m、深さ0.18mを測る。埋土はA1～2層で、黒褐色土に黄褐色シルトや多量の礫を含み、明赤褐色の焼土ブロックと炭化物を少量含む。壁は緩やかで底面はやや凹凸がある。出土遺物は須恵器坏身（第90図187・表4）や蓋、短脚の有蓋高坏、土師器鉢・甕の口縁部や体部片等が出土している。SK53はS114の南東辺に切られている。長楕円形を呈し、長軸2.7m～、短軸1.42～1.67m、深さ0.18mを測る。埋土はA～B層に分けられ、A1～2層は暗褐色土に黄褐色シルトと褐灰色粘土を含む。B1層は黒色土に多量の明黄褐色シルトブロックと礫を含む。壁はやや緩やかで底面はほぼ平坦である。出土遺物は須恵器坏蓋、高坏短脚脚部、高坏坏部、小型壷、土師器器台等の破片が出土している。SK58はSI14の南隅に隣接し不整方形を呈する。1辺1.02～1.12m、深さ0.13mを測る。埋土はA～B層に分けられ、A1層は黒褐色土に褐色シルト、B1層は黒褐色土に褐灰色シルトと少量の明赤褐色の焼土粒、炭化物と礫を多く含む。B2層は黒褐色土に褐灰色シルトと少量の炭化物を含む。壁は緩やかで底面はやや凹凸がある。出土遺物は土師器壷の体部片が出土している。

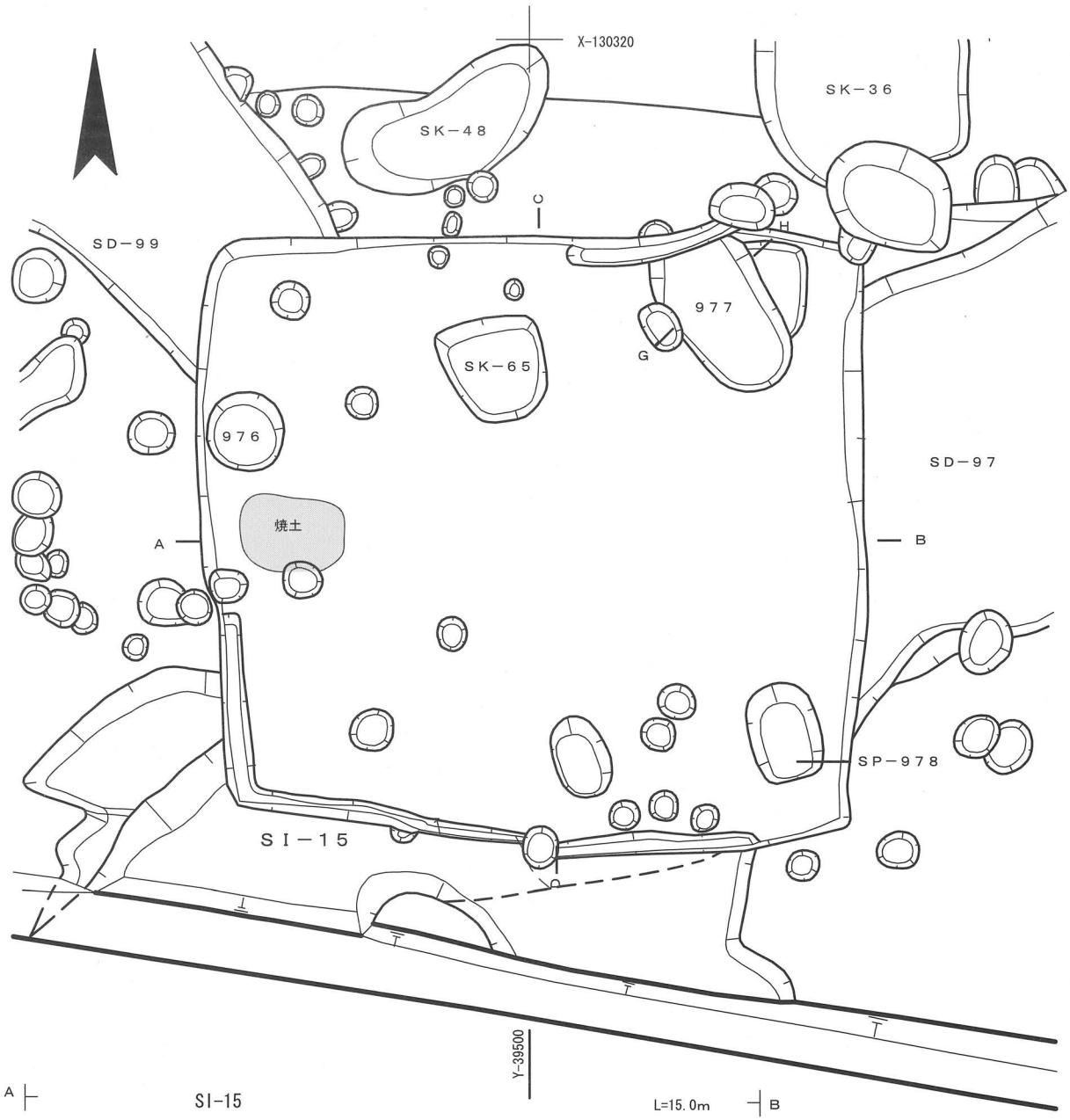
(XII) SI-15（竪穴住居跡）

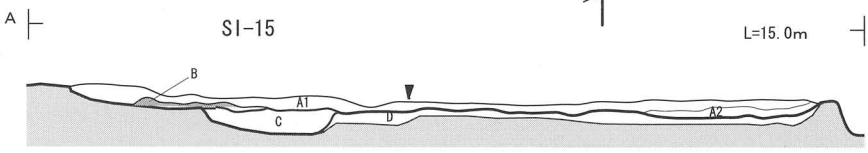
SI-15（第92図）

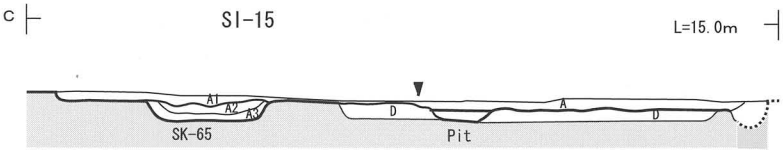
位置　調査区中央南端。　**平面形**　正方形。　**主軸方向**　真北。　**規模**　東西5.0m×南北4.6m。　**重複関係**　SZ8～10(SD97・99)を切る。　**深さ**　床面まで0.02～0.14m。柱穴底面まで　0.12～0.3m。　**掘込面**　削平。　**検出面**　VIII層上面。（地山）

埋土　A～D層の4層に大別されるが、B層は火床面の焼土層、C～D層は貼床構築土である。A1～2層は黒褐色土に黄褐色シルトブロックと明赤褐色の焼土粒、炭化物、土器を含む。B1層は明赤褐色の焼土に黒褐色土を少量含む。C1層は黒褐色土に多量の黄褐色シルトや礫を含む。D1層は褐灰色粘土に多量の褐色シルトや礫を含む。　**壁の状態**　やや直壁気味に立ち上がる。　**床面の状態**　やや凹凸がある。

施設　**火床面**有り。（焼土）は竪穴内西側中央の壁から0.5mに位置し、楕円形を呈し長軸0.88m、短軸0.6mを測る。明赤褐色を呈し堅くしまっており、7cm程の深さまで浸透する。　**竪穴内土壙**は竪穴内北東隅のSP977と中央北側のSK65が該当する。SP977は長楕円形を呈し北西-南東（長軸）1.27m、南西-北東（短軸）0.77m、深さは0.24mを測り底面はほぼ平坦である。埋土はA1～3層に細分され、黒褐色土に明黄褐色シルトブロックや炭化物を含む。出土遺物は土師器小型壷の口縁部や体部片が出土している。SK65は不整方形を呈し、北西-南東（長軸）0.81m、南西-北東（短軸）0.73m、深さは0.15mを測り底面はほぼ平坦である。埋土は黒褐色土に黄褐色シルトと炭化物を含む。出土遺物は土師器体部片が数点出土している。　**柱穴**　竪穴内には直径0.6～0.8m程の柱穴が3口、直径0.2～0.3m程の柱穴が15口、竪穴外周壁際に多数の柱穴が見られる。深さは床面から0.1～0.3mを測り、埋土は黒褐色土を呈する。　**周溝**　東辺

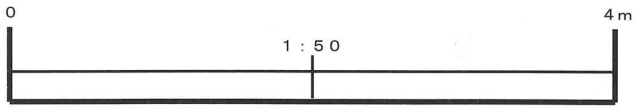






SI-15
A1:Sicl10YR3/2 Sil10YR5/6 0.2-0.3cm大 20% 0.2cm大白色礫中～多 0.3cm大ｶｰﾎﾞﾝ少 Sil5YR5/8 0.3cm大(焼土塊) 少～中 中～疎 中～密 土器中
A2:Sicl10YR3/1 Sil10YR5/6 1-2cm大 20-25% 0.2cm大白色礫 微 中～多～0.3cm大ｶｰﾎﾞﾝ微 Sil5YR5/80.3cm大(焼土)少 中～疎 中～密 土器中
B1:Sil5YR5/8 Sicl10YR3/2 粒 10-15% 疎-密 (火床面)
C1:Sicl10YR3/2 Sil10YR5/6 0.2～0.3cm大 40-50% 0.3～0.5cm大白色礫多 中～疎 密(床構築土)
D1:HC10YR5/1 Sil10YR4/4 粒 40% 牧 兎 0.5～1cm大礫少 (床構築土)

SK-65
A1 : Sicl10YR3/2,Sil10YR5/8 0.5cm大 10-15% 0.1-0.2cm白色礫少 ～0.2cmｶｰﾎﾞﾝ少 中-軟 中-密
A2 : Sicl10YR3/2,Sil10YR5/8 0.5cm大 25% 0.1-0.2cm白色礫微 ～0.5cmｶｰﾎﾞﾝ少 中-軟 中-密
A3 : Sicl10YR3/1,Sil10YR5/8 0.5cm大 5-7% 0.1-0.2cm白色礫少 0.5-1cmｶｰﾎﾞﾝ中 軟 中-密



第92図 SI-15平・断面図

以外の３辺に見られるが、所々途切れる。周溝の幅は 0.08 ～ 0.23m、深さは 0.08 ～ 0.2m を測る。 **出土遺物** 土師器壷の口縁部、体部、器台・高坏、甑片が出土している。SP976 からは土師器小型壷の口縁部や体部、SP978 から土師器高坏が出土している。

(XIII) SI-16 ～ 18(第３図)

SI16 ～ 18 は調査区中央に位置し、平面形は方形を呈する。それぞれの主軸方向・規模は SI16 が N44° E、北西 - 南東 3.6m、南西 - 北東 3.9m、深さ 0.08m、SI17 が N57° E、北西 - 南東 3.8m、南西 - 北東 1.8m ～、深さ 0.07m、SI18 が N37° E、北西 - 南東 2.3m、南西 - 北東 2.1m、深さ 0.13 ～ 0.21m を測る。重複関係は SI16 が SI17 を切り、SI16 ～ 18 が SZ13(SD94) を切る。いずれも掘込面は削平され、検出面は VIII 層上面 (地山) である。埋土は SI16 は単層で黒褐色土に明黄褐色シルトや礫を含む。SI17 も単層で黒色土ににぶい黄褐色シルトや礫を含む。SI18 は A1 ～ 2 層に細分され、黒褐色土に黄褐色シルトや少量の炭化物を含む。SI16 は一部周溝を持ち竪穴内北隅に楕円形土壙 (SK49) を有し、直径 0.1 ～ 0.6m の柱穴 13 口検出された。火床面はなく、出土遺物は須恵器坏蓋、波状文を施した高坏、甕体部、土師器椀・壷等の破片が出土している。SI17 も西・北側に周溝を持つ。竪穴内に火床面・土壙はなく柱穴も 1 口のみである。また、床構築土が約 0.2m の深さで、出土遺物は土師器片が数点出土したのみである。SI18 は周溝・火床面・床構築土・土壙はなく、竪穴北東辺寄りに直径 0.4m 前後の主柱穴が 1 口、直径 0.2m に満たない小ピットが 9 口ほど北西辺際に集中して検出された。床面はほぼ平坦で、出土遺物は 6 世紀代の須恵器坏身、土師器片が出土している。

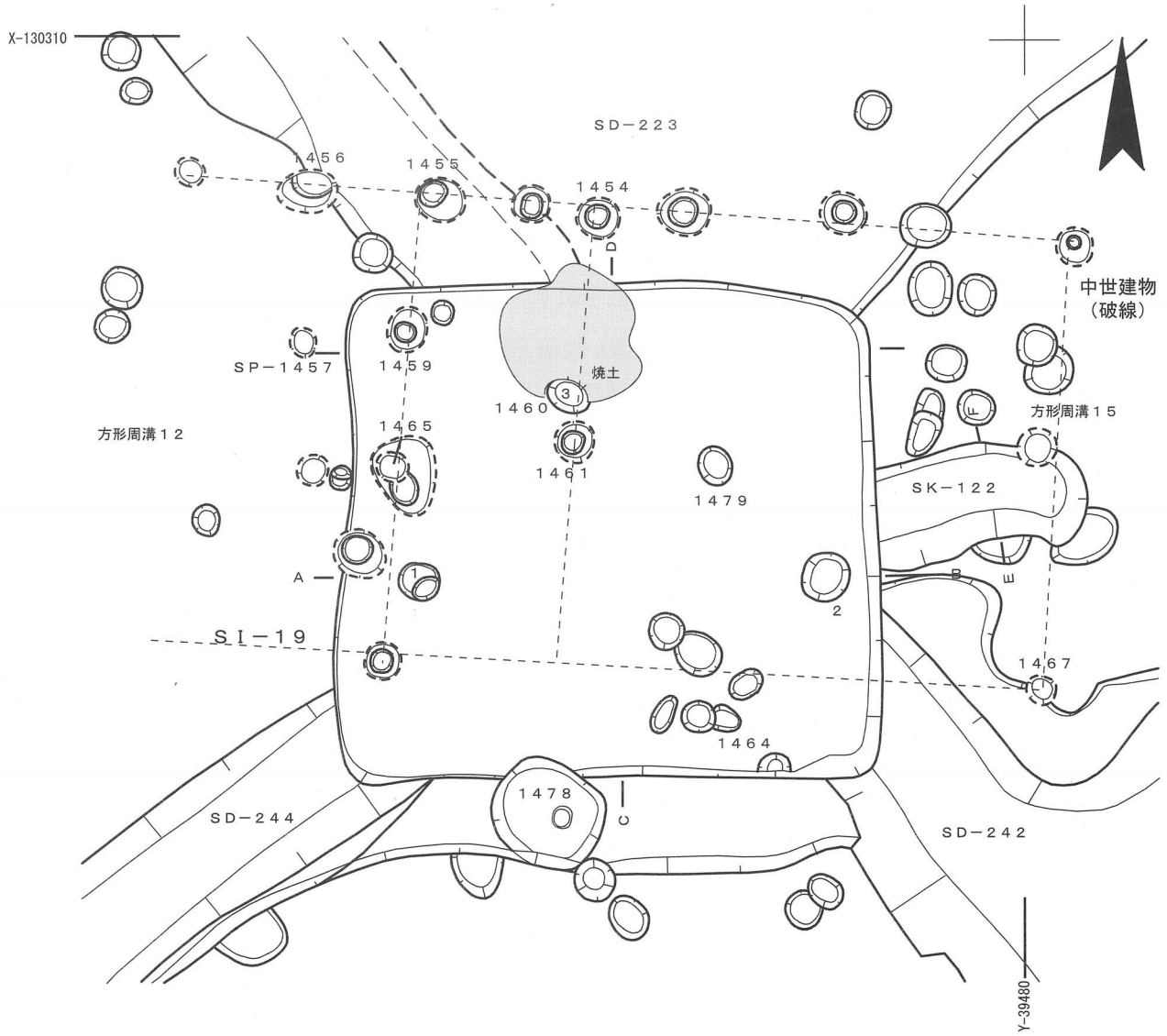
(XIV) SI-19(竪穴住居跡)

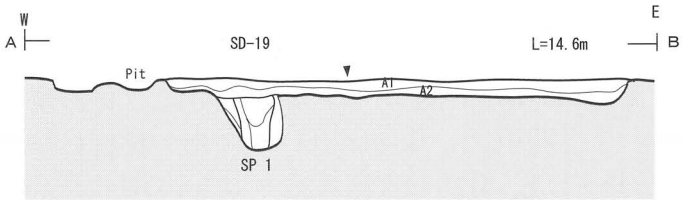
SI-19(第 102 図)

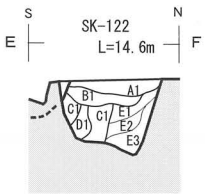
位置 調査区中央南側。 **平面形** 方形。 **主軸方向** 真北。(SI15 と同様。) **規模** 東西 3.8m × 南北 3.5m。 **重複関係** SZ12・14・15(SD223・235・242・244)・SK122 を切る。 **深さ** 床面まで 0.09 ～ 0.17m。床面から柱穴底面まで 0.07 ～ 0.35m。 **掘込面** 削平。 **検出面** VIII 層上面。(地山) **埋土** A1 ～ 2 層に細分されるが、A1 層は黒褐色土に褐色シルトや礫、明赤褐色の焼土ブロックを含む。A2 層は黒褐色土に褐色シルトと多量の礫を含む。 **壁の状態** 直壁気味に立ち上がる。 **床面の状態** ほぼ平坦。 **施設 火床面** 有り。(焼土) は竪穴内北壁中央やや西寄りに位置し、不整楕円形を呈し東西 0.98m、南北 1.0m を測る。明赤褐色を呈し堅くしまっており、4cm 程の深さまで浸透する。 **竪穴内土壙** なし。**柱穴** 竪穴内には直径 0.3 ～ 0.4m 程の主柱穴が 3 口、他に 9 口、竪穴外周辺に多数の柱穴が見られる。埋土は黒褐色土である。 **周溝** なし。 **床構築土** なし。 **出土遺物** 土師器壷の口縁部、甕の体部、高坏片が出土し、SP1460 からは土師器壷片、SP1464・1479 から土師器体部片が出土したのみである。

(XV) SI-20 ～ 26(竪穴住居跡) (第３・94 図)

SI20 ～ 22 は調査区中央南端に位置しており、井戸や土壙群が多数重複している箇所である。平面形はいずれも方形を呈し、主軸方向・規模は SI20 が N24° E、北西 - 南東 3.4m、南西 - 北東 3.9m、床面までの深さ 0.12 ～ 0.21m、SI21 は N78° E、南北 2.6m、東西 2.2m、床面までの深さ 0.06 ～ 0.13m、SI22 は N60° E、北西 - 南東 3.8m、南西 - 北東 3.9m、床面までの深さ 0.12 ～ 0.16m を測る。重複関係は SI20 が SK131 に切られ、SZ15(SD242) を切る。SI21 は SE03 に切られ、SK129 を切る。SI22 は SE02 に切られ、SD220 を切る。いずれも掘込面は削平され、検出面は VIII 層上面 (地山) である。埋土は SI20 が A ～ C 層の 3 層に分かれ A1 層は黒褐色土に褐灰色土や多量の礫を含む。A2 層は橙色シルトに黒褐色

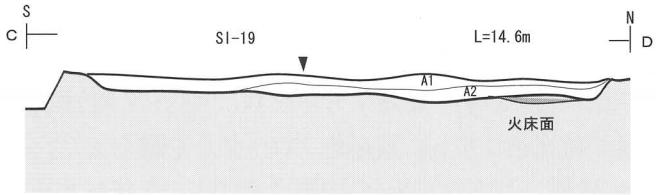






SK-122

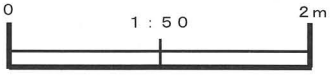
A1: Sicl10YR4/3, Sil10YR4/6 1cm大 30～40% 硬 密 ～0.2cm大レキ少量, 1～3cm大レキやや多く含。
B1: Sicl10YR3/1, Sil10YR4/4 0.5cm大 20% 硬 中-密 ～0.2cm大レキやや多く含, 1cm大レキ少量含。
C1: Sicl10YR3/2, Sil10YR4/1 1cm大 40% 中-軟 中-疎 1cm大レキ少量含。
D1: Sicl10YR4/1, Sil10YR6/6 0.5～1cm大 30～40% 軟 中-疎 ～0.2cm大白色粒少量含。
E1: Sicl10YR3/1, Sil10YR5/3 0.5cm大 20～30% Sil10YR5/1 1cm大 30% 中-軟 中-密。
E2: Sicl10YR3/1, Sil10YR5/3 0.5cm大 15% Sil10YR5/1 1cm大 30～40% 中-軟 中-密。
E3: Sicl10YR3/1, Sil10YR5/3 0.5cm大 10～15% Sil10YR5/1



ＳＩ－１９

A1: Sicl10YR2/2, Sil10YR4/6 粒～0.3cm大 15～20% 中-硬 中-密 ～0.2cm大白色粒やや多く含, 3cm大レキ少量含, Sil5YR5/8 ～3cm大焼土ブロック 20%含, 土器出土。
A2: Sicl10YR2/2, Sil10YR4/6 粒～0.3cm大 25～30% 中-硬 中-密 ～0.2cm大白色粒やや多く含, 1～5cm大レキ多量含,

SP-01 Sicl10YR3/2主体



第93図　SI-19平・断面図

シルト質埴土と炭化物を含む。A3 層は黒褐色土に褐灰色土や炭化物を含む。B1 層は黒褐色土に多量のオリーブ灰シルト質埴土や礫を含む。C1 層は黒褐色土に褐灰色シルトや礫を含む。SI21 は A ～ B 層に分かれ、A1 層は黒褐色土に黄褐色シルトや礫を含む。B1 層は黄褐色シルトに多量の黒褐色ブロック土を含む。SI22 は A1 ～ 2 層に細分でき、A1 ～ 2 層は黒褐色土に黄褐色シルトや多量の礫を含む。SI20 は周溝・火床面・床構築土・土壙はなく、竪穴には直径 0.45 ～ 0.6m ほどの柱穴が 3 口、直径 0.2 ～ 0.3m ほどの柱穴が 9 口検出された。床面は南東側がやや低く、出土遺物 (第 94 図 198 ～ 200・表 5) は 198 が須恵器坏蓋で口径 14.4cm、器高 5.4cm を測り、天井部外面に回転ヘラケズリを施す。199 は口縁部が短く外反する土師器壷の口縁部～体部上半である。口縁部外面はヘラミガキ、内面はハケメ、体部外面はハケメ、内面はナデを施す。200 は土師器器台で坏部を欠損する。ほかに須恵器甕の体部片、土師器高坏、甕、壷片が出土している。SI21 は南辺に周溝を持ち竪穴内中央北東寄りに長軸 1.1m、短軸 0.7m、深さ 0.3m の楕円形土壙を有する。柱穴は竪穴北側に 6 口検出され、直径 0.2 ～ 0.4m を測る。火床面はなく、床面はほぼ平坦で、深さ 0.23 ～ 0.3m の床構築土を持つ。出土遺物は須恵器甕の体部片、土師器片が出土している。SI22 は周溝・火床面・床構築土・土壙はなく、竪穴内に直径 0.2 ～ 0.4m 前後の柱穴が 10 口、壁際に 4 口検出された。床面は南東側が沈下し、出土遺物はない。

SI23 ～ 25 は調査区中央東側に位置し、平面形はいずれも方形を呈し、主軸方向・規模は SI23 が N84° E、南北 3.0m、東西 3.0m、床面までの深さ 0.18m、SI24 は N50° E、北西 - 南東 4.9m、南西 - 北東 4.1m ～、床面までの深さ～ 0.17m、SI25 は N37° E、北西 - 南東 2.9m、南西 - 北東 3.3m、床面までの深さ 0.07 ～ 0.25m を測る。重複関係は SI23 が SI24 を切り、SI23・24 は SZ13・19(SD202・204) を切る。

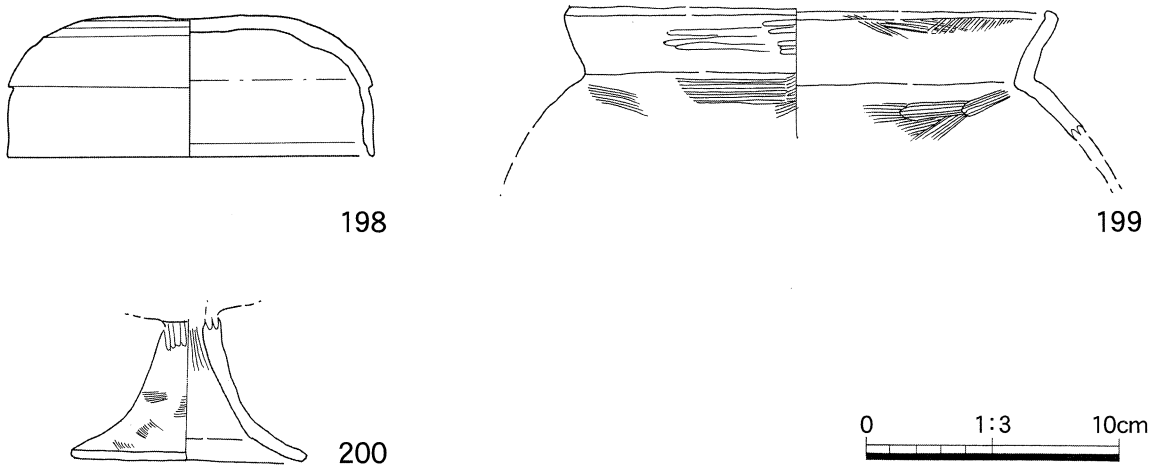
SI25 は SZ13(SD202) を切り、SD201 に切られる。いずれも掘込面は削平され、検出面は VIII 層上面 (地山) である。埋土は SI23 が A ～ B 層に分かれ A 層は黒褐色土に褐灰色シルトと褐灰色粘土ブロック、多量の礫を含む。B1 層は黒褐色土に多量の黄褐色シルトブロックと褐灰色粘土ブロックを含む。SI24 は A ～ C 層に分けられ A 層は黒褐色土に黄橙色シルトや礫、土器を含む。B 層は黒褐色土に黄橙色焼土ブロックと多量の土器を含む。C 層は黒褐色土に明黄褐色シルトブロックを含む。SI25 は A ～ C 層に分けられ、A 層は黒褐色土に褐色シルトを含む。B1・B2 層は黒褐色土に明黄褐色シルトを含み、B2 層には褐灰色粘土ブロックも含む。B3 層は黒褐色土に黄褐色シルトを含む。C 層は黒褐色土に黄褐色シルトブロックを含む。SI23 ～ 25 は火床面・周溝・床構築土・土壙 (SI23 を除く) は検出されていない。SI23 は竪穴内東壁際に直径 0.9m 程の楕円形を呈する土壙を有し、竪穴中央に直径 0.6m の主柱穴、南北の壁際に 4 口のピットを検出した。床面はほぼ平坦で、出土遺物は 5 世紀末～ 6 世紀初頭頃の須恵器坏蓋、短脚の高坏、土師器壷の口縁部が出土した。SI24 は直径 0.2 ～ 0.5m の柱穴を 13 口検出した。床面はほぼ平坦で出土遺物は須恵器坏蓋、波状文の入った壷口縁部、土師器壷の口縁部が出土した。SI25 は直径 0.25 ～ 0.5m の柱穴を壁際に 5 口検出した。床面はやや凹凸があり、出土遺物はない。

SI26 は調査区中央西側の方形区画 (SD60) に切られており、平面形は方形を呈するものと思われる。規模・主軸方向は N52° E、北西 - 南東 4.5m、南西 - 北東 1.6m ～、床面までの深さ 0.12 ～ 0.28m を測る。掘込面は削平され、検出面は VIII 層上面 (地山) で、埋土は A ～ B 層に分けられ、A1 ～ 2 層は黒褐色土に黄褐色シルトブロックや礫、炭化物を含む。B1 層が黄褐色シルトに黒褐色ブロック土や礫を含む。火床面や床構築土は検出されず、竪穴南西隅に直径 0.8m 前後、深さ 0.27m の円形土壙 (SK35) を有する。柱穴は直径 0.15 ～ 0.3m で 10 口検出した。床面はほぼ平坦で、出土遺物は須恵器坏蓋、波状文の入った壷、甕片や土師器坏、壷、甕片等が出土した。SK35 からは須恵器短脚高坏、壷、甕片が出土している。

(XVI) SE-02・03(井戸)

SE-02(第 3・95 ～ 98 図)

位置 調査区中央南端。 **平面形** 円形。 **規模** 直径 1.76m。 **深さ** 1.27m。 **断面形** V 字形。 **重複関係**



第 94 図　SI（竪穴住居跡）20 出土遺物

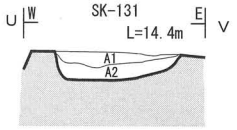
SI22・SD220 を切る。 **掘込面** 削平。 **検出面** VIII 層上面。（地山） **埋土** A ～ G 層の 7 層に大別され、13 層に細分される。A1 層は黒褐色土に黄褐色シルトや礫、明赤褐色の焼土粒を少量含む。B1 層は黄褐色シルトに褐灰色シルトや礫、明赤褐色の焼土粒を含む。C1 ～ 3 層は暗褐色土に褐灰色粘土や礫を多量に含み、明赤褐色の焼土粒や土器を含む。D1 ～ 2 層は黒褐色粘土に褐色シルトや土器、少量の礫を含む。E1 ～ 3 層は黒色粘土に褐色シルトや礫を含む。E2 層から多量の須恵器甕片が出土する。F1 層は黒色粘土ににぶい黄橙色粘土ブロックや礫を含む。G1 層は黒色土に明黄褐色シルトブロックや礫、土器を含む。G2 層は黒色粘土に明黄褐色シルト質埴土を含む。

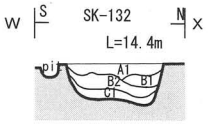
出土遺物（第 96 ～ 98 図・表 5） 201 は須恵器ハソウである。口縁部先端を欠損するが口縁部と沈線に挟まれた体部に波状文を施し、体部の波状文の上から径 1.2cm の貫通孔を 2 つ開けている。体部最大径は 15.0cm を測る。また、体部下半外面に平行タタキ痕が一部残る。202 は完形の須恵器壷である。口縁部はやや短く「く」の字に外反し、端部に凹面をもつ。体部最大径は上半にありやや肩が張る。口径 14.0cm、器高 18.4cm、最大径 19.6cm を測り、体部外面はタタキ、ナデを施す。また、口縁部外面には鳥肢状のヘラ描き記号が見られる。203 ～ 210・215・217・218・220 は土師器壷である。203 は口縁部が短く外反し体部最大径は中央にあり大きく張り横長の楕円形を呈する。口径 12.8cm、器高 17.6cm、最大径 19.0cm を測り、口縁部は内外ヨコナデ、体部外面はハケメを施す。206 は口縁部のみで、口唇部が打ち欠かれる。211 ～ 214・216・219・221 は土師器甕である。212・216 は器面に火熱を受けている。219 は体部中央に最大径を有しやや縦長の楕円形を呈す体部に「く」の字に直口する短い口縁部が付く。復元（口径）20.7cm、器高 31.7cm、最大径 26.3cm を測り、口縁部は外面がハケメ後ヘラミガキ、内面がハケメ、体部は内外面共にハケメを施す。222 は土師器坏身で、223 は土師器高坏である。

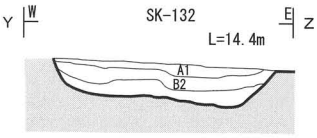
SE-03（第 3・95・96・99・100 図）

位置 調査区中央南端。 **平面形** 楕円形。 **主軸方向** N67° E。 **規模** 長軸 2.0m。短軸 1.45m。 **深さ** 1.53m。 **断面形** U 字形。 **重複関係** SI21・SK129 を切る。 **掘込面** 削平。 **検出面** VIII 層上面。（地山） **埋土** A ～ D 層の 4 層に大別され、10 層に細分される。A1 ～ 2 層は黒褐色土に褐色シルトや礫、少量の炭化物を含む。A2 層は橙色の焼土粒を少量含む。B1 層は黒褐色土に多量の褐灰色粘土や少量の礫、炭化物を含み、土器をやや多く出土する。C1 ～ 3 層は褐灰色粘土に黒褐色ブロック土や多量の礫を含む。C2・3 層から多量の土器が出土する。D1 ～ 2 層は黒褐色粘土に褐灰色土を含む。D3 ～ 4 層は黒褐色粘土ににぶい黄褐色砂壌土を含む。 **壁・底の状態** 底面は中心がややくぼみ、壁は直壁気味である。

出土遺物（第 96 図 204・205/99 ～ 100 図 / 表 4・5） 204 は完形であるが口縁部の一部が欠損し、器面は火熱を受けてほぼ剥離する。球状の体部に短い直口する口縁が付く。口径 10.2cm、器高 14.6cm、最

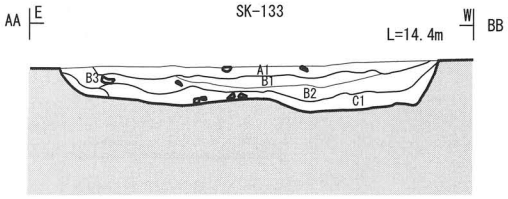


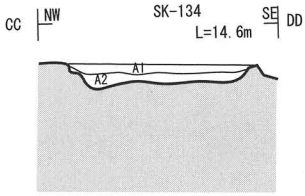




SK-131
A1: Sicl10YR3/3,Sil10YR6/6 粉 25% 中-軟 中-密
A2: Sicl10YR3/3,Sil10YR7/8 1cm大ブロック 30～40% 軟 疎

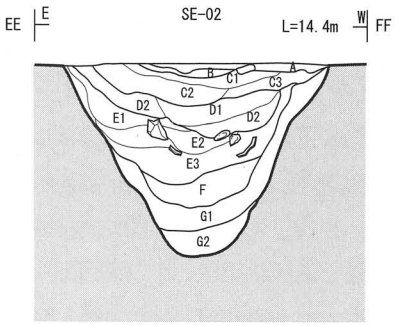
SK-132
A1: Sicl10YR4/1,Sil10YR3/4 粒～塊 20% 中-軟 密 ～0.2cm大白色粒少量含, 1cm大レキやや多く含。
B1: HC10YR4/1,Sil10YR4/6 0.5cm大 30% 軟 中-疎 0.3～1cm大レキ少量含。
B2: HC10YR4/1,Sil10YR4/6 1cm大 30～40% 中-軟 中-密 0.5cm大レキ少量含。
C1: HC10YR3/1,Sil10YR8/8 0.5～1cm大 40% 軟 中-密 ～0.3cm大レキ少量含。

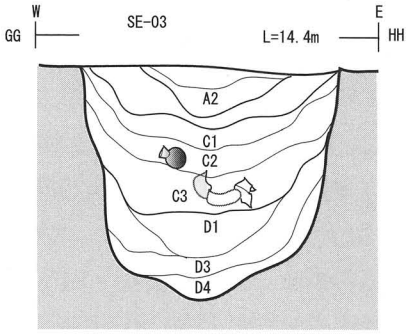




SK-133
A1: Sicl10YR3/2,HC10YR5/1 1cm大ブロック 20～30% Sil10YR5/0 0.5～1cm大 10～15% 中-硬 中-密。
B1: Sicl10YR3/2,HC10YR4/1 1～3cm大ブロック 20% Sil10YR5/0 0.5～1cm大 15% 中-硬 中-密。
B2: Sicl10YR3/2,HC10YR4/1 1～3cm大ブロック 15～20% Sil10YR5/0 0.5～1cm大 20～25% 中-硬 中-密。
B3: Sicl10YR3/2,HC10YR4/1 1～3cm大ブロック 15% Sil10YR5/0 0.5～1cm大 5～10% 軟 中-密。
C1: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/6 1～5cm大ブロック 40～50% HC10YR5/1 0.5cm大 20% 中-軟 密。

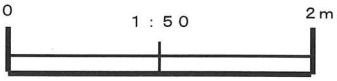
SK-134
A1: Sicl10YR3/2,Sil10YR4/6 0.5cm大 10% 硬 密 ～0.2cm大白色粒および1cm大レキやや多く含。土器少量出土。
A2: Sicl10YR3/2,Sil10YR4/6 0.5～1cm大 25～30% 中-軟 中-密 ～0.2cm大白色粒および1cm大レキ少量含。



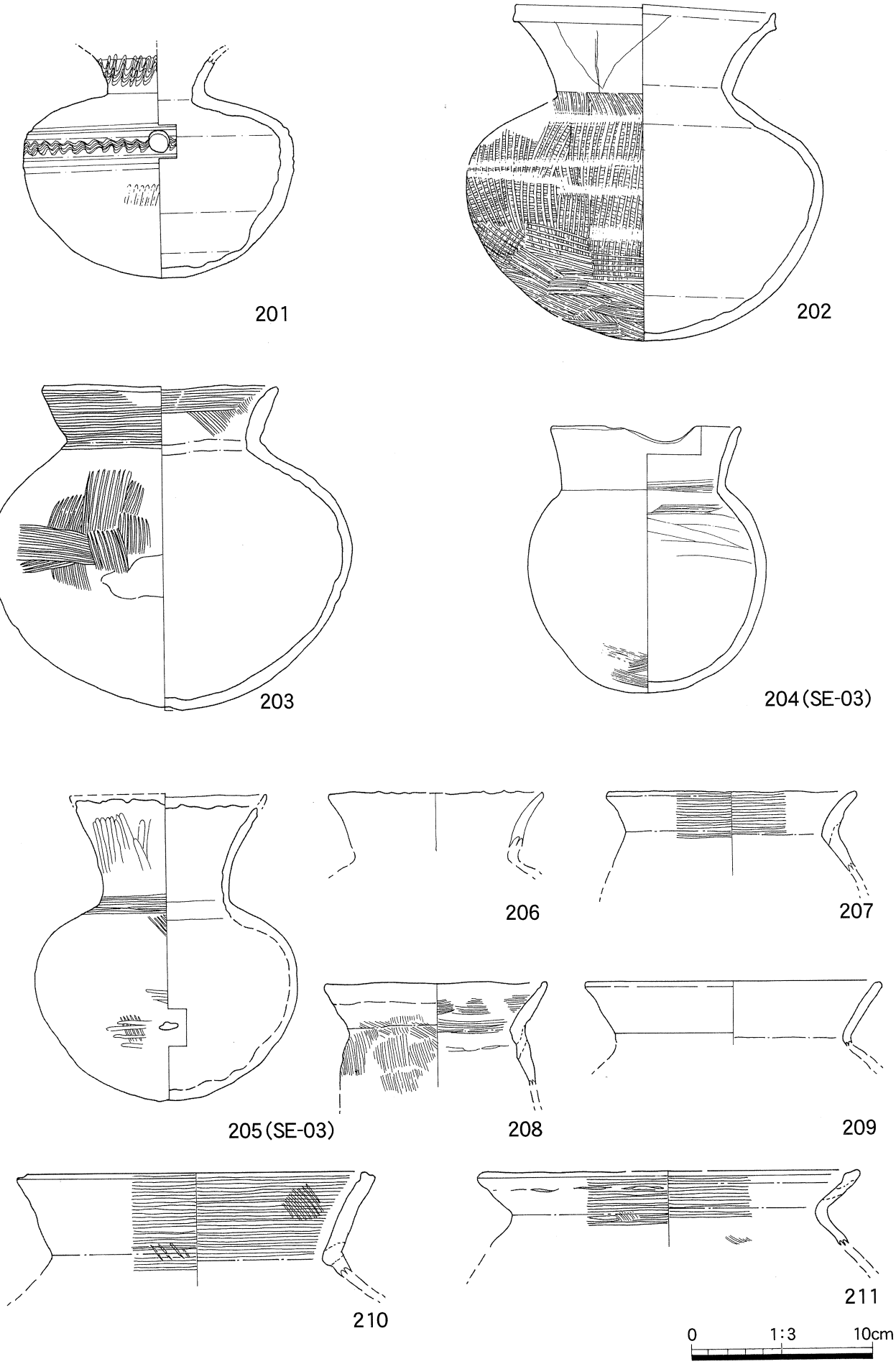


SE-02
A1: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/6 0.5cm大 10～15% 中-硬 密 ～0.3cm大白色レキおよび2～5cm大レキやや多く含,Sil2.5YR5/8 0.5cm大焼土粒少量含。
B1: Sil10YR5/6,Sil10YR5/1 0.5cm大 20～30% 中-軟 中一密 1cm大レキ少量含む Sil2.5YR5/8 0.5cm大焼土粒少量含。
C1: Sicl10YR3/3,HC10YR5/1～4/1 0.5cm大 20～30% 中-軟 中-密 1～5cm大レキやや多く含,Sil2.5YR5/8 0.5cm大焼土粒少量含,土器出土。
C2: Sicl10YR3/3,HC10YR5/1～4/1 0.5cm大 40～50% 軟 中-疎 1～5cm大レキ多量に含,Sil2.5YR5/8 0.5cm大焼土粒やや多く含. 土器多量出土。
C3: Sicl10YR3/3,HC10YR5/1～4/1 0.5cm大 30% 中-軟 中-疎 ～0.2cm大白色粒やや多く含,5cm大レキ少量含,Sil2.5YR5/8 0.5cm大焼土粒少量含,土器出土。
D1: HC10YR3/1,Sil10YR4/4 0.3cm大 30～40% 軟 中-密 ～0.2cm大白色粒および1～5cm大レキ少量含,土器出土。
D2: HC10YR3/1,Sil10YR4/4 0.5～1cm大 20% 軟 中-密 ～0.2cm大白色粒微量および1～2cm大レキ少量含。
E1: HC10YR2/1,Sil10YR4/6 0.5cm大 15% 中-硬 密 ～0.1cm大白色粒少量および1cm大レキやや多く含。
E2: HC10YR2/1,Sil10YR4/6 0.5cm大 20～25% 中-軟 密 ～0.1cm大白色粒微量, 1cm大レキ少量含, 20cm大レキ少量含, 須恵器甕片多量出土。
E3: HC10YR2/1,Sil10YR4/6 0.5cm大 10% 軟 密 ～0.1cm大白色粒微量, 1～2cm大レキやや多く含, 土器出土。
F1: HC10YR2/1,HC10YR6/4 1～3cm大 15% 軟 密 1～3cm大レキやや多く含。
G1: Sicl10YR2/1,Sil2.5Y7/6 ～1cm大 20% 中-軟 中-密 ～0.2cm大白色粒および1～3cm大レキ少量含, 土器（庄内甕）出土。
G2: HC10YR2/1,Sic2.5Y7/6 ～1cm大 15～20% 軟 中-疎

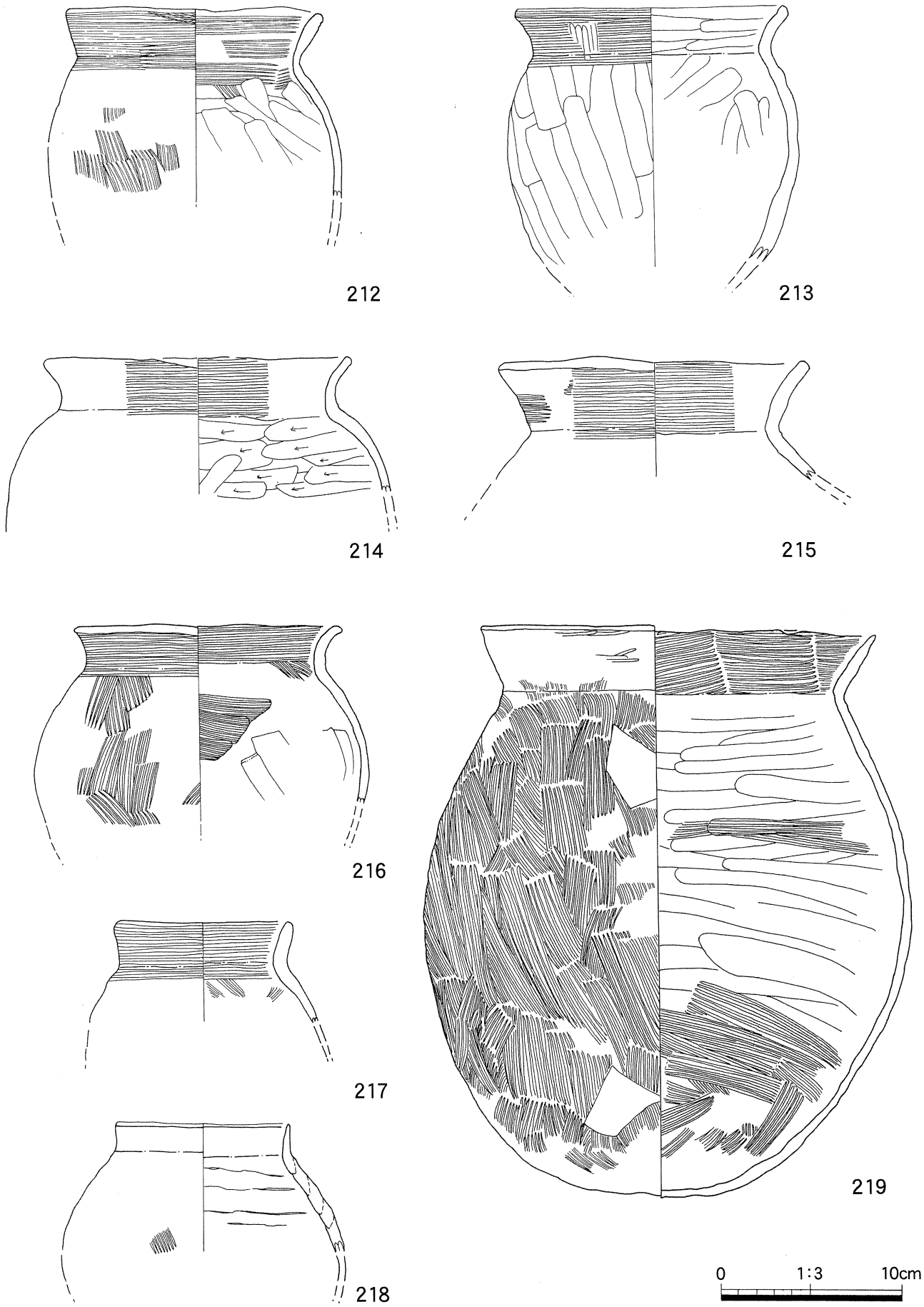
SE-03
A1: Sicl10YR3/2,Sil10YR4/6 0.3cm大 20～25% 硬 密 0.5cm大炭化物少量含, ～1cm大レキやや多く含。
A2: Sicl10YR3/2,Sil10YR4/6 0.3cm大 10% 中-軟 中-密 1cm大炭化物少量含, ～1cm大レキ多量に含, Sil5YR6/8 0.5cm大焼土粒少量含。
B1: Sicl10YR3/2,HC10YR4/1 粉 30～50% 中-軟 中-密 1cm大炭化物少量含, 1～5cm大レキ少量含, 土器やや多く出土。
C1: HC10YR4/1,Sicl10YR3/2 0.5～1cm大 20～25% 軟 密 1～3cm大レキ少量含。
C2: HC10YR4/1,Sicl10YR3/2 0.5～1cm大 10% 軟 密 1～3cm大レキ多量に含。土器多量出土。
C3: HC10YR4/1,Sicl10YR3/2 0.5～1cm大 5～10% 軟 密 1～3cm大レキ多量に含。
D1: HC10YR3/1,Sicl10YR4/1 粒 20% 軟 密。
D2: HC10YR3/1,Sic10YR4/1 粒 30% 軟 密。
D3: HC10YR3/1, SL10YR4/3 粒 25% 軟 密。
D4: HC10YR3/2,SL10YR4/3 粒 40% 軟 中-疎。



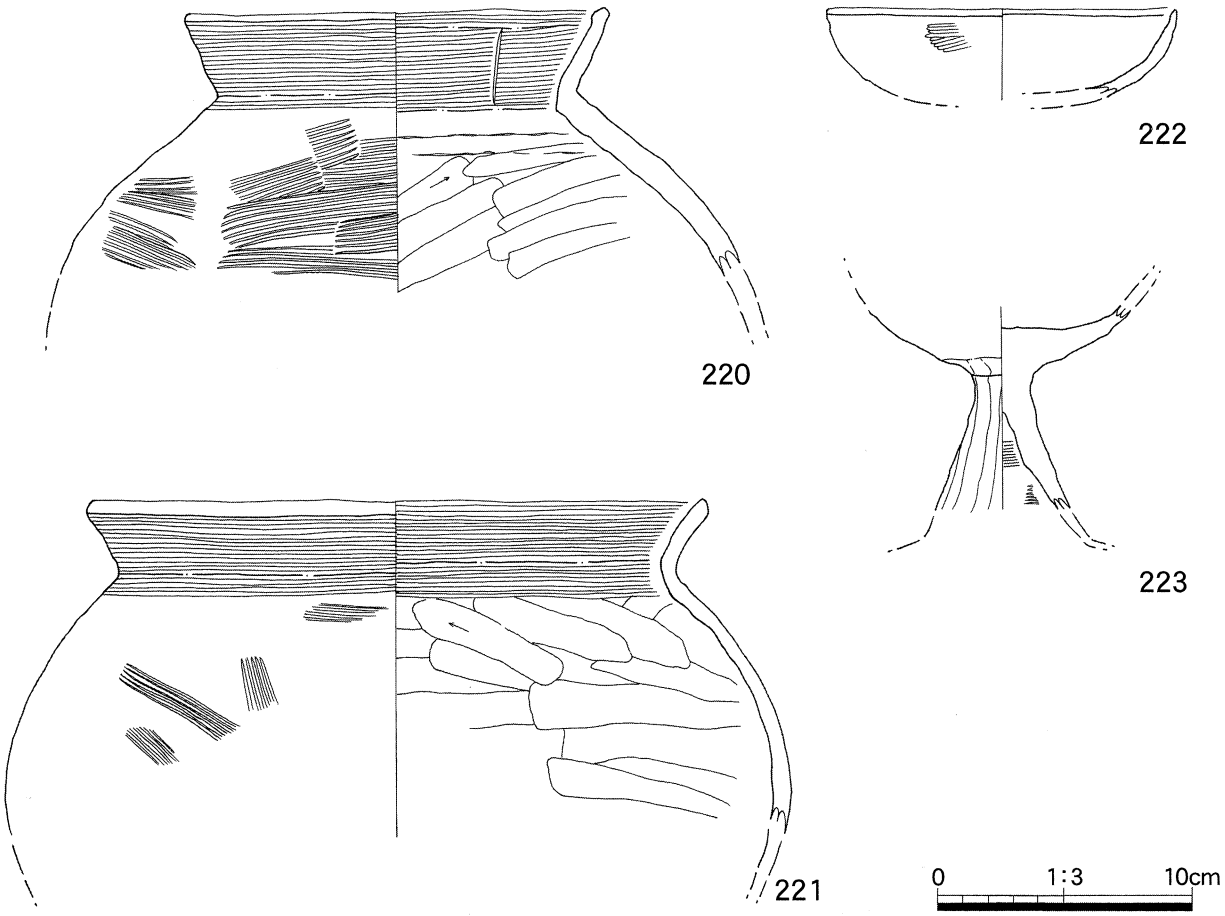
第 95 図　SE-02・03/SK 群断面図



第96図　SE（井戸）02出土遺物（1）



第 97 図　SE（井戸）02 出土遺物（2）



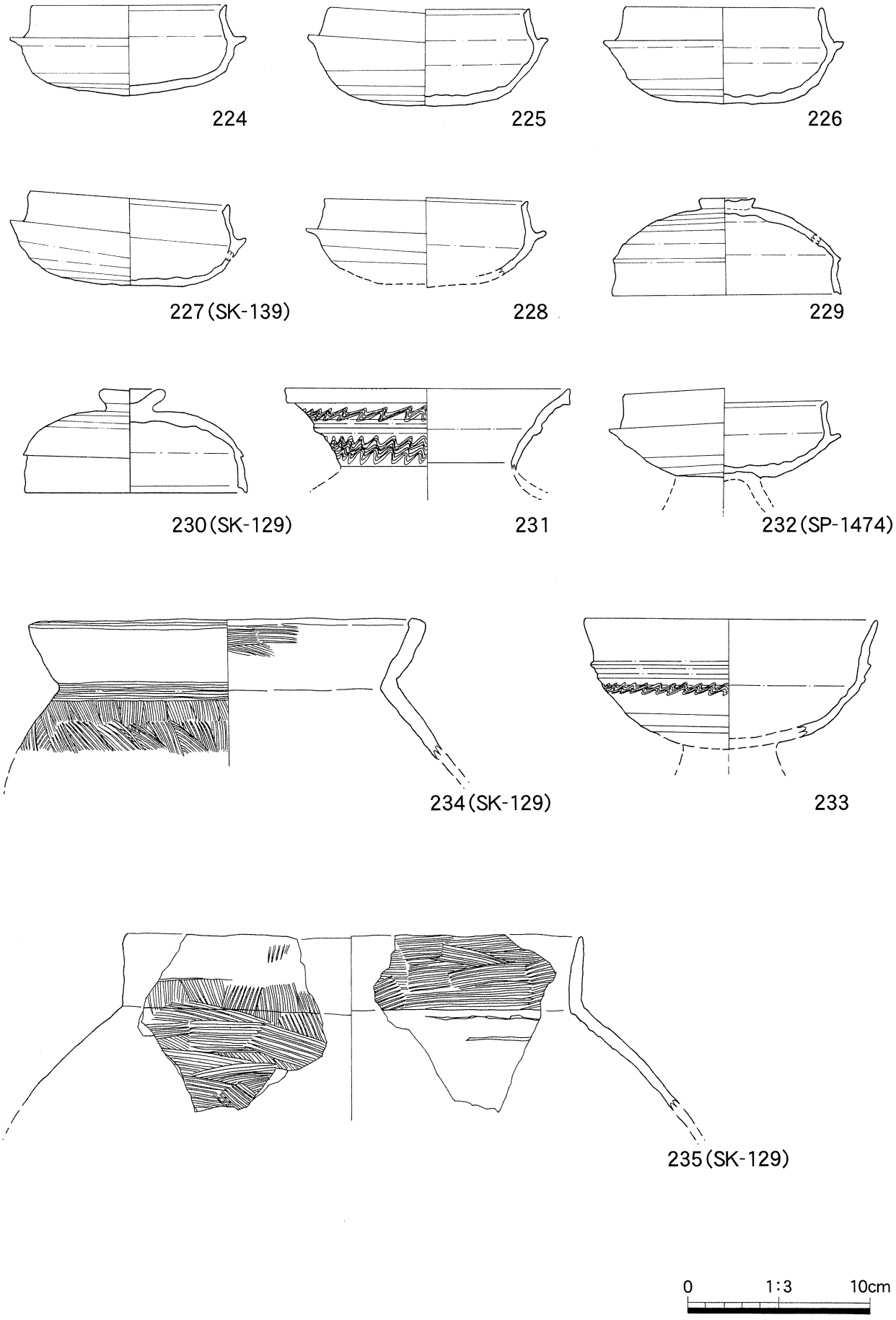
第 98 図　SE（井戸）02 出土遺物（3）

大径 13.2cm を測る。205 は朱彩された完形の壷であるが口縁部が全周人為的に打ち欠かれ、器面は火熱を受けて剥離する。また、体部下半に焼成後穿孔される。肩の張る体部にやや長めの外反する口縁が付く。口径 10.5cm ～、器高 16.4cm、最大径 14.5cm を測る。器面調整は外面が口縁部（たて）ヘラミガキ、頸部ナデ、体部ハケメ後ヘラミガキを施す。224 ～ 226・228 は須恵器坏身である。口径 10.8 ～ 11.2cm、器高 5.0 ～ 5.3cm、最大径 13.0 ～ 13.2cm を測る。いずれも底部外面に回転ヘラケズリを施すが、225 の底部外面にはヘラ描きで「V」に似た記号が刻印される。229 は須恵器有蓋高坏の坏蓋である。口径 12.6cm、器高 5.2cm を測る。231 は須恵器壷の口縁部である。復元口径 15.6cm を測り、口縁部外面中程に 1 条の凸帯を配し、その上下に波状文をめぐらせている。233 は須恵器無蓋高坏で脚部を欠損する。復元口径 16.1cm を測り、外面には 2 条の凸帯の下に波状文をめぐらす。236・237 は須恵器甕である。236 は短く外反した口縁部に最大径が体部上半にあり底部がやや潰れる。口径 27.5cm、器高 45.3cm、最大径 49.5cm、頸部径 22.0cm を測る。口縁部外面はカキメ、体部は外面が平行タタキ後カキメ、内面がタタキ（青海波）を施す。237 は口縁端部がつまみ上げられたやや長めの口縁部に最大径が体部上半にある体部が付く。口径 21.5cm、器高 36.5cm、最大径 36.2cm、頸部径 16.0cm を測る。口縁部～頸部外面はカキメ、体部は外面が格子タタキにナデ、内面がタタキ（青海波）を施す。

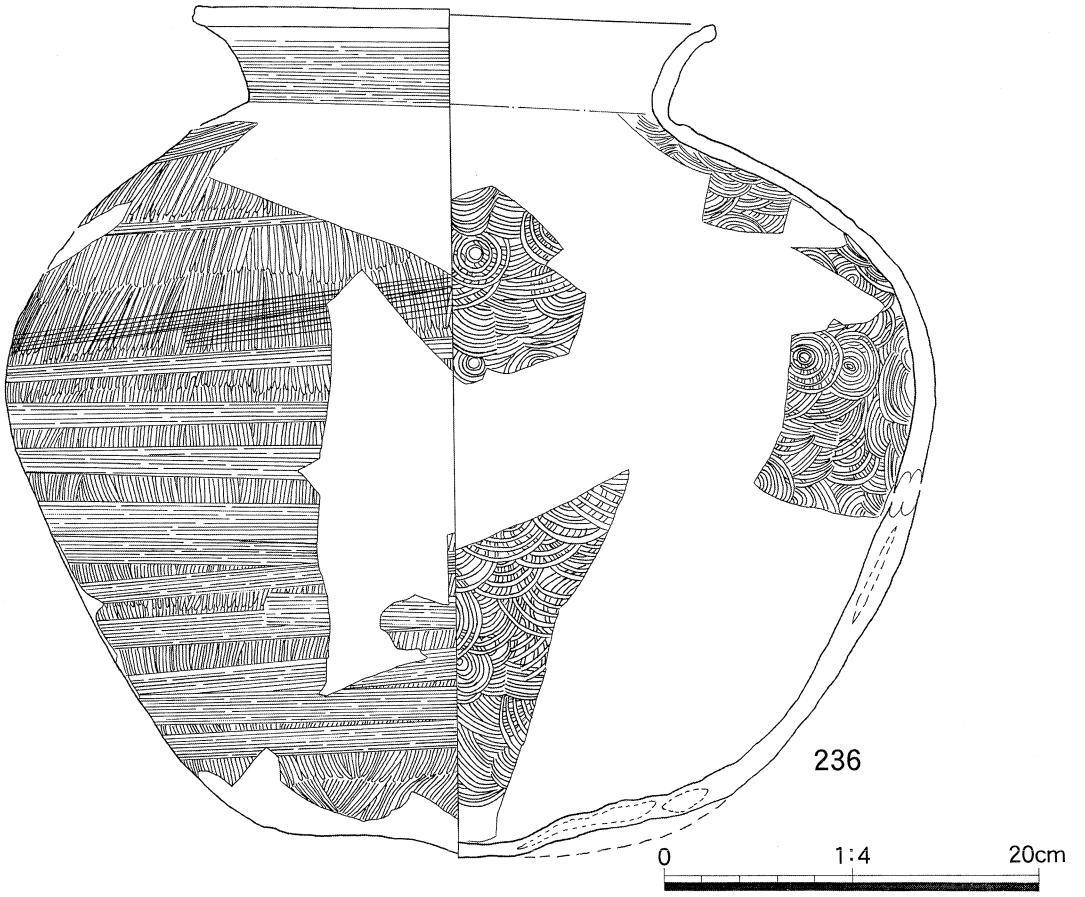
(XVII) SK-20・21・23（土壙）

SK-20（第 101・102 図）

位置　調査区中央西側。　**平面形**　不整楕円形。　**軸方向**　不明。　**規模**　長軸 6.2m ～。短軸　4.6m。　**深さ**　0.22m。　**重複関係**　SD60・61・SK21 に切られる。SZ04(SD80) を切る。　**掘込面**　削平。　**検出面**　VIII 層上面。（地山）　**埋土**　G ～ H 層の 2 層に分けられ、G 層は暗褐色土に褐色シルトブロックや炭化物を含み、多量の



第99図　SE（井戸）03/SK（土壙）129・139/SP（柱穴）1474出土遺物



第 100 図　SE03 出土遺物 (2)

礫と土器を含む。H 層は明黄褐色シルトに多量の暗褐色シルトを含む。 **壁・底の状態** 壁はややきつく立ち上がり、底面はほぼ平坦である。 **出土遺物** (第 102 図・表 6・10) 242・243 は須恵器坏身である。口径 10.6 ～ 10.8cm、器高 4.3 ～ 4.6cm、最大径 12.4 ～ 13.2cm を測る。247 は明オリーブ灰色を呈する砥石で、四角柱状短冊形で 6 面に使用が認められ、全長 12.5cm を測る。ほかに須恵器坏蓋、壷、甕、土師器高坏、壷、甕の口縁部等が出土している。

SK-21(第 101 図)

位置 調査区中央西側。 **平面形** 長楕円形。 **軸方向** N16° W。 規模 長軸 2.33m。短軸 1.5m。 **深さ** 0.3m。 **重複関係** SK20 を切る。 **掘込面** 削平。 **検出面** VIII 層上面。(地山) **埋土** E ～ F 層の 2 層に分けられ、E1 ～ 2 層は暗褐色土に明黄褐色シルトや礫を含む。F1 層は暗褐色土に多量の明黄褐色シルトブロックや礫を含む。 **壁・底の状態** 壁は緩やかで、底面はほぼ平坦である。 **出土遺物** 須恵器坏蓋、甕の体部、韓式土器、土師器片が出土している。

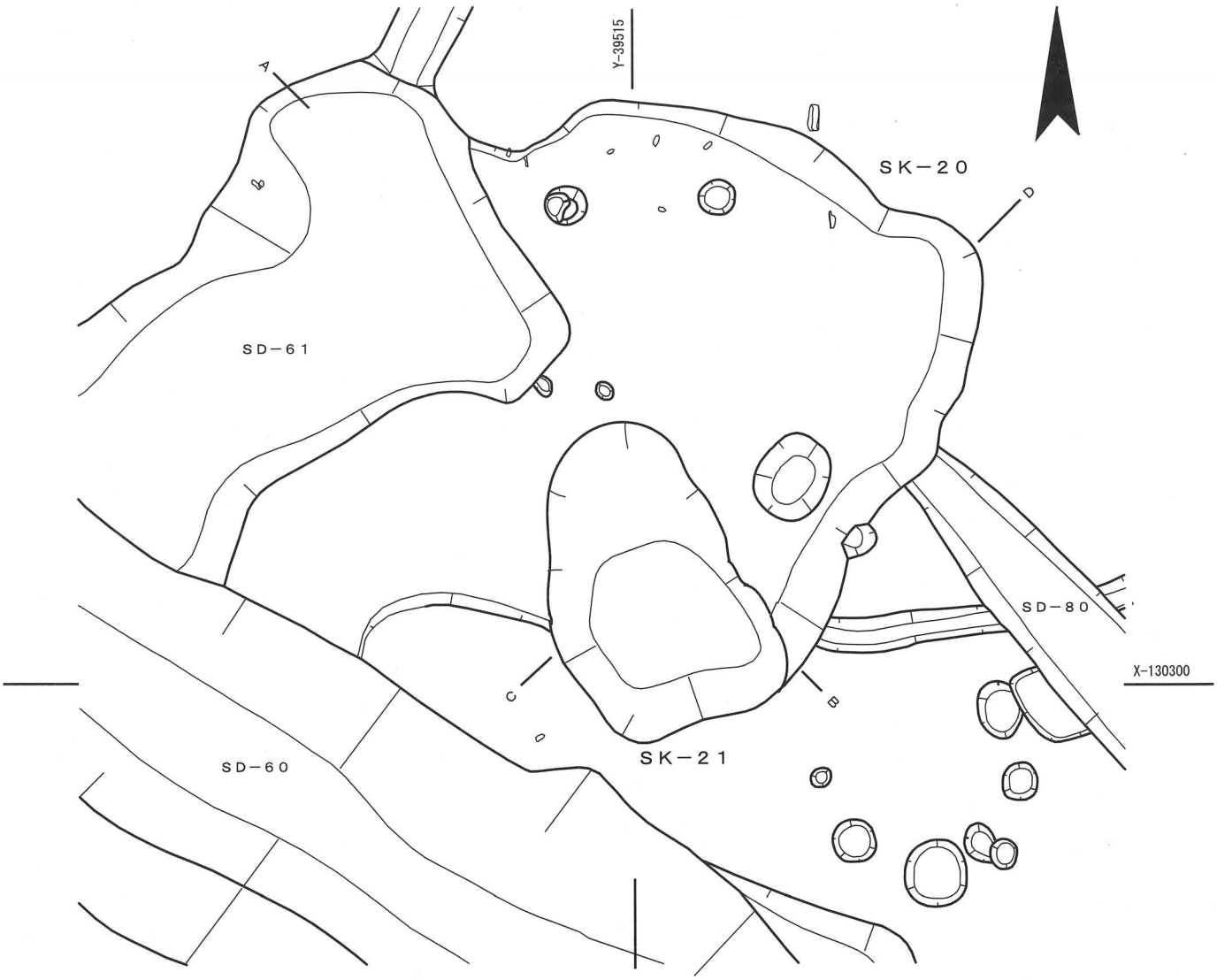
SK-23(第 3・102 図)

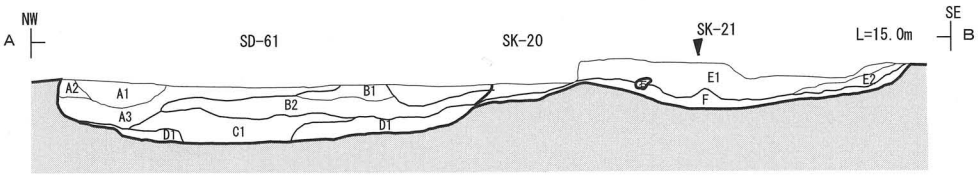
位置 調査区北西隅。 **平面形** 楕円形。 **軸方向** 不明。 **規模** 東西 4.75m ～。南北 4.55m。 **深さ** 0.3m。 **重複関係** SZ02(SD65・66) を切る。 **掘込面** 削平。 **検出面** VIII 層上面。(地山) **埋土** A ～ B 層の 2 層に分けられ、A1 ～ 2 層は褐色土～にぶい黄褐色土に黄褐色シルトや礫、土器を含む。B1 層はにぶい黄褐色土に明黄褐色シルトブロックや炭化物を含む。 **壁・底の状態** 直壁気味に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。 **出土遺物** (第 102 図・表 6) 238 は須恵器坏蓋で復元 (口径)13.6cm、器高 4.3cm を測る。241 はやや扁平な須恵器坏身で、復元口径 13.0cm、器高 3.8cm、最大径 15.4cm を測る。246 は須恵器甕の大きくラッパ状に開く口縁部である。口径 36.0cm ～を測り、平行沈線間に波状文を 2 段施し、さらに上段の波状文の上からカキメを施す。

(XVIII) SK-127・129・130 ～ 134・136 ～ 140(土壙)ほか

SK-127・129・130 ～ 134・136 ～ 140(土壙) は調査区中央南側に位置している。土壙の平面形は楕円・方形に大きく分類され、楕円形を呈するものは SK127・130 ～ 133・136・140、方形を呈するものは 129・137 ～ 139 である。特に SI21・22・SE02・03 周辺は切り合いが著しい。SK136 は SK129・130 に切られる。SK138 は SK137・139 を切る。SK140 は SK129・139 を切る。SI21 は SK129 を切る。SE03 は SI21・SK129 を切る。いずれも埋土は黒褐色土を主体とし、褐色～黄褐色シルトを含む。土壙群の深さは 0.1 ～ 0.3m 以内に収まる。 **出土遺物** (第 99 図 227・230・234・235/ 表 5・6) 227 は 5 世紀末～ 6 世紀初頭頃の (TK23)SK139 出土の須恵器坏身で、復元 (口径)11.2cm、器高 5.1cm、最大径 13.0cm を測る。230・234・235 は SK129 出土で、230 は須恵器有蓋高坏の坏蓋で口径 12.9cm、器高 5.7cm を測る。234・235 は土師器壷・甕の口縁部～体部上半である。内外面にハケメを施す。SK130 から波状文の入った須恵器有蓋・無蓋高坏、胎土が暗灰色を呈する蓋、甕片、土師器片、SK133 から 6 世紀後半 (TK10 ～ 43) 頃の須恵器坏身、壷口縁部、甕片、土師器高坏の脚部、SK136 から波状文の入った須恵器壷口縁、坏身、甕、土師器片、SK137・138 から須恵器坏蓋、甕体部、土師器片等が出土している。これら土壙群の出土遺物の上限は 5 世紀中頃、下限は 6 世紀後半頃とみられる。

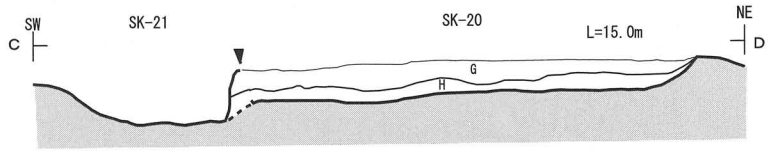
これら以外にも SK111(第 102 図 240)・SP1412(第 103 図 253) から須恵器坏身や SP1474(第 99 図 232)・SP1406(第 102 図 244) から須恵器有蓋高坏、SP1481(第 102 図 245) から口縁部を欠損した須恵器短頸壷が出土している。244 は短脚の脚部に径 1.3cm の円形透孔が 3 つ開いており、口径 (10.2cm)、器高 9.8cm、最大径 (12.4cm)、底径 9.3cm、坏部高 5.0cm、脚部高 4.8cm を測る。245 は体部中程に最大径を有し、体部外面にカキメ、下半に平行タタキを施す。253 は底部外面に多量の煤が付着する。





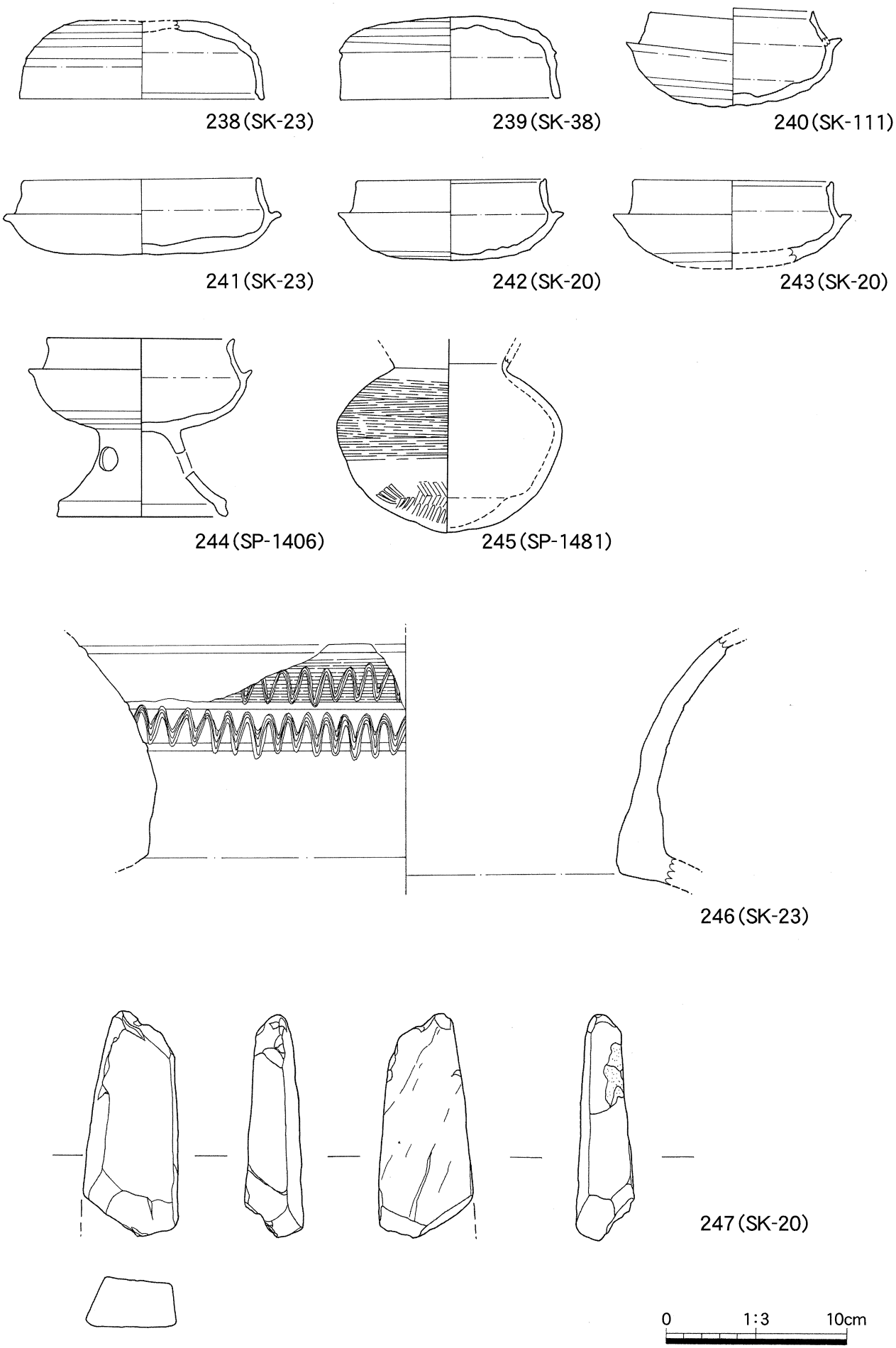
SD-61
A1:Sicl10YR4/1,Sil7.5YR4/6　粒　10-15%　中-軟　中-密　1cm大ｶｰﾎﾞﾝ中　～1.5cm大礫少
A2:Sicl10YR4/1,Sil7.5YR4/6　粒　40%　中-軟　中-密　0.3cm大ｶｰﾎﾞﾝ少
A3:Sicl10YR4/1,Sic2.5YR5/4　粒～ﾌﾞﾛｯｸ　10-20%　1cm大ｶｰﾎﾞﾝ中　0.5cm大礫少-中　中-軟　密
B1:Sicl10YR3/1,Sil10YR5/6　粒～2cm大ﾌﾞﾛｯｸ　25-30%　～0.3cm大礫多　焼土粒(人為)　中-軟　中-密
B2:Sicl10YR3/1,Sil10YR5/6　粒～2cm大ﾌﾞﾛｯｸ　15-20%　～1cm大礫多　焼土粒(人為)　中-軟　中-密
C1:Sicl10YR5/6,Sic2.5Y7/6　粒～3cm大　30-40%　Hc10YR4/1　3-5cm大　35%　軟　中-疎　～0.5cm大礫多
D1:Sl2.5Y7/6,Sicl10YR2/1　粒～層状　5-7%　3-5cm大礫多

SK-21
E1:Sicl10YR3/3,Sil10YR6/8 粒～0.5cm大 10%
中-軟　中-密1cm大礫少量含。
E2:Sicl10YR3/3,Sil10YR6/8　～1cm大　15-20%
中-軟　密　1cm大礫　やや多く含。
F1:Sicl10YR3/3,Sil10YR6/8 1～2cm大ブロック
30～40% 中-硬　密　1cm大礫少量含。



SK-20
G:Sicl10YR3/3,Sil10YR4/6　0.3-0.7cm大ﾌﾞﾛｯｸ　10%　～1cm大ｶｰﾎﾞﾝ少　土器多　0.5-3cm大礫多　硬　密
H:Sil10YR6/8,Sil10YR3/3　粒　50-60%　～0.3cm大礫　中-多　中-硬　中-密

第101図　SK（土壙）-20・21平・断面図



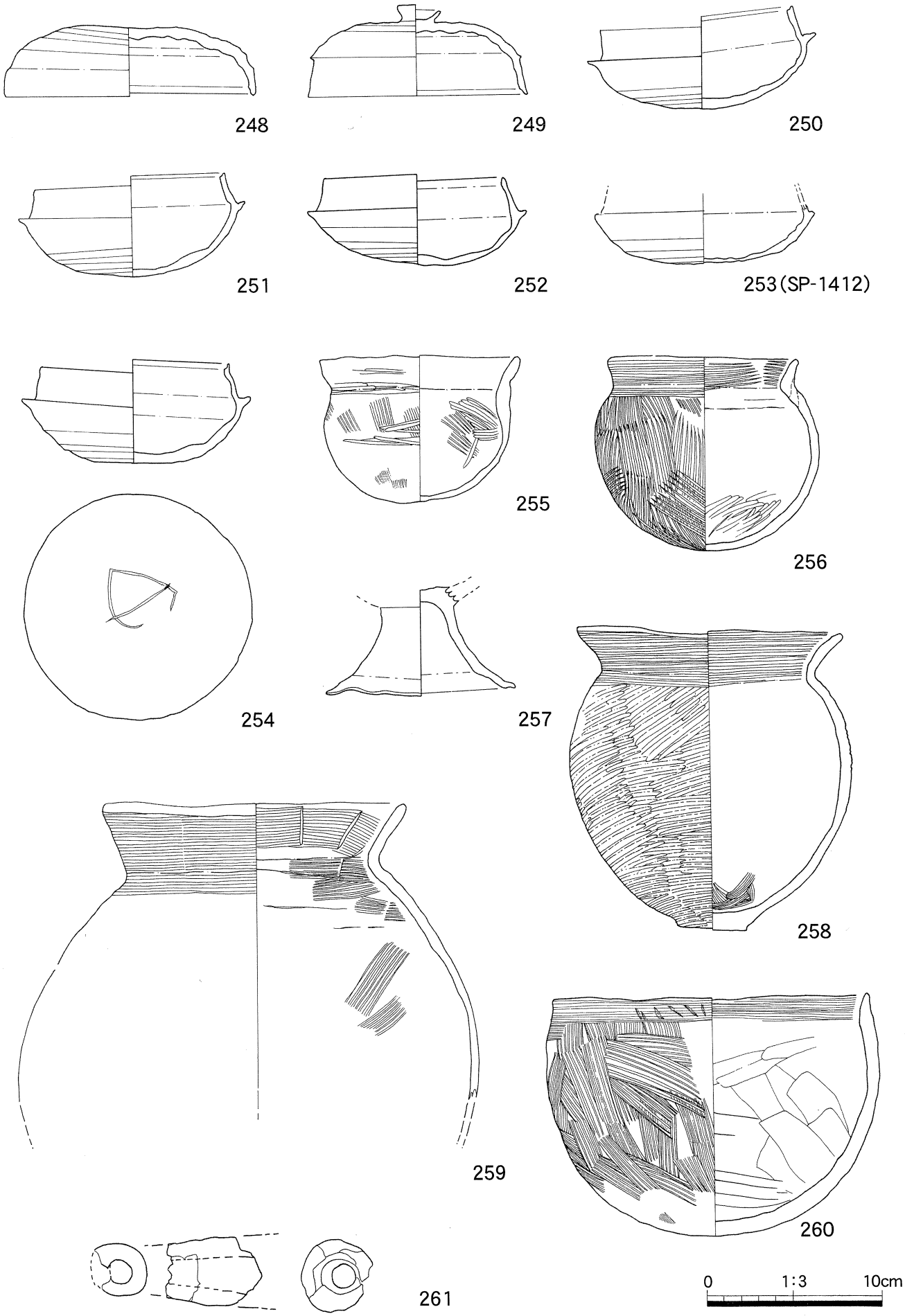
第 102 図　SK（土壙）20・21・23・38・111/SP（柱穴）1406・1481 出土遺物

(XIX) 古墳時代の遺物包含層出土遺物 (第 103 図・表 6)

248 は須恵器坏蓋である。全体的に丸みを帯び、天井部と口縁部の間の稜が見られず、なだらかな曲線を描く。口縁端部も丸く仕上げている。口径 14.2cm、器高 4.0cm を測る。249 は須恵器有蓋高坏の蓋である。口径 (12.6cm)、器高 5.3cm を測る。250 ～ 252・254 は須恵器坏身である。口径 10.4 ～ 11.3cm、器高 4.2 ～ 5.7cm、最大径 12.4 ～ 13.2cm を測る。254 は底部外面にヘラ描き記号「△?」が刻印される。255・256 は土師器小型丸底鉢である。255 は最大径を短く外反する口縁部に有し、口径 11.4cm、器高 8.3cm を測り、口縁部外面に (ヨコ) ヘラミガキ、体部は内外面ともにハケメ後ヘラミガキを施す。256 は最大径を体部中央に有し、短く直口する口縁部が付く。口径 10.8cm、器高 11.0cm、最大径 12.6cm を測り、口径と器高がほぼ一致する。口縁部はハケメ後ヨコナデ、体部は外面ハケメ、内面ヘラミガキを施す。257 は須恵器短脚高坏の脚部である。底径 10.8cm、脚部高 5.1cm を測るが透孔はなく、脚部は「八」の字状に大きく開く。

258 は完形の土師器甕である。前代の弥生時代からの系譜を引く弥生型甕で、脚部は「く」の字に外反する口縁部に球状の体部が付く。底部はやや上げ底風に仕上げ、木葉痕を残す。口径 14.8cm、最大径 16.2cm、器高 17.0cm、底径 4.0cm を測る。口縁部は内外ともにヨコナデ、体部は外面平行タタキ (左下がり)、内面タタキ後ナデを施す。259 は口縁部が短く直口する土師器壷で口縁部～体部下半にかけて残存する。口径 16.7 ～ 17.3cm、最大径 26.4cm を測る。体部上半の外面には煤が付着する。260 は丸底の土師器鉢である。内面の口縁部～体部上半に丹塗り痕跡が見られる。歪みが大きく、口径 14.0 ～ 20.8cm、器高 13.5cm を測る。

口縁部は内外ヨコナデ、体部は外面ハケメ、内面ハケメ後ヘラケズリ、ナデを施す。261 は I-1G (グリッド)、2 面上層から出土した鞴 (フイゴ) の羽口である。残存する長さは 5.4cm ～、幅 3.0 ～ 3.9cm、孔径 1.4 ～ 2.1cm、器壁の厚さ 0.65 ～ 1.1cm を測る。両側共に欠損する。



第 103 図　古墳時代遺物包含層出土遺物

(3) 古代

(I) SD(溝)74

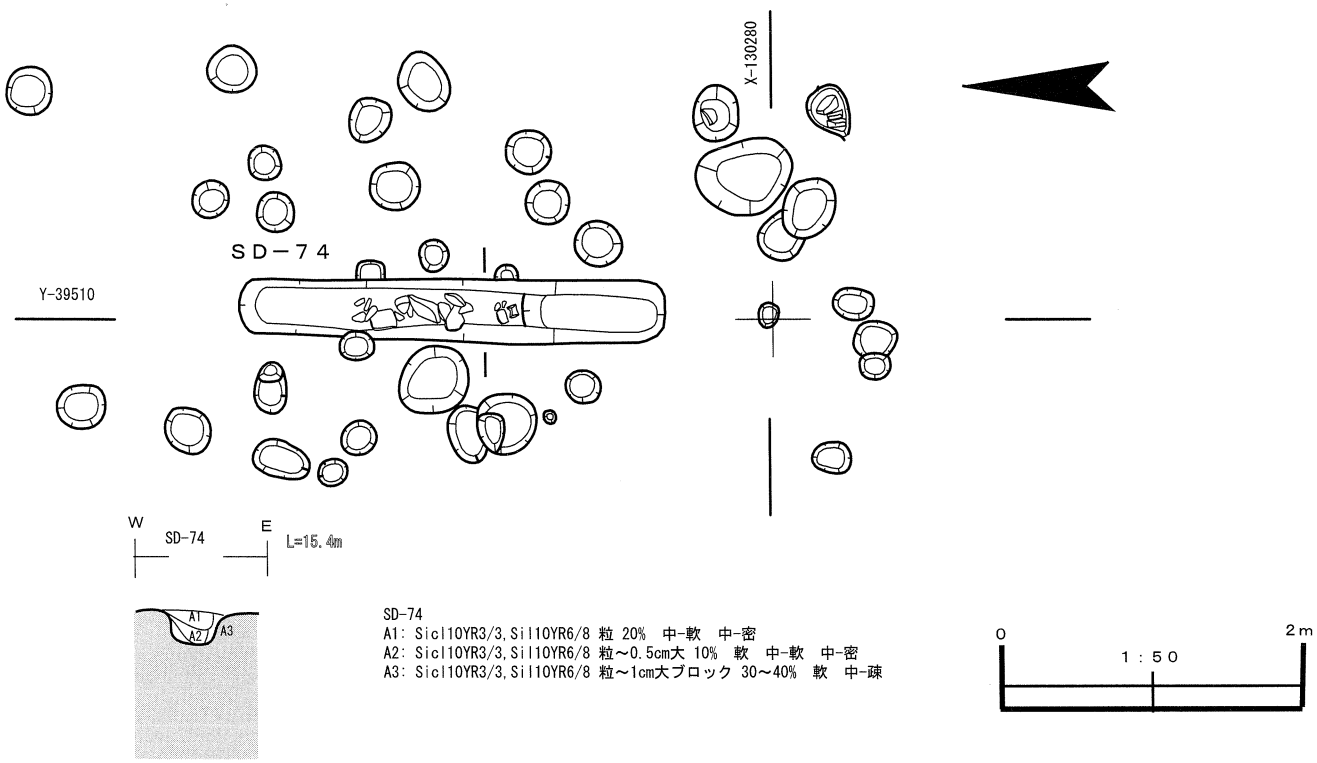
SD(溝)74(第3・104・105図)

位置 調査区北西部。 **軸方向** N1° E。 **規模 全長** 2.85m。**幅** 0.37～0.42m。**深さ** 0.23m。 **断面形** 箱形。 **重複関係** なし。 **掘込面** 削平。 **検出面** VIII層上面。(地山) **埋土** A1～3層まで細分され、暗褐色土に明黄褐色シルトを含む。溝の中央部を中心にA2層から多量の土器が検出された。 **壁・底の状態** 直壁で底面はほぼ平坦。

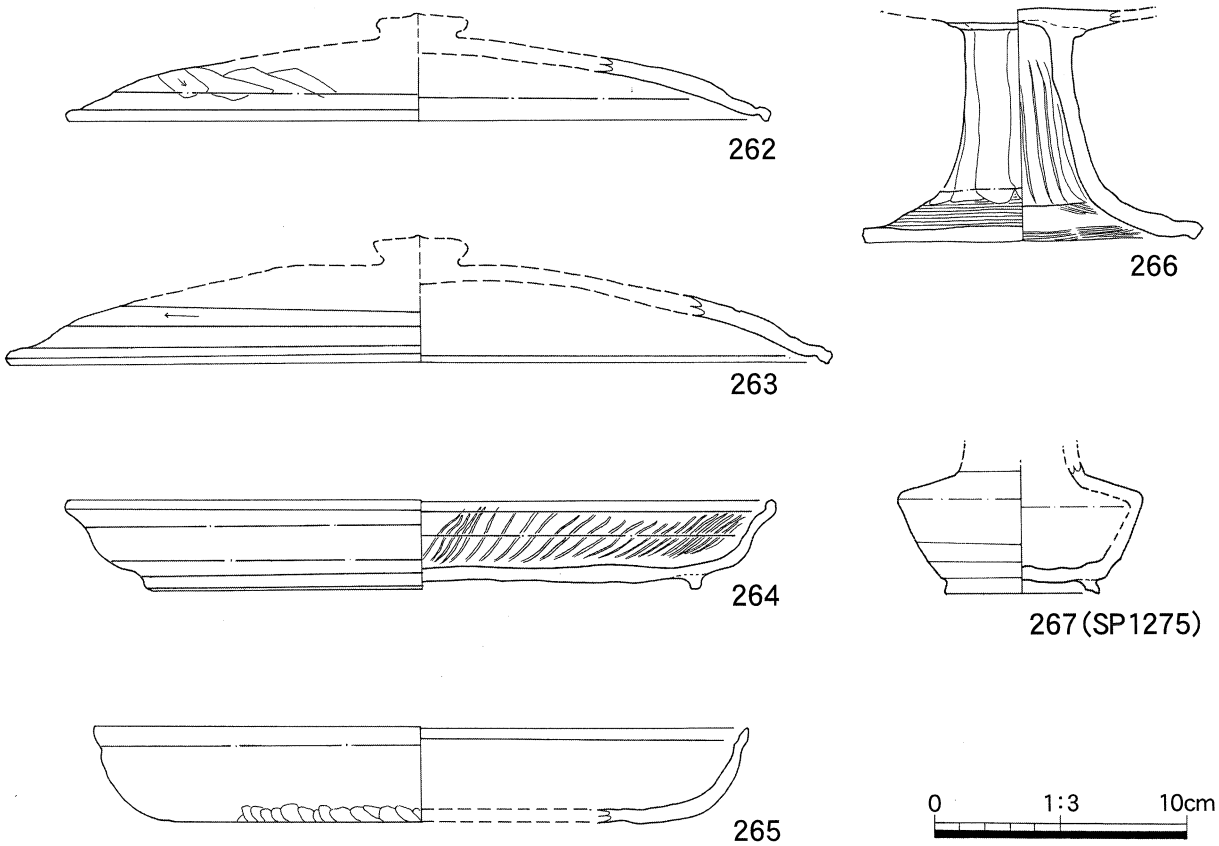
出土遺物(第106図・表6) 262・263は大型の土師器坏蓋で天井部を欠損するが、つまみが付くタイプである。262は復元口径27.8cm、外面は手持ちヘラケズリを施す。263は復元口径32.6cm、外面は回転ヘラケズリを施す。264•265は大型の土師器皿である。264は高台が付き、復元口径28.2cm、器高3.4cm、底径21.4cmを測り、内面は暗文を施す。265は復元口径26.0cm、器高3.7cm、底径19.2cmを測り、底部外面に手持ちヘラケズリを施す。266は脚部のみの土師器高坏で底径14.6cmを測り、外面はヘラケズリ、ナデ、内面はハケメを施す。267はSP1275出土の須恵器瓶で、口縁部を欠損する。底部に高台が付き最大径を肩部に有する。底径6.0cm、最大径9.7cmを測る。

柱穴群(PIT)・古代遺物包含層出土遺物 (第3・106・107図/表6・10)

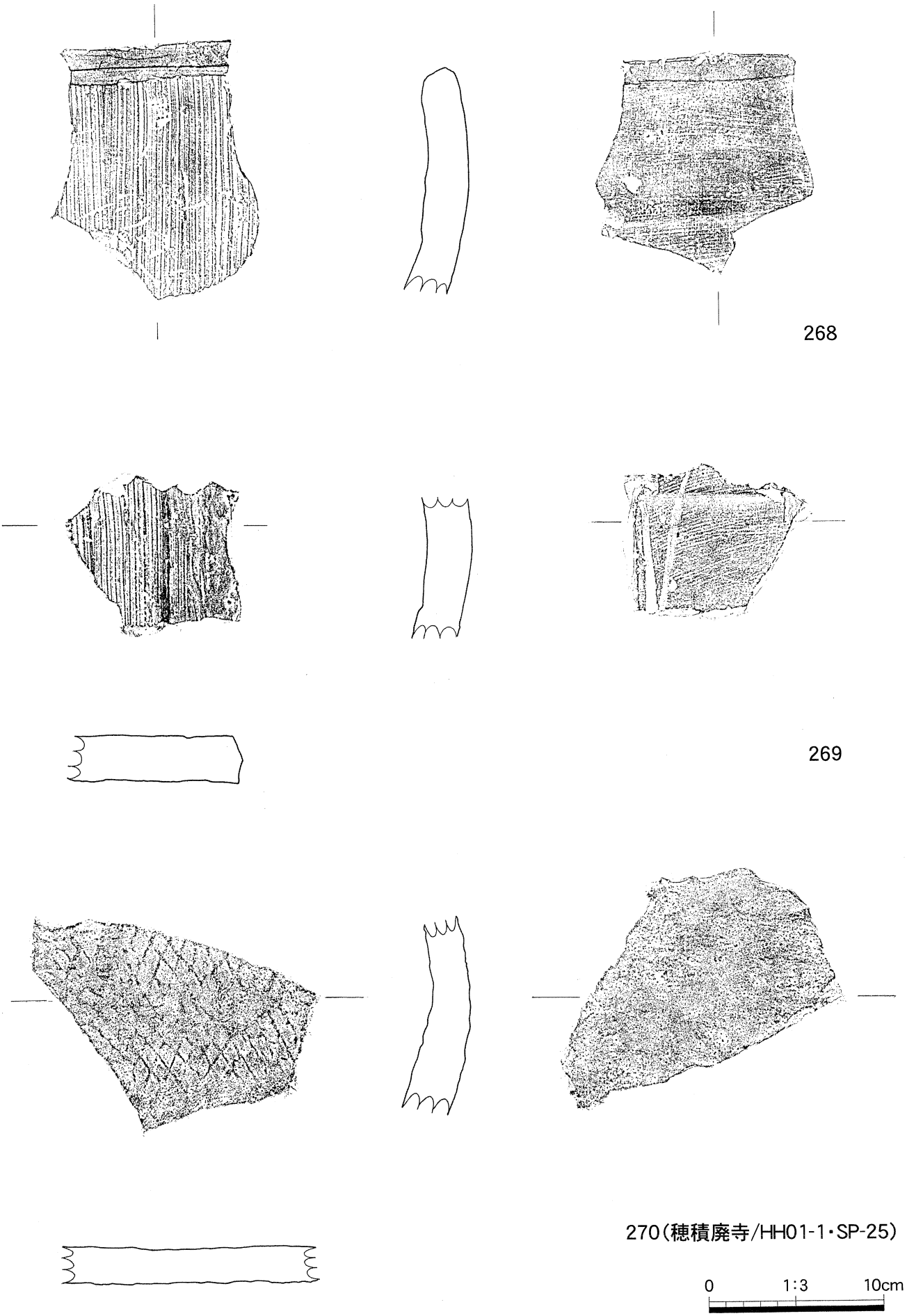
SP308(268)・743(269)から古代の平瓦が出土した。268・269は暗灰～青灰色を呈し重量感のある瓦である。270は古代の瓦の出土例が少ないことや当遺跡からあまり離れていない事などから出土例として掲載した穂積廃寺(HH01-1・SP25/H14年度発掘調査概報)出土の平瓦である。270は淡黄色を呈し、格子目で前者と比較してやや軽めの瓦である。271は須恵器甕の体部で外面に格子タタキを施す。272は平瓦である。273は方形板状の鉄片で、用途不明である。274は須恵器すり鉢である。底径は9.4cmを測り7世紀前半頃のものと思われる。



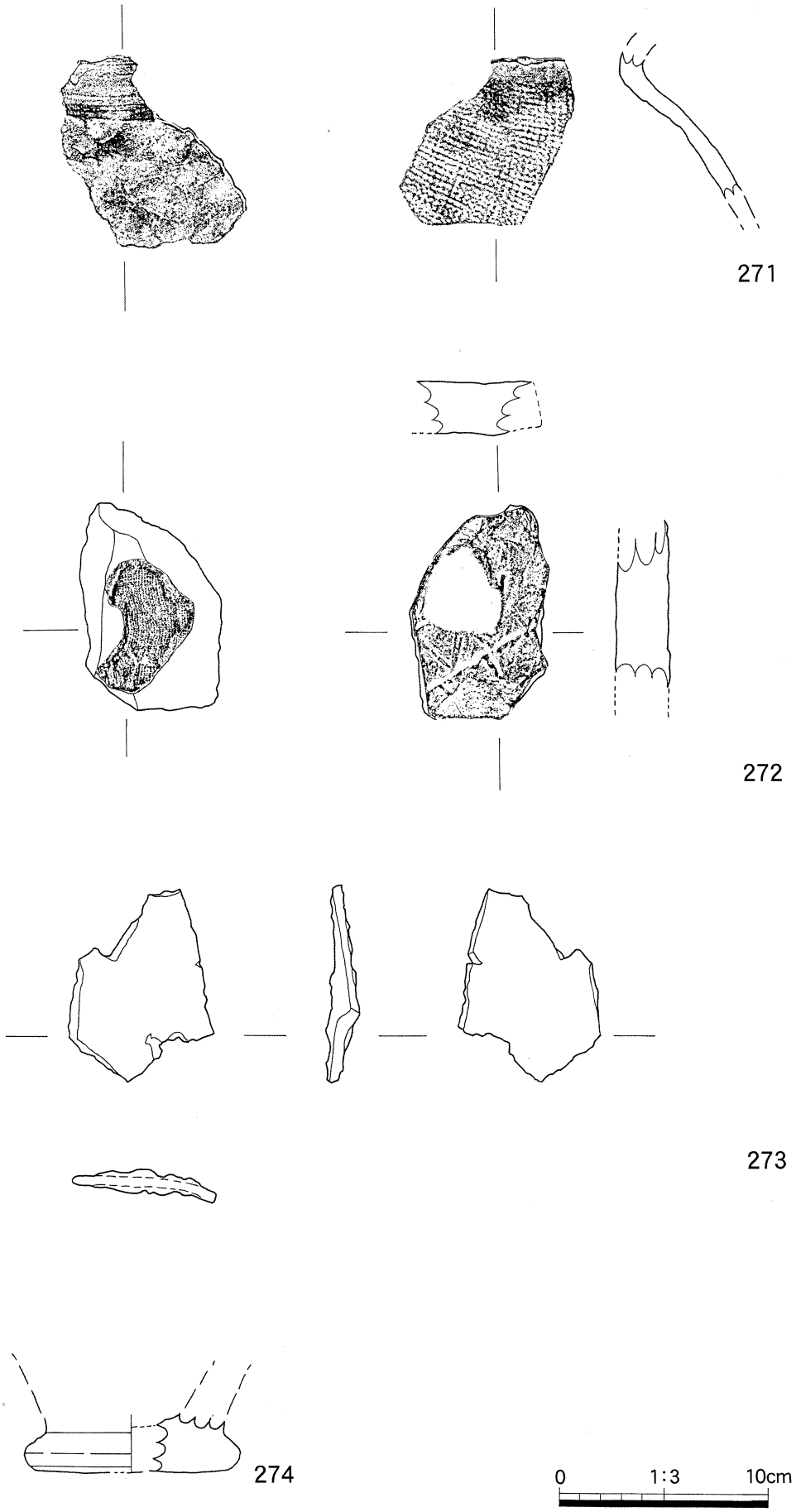
第 104 図　SD-74 平・断面図



第 105 図　SD（溝）74/SP（柱穴）1275 出土遺物



第 106 図　SP（柱穴）305・743/HH01-1（穂積廃寺）SP25 出土遺物



第 107 図　古代及び古代以降遺物包含層出土遺物

(4) 中 世

(I) SB501(掘立柱建物跡)/SD512(溝跡)

SB(建物跡)501(第4・108～115図)

位置 調査区中央北端。 **主軸方向** N3° W。 **規模** 2間×3間(南北棟)3.32m×6.4m。 **柱間寸法** 梁行(東西)1.61m。 桁行(南北)1.9－2.12－2.08m。(北から)**重複関係** なし。 **掘方形状** 方形。(不整方形) **掘方規模** 長軸 0.4～0.75m。 短軸 0.35～0.7m。 **柱痕跡** 円形。 **径** 0.15～0.22m。 **深さ** 0.28～0.5m。 **掘込面** 削平。 **検出面** V層上面。

埋土 A～C層の3層に大別されA層は柱痕跡、B～C層は掘方の埋土である。A層はA1～2層に細分され、黒褐色土に褐色シルトや炭化物、土器を含みややしまりがない。B1～2層は暗褐色土に黄褐色シルトブロックと炭化物を含みややしまりがある。C1層は暗褐色～褐色土に多量の明黄褐色～にぶい黄橙色シルトブロックを含み、しまりがある。

出土遺物(第110図/表6・7) 遺物はすべての柱穴から出土している。(SP番号があるものが該当)275～287は瓦器椀である。275・276はSP481、277・278はSP469、279～284はSP475、285～287はSP503から出土している。いずれも和泉型で底部には退化した貼付高台が付く。280は内面に暗文を施し、283～285・287は口縁部にヨコナデを施す。また、外面はユビオサエの見られるものも多く、内外面は基本的にヘラミガキ調整を施している。復元(口径)12.7～14.0cm、器高3.2～4.7cm、底径は3.3～4.2cmを測る。285は器高3.2cmと他と比較して低く、明らかに口縁部に稜が見られ外反する。これら瓦器椀は概ね13世紀前半代でおさまるものと思われる。288はSP481出土の土師器皿で、浅黄橙色を呈し復元(口径)8.6cm、器高1.2cmを測り、ナデを施す。289・290はSP475出土で289が瓦質羽釜、290が土師器羽釜である。289は復元(口径)19.6cm、(最大径)27.9cmを測り、暗灰色を呈し内外面にナデを施す。和泉型瓦質土器と思われる。290は復元(口径)26.6cm、(最大径)35.4cmを測り、灰～褐灰色を呈する。外面は口縁部ヨコナデ、体部ナデ、内面は口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデを施す。 **備考** SB501の西側に並走してSD511～513が南北方向に延び、SD512とは1.6～1.74mの距離をあけ、SD521は南側に並走し東西方向に伸びる。SD512とは1.1～1.2mの距離である。意図的に配置されたことが窺える。

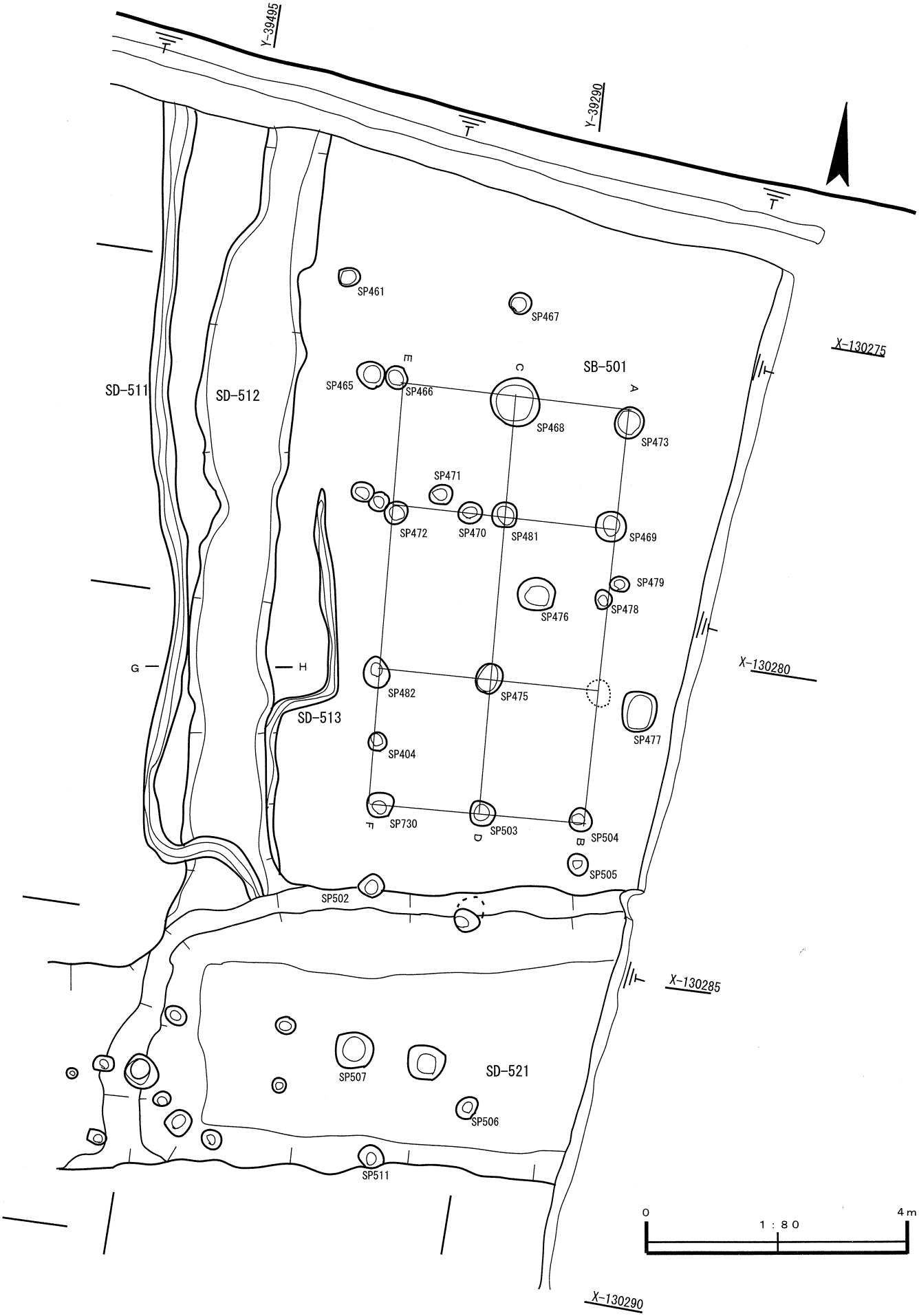
SD(溝跡)512(第4・108・109図)

位置 SB501の西隣。 **主軸方向** N3° W。 **規模** **全長** 12.4m～。 **幅** 0.96～1.6m。 **深さ** 0.13m。 **断面形** 逆台形。 **重複関係** SD512・521に切られる。SD513を切る。 **掘込面** 削平。 **検出面** V層上面。 **埋土** A～B層に分けられ、A層は灰黄褐色土に暗褐色シルト質埴土や炭化物を含む。B層は灰黄褐色土に暗褐色ブロック土を含む。 **出土遺物** 土師器皿・瓦器椀の破片が出土している。

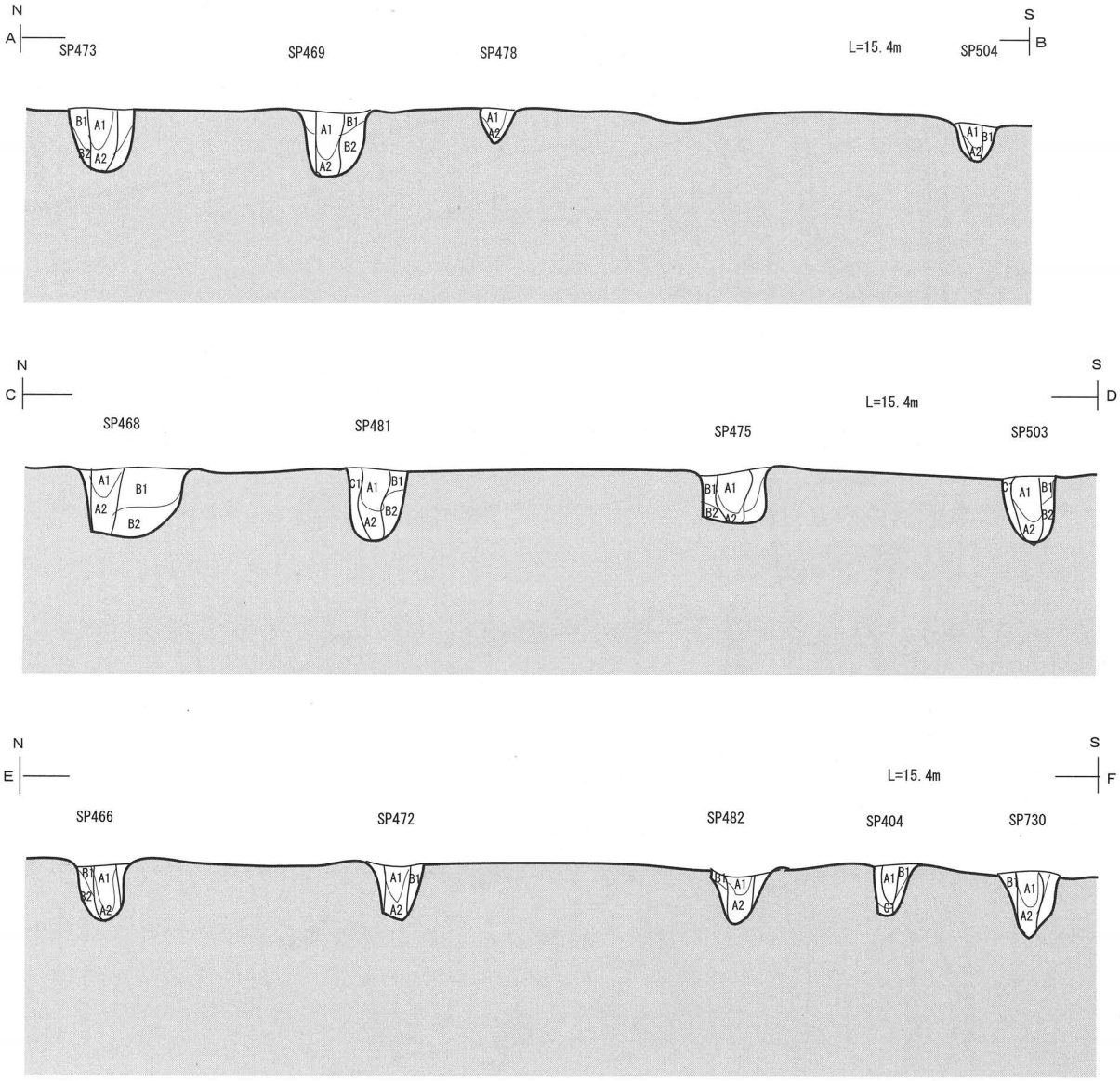
(II) SB502～507(掘立柱建物跡)/SC501(柱列)/ピット群(第4・110図)

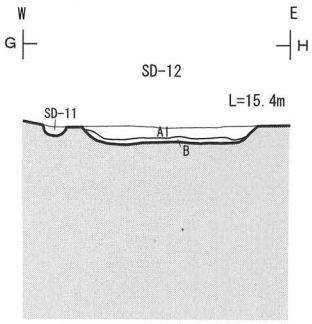
SB502は1間×3間の南北棟で調査区北西端に位置し、主軸はN3° W、建物規模は南北3.9m×東西2.1mを測る。SB503は2間×2間の東西棟で調査区北東端に位置し、主軸はN83° E、建物規模は東西5.1m×東西3.3mを測る。SB504は1間×5間の南北棟で調査区中央南側に位置し、主軸はN1° E、建物規模は南北8.0m×東西2.0mを測る。SB505は2間×3間～の南北棟で調査区中央に位置し、主軸はN2° W、建物規模は南北3.2m～×東西4.0mを測る。SB506は2間×2間～の南北棟で調査区中央に位置し、主軸はN2° W、建物規模は南北3.7m～×東西4.0mを測る。SB507は調査区中央南側(第93図参照)に位置し、主軸はN85° W、建物規模は不明である。SC(柱列) 501は5間で南北方向に伸び、調査

区中央に位置し、主軸は真北で南北 12.2m を測る。これらの出土遺物は土師器皿や瓦器椀等で細片が多い。また、建物跡を構成すると思われるピット群からも多数遺物が出土している。(第 110 図 291 ～ 310/ 表 7・10)291 ～ 297 は「て」の字状口縁を呈する土師器皿である。291 は SP240 出土で口径 9.9cm、器高 1.3cm、292 ～ 294 は SP645 出土で (口径)9.2 ～ 10.6cm、器高 0.7 ～ 1.2cm、295 は SP1448 出土で、口径 9.7cm、器高 1.6cm、296 は SP751 出土で (口径)9.2cm, 器高 1.3cm、297 は SP730 出土で、口径 10.3cm、器高 1.3 ～ 1.9cm を測る。298 ～ 303・305・306 は黒色土器椀で、304 は瓦器椀である。298 ～ 303・305・306 は SP730 出土で口径 15.2 ～ 16.2cm、器高 4.6 ～ 5.4cm、底径 4.6 ～ 5.8cm を測る。304 は SP1448 出土で (口径)13.4cm を測る。298・302・303 は口縁部内面に沈線、301 ～ 303 はヨコナデがみられる。いずれも内外面ともにヘラミガキを施す。これら土師器皿・黒色土器・瓦器椀は 10 世紀後葉～ 11 世紀代のものと思われる。307 は SP119 出土の施釉陶器の小坏である。308 は SP349 出土の施釉陶器の四耳壷の底部と思われる。309 は SP1317 出土の鉄釘で、全長 3.2cm を測る。310 は SP05 出土の方形板状の鉄片で湾曲している。



第 108 図　SB-501（建物跡）平面図





SP-469/475/481/730　地鎮祭関連？
A1: Sicl10YR3/2, Sil10YR4/6 粒 15～20%　軟　中-疎　0.2～0.5cm大炭化物やや多く含。土器多量出土。柱痕跡
A2: Sicl10YR3/2, Sil10YR4/6 粒 30%　中-軟　中-疎　0.2～0.5cm大炭化物少量含。土器出土。柱痕跡
B1: Sicl10YR3/3, Sil10YR5/6 粒～1cm大ブロック　中-軟　中-密　～0.2cm大炭化物少量含。掘方埋土
B2: Sicl10YR3/3, Sil10YR5/6 粒～3cm大ブロック　中-硬　中-密　～0.2cm大炭化物少量含。掘方埋土
C1: Sicl10YR3/4, Sil10YR6/6 粒～1cm大ブロック HC10YR7/2 1～3cm大ブロック 20%　中-硬　密　掘方埋土

SP-466/468/472/473/482/503/504
A1: Sicl10YR3/2, Sil10YR4/6 粒 20%　軟　中-疎　0.2～1cm大炭化物やや多く含。土器出土。柱痕跡
A2: Sicl10YR3/2, Sil10YR4/6 粒 30～40%　軟　中-疎　0.2～0.5cm大炭化物少量含。柱痕跡
B1: Sicl10YR3/3, Sil10YR5/6 粒～1cm大ブロック　中-軟　中-密　～0.2cm大炭化物少量含。掘方埋土
B2: Sicl10YR3/3, Sil10YR5/6 1～3cm大ブロック　中-硬　中-密　～0.3cm大炭化物少量含。掘方埋土
C1: Sicl10YR4/4, Sil10YR6/6 粒～1cm大ブロック HC10YR7/2 1～3cm大ブロック 20%　中-硬　密　掘方埋土

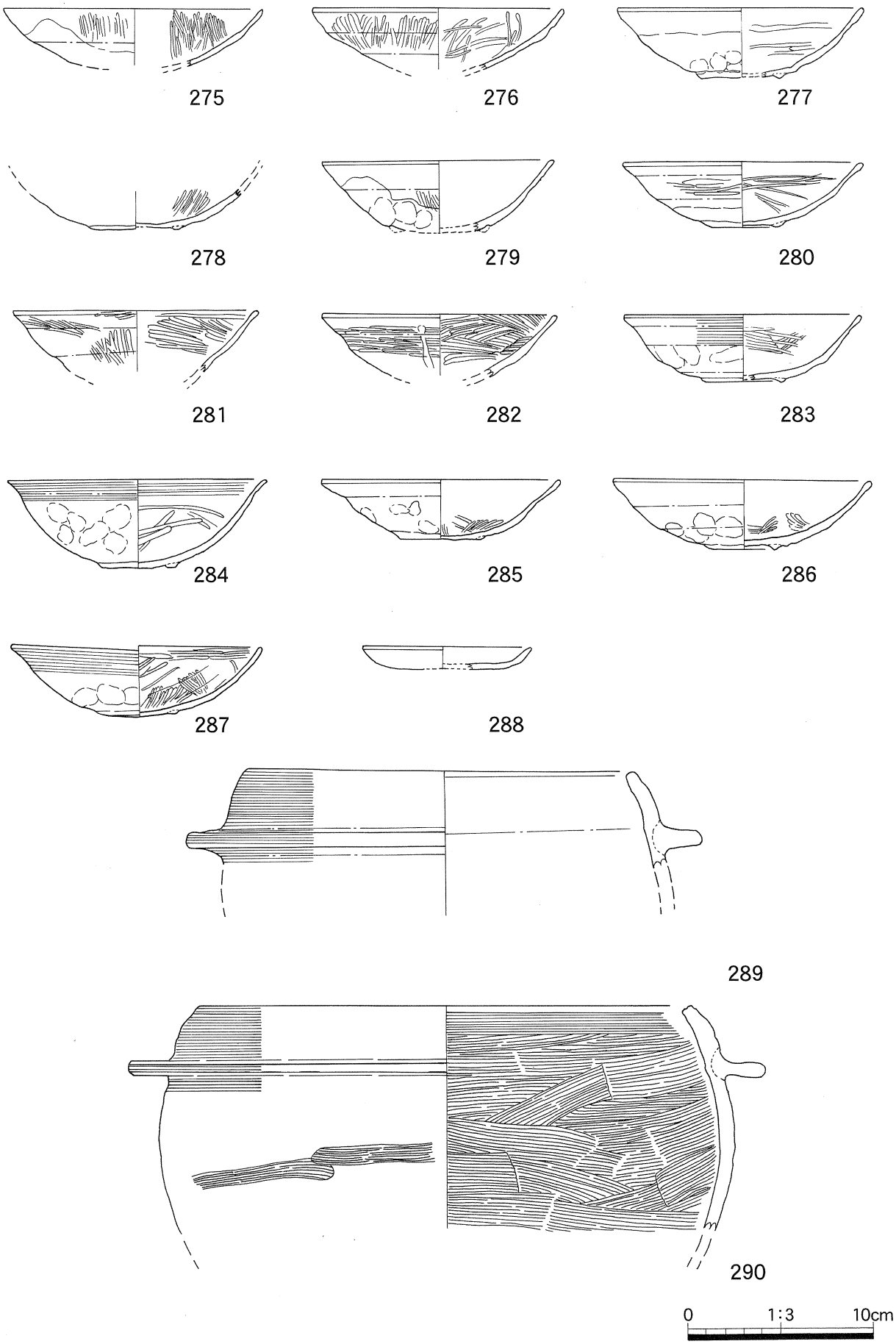
SP-404/478
A1: Sicl10YR3/3, Sil10YR4/6 粒 15%　中-軟　疎　～0.3cm大炭化物少量含。柱痕跡
A2: Sicl10YR3/3, Sil10YR4/6 粒 20-30%　中-軟　中-疎　～0.2cm大炭化物少量含。柱痕跡
B1: Sicl10YR4/6, Sil10YR5/6 粒～1cm大ブロック 25%　中-硬　中-密　堀方埋土
C1: Sicl10YR3/4, HC10YR6/8 0.5～3cm大ブロック 30-40%　中-軟　密　堀方埋土

SD-11
A1: Sicl10YR3/3, Sil10YR6/2 0.5cm大 20-30%　硬　中-密

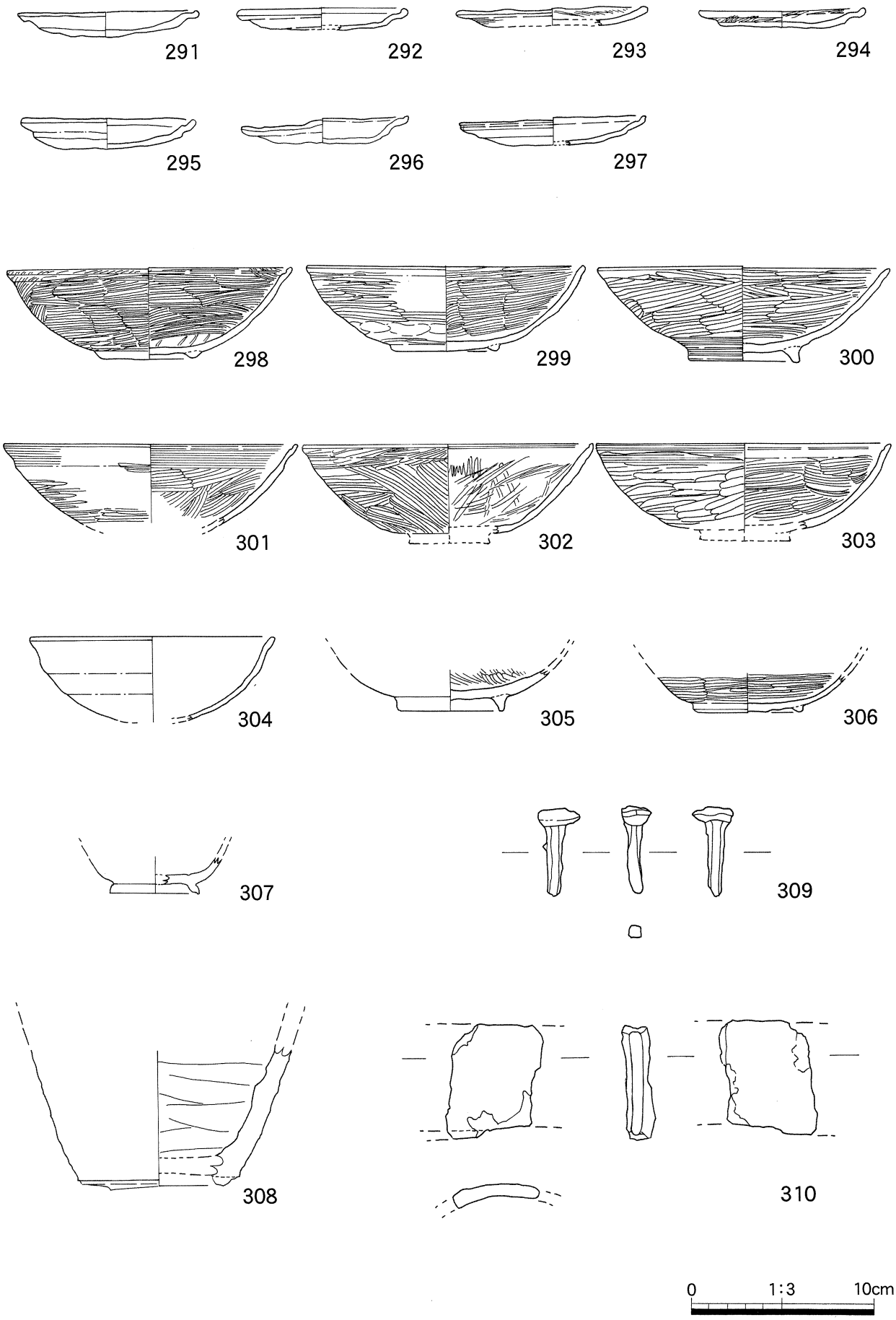
SD-12
A1: Sicl10YR6/2, Sic7.5YR3/3　0.5cm大30%　0.5cm大ｶｰﾎﾞﾝ少　中-硬
B1: Sicl10YR6/2, Sicl10YR3/3　0.5-1cm大ﾌﾞﾛｯｸ

0　1：50　2m

第 109 図　SB-501/SD-512 断面図



第 110 図　SB（建物跡）501 出土遺物



第 111 図　SP（柱穴）5・119・240・349・645・730・1317 出土遺物

(III) SI518(竪穴跡)

SI518(第4・131～134図)

位置 調査区中央北端。 **平面形** 不整方形。 **主軸方向** N2° W。 **規模** 東西 2.53m × 南北 1.97～2.45m。 **重複関係** なし。 **深さ** 床面まで 0.19～0.27m。床面から柱穴底面まで 0.07～0.19m。 **掘込面** 削平。 **検出面** V層上面。 **埋土** A～C層の3層に大別され、A1層は黒褐色土に褐灰色シルト、暗褐色シルトブロック、礫、土器を含む。A2層は黒褐色土に多量の褐灰色シルトと暗褐色シルトブロック、礫、多量の土器を含む。B1層は黒褐色粘土に多量の褐灰色シルト、暗褐色シルトブロック、少量の炭化物や土器を含む。C1層は柱穴埋土で灰黄褐色土に多量の褐灰色粘土ブロックや土器を含む。 **壁の状態** ほぼ直壁。 **床面の状態** ほぼ平坦。 **施設 火床面**なし。**竪穴内土壙** なし。**柱穴** 竪穴内には直径 0.2～0.4mの柱穴が6口、南半部の壁際に集中して見られる。 **周溝** なし。 **床構築土** なし。 **出土遺物**(第113～115図/表7・8) 311～317は土師器皿で口径 9.4～10.2cm、器高 1.4～2.1cmを測り、ナデ・ヨコナデを施す。318•319はやや中型の土師器皿で口径 14.6～15.0cm、器高 2.5～3.5cmを測り、内面はヘラミガキ、外面はヨコナデを施す。320・321・323～331・333・334は瓦器椀である。口径 15.0～15.7cm(復元除く)、器高 4.5～5.4cm(平均)、底径 4.2～5.4cmを測り、高台断面形は台形や三角形で、やや退化傾向が窺える。いずれも12世紀代のものと思われ、樟葉型II段階に相当するものが多数を占める。335は白磁の皿と思われる。336・337は白磁碗で復元口径 18.4～19.2cmを測る。12世紀前半頃のものと思われる。338は土師器甑で底径 9.6cmを測り、底部には焼成前穿孔された楕円形の孔が2つあり、長軸 7.7～8.4cm、短軸 3.3～3.8cmを測る。外面体部下半に煤が付着している。339は礫石器で磨面が5面見られる。340は砥石で4面に擦痕や条痕などの使用痕が見られる。

(IV) SH501(集石遺構)

SH501(第4・135図)

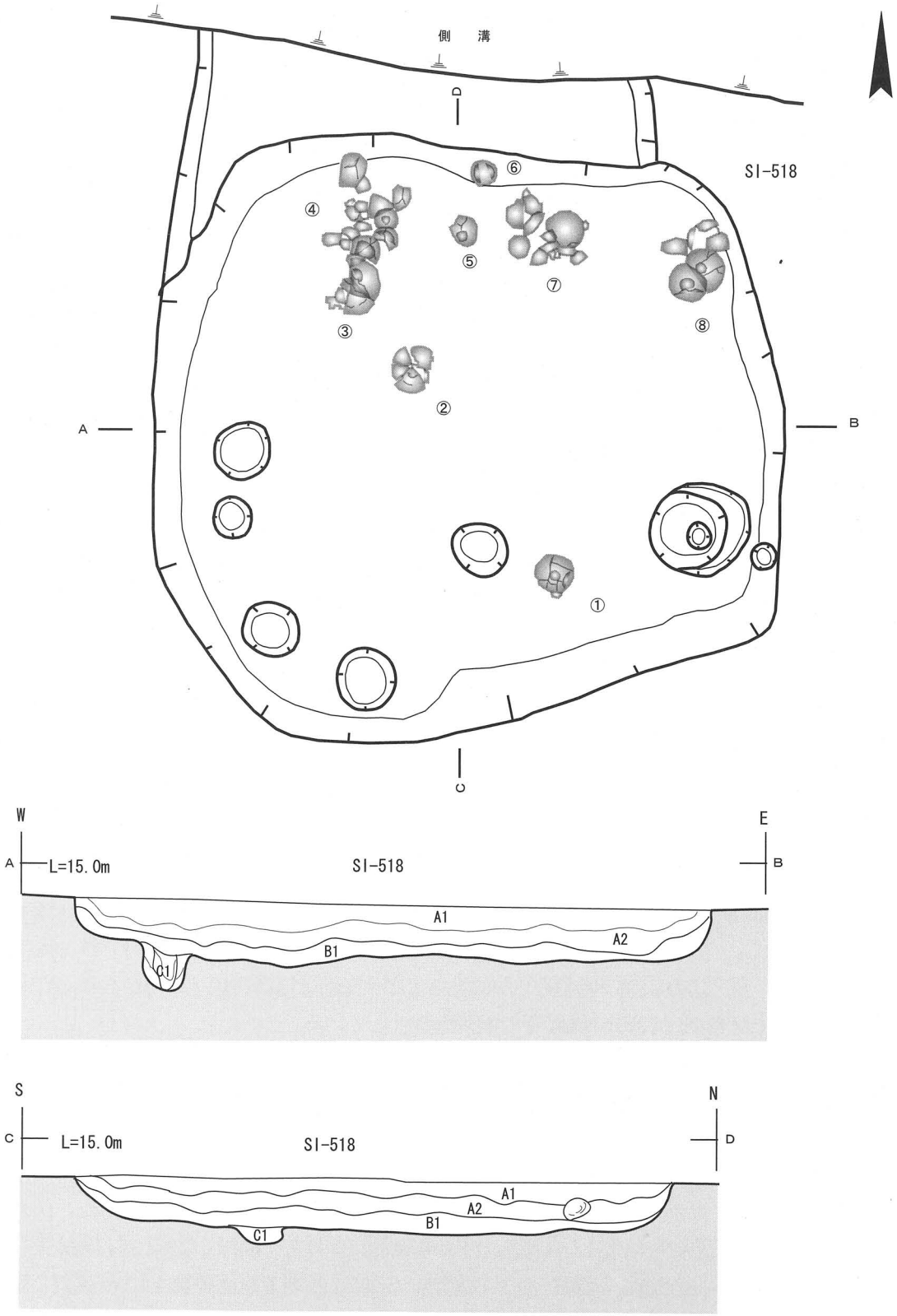
位置 調査区中央北端。 **平面形** 長楕円形。 **主軸方向** N2° W。 **規模** 長軸 1.06m～。短軸 0.94m。 **深さ** 0.14m。 **重複関係** なし。 **掘込面** 削平。 **検出面** V層上面。 **埋土** A1～2層に細分され、暗褐色土に褐色シルトや礫を含む。 **壁・底の状態** 壁は緩やかに立ち上がり底面はほぼ平坦であるが、集石がみられる。 **出土遺物** 瓦器椀、土師器皿、白磁口縁部等の破片が出土している。

(V) SD(溝)521・523・579/SF501(土塁状遺構)

SD(溝)521(第4・117～119図)

位置 調査区北側東端～西端。 **平面形** L字状。 **軸方向** N83° E。 **規模 全長** 東西方向 77.0m～ 南北方向 13m～。 **幅** 2.2~5.3m。調査区中央(SD512合流部分)から東側にかけて一段深くなると共に幅が約5mで一定になる。 **断面形** 逆台形～逆凸形。 **深さ** 0.2~0.87m。SD521西端で底面標高 14.3mに対し東端で13.8mを測り、0.5m程東側が低い。 **重複関係** SD511~513を切る。 **掘込面** 削平。 **検出面** IV~VIII層上面。

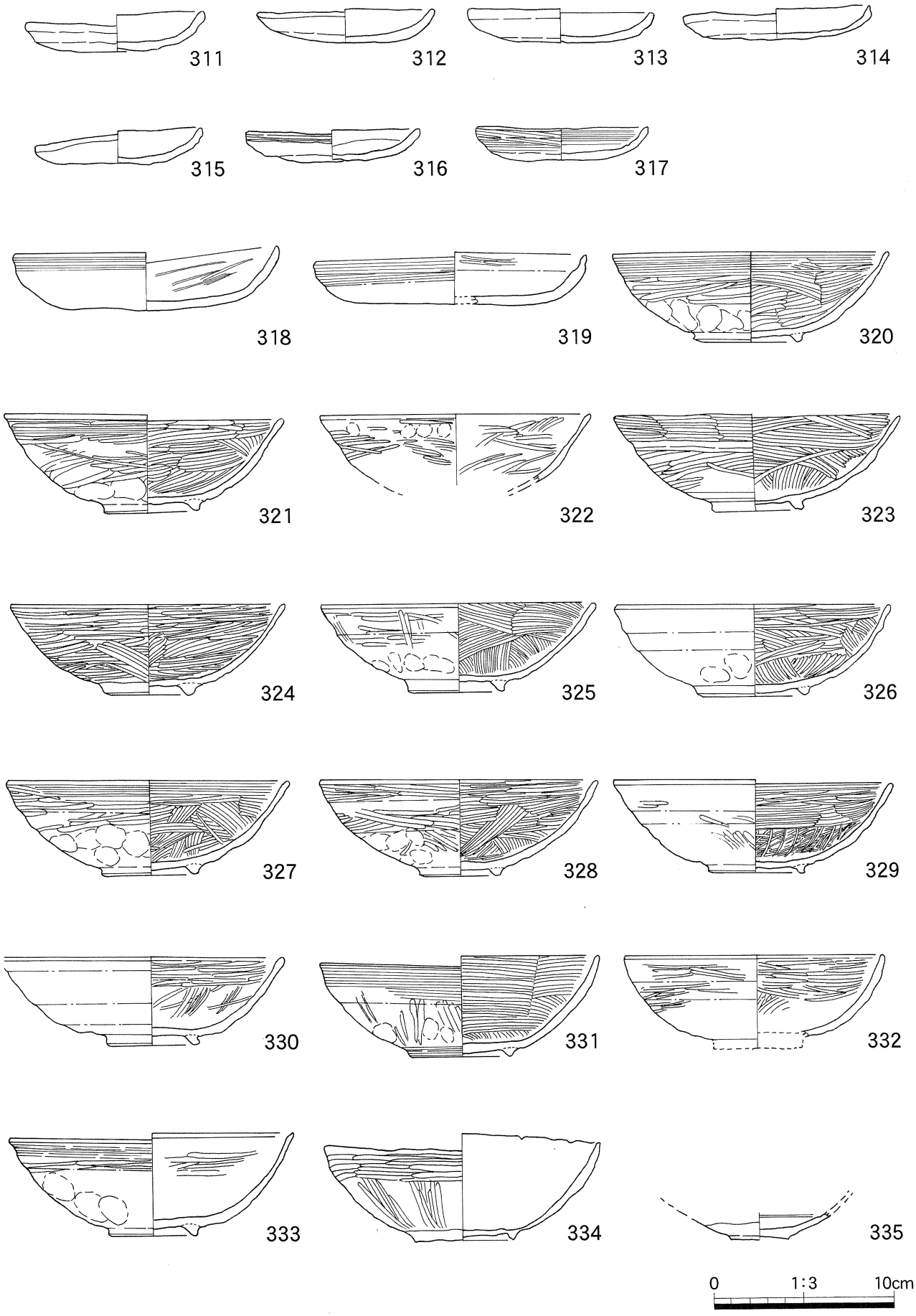
埋土 西調査区の幅 4m未満の部分SD521①・②(A-B断面・C-D断面)と調査区中央～東調査区の幅 5m以上の部分SD521③・④(E-F断面・G-H断面)では埋土の状況が異なっている。SD521①・②はA~H層の8層に大別され、14層に細分される。A1~2層は褐灰色シルトに黒褐色シルトブロックをやや多く含む。A3~5層は褐灰色粘土に黒褐色シルトブロックや炭化物を含む。B1~2層は褐灰色粘土に黒褐色シルト質埴土を含む。C1層は褐灰色粘土に多量の黒褐色シルトブロックを含む。D1層は黒褐色シルト質埴土に黄褐色シルトや礫を含む。E1層は黒褐色粘土に褐灰色粘土や暗褐色シルト質埴土を層状に含む。F1~2層は黒褐色



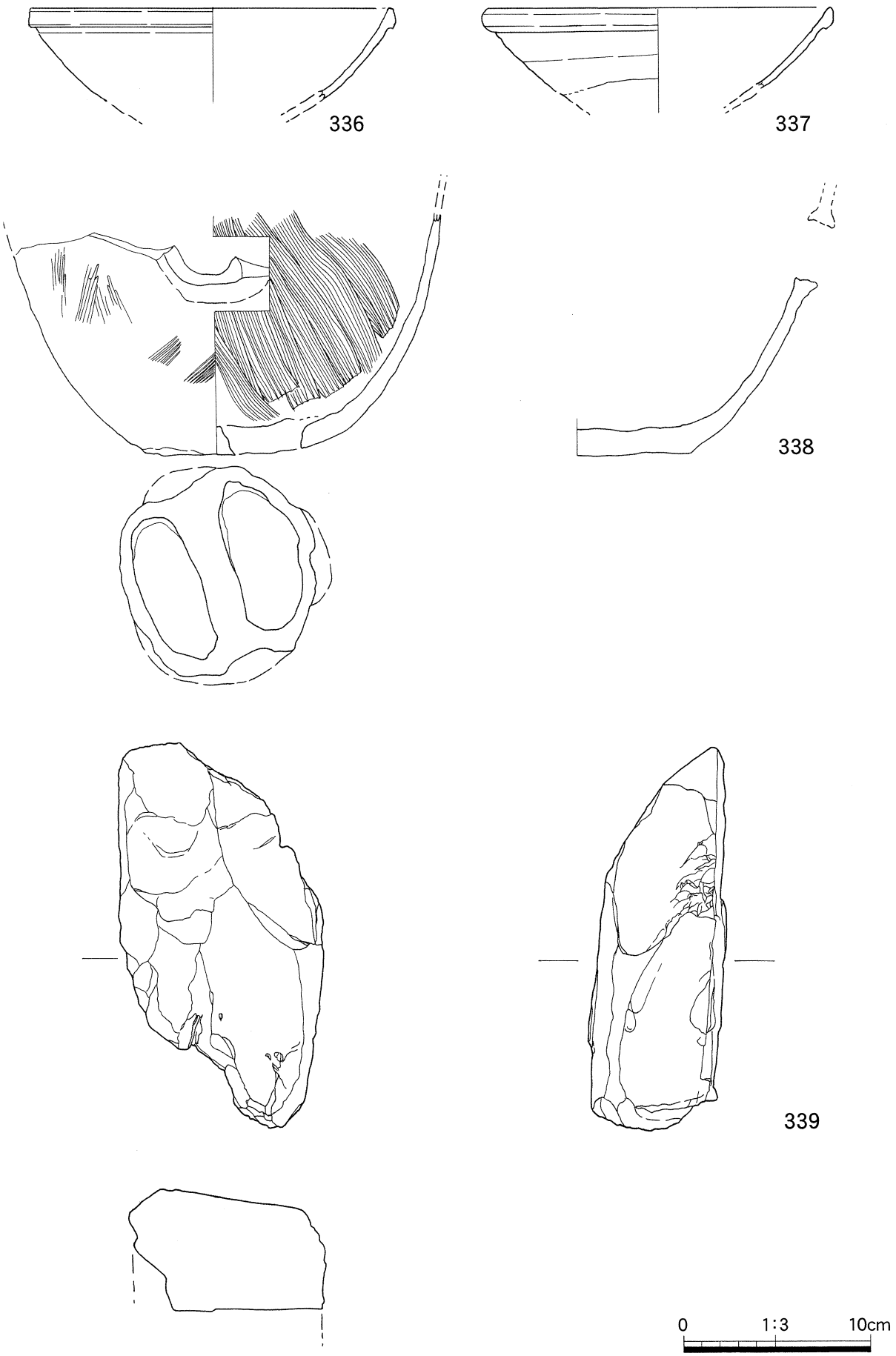
SI-518
A1: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/1 粒 20-30% Sic7.5YR3/4 0.5～1cm大ブロック 20% 中-硬 中-密 0.5cm大白色レキやや多く含，土器少量出土。
A2: Sicl10YR3/2,Sil10YR5/1 粒 40% Sic7.5YR3/4 0.5～1cm大ブロック 30% 中-軟 中-密 0.5cm大白色レキ少量含，土器多量廃棄。
B1: HC10YR3/1,Sil10YR5/1 粒 30-40% Sic7.5YR3/4 0.5～1cm大ブロック 10% 軟 中-疎 0.5～1cm大炭化物および土器少量含。
C1: Sicl10YR4/2,HC10YR5/1～6/1 0.5～1cm大ブロック 30-40% 中-硬 密 ～0.2cm大白色粒および土器やや多く含。

0　1：25　1m

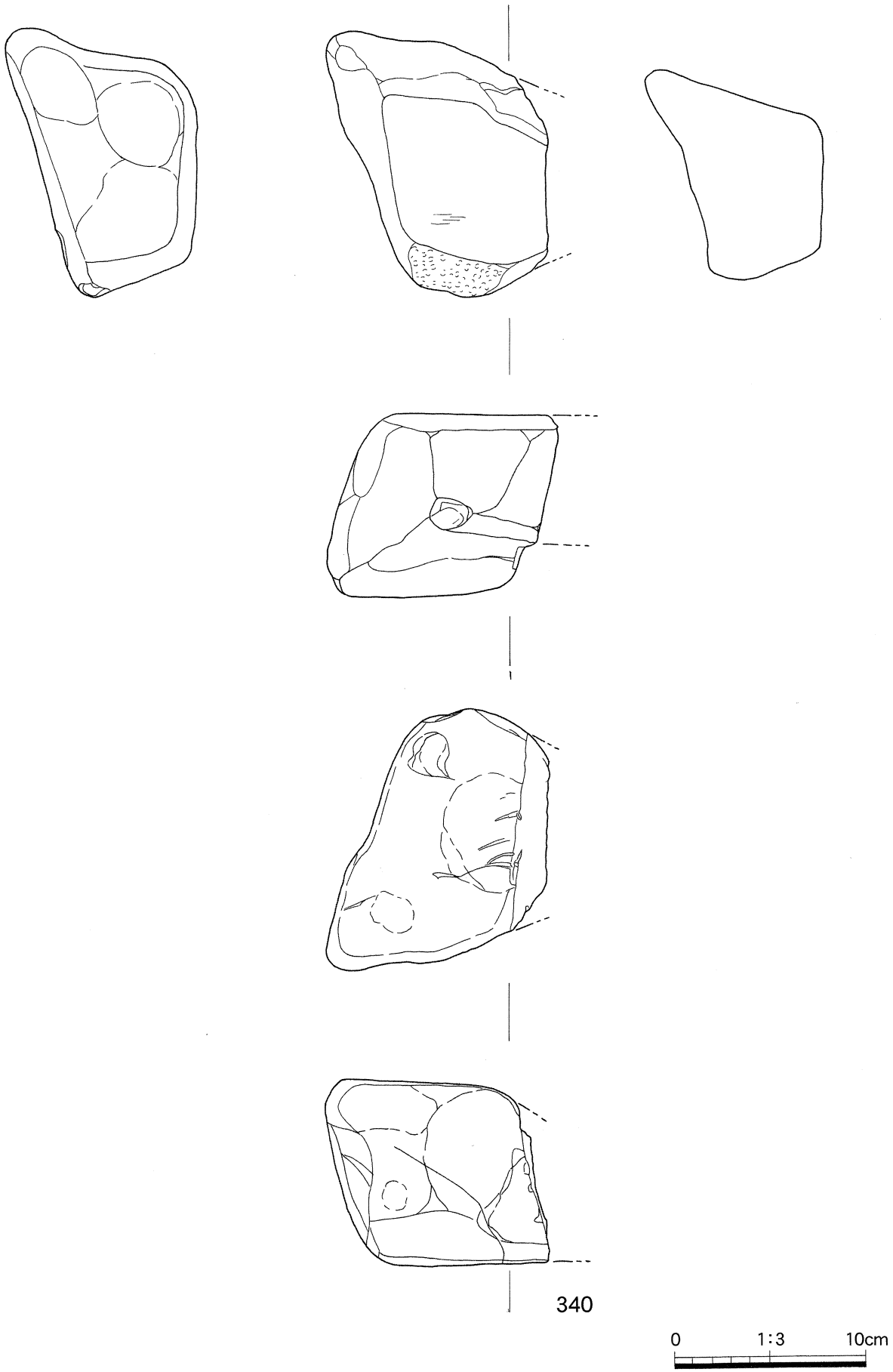
第 112 図　SI-518(竪穴) 平・断面図



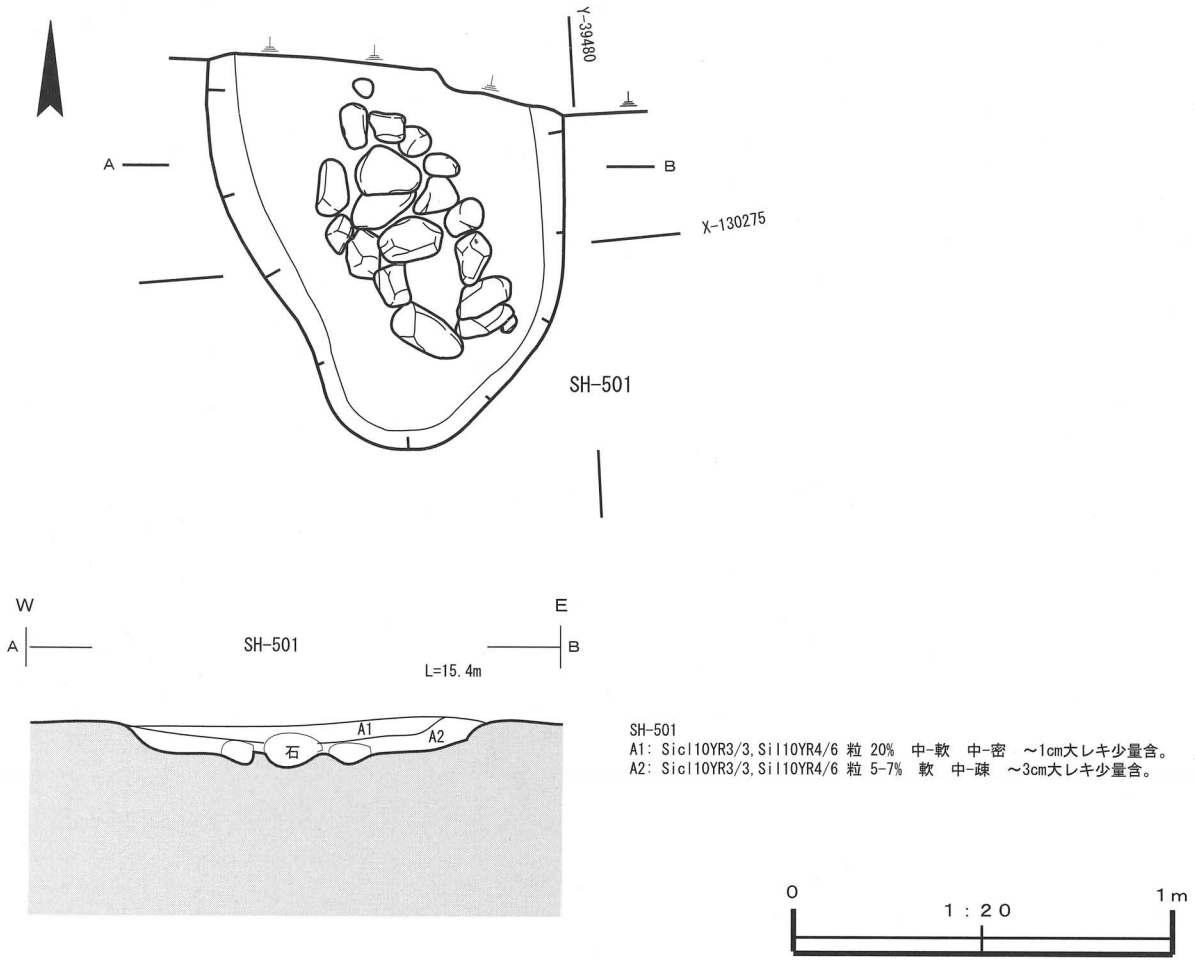
第 113 図　SI(竪穴)518 出土遺物 (1)



第 114 図　SI(竪穴)518 出土遺物 (2)



第 115 図　SI(竪穴)518 出土遺物 (3)



第 116 図　SH-501(集石遺構) 平・断面図

土に褐色シルト質埴土や炭化物を含む。G1 層は黒褐色土ににぶい黄褐色シルトを多量に含む。H1 層は明オリーブ灰色粘土に黒色ブロック土を含む。SD521 ③・④は A~F 層に大別され、12 層に細分される。また、SD521 ④では A ´~E ´ 層を記載しているが、明らかに後からの掘り込みと考えられる。A1 層は灰黄褐色シルトに多量のにぶい黄褐色土を含む。B1~3 層は灰黄褐色シルトに暗褐色ブロック土や土器、酸化鉄をやや多く含む。C1~2 層は褐灰色粘土に黒褐色 ~ 暗褐色シルトブロックを含む。C1 層は礫や土器を含む。D1~3 層は明青灰色粘土に褐灰色粘土ブロックや炭化物を含む。D1 層はやや沈殿気味。E1 層は褐灰色粘土に灰黄褐色粘土や礫、炭化物を含む。F1 層は黒褐色土に黄色シルトや橙色の焼土粒を含む。F2 層は黒褐色土に黄色シルトブロックをやや多く含む。SD521 ④の A ´1 層は灰オリーブ色シルトに多量の礫を含む。B ´1~2 層は黄灰色シルト質埴土に褐灰色粘土や礫を含む。C ´1 層は褐灰色粘土に黒色シルト質埴土や多量の礫を含む。D ´1 層は灰色砂壌土に明青灰色粘土、多量の礫や土器を含む。E ´1 層は明緑灰色粘土に灰色シルトを含む。 **壁の状態** 調査区西側はややきつく立ち上がるのに対し、東側では壁中程から明らかに傾斜が変化し緩やかに立ち上がっている。埋土の違いなどからも一度埋没した溝を再度掘り直して機能維持を図っていることが窺える。 **底の状態** ほぼ平坦。

出土遺物 (第 118・119 図 / 表 8・10) 341・342 は土師器皿である。342 は「て」の字状口縁で 10 世紀末 ~11 世紀前葉頃のもので (A-B 断面) より西側で出土している。341 は (口径)8.7cm、器高 1.3cm で口縁部がややきつく立ち上がり器高が低く、概ね 13 世紀前半頃のものと思われる。343・345 も土師器皿であるが中型のサイズである。343 は (口径)12.8cm、器高 1.9cm を測り、外面ナデ、ユビオサエ、内面ヨコナデを施し、342 同様 (A-B 断面) より西側で出土している。345 は (口径)16.8cm、器高 1.8cm を測り、外面ヨコナデ、ユビオサエ、内面ヘラミガキを施す。344・346~354 は瓦器椀である。口径 12.3~14.3cm(復元除く)、器高 2.5~4.1cm、底径 3.8~4.4cm(344 除く) を測り、口縁部はヨコナデ、外面ユビオサエ、内面ヘラミガキや暗文を施す。貼付高台は退化し、概ね 13 世紀前半頃で和泉型 III~IV 段階と思われるものが

多数を占める。344は高台が断面三角形であることから12世紀代のものと思われる。355~357は施釉陶器で355・357は椀・356は小坏である。357は外面底部に墨書「十」ヵされる。358・359は白磁で358は皿、359は瓶の底部と思われる。360は磁器の小坏である。364・365は東播系須恵器の片口鉢である。365は(口径)28.0cm、器高10.9cm、(底径)8.3cmを測る。366・367は白磁の碗で底部を欠損する。(口径)16.3~17.0cmを測り、白磁VI類に属し12世紀前半頃のものと思われる。368は陶器壷の底部である。369・370は鉄鏃で、鏃部を欠損する。369は残存長7.2cm~、幅0.3~1.5cm、厚さ0.2~1.1cm、370は残存長3.6cm~、幅0.6~0.8cm、厚さ0.3~0.8cmを測る。371は平瓦で外面コビキ、内面布目が観察される。その他にも三足羽釜等が出土している。

SF(土塁状遺構)501(第4・120図)

位置 SD521の南約1mに並行。 **平面形** ほぼ直線。 **軸方向** N87°W。 **規模** **全長** 15.0m~(調査区東側では礫敷の土塁は検出されず推定ラインに溝(SD535)が確認される。これを含めると45mとなる。) **幅** ~1.0m。(SD535は1.6m。) **断面形** 皿形。 **高さ** 0.1~0.15mほど盛り上がる。(SD535深さ0.1~0.18m。) **重複関係** SD535はSD521に切られる。 **掘込面** 削平。 **検出面** IV~VIII層上面。 **出土遺物**(第120図・表9) 372は黒色土器椀で口縁部を欠損する。373は土師器皿と思われ、374は土師器羽釜である。375は陶器壷の底部である。やや低めの高台で外面体部下端に回転ヘラケズリを施す。

SD(溝)523(第4・121図)

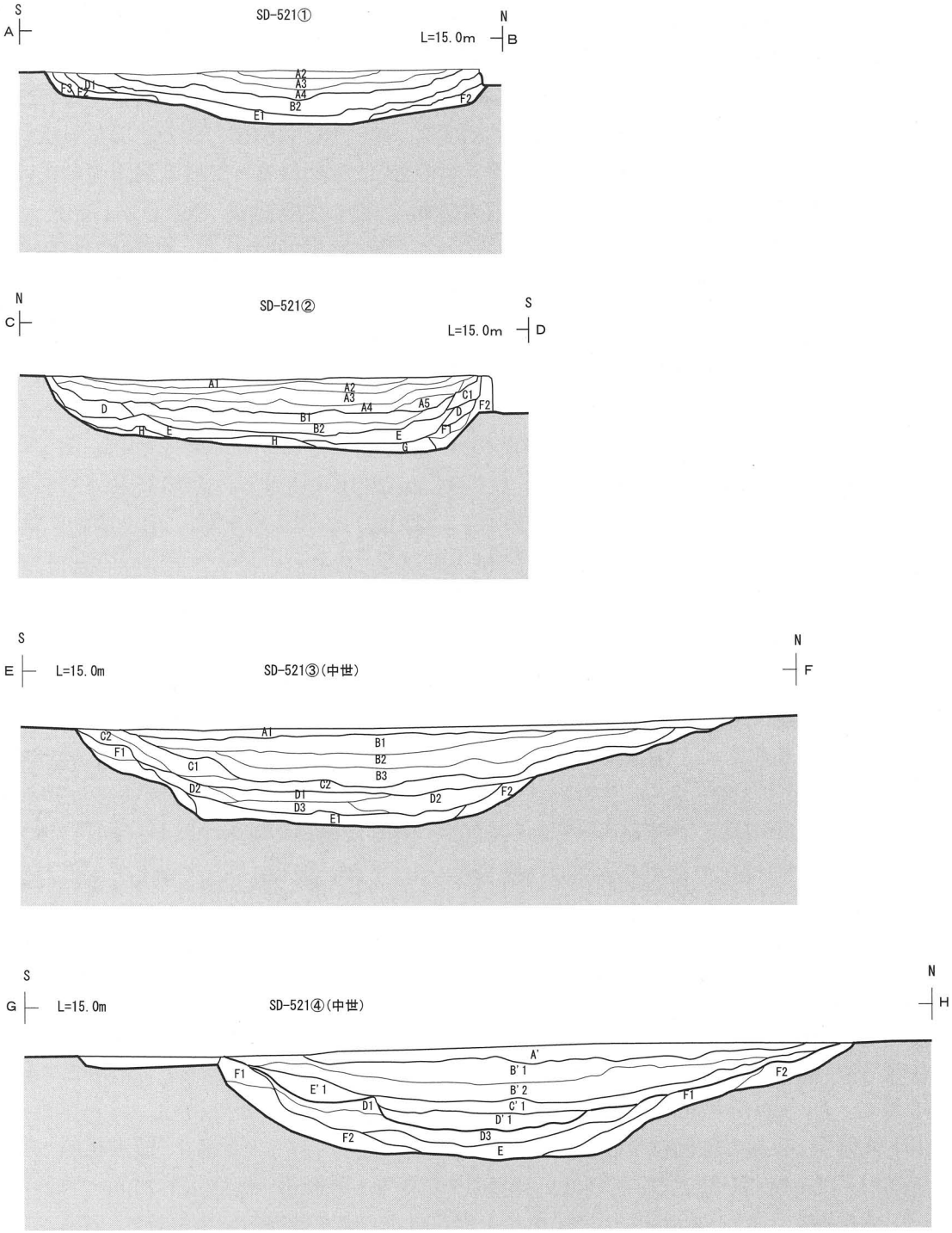
規模 **全長** 80.3m~。 **幅** 0.6~2.2m。 **深さ** 0.1~0.2m。 **断面形** U字形。 **埋土** 単層でA層は褐灰色砂壌土に暗褐色ブロック土を含む。 **重複関係** SD535を切る。 壁の状態 やや緩やか。 **底の状態** 皿状にくぼむ。 **出土遺物**(第121図・表9) 379は瓦器椀で口縁部を欠損する。高台は断面形台形でしっかりしており、(底径)4.8cmを測る。内面にヘラミガキを施す。380は施釉陶器碗である。381は陶器瓶の底部である。382は底部を欠損した陶器擂鉢で(口径)28.6cm、(最大径)30.1cmを測る。383は陶器甕の体部である。

SD(溝)579(第4・140図)

位置 調査区中央西端。 **規模** **全長** 7.8m~。 **幅** 0.4~1.3m。 **断面形** 逆台形。 **深さ** 0.23~0.31m。 **重複関係** SD521に切られる。 **埋土** A~C層の3層に大別され、A1~2層は褐灰色シルトに暗褐色シルトブロックと炭化物を含む。A1層は焼土粒も含む。B1層は褐色シルトに褐灰色シルトを含む。C1層は褐灰色粘土に黄褐色シルト質埴土と少量の炭化物を含む。 **壁の状態** ややきつく立ち上がる。 **底の状態** ほぼ平坦。 **出土遺物**(第121・123図・表9) 376~378は土師器皿で口径8.1~8.4cm、器高1.0~1.3cm(平均)を測り、内外面ともにナデを施す。凡そ12世紀後半頃のものと思われる。405は滑石製の石鍋で、体部下半を欠損している。(口径)17.2cm、(最大径)23.4cm、厚さ1.4~1.6cmを測り、黒色を呈する。その他に三足羽釜や陶磁器、貼付高台が形骸化した瓦器椀などが出土している。

SK-508(4・122図)

位置 調査区北西部。 **平面形** 方形。 **規模** 長軸(南北)0.85m。短軸(東西)0.7m。 **深さ** 0.25m。 **断面形** U字形。 **重複関係** なし。 **掘込面** 削平。 **検出面** IV層上面。(第1面。) **埋土** 単層でA層は暗褐色土に黄褐色シルトブロックを含む。 壁・底の状態 緩やかに立ち上がり、底面はややくぼむ。 **出土遺物**(第122図・表9) 387・388は瓦器椀で、387は口縁部、388は底部をそれぞれ欠損する。387は底径6.25cmを測り、高台断面形が三角形を呈する。388は口唇部内面に沈線を有し、内外面ヘラミガキを施す。389は陶器甕の口縁部で(口径)33.3cmを測る。他に「て」の字状口縁の土師器皿、黒色土器碗が出土している。これらは概ね11世紀末~12世紀初頭頃のものと思われる。

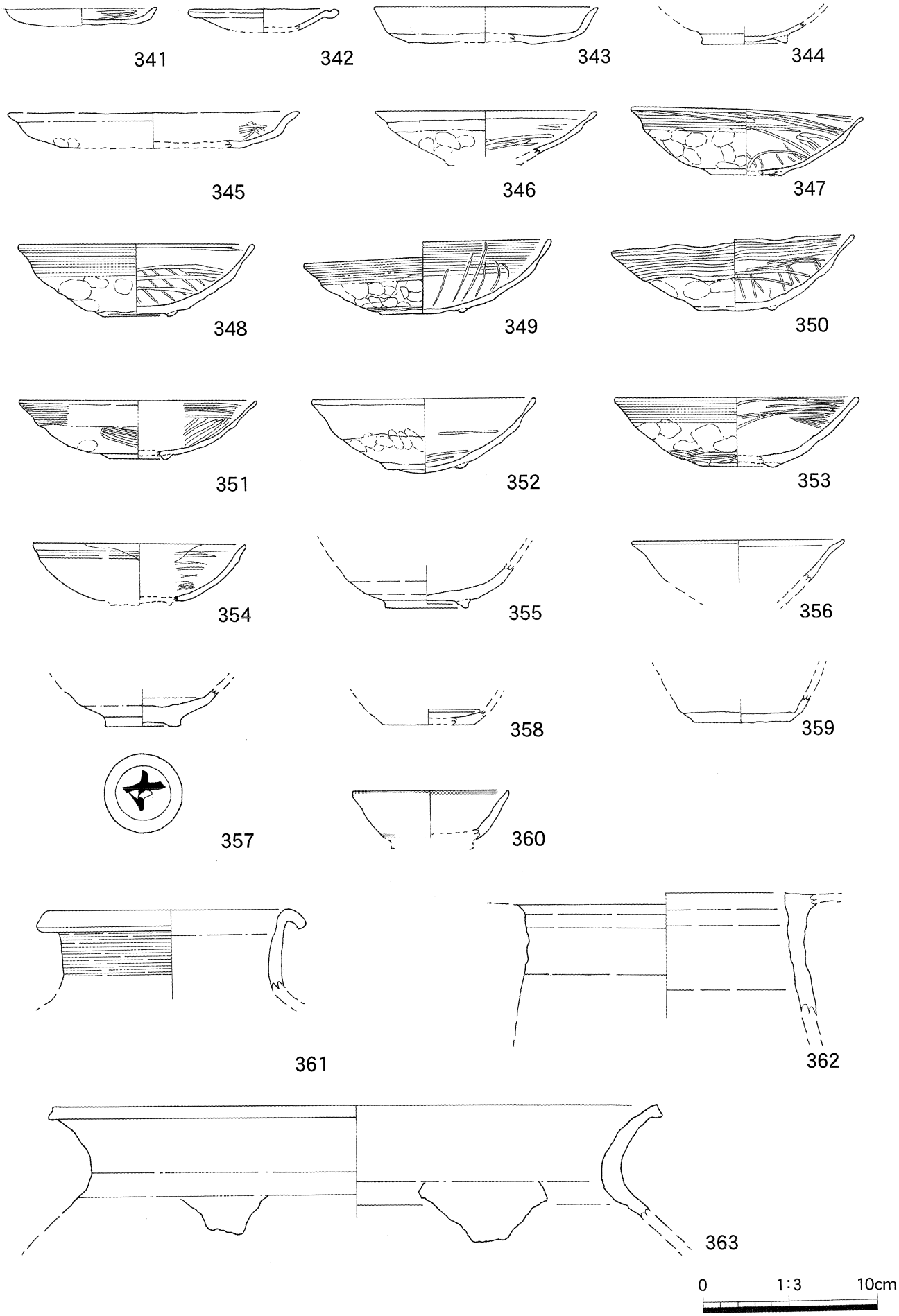


SD-521①/②
A1：Sil10YR5/1,Sic7.5YR2/2　粒～1cm大　30%　中-軟　中-疎
A2：Sil10YR5/1,Sic7.5YR2/2　粒～1cm大　30%-40%　中-軟　中-密　P少
A3：Hc10YR6/1,Sic7.5YR2/2　粒～1cm大　20%　中-軟　密　0.5-1cm大ｶｰﾎﾞﾝ少
A4：Hc10YR6/1,Sic7.5YR2/2　粒～1cm大　15%　軟　密　0.2-1cm大ｶｰﾎﾞﾝ微
A5：Hc10YR6/1,Sic7.5YR2/2　粒　5-10%　軟　密　0.5-1cm大ｶｰﾎﾞﾝ少
B1：Hc10YR5/1,Sic7.5YR3/2　粒　15%　中-軟　密
B2：Hc10YR4/1-5/1,Sic7.5YR3/2　粒　3%　中-軟　中-密　～0.2cm白色粒少
C1：Hc10YR5/1,Sic7.5YR3/2　粒～１cm大　40%　中一軟　中一蜜　～0.2cm大白色粒少
D　：Sic10YR3/2,Sil10YR5/6　0.5cm大　20-30%　中-軟　中-密　～0.3cm大白色礫少
E　：Hc10YR2/1,Hc10YR6/1　20%　Sic7.5YR3/3　粒～層状　10-15%　～0.3cm白色礫少
F1：Sicl10YR3/2,Sic10YR4/4　粒　15-20%　0.5cm大ｶｰﾎﾞﾝ少から中　中-軟　中-疎
F2：Sicl10YR3/2,Sic10YR4/6　粒　30%　0.2cm大ｶｰﾎﾞﾝ少　中-軟　中-疎
G　：Sicl10YR3/2,Sil10YR5/3　粒～0.3cm大　50-60%　軟　疎
H　：Hc5GY7/1、Sic10YR2/1　0.5-2cm大　15%　軟　中-密

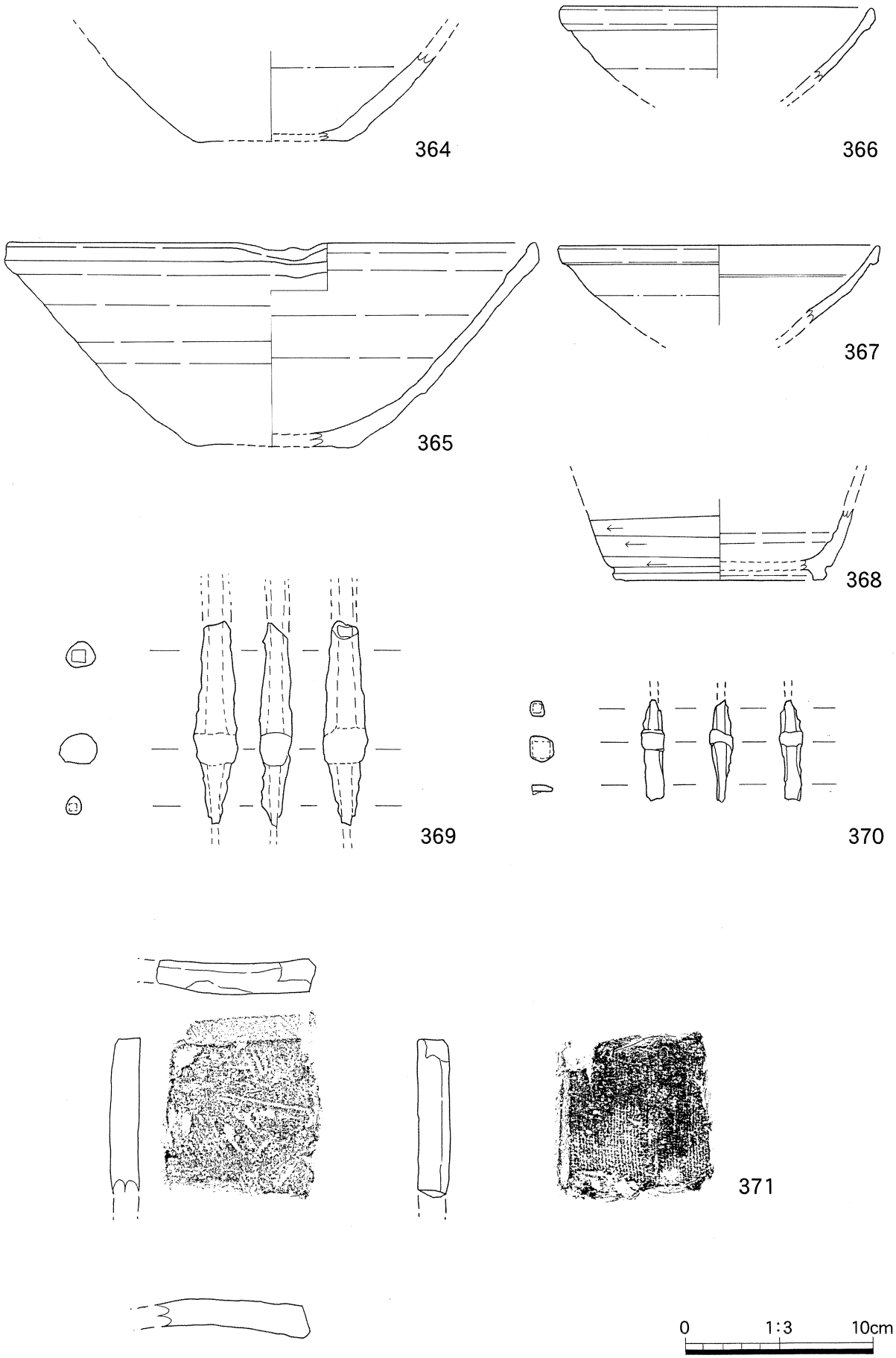
※第4図参照

0　1：50　2m

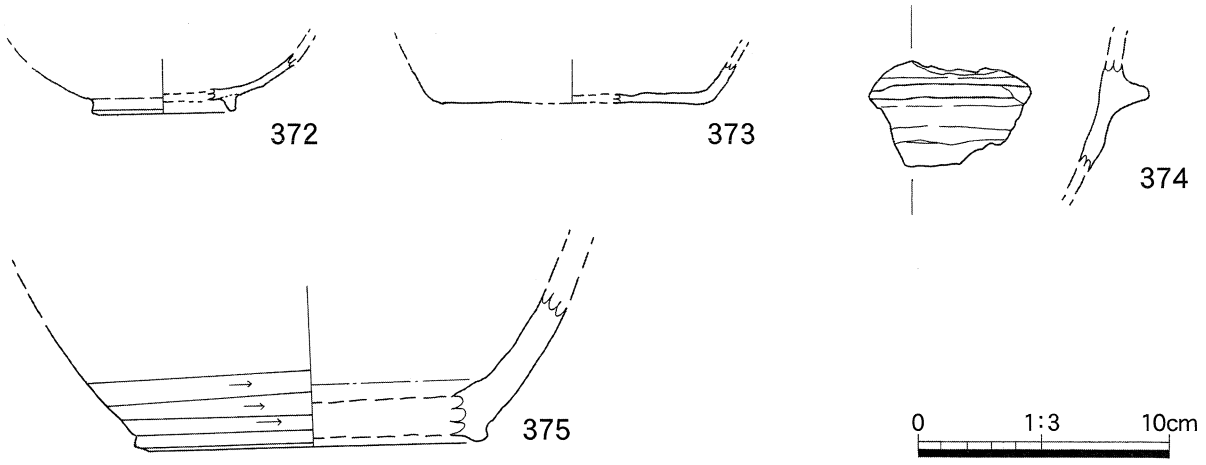
第 117 図　SD-521 断面図



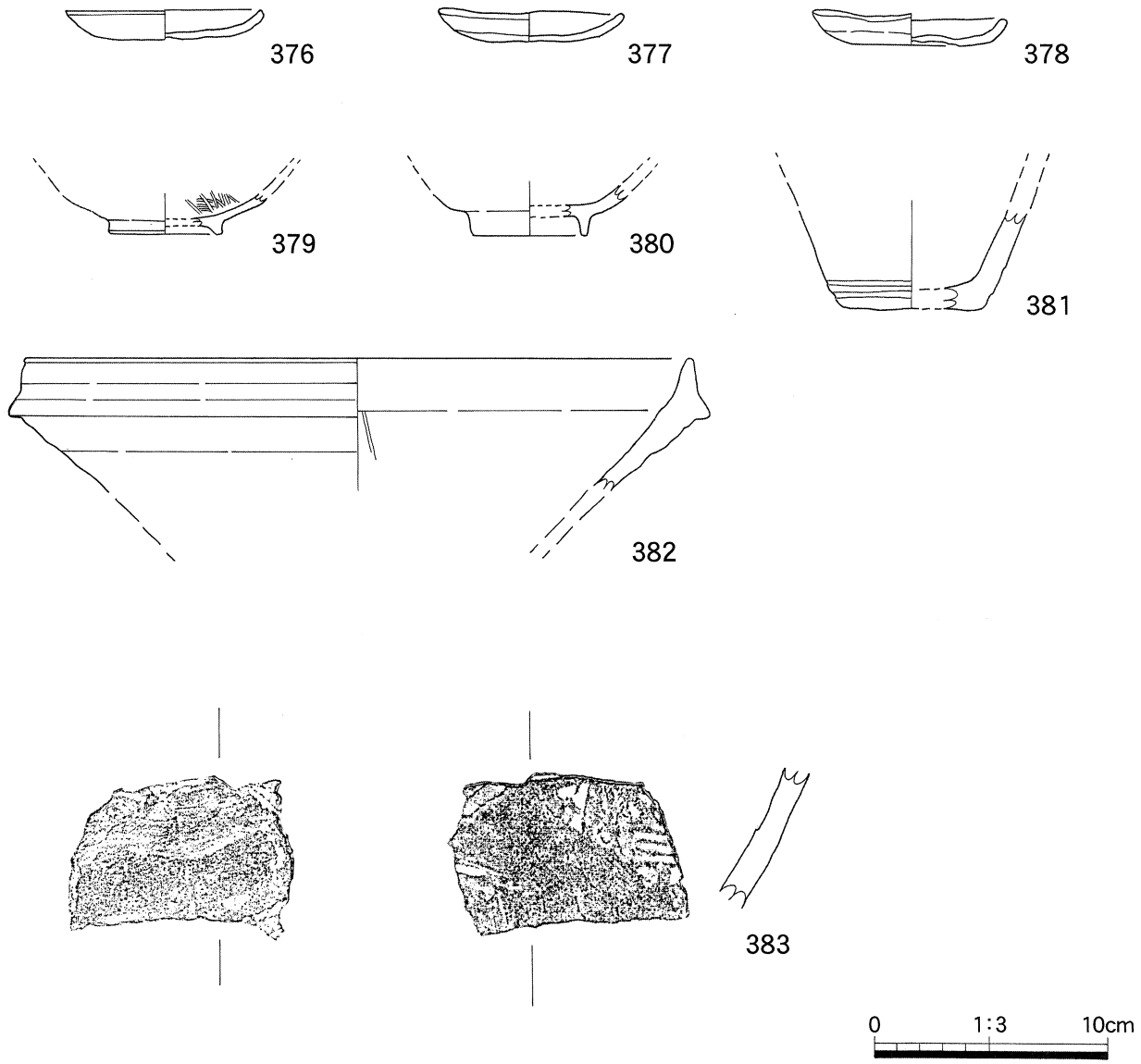
第118図　SD（溝）521出土遺物（1）



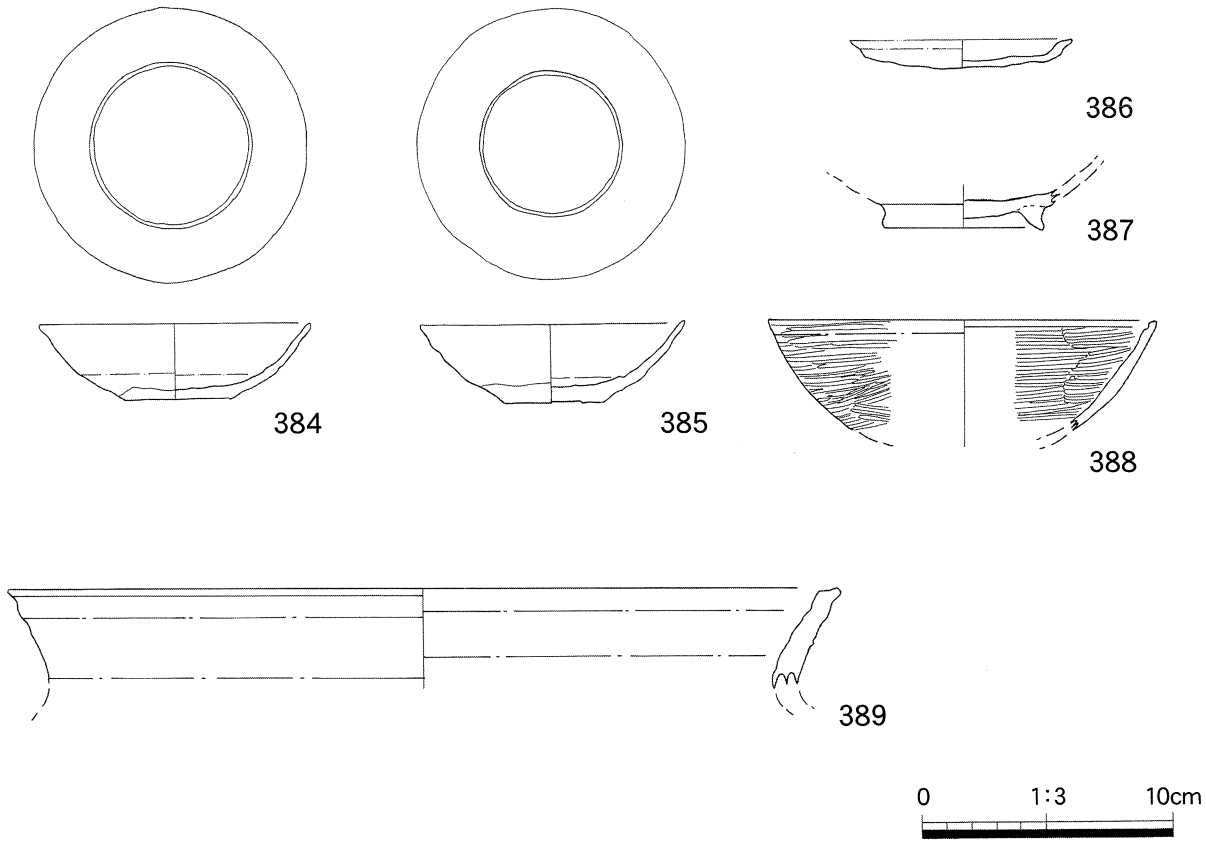
第 119 図　SD（溝）521 出土遺物（2）



第 120 図　SF（土塁状遺構）501 出土遺物



第 121 図　SD（溝）523・579 出土遺物



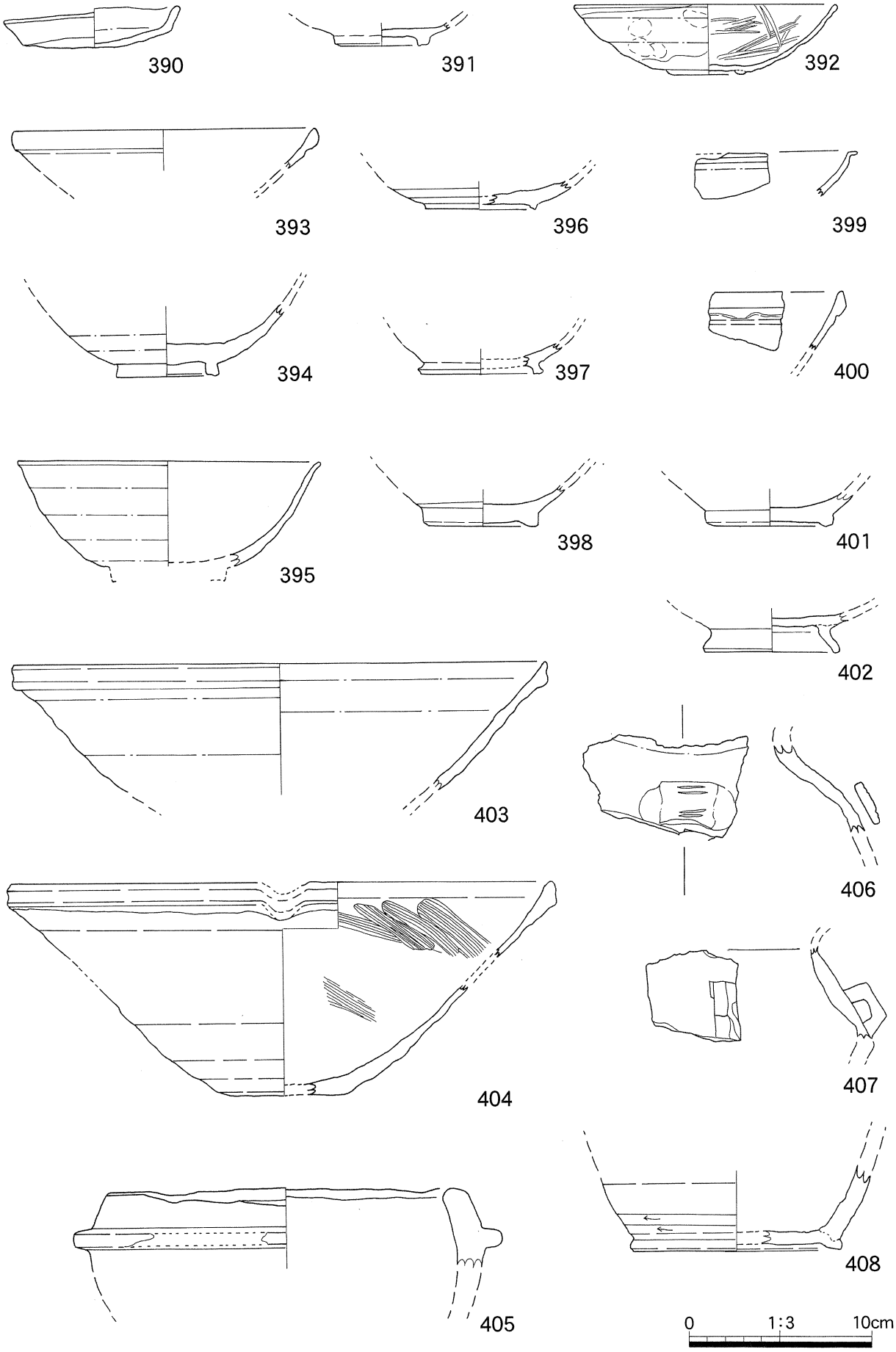
第 122 図　SK（土壙）508・532 出土遺物

SK-532(4・122 図)

位置　調査区中央北端。　**平面形**　長楕円形。　**規模**　長軸(南北)2.15m。短軸(東西)0.6~0.8m。**深さ**　0.15m。**断面形**　U 字形。**重複関係**　SD512 を切る。**掘込面**　削平。**検出面**　Ⅳ層上面。(第 1 面。)　**埋土**　単層で A 層は暗褐色土ににぶい黄褐色シルトブロックを含む。**壁・底の状態**　緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦。**出土遺物**(第 122 図･表 9)　384･385 は白磁の坏である。384 は口径 11.0cm、器高 2.7cm、底径 4.2cm を測る。385 は(口径)10.6cm、器高 3.1cm、底径 3.9cm を測る。386 は土師器皿で(口径)9.0cm、器高 1.1cm、器厚 0.3cm を測り薄手の皿である。他に瓦器椀が出土している。

(Ⅵ) その他遺構・中世遺物包含層出土遺物(第 123 図・表 9)

390 は土師器皿で口径 9.7cm、器高 1.6~2.1cm を測り、底部から口縁部にかけて屈曲し外反する。391 は SP1341 出土の瓦器椀底部と思われ、高台の断面形は台形を呈し底径 4.2cm を測る。392 は貼付高台が形骸化し、薄手で(口径)14.2cm、器高 3.7cm、底径 3.7cm を測る。外面ナデ、ユビオサエ、内面ヘラミガキを施す。393 は白磁碗で底部を欠損する。394 は龍泉窯系青磁碗で口縁部を欠損する。底径 5.6cm を測る。395 は白磁碗で底部を欠損する。口縁部はつまみ上げられ外反する。396~398・402 は施釉陶器椀でいずれも口縁部を欠損する。399 は施釉陶器小坏の口縁部である。400・401 は白磁で 400 は口縁部・401 は底部である。403・404 は東播系須恵器の片口鉢である。403 は(口径)29.2cm を測り、404 は SD587 出土で(口径)29.5cm、(器高)11.5cm、(底径)6.9cm を測り、その特徴から 12 世紀末~13 世紀初頭頃のものと思われる。406・407 は施釉陶器四耳壷の耳部である。408 は陶器壷の底部である。



第 123 図　中世遺物包含層　出土遺物

III. 調査のまとめ

弥生時代

今回の調査では弥生時代中期～後期にかけての方形周溝墓を中心とする墓域を中心に検出しているが、その総数は推定も含めて、27 基にも及ぶ。郡遺跡および隣接する倍賀遺跡において方形周溝墓が検出された総数は 80 基以上を数え、いずれも弥生時代中期のものと考えられている。郡遺跡の広さは南北 1.2km、東西 0.7km におよび約 80 万㎡もの広さを有しているが、周辺の調査面積は約 4 万㎡程で遺跡全体の 5% 程度である。

今回の調査区で検出された方形周溝墓の特徴をまとめると、以下のようになる。

1　陸橋部分が存在する周溝墓が多いこと。
2　周溝墓同士が溝を共有するものが多いこと。
3　主体部と見られる土壙墓を伴う周溝墓が少ないこと。
4　平面形は方形を基本とするが、長方形に属するものが多いこと。
　　墳丘規模は 1 辺 3.6~10.1m を測り、最小 3.6 × 3.6m(推定) 面積 13 ㎡・最大 7.9 × 9.7m、面積 77 ㎡である。
6　周溝の断面形は逆台形・U 字形・逆凸形　・幅　0.3~3.2m、深さ　0.1~0.8m である。
7　墓域を区画する溝 SD220 とその外側に SD196 が検出された。

また、方形周溝墓を溝の共有・切合い・遺物の時期等で判断し、方形周溝墓の前後関係を試案してみた。

SZ14(II 様式)　　－ SZ13(II ～ III 様式)
　　SZ9・10・26(II － 3 ～ III 様式)
SZ7(II － 3 様式)　　SZ14　－ SZ11(III 様式) － SZ12(IV － 2 様式)
　　SZ20 － SZ21
SZ15 － SZ17 － SZ23 － SZ21(II － 3 様式)　　SZ18 － SZ19
　　－ SZ23　　－ SZ19(III-2 様式)
SZ15 － SZ17 － SZ16　　SZ4 ～ 6・8(III 様式)
　　SZ24 － SZ16　　SZ2(III 様式)　　SZ1(VI 様式 ~ 庄内式併行期古段階)
　　SZ2　　－SZ3(IV 様式)　※ － は前後関係を示す。

周溝墓の前後関係は以上のように考えられるが、これを基に概観すると弥生時代中期前葉 (II 様式) の方形周溝墓は調査区南東側 ~ 北東側に集中して多く見られる。(SZ14~17・20・21・23・24) 完周しているものがみられない。弥生時代中期前葉 ~ 中葉 (II~III 様式) にかけての周溝墓は中期前葉段階の周溝墓を避けるように周辺に展開する。(SZ10・13・14・26) また、陸橋部と周溝にメリハリがある。弥生時代中期中葉 (III 様式) の周溝墓はさらに中期前葉・前葉 ~ 中葉の周溝墓の北側の周囲に取り付くように展開する。(SZ2・4~6・8・11・18・19) この段階の周溝墓の特徴は、隅丸長方形・長楕円形の主体部が残っているものが多く見られる。(SZ4・6・11・19) また、主軸方向の違いが指摘できる SZ4~6・8 のグループと SZ11・18・19 のグループ、SZ2 がある。SZ2 は調査区北西端に位置し、主軸方向も大きく異なることから、調査区南西端 ~ 北東端に展開する周溝墓群とは明らかに墓域を異にするグループ (家族集団) と考えられる。SZ4~6・8 と SZ11・18・19 は主軸がやや異なっていることから大別したが、SZ11・18・19 は中期中葉段階でも (III-2 様式) 時期差による差と考えられ、前述したような集団の差ではないと考えられる。さらに、中期中葉段階に調査区南東部にみられる溝 SD220 や SD196 のような墓域を区画する溝を構築したものと推察される。SD220 は南に隣接する H2 年度市立中央図書館用地の発掘調査において大溝とされた溝と推定され、弥生時代後期後半には埋没していた事を指摘しているが、今回の調査でも一致している。弥生時代中期後葉 (IV 様式) では周溝墓の数が減少し、陸橋部が確認されなかった。(SZ3・12) 少し時期を空けて弥生時代後期後半 (VI

様式)~古墳時代前期初頭頃(庄内式併行期古段階)の方形周溝墓が1基のみ存在する。調査区北西端のグループ集団に位置するSZ3である。墳丘規模は推定13㎡とかなり小さい。後述する古墳時代の遺構で、この時期に該当する竪穴住居跡(SI4・8)や後続すると思われる区画溝(SD60・63)がある。また、この区画溝からは埴輪片も出土しており、周溝墓から古墳への推移も気になるところである。なお、私見であるが郡遺跡・隣接する倍賀遺跡においてかなり広域な範囲で弥生時代中期に属すると考えられる方形周溝墓が検出されており、また、竪穴住居や建物・井戸等の集落の要素を欠いている。このことから、当調査区で確認されたような墓域を構成する小集団のグループが郡遺跡を中心とした範囲に複数の小集団を構成し、さらにその小集団が郡遺跡を中心とした地域を小集団間の墓域として選地したと推察するが、この地域の当該期の集落や墓域の在り方は今後の調査事例によって解明されていくものと期待したい。

古墳時代~古代

今回の調査では古墳時代の竪穴住居跡26棟を中心に井戸、土壙、溝、柱穴等の集落を構成する遺構群が検出されている。郡遺跡および隣接する倍賀遺跡において古墳時代の竪穴住居跡が検出された総数は40棟前後を数え、古墳時代中期~後期前葉頃のものが大多数を占め、他には古墳時代初頭頃(SI4・8)・前期(SI10)の竪穴がある。

他には調査区中央西端に溝(SD60・63)で長方形に区画された箇所があり、南に陸橋が開口する。主軸方向はN50°E、溝の内径は北西-南東19.6m~、南西-北東10.2~11.2mで区画内面積は210㎡~を測る。出土遺物は5世紀後半の須恵器坏身・蓋・高坏を中心に土師器小型丸底鉢・二重口縁壷(波状文)や円筒埴輪・形象埴輪等が出土している。これらのことから長方形を呈する墳墓の可能性も考えられる。

今回の調査で検出された古墳時代の集落遺構の特徴をまとめると以下のようになる。

1　SI竪穴住居跡の主軸方向から3つのタイプに分けられる。真北・南西-北東・南南西-北北東

2　重複関係からSI13(5世紀中~後半)がSI14(5世紀後半~6世紀前葉)に先行する。

3　竪穴住居跡の規模は、1辺1.8~7.4m。最小1.8×2.3mで床面積4.14㎡。最大7.4×7.5mで床面積55.5㎡を測る。全体的に削平されたものが多く、床面又は構築土の掘込み面での検出が多い。そのため火床面・周溝等が確認されたものが少なかった。火床面があるのはSI3(西)・11(東)・14(西)・15(西)・19(北)の5棟であった。また、竪穴内に土壙を有するものが多く、SI1~3・11~16・21・23の四隅や壁際、中央部に見られる。床構築土が確認されたのは、SI3~7・9・11・12・15・17・21である。これら竪穴住居跡は概ね3時期に分類される。古墳時代初頭(SI4・8)、4世紀中~後半頃(SI10)、5世紀中~6世紀前葉頃である。古墳時代初頭~前期の竪穴住居跡は調査区北端に集中して見られ、古墳時代前期のSI10からは土師器小型丸底鉢・壷や小型無孔器台、口縁部を内側に肥厚させて面を持たせた山陰系の2重口縁壷が出土している。5世紀中~6世紀前葉頃の竪穴住居跡が最も多く、井戸や土壙・柱穴等の多数の遺構を伴って集落を形成している。さらに、5世紀中~6世紀前葉頃の(古墳時代中期~後期)竪穴住居跡は継続的に居住し竪穴を建替えていることが窺える。

試案であるが、出土遺物(須恵器・土師器)の時期などから5世紀中~後半の竪穴はSI2・12・13・22、5世紀後葉の竪穴はSI1・3・5・15・19・21・24・26、5世紀後~6世紀初頭の竪穴はSI6・7・11・14・20・23、6世紀前葉~の竪穴はSI9・16~18と考えられる。特に調査区南半部で検出された竪穴住居群は5世紀中~後半のSI12・13・22(主軸 北西-南東)、5世紀後葉のSI15・19・21(主軸 南-北)、5世紀後~6世紀初頭のSI11・14・20(主軸 南南西-北北東・南-北)と移り変わりがみてとれ、また、この竪穴群付近に井戸や土壙が多く検出されている。調査区中央北端で検出されたSI5~7・9はある程度、埋土の深さがあり最小と最大の竪穴であるが、火床面や土壙が存在せず、床面にも堅い部分がない。さらに、SI7からは多量の須恵器の坏蓋・身、高坏蓋・身を中心とする須恵器が出土していることから単なる廃棄場所としての機能だけではなく、何らかの機能を有していたものと想起させられる。

4　SE(井戸)/SK(土壙) は南半部に検出数が多く、口縁部を打ち欠いたり、穴をあけたり、器面が剥離するほど火熱したりといった土器等の状態から井戸祭祀の可能性が推察される。
5　長方形区画溝 (SD60/63) は 5 世紀中 ~ 後半頃の須恵器や土師器、埴輪片が出土し、南に陸橋部を有する等、長方形を呈する墳墓の可能性が考えられる。区画内の面積は 210 ㎡以上である。
6　古代の遺構は土壙・溝・柱穴 (瓦出土) 等で全体の遺構総数からみると遺構比率が極端に少ない。

以上のように古墳時代の遺構が中心で、当調査区の周辺を概観すると古墳時代初頭では、南東へ 200m 程の倍賀遺跡 (HK91-1) において、東西方向の SR01(大溝) から SI10 と同時期の土師器が多量に出土している。また、竪穴住居跡は近隣調査区においても検出されており、北側で 7 棟、西側 1 棟、南側 1 棟のほかに古墳時代全体を通じて遺構群が多様な広がりを見せることから、調査事例の増加を待って再度検討する必要があろう。

古代、飛鳥･奈良時代の遺構･遺物の検出は少数であったが、近隣の既往調査をみると、茨木 IC の北側 (五日市緑町)~ 主要地方道大阪・高槻・京都線沿いに上穂積 2 丁目付近まで南北約 600m にわたって古代の掘立柱建物跡 (SB) が検出されているが、未だその全貌は明らかではない。

中世 (平安時代～鎌倉時代)

今回の調査で検出された中世集落遺構の特徴をまとめると以下のようになる。
SD521(大溝) は L 字状を呈し東西 77m 以上、南北 13m 以上、幅 2.2~5.3m を測る。南に並走する SF501(土塁状遺構) と関連性が指摘できる。さらに、SD512 が西から 30m 程の所で SD521 に対して垂直に合流する。また、この合流部分から東側の SD521 の幅･深さ･埋土等が変化しており、大溝の改修を行なっているようである。この SD521 を基準に SB(掘立柱建物跡)501・SH501(配石遺構)・SI518(竪穴) 等が計画的に配置されていることが窺える。SD521 の南側にも建物跡や柱列、竪穴等が検出されるものの、南北方向を基準とした耕作溝が中心に多数検出される。それぞれの遺構の時期は SD521 が 11 世紀 ~13 世紀前半頃までの遺物を有し、SB501 が 13 世紀前半頃、SI518 が 12 世紀前半 ~13 世紀中頃で、その他土壙や柱穴からも 11 世紀代 ~13 世紀前半頃までの遺物を出土する遺構が多くを占める。また、14 世紀代の遺物も散見される。郡遺跡における中世の遺構の広がりは当調査区に隣接する南側 (KH90-1) の発掘調査で、井戸が検出され土師器皿・鍋・東播系須恵器捏鉢が一括出土しており、和泉型瓦器椀は 12 世紀中頃のものとされている (尾上編年 II-2) ことからも、当該期の中世遺構の広がりとして捉えられる。また、南の春日遺跡内 (上穂東町) においても 12 世紀頃の溝が検出されている。

今回の調査では、弥生時代中期・古墳時代中期 ~ 後期・中世 (平安時代後期 ~ 鎌倉時代) を中心とした遺構や遺物が多数検出され、郡遺跡における畑田町の時代ごとの性格や特徴が明らかになった。と同時に新たに、弥生時代は前後の時期の繋がりや当該期の集落の様相、古墳時代の当地における役割や性格がどのように移り変わっていくのかという事や、古代島下郡衙の存在の是非等々、課題は山積である。

＜参考文献＞

昭和53年3月	茨木市郡遺跡発掘調査概報-上穂積・畑田地区-	茨木市教育委員会
平成5年3月	郡遺跡発掘調査概報	茨木市教育委員会
平成5年3月	倍賀遺跡発掘調査概要報告書-平成4年度発掘調査概報-	茨木市教育委員会
平成8年3月	東奈良III・郡遺跡発掘調査概要 -安威川流域下水道茨木箕面幹線(二)下水管渠工事に伴う発掘調査-	大阪府教育委員会
平成10年3月	郡遺跡発掘調査概報-中央道(名神高速道路)改築に伴う発掘調査-	茨木市教育委員会
平成11年3月	平成10年度発掘調査概報	茨木市教育委員会
平成15年3月	平成14年度発掘調査概報	茨木市教育委員会
1965年	「布留式以前」『考古学研究』12-2	田中 琢
1966年	『陶邑古窯址群』I 平安学園研究論集 第10号	田辺 昭三
1968年	「近畿地方」『弥生式土器集成』本編-2	佐原 真
1974年	「古墳出現前夜の集団関係」『考古学研究』20-4	都出 比呂志
1974年	「前方後円墳出現期の社会」『考古学研究』26-3	都出 比呂志
1981年	『須恵器大成』角川書店	田辺 昭三
1981年	『和泉陶邑窯の研究-須恵器生産の基礎的考察-』柏書房	中村 浩
1983年	「近畿」『弥生土器I』ニューサイエンス社	伊藤 暁子
1988年	「畿内における古代末から中世の土器」『中近世土器の基礎研究』IV	鋤柄 俊夫
1989年	『日本農耕社会の成立過程』	都出 比呂志
1989・1990年	『弥生土器の様式と編年』近畿編I・II 木耳社	寺沢 薫・森岡 秀人
	『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社 中世土器研究会編	
1995年	「瓦質土器〔2〕各地の瓦質土器」	鋤柄 俊夫
1995年	「貿易陶磁器〔2〕中世前期の貿易陶磁器」	山本 信夫
1996年	「近畿南部の煮炊具-播磨・摂津・河内・和泉・紀伊・淡路-」 『古代の土器研究会第4回シンポジウム 煮炊具』古代の土器研究会編	秋山 浩三
1999年	「近畿における弥生化の具体相」『論争 吉備』考古学研究会	秋山 浩三
2001年	『和泉陶邑窯出土須恵器の型式編年』	中村 浩
2003年	『古墳出現期の土師器と実年代』 (財)大阪府文化財センター	

遺物観察表（1）

図版番号	No.	実測番号	遺構	層位	種類	器種	法量					調整
							口径	最大径	底径	器高	最大厚	内面
第11図	1	189	SD64	2面・埋土	弥生土器	甕	—	19.0	—	15.2～	0.4～0.8	体:ヘラナデ、ヘラミガキ
第11図	2	188	SD64	2面・埋土	弥生土器	甕	(14.8)	17.2	3.6～4.2	18.4	0.5～1.5	口～頸:ヨコナデ、体:ナデ
第11図	3	186	SD64	2面・埋土	弥生土器	甕	17.4	(20.9)	—	14.3～	0.5～0.8	口:ヘラナデ、頸:ナデ、体:ヘラミガキ
第11図	4	187	SD64	2面・埋土	弥生土器	甕	(14.8)	16.3	—	12.8～	0.4～0.65	口～頸:ヨコナデ、体:ヘラナデ
第11図	5	190	SD64	2面・埋土	弥生土器	甕底部	—	13.4～	4.5	6.5～	0.55～1.55	体:ヘラナデ
第12図	6	159	SD67	2面・埋土	弥生土器	広口壷	20.9	27.9	9.0～10.5	37.4	0.5～0.9	—
第12図	7	164	SD66	2面・埋土	弥生土器	小型有孔鉢	6.8	7.8	3.3	7.0～7.4	0.35～0.8	ハケメ
第16図	8	168	SD83	2面・埋土	弥生土器	広口壷	(31.2)	24.7	—	37.6～	0.35～0.6	—
第16図	9	169	SD83	2面・埋土	弥生土器	台形土器	—	(20.7)	—	9.0～	～1.4	ヘラミガキ、ナデ
第20図	10	162	SD59	2面・埋土	弥生土器	広口壷	14.6	16.8	7.5	27.2～27.8	0.55～2.0	口:ハケメ、体:ナデ・ヘラナデ
第33図	11	158	SD202	2面・埋土	弥生土器	高坏	22.5	—	13.7	18.8	0.45～2.3	口:ハケメ
第33図	12	198	SD202	2面・埋土	弥生土器	甕	17.5	17.9	6.1	23.4～24.2	0.3～2.1	口:ハケメ、体:ナデ
第34図	14	163	SD235	2面・アゼ	弥生土器	無頸壷	9.0	19.0	6.6	22.2	0.5～1.2	ハケメ
第34図	15	265	SD223	2面・埋土	弥生土器	広口壷	(23.5)	—	—	6.2～	0.5～1.0	口縁:列点文
第34図	16	229	SD223	2面・埋土	弥生土器	小型壷	(11.0)	12.3	—	7.4～	0.6～0.8	ユビオサエ、ナデ
第47図	18	160	SD197	2面・埋土	弥生土器	広口壷	22.7	26.2	9.4	43.7	0.4～1.7	ハケメ、底:ヘラ痕
第54図	20	269	SD206	2面・埋土	弥生土器	広口壷	(22.0)	—	—	2.3～	0.5～0.75	摩滅
第54図	21	263	SD196	2面・埋土	弥生土器	広口壷	(16.7)	—	—	4.3～	0.7～0.8	ハケメ
第54図	22	161	SD206	2面・埋土	弥生土器	鉢	(34.3)	—	9.5	25.5	0.6～2.9	—
第54図	23	262	SD196	2面・埋土	弥生土器	広口壷	—	—	—	7.3～	0.35～0.6	ハケメ？
第55図	24	224	包含層I—3G	2面上層	弥生土器	広口壷	(20.3)	—	—	7.8～	0.5～1.6	摩滅
第55図	25	225	包含層I—3G	2面上層	弥生土器	有段口縁壷	(26.0)	—	—	5.5～	0.4～1.6	摩滅
第58図	29	22	SD58	2面・埋土	須恵器	坏蓋	11.5	12.0	—	4.1	0.3～0.6	回転ナデ
第58図	30	128	SD58	2面・埋土	須恵器	坏蓋	(10.2～12.0)	—	—	4.4	0.2～0.8	回転ナデ
第58図	31	13	SD58	2面・アゼ	須恵器	坏蓋	(12.2)	—	—	4.7	0.3～0.7	回転ナデ
第58図	32	129	SD58	2面・埋土	須恵器	坏蓋	12.6	—	—	4.6	0.25～0.45	回転ナデ
第58図	33	125	SD58	2面・埋土	須恵器	坏蓋	(12.5)	—	—	4.4	0.2～0.45	回転ナデ
第58図	34	127	SD58	2面・埋土	須恵器	坏蓋	(13.0)	—	—	4.3～	0.25～0.55	回転ナデ
第58図	35	126	SD58	2面・埋土	須恵器	坏蓋	12.0	—	—	4.3～	0.15～0.65	回転ナデ
第58図	36	222	SD58	2面・埋土	須恵器	坏蓋	(12.7)	—	—	4.0	0.2～0.55	回転ナデ
第58図	37	223	SD58	2面・埋土	須恵器	坏蓋	12.0	—	—	4.4	0.4～0.55	回転ナデ
第58図	38	5	SD58	2面・埋土	須恵器	坏身	(11.0)	(12.6)	—	4.6	0.2～0.9	回転ナデ
第58図	39	123	SD58	2面・埋土	須恵器	坏身	(10.3)	(12.0)	—	4.0	0.25～0.6	回転ナデ
第58図	40	131	SD58	2面・埋土	須恵器	坏身	(11.4)	(12.7)	—	5.0	0.2～0.5	回転ナデ
第58図	41	24	SD58	2面・埋土	須恵器	坏身	(9.6)	(12.0)	—	4.8	0.15～0.8	回転ナデ
第58図	42	130	SD58	2面・埋土	須恵器	坏身	(10.2)	(12.5)	—	4.0	0.25～0.5	回転ナデ
第58図	43	122	SD58	2面・埋土	須恵器	坏身	(10.0)	(11.8)	—	4.2	0.25～0.4	回転ナデ
第58図	44	23	SD58	2面・埋土	須恵器	坏身	(10.8)	13.0	—	4.9	0.2～0.6	回転ナデ
第58図	45	124	SD58	2面・埋土	須恵器	坏身	(10.3)	(12.4)	—	3.7～	0.2～0.45	回転ナデ
第58図	46	25	SD58	2面・埋土	須恵器	高坏蓋	(13.2)	—	—	5.0	0.2～0.6	回転ナデ
第58図	47	14	SD58	2面・埋土下層	須恵器	高坏蓋	11.9	—	—	5.4	0.3～0.6	回転ナデ
第58図	48	221	SD58	2面・埋土	須恵器	高坏蓋	12.8	—	—	5.2	0.25～0.5	回転ナデ
第59図	49	27	SD58	2面・埋土	須恵器	有蓋高坏	(10.5)	13.2	8.7	7.1	0.2～1.3	回転ナデ

調整	色調		胎土	焼成	残存(%)	時期	備考
外面	外面	内面					
頚:ヨコナデ、体:タタキ(平行)、体下:ナデツケ	浅黄橙	浅黄橙	△	○	34	Ⅴ様式?	頚部径１１．９。
口～頚:ヨコナデ、体:タタキ(平行)	黄橙・褐灰	黄橙	△	○	60	Ⅴ様式?	頚部径１１．５。平底。体部外面下半に煤付着。
口:ヨコナデ、体:タタキ(平行)	浅黄橙	浅黄橙	△	○	50	Ⅴ様式?	頚部径１４．５。１～４ミリ大の砂粒多。
口～頚:ヨコナデ、体:タタキ(平行)	浅黄橙	浅黄橙	△	○	65	Ⅴ様式?	頚部径１２．８。口縁部に朱彩？内面には黒斑。
体:タタキ(平行)	浅黄橙	鈍い黄橙	△	○	30	Ⅴ様式?	底部内面黒斑。平底。
口:ナデ、体:ハケメ	鈍い黄褐・浅黄橙	鈍い黄橙	△	○	90	Ⅳ－Ⅰ?様式	体部外面に黒斑有。内外面ともに摩滅著しい。
口:平行沈線	浅黄橙	浅黄橙	○	○	100	Ⅲ様式?	穿孔計３０箇所。口:２(紐孔)、体:２２、底:６。孔径０．４～０．５。すべて焼成前穿孔。
ハケメ	浅黄橙	浅黄橙	△	○	45	Ⅱ－3様式	内外面摩滅著しい。口縁端部～内面、体部外面に朱彩痕跡。
ナデツケ、ヨコナデ、ヘラミガキ(太め)	黄橙	黒	○	○	18	Ⅲ様式?	台部外面ミガキ調整、黒化。
口:ハケメ、3条1対の櫛描直線文7段、波状文、体部:ヘラミガキ、下端:ヘラケズリ	橙	橙	○	○	100	Ⅲ様式	体部外面に黒斑有。
ハケメ、ナデ	浅黄橙・灰黄褐	淡黄	△	○	90	Ⅱ様式	口縁部外面に煤付着。２～３ミリ大砂多。
口:ハケメ、ヨコナデ、体:ハケメ	橙・浅黄橙	橙	△	○	100	Ⅱ様式	平底。底部木葉痕。
口～体上:櫛描直線文7段、体下:(タテ)ヘラミガキ	浅黄橙	浅黄橙	△	△	100	Ⅲ様式	体部中央に焼成後、穿孔1箇所有。径１．５から１．８。口唇部にも焼成後欠損痕。外面体部下端に赤彩。
口縁:凹線文、頚:櫛描直線文	黄橙	黄橙	○	○	15	中期後葉	Ⅳ－２。ＳＫ１３７と同時期、櫛描直線文、波状文、列点文。
口～頚:ヘラミガキ、ヨコナデ、体:ハケメ	鈍い橙	明黄褐	○	○	50	5C後半	頚部径９．２。口高２．３。摩滅および火熱により器面剥離、淡橙に変色。
ハケメ、頚部:櫛描直線文３段＋波状文1段＋直線文3段。	浅黄橙・鈍い黄橙	浅黄橙	○	○	95	Ⅱ－3～Ⅲ様式	体部中央外面に黒斑有。
摩滅	浅黄橙	浅黄橙	×	△	18	Ⅱ様式?	甕口、庄内併行期？
摩滅	鈍い黄橙	橙	○	○	15	中期	Ⅱ様式？？？？？？？
口:ヨコナデ、体:ハケメ	浅黄橙	浅黄橙	△	○	96	Ⅲ様式?	口～体下端に黒斑有。口縁外面に丹塗り痕跡。内面摩滅著しい。
櫛描直線文	黄褐	黄橙	○	○	15	中期後葉	Ⅳ様式
摩滅	明赤褐	明赤褐	○	○	18	Ⅲ様式?	
ヨコナデ	明赤褐	明赤褐	○	○	20	Ⅴ様式?	
回転ヘラケズリ	灰	灰白	○	○	80	5C後半	
天井部回転ヘラケズリ	灰・灰白	灰・灰白	○	○	80	5C後半	
天井部回転ヘラケズリ	灰白	灰白	○	○	80	5C後半	
天井部回転ヘラケズリ	灰	灰	△	○	40	5C後半	長石粗砂多。
天井部回転ヘラケズリ	褐灰	灰白	○	○	25	5C後半	
天井部回転ヘラケズリ	灰	灰	○	○	25	5C後半	
天井部回転ヘラケズリ	灰	灰	△	○	25	5C後半	長石粗砂多。
天井部回転ヘラケズリ	灰	灰白	○	○	18	5C後半	
天井部回転ヘラケズリ	褐灰	灰白	○	△	80	5C後半	
回転ヘラケズリ	灰	灰	○	○	50	5C後半	内面に橙色有機物付着
回転ヘラケズリ	褐灰	灰白	○	○	25	5C後半	
回転ヘラケズリ	灰白	灰白	△	△	40	5C後半	長石粗砂多。
回転ヘラケズリ	灰	灰	○	○	40	5C後半	
回転ヘラケズリ	暗灰・灰白	灰	△	○	34	5C後半	黒い粗砂多。
回転ヘラケズリ	灰	灰	△	○	40	5C後半	粗砂多。
回転ヘラケズリ	暗灰・灰白	灰白	○	○	60	5C後半	底部外面:ヘラ描き 「記号」 Ⅴ多数
回転ヘラケズリ	灰・灰白	灰白	○	○	25	5C後半	
天井部回転ヘラケズリ	灰・灰黄	灰白	○	○	25	5C後半	つまみ径３．０、高０．９。
天井部回転ヘラケズリ	灰・暗灰	灰	○	○	60	5C後半	つまみ径２．７、高０．９。
天井部回転ヘラケズリ	灰白	青灰	○	○	50	5C後半	つまみ径２．７、高０．８。
回転ヘラケズリ	灰・黄灰	灰・灰白	○	○	67	5C後半	受部高５．０、脚部高２．１、接合部径４．６、透孔なし。

遺物観察表（2）

図版番号	No.	実測番号	遺構	層位	種類	器種	法量					調整
							口径	最大径	底径	器高	最大厚	内面
第59図	50	120	SD58	2面・埋土	須恵器	有蓋高坏	(10.6)	(12.5)	—	5.5～	0.2～1.1	回転ナデ
第59図	51	132	SD58	2面・埋土	須恵器	無蓋高坏？	11.6～	—	8.8	7.9～	0.25～0.75	回転ナデ
第59図	52	26	SD58	2面・埋土	須恵器	無蓋高坏	(15.0)	—	—	5.6	0.3～1.0	回転ナデ
第59図	53	145	SD58	2面・埋土	須恵器	無蓋高坏	(16.8)	—	—	6.2～	0.2～0.75	回転ナデ
第59図	54	133	SD58	2面・埋土	須恵器	無蓋高坏	(16.0)	—	—	7.8～	0.3～0.85	回転ナデ
第59図	55	28	SD58	2面・埋土	須恵器	無蓋高坏	(15.3)	—	(10.0)	(11.3)	0.2～0.8	回転ナデ
第59図	56	31	SD58	2面・埋土	須恵器	壷	17.6	—	—	6.5～	0.4～0.7	ナデ
第59図	57	216	SK17	2面・埋土	須恵器	無蓋高坏	(16.0)	—	—	5.2～	0.25～0.6	回転ナデ
第59図	58	165	SD58	2面・埋土	土師器	高坏	13.8	—	—	6.7～	0.4～1.4	ヘラミガキ
第59図	59	150	SD58	2面・埋土	土師器	器台	7.0～	—	10.5	8.0～	0.3～1.0	ナデ
第59図	60	172	SD58	2面・埋土	土師器	把手付鉢	(37.4)	(49.8)	—	15.8～	0.6～0.9	体：ハケメ、ヘラミガキ
第60図	61	166	SD57・SK17	2面・埋土	土師器	高坏	13.4	—	9.7	11.8	0.4～1.7	坏部：ヘラミガキ、脚部：ハケメ
第60図	62	211	SK17	2面・埋土	土師器	高坏	12.8	—	10.2	10.6	0.3～1.1	受：摩滅、脚：ケズリ
第60図	63	212	SK17	2面・埋土	土師器	器台	—	—	(14.0)	7.3～	0.3～0.7	摩滅
第60図	64	215	SK17	2面・埋土	土師器	甕底	—	8.6～	(4.4)	3.5～	0.7～1.5	摩滅
第60図	65	213	SK17	2面・埋土	土師器	甕底	—	15.0～	5.2	4.5～	0.5～1.8	ハケメ
第60図	66	214	SK17	2面・埋土	土師器	甕底	—	7.4～	4.0	3.2～	0.65～1.9	ハケメ
第64図	69	99	SD60	2面・埋土	須恵器	坏蓋	(12.4)	—	—	5.0	0.25～0.75	回転ナデ
第64図	70	98	SD60	2面・埋土	須恵器	坏蓋	12.6	—	—	4.4	0.35～0.75	回転ナデ
第64図	71	101	SD60	2面・埋土	須恵器	坏蓋	(13.0)	—	—	5.3	0.2～0.85	回転ナデ
第64図	72	100	SD60	2面・埋土	須恵器	坏身	(11.0)	12.8	—	4.9	0.2～0.9	回転ナデ
第64図	73	17	SD61	2面・アゼ	須恵器	坏身	(10.0)	12.4	—	4.7	0.3～0.6	回転ナデ
第64図	74	102	SD60	2面・埋土	須恵器	坏身	(11.0)	(13.2)	—	4.6	0.2～0.6	回転ナデ
第64図	75	107	SD61・60	2面・埋土	須恵器	坏身	14.0	15.6	—	4.5～5.6	0.3～0.75	回転ナデ
第64図	76	103	SD60	2面・埋土	須恵器	無蓋高坏	12.2	—	—	5.1～	～1.0	回転ナデ
第64図	77	174	SD60	2面・埋土	土師器	小型丸底鉢	9.4	10.7	—	6.2～	0.4～0.6	口：ヨコナデ、体：ナデ
第64図	78	173	SD60	2面・埋土	土師器	有段口縁壷	(22.4)	—	—	4.7～	0.5～0.75	ヘラミガキ
第64図	79	264	SD60	2面・埋土	埴輪	円筒	—	(19.6)	—	3.8～	1.1	ヨコハケ
第64図	80	270	SD60	2面・埋土	土師器	壷	(20.0)	(26.6)	—	15.4～	0.4～0.9	体：ハケメ
第64図	81	154	SD60	2面・埋土	土埴	形象土埴？	—	—	—	—	0.8～1.9	—
第69図	82	95	SI01	2面・埋土	須恵器	坏蓋	12.2	—	—	4.8	0.3～1.15	回転ナデ
第69図	83	96	SI01	2面・埋土	須恵器	坏蓋	(12.0)	—	—	3.9	0.2～0.6	回転ナデ
第69図	84	85	SI02	2面・アゼ	須恵器	坏蓋	(13.8)	(14.0)	—	4.4	0.3～0.9	回転ナデ
第69図	85	92	SI02	SE区・SP921	須恵器	坏身	12.4	15.1	—	5.2	0.2～0.5	回転ナデ
第69図	86	137	SI02	2面上層	須恵器	坏身	(13.0)	(15.6)	—	4.3	0.2～0.7	回転ナデ
第69図	87	86	SI02	2面・アゼ	須恵器	坏身	(11.4)	(13.4)	—	4.1	0.2～0.75	回転ナデ
第69図	88	2	SI03	2面・埋土	須恵器	坏身	10.8	13.4	—	4.9	0.4～0.7	回転ナデ
第69図	89	88	SI11	2面SE区・埋土	須恵器	坏身	—	(13.8)	—	3.2～	0.2～0.75	回転ナデ
第69図	90	7	SK24	2面・埋土	須恵器	坏身	(11.0)	(13.4)	—	4.5	0.3～0.8	回転ナデ
第69図	91	3	SI08	2面・埋土	須恵器	坏身	12.6	15.0	—	4.8	0.2～1.0	回転ナデ
第69図	92	87	SI15	SP720	須恵器	坏身	(11.6)	(13.8)	—	4.4	0.25～0.65	回転ナデ
第69図	93	4	SK83	2面・アゼ	須恵器	坏身	10.6	12.6	—	4.3	0.2～0.8	回転ナデ
第69図	94	226	SI15	SP978	土師器	高坏	13.6	—	10.2	10.3	0.4～0.75	受：ヘラミガキ、脚：摩滅

調整	色調		胎土	焼成	残存(%)	時期	備考
外面	外面	内面					
回転ヘラケズリ	灰	灰白	○	○	35	5C後半	受部高４．１、脚部高１．０～、接合部径４．９。透孔(長方形)３孔。他高２、身６、蓋５、つまみ付２、台付き１
受・脚下部にカキメ	灰	灰	○	○	55	5C後半	受部高３．４～、脚部高４．５、接合部径３．６。透孔(長方形小刺突)３孔。
波状文・回転ヘラケズリ	灰	灰	○	○	30	5C後半	脚接合部径(４．５)
波状文、回転ヘラケズリ	灰	灰	△	○	25	5C後半	粗砂多。
波状文・回転ヘラケズリ	灰	灰	○	○	30	5C	受部高７．１、脚部高０．７～、接合部径５．６。透孔(長方形)３孔。
波状文	灰・灰白	灰	○	○	55	5C後半	受部高(５．０)、脚部高６．３、接合部径３．８、透孔(台形)３孔、脚内面朱付着。
口縁部波状文2段	灰	灰	○	○	35	5C後半	
回転ナデ	灰	灰白	○	○	25	5C後半	
ヘラミガキ	橙	鈍い橙	○	○	45	5C	受部高４．８、接合部径２．６。内外面に黒斑有。
ハケメ、(ヨコ・タテ)ヘラミガキ	明赤褐～橙	灰赤	○	○	75	5C	脚高６．２、接合部径２．４、貫通孔径０．６。朱彩。
口～頚部:ヨコナデ、体:ハケメ	浅黄橙	浅黄橙	○	○	34	5C	胴部３９．８、口唇部に一部朱彩痕跡。内外面やや摩滅。
坏部:ハケメ、脚部:ハケメ、ヘラミガキ	橙・淡橙	浅黄橙	○	○	85	5C	受部高６．５、脚部高６．９、接合部径２．３。内外面やや摩滅。
受:摩滅、脚:ヘラミガキ	赤褐・浅黄橙	鈍い橙	○	○	75	5C後半	受部高５．１、脚部高５．５、接合部径３．４。
摩滅	黄橙・浅黄橙	浅黄橙	△	○	50	5C?	
タタキ(平行)	褐灰	浅黄橙	△	○	12	5C?	平底。外面に赤彩？
タタキ(平行)	灰白	浅黄橙	○	○	20	5C?	平底。黒斑有。
タタキ(平行)、ユビオサエ、下端ナデ	灰黄褐	橙	△	○	15	5C?	平底。
天井部回転ヘラケズリ	灰白・灰黄	灰白	△	○	67	5C後半	黒い粗砂～細砂多。
天井部回転ヘラケズリ	灰	灰白	△	○	99	5C後半	褐色粗砂多。
天井部回転ヘラケズリ	灰白	灰白	△	○	67	5C後半	黒い細砂～粗砂多。歪み大。
回転ヘラケズリ	灰白	灰白	△	○	80	5C後半	粗砂および黒い細砂多。
回転ヘラケズリ	灰	灰白	○	○	50	5C後半	
回転ナデ	灰・灰白	暗灰	△	○	34	5C後半	黒い細砂多。
回転ヘラケズリ	灰	灰白	△	○	60	5C後半	歪み大。粗砂多。
波状文・回転ヘラケズリ	灰・灰白	灰白	△	○	55	5C後半	受部高４．５、脚部高０．３～、接合部径４．０。透孔(長方形)３孔。
口～頚部:ヨコナデ、体:ハケメ	橙	浅黄橙	○	○	50	4C	
口唇:刻目、口縁:波状文2段、下段:ハケメ、ヘラミガキ	橙	浅黄橙	○	○	18	4C	内面に朱彩痕跡。
ヨコハケ、ナデ	橙	鈍い橙	○	○	5	5C後半?	貼付突帯断面三角形
—	浅黄橙	浅黄橙	△	△	50	5C後半?	外面黒斑。
—	黄	黄	△	△	5	5～6C	摩滅著しい。残存長１２．３～、幅８．４～
天井部回転ヘラケズリ	灰白	灰白	△	△	80	5C後半	やや軟質。粗砂多。
天井部回転ヘラケズリ	灰	灰	○	○	50	5C後半	
天井部回転ヘラケズリ	青灰	鈍い赤褐	△	○	67	5C後半	粗砂多。
回転ヘラケズリ	灰	灰	○	○	80	5C後半	黒い細砂多。
回転ヘラケズリ	灰白	灰白	△	○	67	5C後半	粗砂多。
回転ヘラケズリ	灰	灰白	△	○	50	5C後半	粗砂および黒い細砂多。
回転ヘラケズリ	灰白～褐灰	灰白	○	○		5C後半	底部外面:火襷
回転ヘラケズリ	鈍い黄橙	鈍い橙	△	○	60		黒い細砂多。
回転ヘラケズリ	灰	灰	○	○	28	5C後半	
回転ヘラケズリ	灰	灰白	○	○	100	5C後半	底部外面:ヘラ描き 「記号」 ⊠
手持ちヘラケズリ	灰・灰白	灰白	○	○	25	5C後半	
回転ヘラケズリ	灰	灰	○	○	80	5C後半	
受:ヘラミガキ、接合部～脚:ハケメ、ヘラミガキ	橙	灰白	○	○	80	5C後半	受高４．２、脚高６．１、頚部径２．４。透孔なし。

遺物観察表（3）

図版番号	No.	実測番号	遺構	層位	種類	器種	法量					調整
							口径	最大径	底径	器高	最大厚	内面
第69図	95	84	SI15	2面・埋土	須恵器	坏蓋	(12.2)	(12.4)	—	6.1	0.2～0.5	回転ナデ
第69図	96	179	SI11	SK67	土師器	壷	16.2～17.2	23.4	—	12.3～	0.35～0.7	口:ヨコナデ、体:ナデ
第69図	97	266	SI16	2面・埋土	須恵器	甕	—	—	—	7.8～	0.55～0.75	タタキ？
第72図	98	47	SI07	2面・埋土	須恵器	坏蓋	(11.6)	11.9	—	4.3	0.2～0.5	回転ナデ
第72図	99	45	SI07	2面・埋土	須恵器	坏蓋	11.6	—	—	4.0	0.25～0.75	回転ナデ
第72図	100	71	SI07	2面・埋土	須恵器	坏蓋	(12.0)	—	—	4.3	0.2～0.6	回転ナデ
第72図	101	44	SI07	2面・埋土	須恵器	坏蓋	12.0	12.5	—	5.0	0.3～0.75	回転ナデ
第72図	102	73	SI07	2面・埋土	須恵器	坏蓋	(12.0)	—	—	5.0	0.3～0.85	回転ナデ
第72図	103	46	SI07	2面・埋土上層	須恵器	坏蓋	12.8	—	—	4.7	0.3～0.6	回転ナデ
第72図	104	39	SI07	2面・埋土	須恵器	坏蓋	11.8	—	—	4.1	0.2～0.6	回転ナデ
第72図	105	42	SI07	2面・埋土上層	須恵器	坏蓋	12.2	—	—	4.2	0.2～0.7	回転ナデ
第72図	106	40	SI07	2面・埋土	須恵器	坏蓋	11.8	—	—	4.5	0.3～0.7	回転ナデ
第72図	107	72	SI07	2面・埋土	須恵器	坏蓋	(14.0)	—	—	4.3	0.2～0.7	回転ナデ
第72図	108	74	SI07	2面・埋土	須恵器	坏蓋	14.2	—	—	4.6	0.3～0.8	回転ナデ
第72図	109	43	SI07	2面・埋土	須恵器	坏蓋	(14.6)	—	—	5.5	0.3～0.7	回転ナデ
第72図	110	41	SI07	2面・埋土	須恵器	坏蓋	12.5	—	—	4.0	0.2～0.7	回転ナデ
第72図	111	94	SI07	SP477	須恵器	坏蓋	(14.8)	—	—	4.6	0.2～0.65	回転ナデ
第72図	112	217	SI07	SP477	須恵器	坏蓋	12.9	—	—	4.8	0.2～0.8	回転ナデ
第72図	113	38	SI07	2面・埋土	須恵器	坏身	9.9	12.2	—	4.4～5.7	0.2～0.9	回転ナデ
第72図	114	66	SI07	2面・埋土	須恵器	坏身	(10.2)	(12.2)	—	4.4	0.2～0.6	回転ナデ
第72図	115	33	SI07	2面・埋土	須恵器	坏身	10.5	12.8	—	4.5～5.0	0.3～0.9	回転ナデ
第72図	116	70	SI07	2面・埋土上層	須恵器	坏身	(10.0)	(12.2)	—	4.6	0.3～0.6	回転ナデ
第72図	117	67	SI07	2面・埋土上層	須恵器	坏身	(10.0)	(12.3)	—	4.6	0.3～0.9	回転ナデ
第72図	118	68	SI07	2面・埋土	須恵器	坏身	(9.4)	(12.0)	—	4.9	0.3～0.9	回転ナデ
第72図	119	69	SI07	2面・埋土	須恵器	坏身	(9.7)	(12.0)	—	4.9	0.3～0.7	回転ナデ
第73図	120	36	SI07	2面・埋土	須恵器	坏身	(12.6)	(15.2)	—	5.1～5.6	0.2～0.65	回転ナデ
第73図	121	32	SI07	2面・埋土	須恵器	坏身	12.5	15.0	—	5.1～5.7	0.2～0.7	回転ナデ
第73図	122	35	SI07	2面・埋土	須恵器	坏身	12.2	14.2	—	5.5	0.3～0.7	回転ナデ
第73図	123	34	SI07	2面・埋土	須恵器	坏身	(9.6)	12.6	—	4.4～5.5	0.2～0.6	回転ナデ
第73図	124	50	SI07	2面・埋土上層	須恵器	高坏蓋	(11.6)	—	—	5.0	0.2～0.6	回転ナデ
第73図	125	52	SI07	2面・埋土	須恵器	高坏蓋	11.8	—	—	5.3	0.2～0.75	回転ナデ
第73図	126	51	SI07	2面・埋土上層	須恵器	高坏蓋	11.6	—	—	4.6	0.2～0.7	回転ナデ
第73図	127	49	SI07	2面・埋土	須恵器	高坏蓋	(10.4)	—	—	5.0	0.2～0.7	回転ナデ
第73図	128	48	SI07	2面・埋土	須恵器	高坏蓋	14.1	—	—	6.4	0.3～0.7	回転ナデ
第73図	129	53	SI07	2面・埋土	須恵器	有蓋高坏	10.2	12.7	8.4	9.6	0.2～0.8	回転ナデ
第73図	130	54	SI07	2面・埋土	須恵器	有蓋高坏	(9.6)	12.1	7.9	9.4	0.2～1.0	回転ナデ
第73図	131	77	SI07	2面・埋土	須恵器	有蓋高坏	(10.2)	11.8	7.9	8.0～	0.3～0.6	回転ナデ
第73図	132	56	SI07	2面・埋土	須恵器	有蓋高坏	(10.4)	(11.9)	—	7.5～	0.2～0.8	回転ナデ
第73図	133	75	SI07	2面・埋土	須恵器	有蓋高坏	9.4	12.0	—	6.2～	0.2～0.8	回転ナデ
第73図	134	55	SI07	2面・埋土	須恵器	有蓋高坏	(9.4)	(11.8)	—	5.0～	0.2～0.75	回転ナデ
第73図	135	79	SI07	2面・埋土	須恵器	有蓋高坏？	—	—	7.7	4.7～	0.25～0.95	回転ナデ
第73図	136	76	SI07	2面・埋土	須恵器	高坏	—	—	8.2	6.4～	0.4～0.6	回転ナデ
第73図	137	30	SK82	2面・埋土	須恵器	有蓋高坏	—	—	9.2	5.2～	0.4～0.7	回転ナデ

調整	色調		胎土	焼成	残存(%)	時期	備考
外面	外面	内面					
天井部回転ヘラケズリ	青灰	灰	○	○	60	5C後半	つまみ径３．２、高０．９
口～頸部:ヨコナデ、体:ヘラミガキ	浅黄橙・鈍い橙	浅黄橙・鈍い橙	○	○	34	5C	頸部径１５．２。外面に黒斑有。
タタキ(格子目)	褐灰・灰	褐灰	○	○	10	5C後半	韓式系？
天井部回転ヘラケズリ	褐灰	灰白	△	○	80	5C後半	黒い粗砂多。
天井部回転ヘラケズリ	灰	褐灰	○	○	67	5C後半	
天井部回転ヘラケズリ	暗灰・灰	灰	△	○	40	5C後半	粗砂多。
天井部回転ヘラケズリ	褐灰	灰	△	○	67	5C後半	粗砂多。
天井部回転ヘラケズリ	明褐灰	灰白	△	△	80	5C後半	黒い粗砂および細砂多。
天井部回転ヘラケズリ	暗赤褐・暗灰	灰白	○	○	50	5C後半	黒い細砂多。
天井部回転ヘラケズリ	暗灰～灰白	灰	○	○	90	5C後半	外面天井部火襷有。
天井部回転ヘラケズリ	灰白	灰白	○	○	67	5C後半	
天井部回転ヘラケズリ	灰～灰白	灰白	△	○	100	5C後半	砂粒多。
天井部回転ヘラケズリ	灰白	灰	△	○	45	5C後半	細砂多。
天井部回転ヘラケズリ	灰・浅黄	灰黄褐	△	○	80	5C後半	粗砂多。
天井部回転ヘラケズリ	灰	灰	△	○	50	5C後半	長石・石英等粗砂多。
天井部回転ヘラケズリ	灰～灰白	灰	△	○	98	5C後半	長石多。外面天井部火襷有。
天井部回転ヘラケズリ	灰白	灰白	△	○	60	5C後半	黒い粗砂多。
天井部回転ヘラケズリ	灰白	灰白	△	○	40	5C後半	
回転ヘラケズリ	緑灰	灰	○	○	99	5C後半	黒い砂粒多含。歪み大。
回転ヘラケズリ	灰	灰	○	○	50	5C後半	
回転ヘラケズリ	灰	灰	○	○	97	5C後半	底部外面:ヘラ描き 「記号」 △、朱彩。受部に蓋融着。
回転ヘラケズリ	灰白	灰白	○	○	25	5C後半	
回転ヘラケズリ	灰	灰	○	○	50	5C後半	
回転ヘラケズリ	褐灰	灰	○	○	50	5C後半	
回転ヘラケズリ	灰・灰黄	灰	△	○	40	5C後半	
回転ヘラケズリ	灰	灰	○	○	40	5C後半	黒い砂粒多含。
回転ヘラケズリ	灰	灰・灰白	○	○	100	5C後半	
回転ヘラケズリ	灰・灰白	灰	○	○	50	5C後半	黒い砂粒多含。
回転ヘラケズリ	灰白	灰白	○	○	60	5C後半	歪み大。
天井部回転ヘラケズリ	灰白	灰	△	○	40	5C後半	つまみ径３．６、高０．６、黒い細砂中。
天井部回転ヘラケズリ	褐灰	灰	○	○	40	5C後半	つまみ径３．２、高１．１、黒い細砂少。
天井部回転ヘラケズリ	褐灰	灰	○	○	50	5C後半	つまみ径３．２、高０．７、黒い細砂少。
天井部回転ヘラケズリ	褐灰	灰	○	○	67	5C後半	つまみ径３．４、高０．８
天井部回転ヘラケズリ	灰白	灰	△	○	90	5C後半	つまみ径３．３、高０．９、黒い粗砂中～多。
回転ヘラケズリ	灰白	灰白	△	○	80	5C後半	受部高４．７、脚部高４．９、接合部径４．８。黒い粗砂多。透孔(台形)３孔。
回転ヘラケズリ	褐灰	褐灰	○	○	70	5C後半	受部高４．６、脚部高４．８、接合部径４．６。黒い粗砂少。透孔(台形)３孔。
回転ヘラケズリ・脚部カキメ	灰	灰	○	○	67	5C後半	受部高３．８、脚部高４．２、接合部径５．２。透孔(長方形)３孔。
回転ヘラケズリ	灰・灰白	灰	△	○	34	5C後半	受部高４．３、脚部高２．９～、接合部径４．９。黒い粗砂多。透孔(台形)3孔。
回転ヘラケズリ	灰	灰白	△	○	56	5C後半	受部高４．７、脚部高１．５～、接合部径５．０。透孔(長方形)３孔。粗砂多。口縁に蓋融着。
回転ヘラケズリ	灰	灰	○	○	45	5C後半	受部高４．３、接合部径５．２。
回転ナデ	青灰	灰	○	○	45	5C後半	受部高０．５～、脚部高４．２、接合部径４．６。透孔(長方形)３孔。
回転ナデ	灰白	灰白	△	○	60	5C後半	受部高１．３～、脚部高５．１、接合部径３．６。透孔なし。黒い粗砂多。
回転ナデ	灰	灰	○	○	54	5C後半	脚高４．９、接合部径４．４、透孔(円)３孔径１．１

遺物観察表（4）

図版番号	No.	実測番号	遺構	層位	種類	器種	法量					調整
							口径	最大径	底径	器高	最大厚	内面
第73図	138	78	SI07	2面・埋土	須恵器	有蓋高坏？	—	—	8.8	5.1～	0.4～0.75	回転ナデ
第73図	139	80	SI07	2面・埋土	須恵器	短頸壷	(8.0)	(12.0)	—	(7.4)	0.15～0.5	回転ナデ
第74図	140	57	SI07	2面・埋土	須恵器	無蓋高坏	(14.0)	—	8.2	9.5	0.2～0.9	回転ナデ
第74図	141	58	SI07	2面・埋土	須恵器	無蓋高坏	(16.0)	—	(10.4)	11.2	0.2～1.0	回転ナデ
第74図	142	59	SI07	2面・埋土上層	須恵器	無蓋高坏	(16.0)	—	—	8.0～	0.3～1.0	回転ナデ
第74図	143	60	SI07	2面・埋土	須恵器	無蓋高坏（長脚？）	(11.9)	—	—	4.7～	0.2～0.8	回転ナデ
第74図	144	61	SI07	2面・埋土上層	須恵器	壷	(26.6)	—	—	8.6～	0.4～1.15	タタキ(平行)
第74図	145	62	SI07	2面・埋土	須恵器	壷	(20.8)	—	—	4.4～	0.5～0.65	回転ナデ
第74図	146	64	SI07	2面・埋土	須恵器	大甕	(54.4)	—	—	5.0～	0.5～0.9	回転ナデ
第74図	147	63	SI07	2面・埋土	須恵器	大甕	(42.8)	—	—	4.8～	0.8	回転ナデ
第74図	148	65	SI07	2面・埋土	須恵器	甕底？	—	—	(15.2)	4.2～	1.2～1.9	ナデ・手持ちヘラケズリ
第81図	157	205	SI21	2面・埋土	須恵器	坏蓋	(13.0)	—	—	4.2	0.25～0.7	回転ナデ
第81図	158	206	SI21	2面・埋土	須恵器	有蓋高坏蓋	12.5	—	—	5.1	0.35～0.6	回転ナデ
第81図	159	208	SI21	2面・埋土	須恵器	短脚高坏	—	—	9.0	5.1～	0.5～0.85	回転ナデ
第81図	160	209	SI21	2面・埋土	須恵器	短脚高坏	—	11.4～	8.4～	5.6～	0.3～1.1	回転ナデ
第81図	161	207	SI21	2面・埋土	須恵器	短脚高坏	—	—	9.2	5.9～	0.6～1.5	回転ナデ
第81図	162	167	SI21	2面・アゼ	土師器	高坏	(14.9)	—	—	8.7～	0.3～1.1	ヘラミガキ、ヨコナデ
第81図	163	202	SI21	2面・埋土	土師器	高坏	—	—	—	7.2～	0.4～1.2	摩滅
第81図	164	210	SI21	2面・埋土	須恵器	甕口	(23.5)	—	—	7.3～	0.6～0.85	回転ナデ
第81図	165	200	SI21	2面・埋土	土師器	坏身	(12.6)	—	—	4.2	0.3～0.7	ハケメ、ヨコナデ
第81図	166	201	SI21	2面・埋土	土師器	壷底	—	16.2～	—	6.7～	0.3～1.0	ハケメ
第81図	167	199	SI21	2面・埋土	土師器	把手付鉢	(20.3)	30.4	—	11.6～	0.4～0.75	口:ヨコナデ、体:ナデ
第81図	168	204	SI21	2面・埋土	土師器	甕底	—	—	(5.0)	2.7～	0.7～1.85	ヘラナデ
第81図	169	203	SI21	2面・埋土	土師器	甕底	—	—	5.6	2.8～	0.65～1.85	ヘラナデ
第83図	170	138	SI10	2面上層	土師器	小型丸底壷	—	9.2	—	5.7～	0.5～0.65	ナデ
第83図	171	151	SI10	2面上層	土師器	小型丸底壷	7.8	8.4	—	8.0	0.3～0.85	口:ヨコナデ、体:ナデ
第83図	172	139	SI10	2面上層	土師器	器台	—	—	11.6	5.8～	0.3～0.75	ハケメ
第83図	173	185	SI10	2面・埋土	土師器	有段口縁壷	(29.6)	30.6	—	22.7～	0.25～0.55	口:ヨコナデ、頸:ハケメ、ヨコナデ、体:ヘラケズリ
第87図	174	118	SI12	SP957	須恵器	坏蓋	(12.8)	—	—	4.0	0.2～0.85	回転ナデ
第87図	175	141	SI12	2面・埋土	須恵器	坏蓋	(13.4)	(14.0)	—	3.8	0.3～0.75	回転ナデ
第87図	176	83	SI12	SP959	須恵器	坏身	(11.0)	(13.2)	—	4.4	0.2～0.5	回転ナデ
第87図	177	142	SI12	2面・埋土	須恵器	坏身	(9.6)	(11.4)	—	4.0～	0.2～0.5	回転ナデ
第87図	178	105	SK56	2面・埋土	須恵器	有蓋高坏	10.3	12.6	(9.4)	8.4	0.3～1.0	回転ナデ
第87図	179	143	SI12	2面・埋土	須恵器	壷	(14.0)	—	—	4.7～	0.35～0.5	回転ナデ
第87図	180	144	SI12	2面・埋土	須恵器	壷	—	21.4	—	11.0～	0.35～0.8	カキメ
第87図	181	119	SI12	SP957	土師器	壷	(15.2)	(17.2)	—	6.3～	0.4～0.9	口:ヨコナデ
第90図	182	108	SI14	2面・埋土	須恵器	坏蓋	11.8	—	—	4.3	0.25～0.6	回転ナデ
第90図	183	219	SI14	2面・埋土	須恵器	坏蓋	11.6	—	—	4.1	0.3～0.45	回転ナデ
第90図	184	90	SI14	SP964	須恵器	坏蓋	(13.8)	—	—	4.3	0.2～0.6	回転ナデ
第90図	185	218	SI14	2面・埋土	須恵器	坏身	10.2	12.2	—	5.1	0.3～0.7	回転ナデ
第90図	186	16	SK57	1面・埋土	須恵器	坏身	12.1	14.2	—	5.6	0.3～1.1	回転ナデ
第90図	187	89	SK52	2面・埋土	須恵器	坏身	(11.8)	(13.8)	—	4.5	0.2～0.6	回転ナデ
第90図	188	111	SI14	SP931	須恵器	壷	15.9	—	—	7.7～	0.4～0.8	ナデ

調整	色調		胎土	焼成	残存(%)	時期	備考
外面	外面	内面					
回転ヘラケズリ	灰白	灰白	○	○	65	5C後半	受部高１．０～、脚部高３．９、接合部径５．４。透孔(長方形)３孔。
回転ヘラケズリ	暗灰・灰	青灰	△	○	45		粗砂多。その他高坏脚部に鳥肢状ヘラ描。
回転ヘラケズリ	暗灰・灰白	青灰	△	○	70	5C後半	受部高４．４、脚部高５．１、接合部径５．０。長石多。透孔(台形)４孔。
波状文・回転ヘラケズリ	青灰	青灰	○	○	70	5C後半	受部高５．３、脚部高５．９、接合部径５．４。透孔(台形)３孔。
波状文・回転ヘラケズリ	鈍い黄橙・灰白	淡黄	△	△	40	5C後半	受部高５．８、脚部高１．８～、接合部径５．５。透孔(台形)３孔。
波状文・回転ヘラケズリ	褐灰・オリーブ黒	灰	○	○	40	5C後半	受部高４．２、脚部高０．８～、接合部径３．５。透孔(台形)４孔。黒い細砂少。
タタキ	暗灰・灰白	灰	△	○	33	5C後半	粗砂多。
カキメ	灰	灰	○	○	18	5C後半	
波状文	オリーブ灰	黄灰	○	△	15	5C後半	
波状文	灰	灰オリーブ・極暗赤褐	○	○	15	5C後半	
タタキ(平行)	灰白	灰白	△	○	18		未実測:つまみ蓋３/蓋１２/身２４/有蓋高１０/無蓋高２
天井部回転ヘラケズリ	暗灰	灰	○	○	34	5C後半	
天井部回転ヘラケズリ	灰	灰	○	○	50	5C後半	つまみ径２．１、高１．４。
回転ナデ	灰白	灰白	○	○	67	5C後半	脚高３．９、接合部径４．３。透孔(楕円刺突)３孔。孔径０．２～０．７。
回転ヘラケズリ	褐灰	灰白	○	○	67	5C後半	脚高３．７～、接合部径４．４。透孔(円形)３孔。孔径１．０。
カキメ	灰	灰	△	○	40	5C後半	脚高５．０、接合部径６．０。透孔(台形)３孔。
(ヨコ)ヘラミガキ	橙	橙	○	○	55	5C?	受部高６．１、脚部高２．７、接合部径３．２。受部内外面に黒斑有。
受～接合部:ナデ、脚部:ヘラミガキ	橙	橙	○	○	50	5C	接合部径:３．２。
回転ナデ	灰	灰	○	△	25	5C後半	火膨れ多い。
口:ヨコナデ、体～底部:手持ちヘラケズリ	鈍い黄褐	鈍い黄橙	○	○	25	6C	外面:黒斑有。
ハケメ	淡赤橙	灰白	△	○	20	5C	丸底。摩滅著しい。火熱。
口～頚:ヨコナデ、体:ヘラミガキ	黄橙・橙	黄橙	○	○	25	5C	頚部径１７．０、胴径(２３．２)。内面:口～体上半に黒斑。
タタキ(平行)、ユビオサエ	褐灰	褐灰	○	○	15		平底。底部木葉痕。
タタキ(平行)	黄灰	灰白	○	○	20		平底。
ハケメ、(ヨコ)ヘラミガキ	橙	橙	○	○	67	5C	
口:ヨコナデ、体:(タテ～ヨコ)ヘラミガキ	淡黄	浅黄橙	△	○	75	5C	口高２．５、体高５．５、頚部径６．１。粗砂多。
(ヨコ)ヘラミガキ精緻	明赤褐	明赤褐	○	○	67	5C	脚高４．２、頚部径３．０、貫通孔径１．８。
口～頚:ヨコナデ、体:ハケメ	鈍い黄褐	鈍い黄褐	△	○	35	4C?	頚部径３２．５。５の字口縁(北陸系？)
天井部回転ヘラケズリ	暗灰～灰	灰	△	○	34	5C後半	黒い粗砂多。
天井部回転ヘラケズリ	灰・灰白	灰	○	○	40		
回転ヘラケズリ	明青灰・灰	灰白	△	○	46	5C後半	黒い粗砂多。
回転ヘラケズリ	灰	灰白	○	○	25	5C後半	
回転ヘラケズリ	明ｵﾘｰﾌﾞ灰	鈍い橙	△	○	90	5C後半	受部高４．６、脚部高３．８、接合部径６．０。透孔(台形)４孔。粗砂および黒い細砂多。
２段波状文	灰白	灰白	○	○	25	5C後半	口高４．３、頚部径８．５。
波状文、カキメ、ナデ	灰白	灰白	○	△	34		頚部径９．８。
口:ヨコナデ	淡橙	鈍い褐色	△	○	25		外面に朱彩。
天井部回転ヘラケズリ	灰白	灰白	○	○	67	5C後半	
天井部回転ヘラケズリ	褐灰	灰	○	○	34	5C	
天井部回転ヘラケズリ	灰白	灰白	○	△	50	5C後半	やや軟質。
回転ヘラケズリ	青灰	明青灰	○	○	50	5C後半	
回転ヘラケズリ	灰白	鈍い黄橙	○	○	60	5C後半	
回転ヘラケズリ	灰	灰	○	○	50	5C後半	
タタキ(平行)	灰白	灰白	△	○	30		頚部径１２．０.黒い粗砂多。

遺物観察表（5）

図版番号	No.	実測番号	遺構	層位	種類	器種	法量					調整
							口径	最大径	底径	器高	最大厚	内面
第90図	189	112	SI13	2面・埋土	須恵器	壷	18.6	－	－	8.8～	0.35～0.9	ナデ
第90図	190	109	SI14	2面・埋土	須恵器	坏蓋	12.0	－	－	4.8	0.3～0.55	回転ナデ
第90図	191	220	SI14	2面・埋土	須恵器	有蓋高坏	10.4	12.1	－	6.4～	0.3～0.8	回転ナデ
第90図	194	10	SI13	2面・埋土	須恵器	坏蓋	(12.0)	－	－	4.6	0.2～0.8	回転ナデ
第90図	195	15	SI13	2面・埋土	須恵器	高坏蓋	11.6	－	－	5.6	0.1～0.5	回転ナデ
第90図	196	153	SI13	SK54	土師器	鉢	14.3～15.0	－	7.5～8.5	7.9～8.9	0.35～1.0	ヘラナデ
第91図	197	157	SI13	SK54	土師器	大型浅鉢	43.5	－	－	10.9	0.6～0.9	ハケメ(巾広)、口:ナデ
第94図	198	81	SI20	2面・埋土	須恵器	坏蓋	14.4	－	－	5.4	0.2～0.8	回転ナデ
第94図	199	171	SI20	2面・埋土	土師器	壷	(18.0)	21.7～	－	4.9～	0.5～0.7	口:ハケメ。体:ナデ
第94図	200	170	SI20	2面・埋土	土師器	器台	－	－	(9.4)	5.6～	0.4～0.7	－
第96図	201	134	SE02	2面・埋土	須恵器	ハソウ	6.8～	15.0	－	12.6～	0.25～0.8	ナデ
第96図	202	135	SE02	2面・埋土	須恵器	壷	14.0	19.6	－	18.4	0.4～0.75	ナデ
第96図	203	176	SE02	2面・埋土	土師器	直口壷	12.8	19.0	－	17.6	0.4～0.9	口:ハケメ、ヨコナデ、体:摩滅
第96図	204	177	SE03	2面・埋土	土師器	直口壷	10.2	13.2	－	14.6	0.35～0.6	口:ヨコナデ、体:ナデ
第96図	205	178	SE03	2面・埋土	土師器	直口壷	10.5～	14.5	－	16.4	0.3～0.7	摩滅
第96図	206	242	SE02	2面・埋土	土師器	直口壷	(11.6)	－	－	3.0～	0.25～0.65	摩滅
第96図	207	238	SE02	2面・埋土	土師器	壷	(13.6)	－	－	4.4～	0.35～0.9	口:ヨコナデ
第96図	208	236	SE02	2面・埋土	土師器	小型丸底壷	(12.0)	－	－	5.7～	0.35～0.8	ハケメ
第96図	209	240	SE02	2面・埋土	土師器	壷口	(16.2)	－	－	3.3～	0.4～0.5	摩滅
第96図	210	234	SE02	2面・埋土	土師器	壷口	(19.6)	－	－	5.6～	0.55～0.9	ハケメ、ヨコナデ
第96図	211	239	SE02	2面・埋土	土師器	甕口	(20.6)	－	－	4.1～	0.4～0.7	口～頸:ヨコナデ、体:ハケメ
第97図	212	195	SE02	2面・埋土	土師器	甕	13.6～14.6	16.2	－	10.5～	0.35～0.7	口:ハケメ、ヨコナデ、体:ハケメ、ヘラケズリ
第97図	213	227	SE02	2面・埋土	土師器	甕	14.8	16.2	－	14.3～	0.55～0.9	口:ヘラミガキ、ヨコナデ、体:ナデ
第97図	214	237	SE02	2面・埋土	土師器	甕	(16.8)	21.2	－	7.5～	0.4～0.8	口:ヨコナデ、体:ヘラケズリ
第97図	215	235	SE02	2面・埋土	土師器	壷口	(17.0)	－	－	6.2～	0.45～0.8	口:ヨコナデ
第97図	216	194	SE02	2面・埋土	土師器	甕	14.6	18.4	－	10.7～	0.4～0.6	口:ヨコナデ、頸:ハケメ、体:ヘラケズリ、ナデ
第97図	217	241	SE02	2面・埋土	土師器	小型壷	(9.2)	12.6	－	5.5～	0.4～0.75	口～頸:ヨコナデ、体:ハケメ
第97図	218	231	SE02	2面・埋土	土師器	小型壷	9.5	15.6	－	7.3～	0.2～0.7	摩滅
第97図	219	175	SE02	2面・埋土	土師器	甕	(20.7)	26.3	－	31.7	0.35～0.65	口:ハケメ、、体:ハケメ・ナデ
第98図	220	228	SE02	2面・埋土	土師器	壷	16.4	26.7～	－	10.8～	0.5～1.1	口:ヘラナデ、体:ヘラケズリ
第98図	221	230	SE02	2面・埋土	土師器	甕	(23.8)	(30.8)	－	13.0～	0.5～0.7	口～頸:ヨコナデ、体:ヘラケズリ
第98図	222	232	SE02	2面・埋土	土師器	坏身	(13.7)	－	－	3.4～	0.3～0.5	摩滅
第98図	223	233	SE02	2面・埋土	土師器	高坏	－	－	－	7.7～	0.4～2.0	脚:ハケメ、ナデ
第99図	224	20	SE03	2面・埋土	須恵器	坏身	(11.0)	(13.0)	－	5.0	0.3～0.5	回転ナデ
第99図	225	19	SE03	2面・埋土	須恵器	坏身	10.9	13.0	－	5.0	0.3～0.6	回転ナデ
第99図	226	8	SE03	2面・埋土	須恵器	坏身	10.8	13.2	－	5.3	0.3～1.0	回転ナデ
第99図	227	1	SK139	2面・埋土	須恵器	坏身	(11.2)	13.0	－	5.1	0.3～0.8	回転ナデ
第99図	228	21	SE03	2面・埋土	須恵器	坏身	11.2	13.2	－	4.3～	0.3～1.1	回転ナデ
第99図	229	9	SE03	2面・埋土	須恵器	高坏蓋	12.6	－	－	5.2	0.2～0.6	回転ナデ
第99図	230	93	SK129	2面・アゼ	須恵器	坏蓋	12.9	－	－	5.7	0.3～0.75	回転ナデ
第99図	231	147	SK129	2面・埋土	須恵器	壷	(15.6)	－	－	4.4～	0.3～0.5	回転ナデ
第99図	232	37	SP1474	2面・埋土	須恵器	有蓋高坏	11.2	(13.0)	－	4.5～	0.2～0.7	回転ナデ
第99図	233	146	SK129	2面・埋土	須恵器	無蓋高坏	(16.1)	－	－	6.5～	0.3～0.7	回転ナデ

調整	色調		胎土	焼成	残存(%)	時期	備考
外面	外面	内面					
タタキ(平行)・ナデ	灰白	暗灰・灰	△	○	40		頚部径１３．２。黒い粗砂多。
天井部回転ヘラケズリ	灰白	灰白	○	○	80	5C後半	つまみ径３．３、高１．０。やや歪み有。
回転ヘラケズリ	灰	灰白	○	○	40	5C後半	受高４．１、脚高２．３～、接合部径４．４。透孔(長方形)３孔。
天井部回転ヘラケズリ	灰	灰白	○	○	65	5C後半	ＳＩ１５内
天井部回転ヘラケズリ	暗灰・灰白	灰	○	○	100	5C後半	ＳＩ１５内
体:ナデ、底:ヘラケズリ	淡黄	浅黄橙	○	○	98	7C?	底部外面に木葉痕。
ハケメ、口:ナデ	浅黄橙	灰白～浅黄橙	△	○	80	7C	外面:丹塗り、口内面:丹塗り。
回転ヘラケズリ	明青灰	灰白	△	○	67	5C後半	黒い粗砂～細砂多。
口:(ヨコ)ヘラミガキ、体:ハケメ	黒褐	黄橙	○	△	15	5C	口高:２．６。体部外面に炭化物付着。
ハケメ、ヘラミガキ	橙	橙	○	○	67	5C	朱彩土器。内外面摩滅。頚部径２．０、貫通孔径１．２。
頚部・体部中央に波状文、下半タタキ(平行)、ナデ	灰・灰オリーブ	灰白	○	○	50	5C	頚部軽６．１、体部高１０．０。
口:回転ナデ、体:タタキ(平行)、ナデ	灰・灰白	灰白	○	○	92	5C後半	口縁部にヘラ描「」。口高４．８、体高１３．６、頚部径９．２。
口～頚部:ヨコナデ、体:ハケメ	鈍い橙	鈍い黄橙・黒	△	○	85	5C	頚部径１０．７。内面:口～底まで黒色処理？
体下:ハケメ	橙・浅黄橙・淡橙	浅黄橙	○	○	100	5C	頚部径９．０。口縁部焼成後欠損。(祭祀関連？)火熱で器面剥離多い。
口:(タテ)ヘラミガキ、頚:ナデ、体:ハケメ、ヘラミガキ	橙	鈍い赤褐	△	○	100	5C	外面朱彩。頚部径７．０。口縁部焼成後全周欠損。体部中央に穿孔。(祭祀関連？)火熱で器面剥離多い。
摩滅	灰白	灰白	△	○	20	5C?	
口～頚:ヨコナデ	浅黄橙	鈍い黄橙	△	○	18	5C後半	頚部径１１．７。口高２．２。
ハケメ	浅黄橙	灰黄褐	△	○	45	5C後半	頚部径９．７。口高２．４。
摩滅	浅黄橙	浅黄橙	△	○	15	5C?	頚部径１３．０。口高２．７。
口～頚:ハケメ、ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	○	○	18	5C後半	頚部径１６．０。口高４．４。
口～頚:タテハケ、ヨコナデ	鈍い黄橙	鈍い黄橙	○	○	15	5C後半	頚部径１７．３。口高２．３。
口～頚:ハケメ、ヨコナデ、体:ハケメ	橙・淡橙	鈍い黄褐	○	○	55	5C	頚部径１２．３。外面全体に火熱。
口～頚:ヘラミガキ、ヨコナデ、体:ヘラケズリ	橙	褐灰	△	○	55	5C後半	頚部径１３．４。
口～頚:ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	○	○	20	5C後半	頚部径１５．５。口高２．８。体部外面に黒斑。
口～頚:ヨコハケ、ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	○	○	35	5C後半	頚部径１３．９。口高４．０。
口～頚:ヨコナデ、体:ハケメ	明黄褐	橙	△	○	55	5C	頚部径１３．２。外面体上半に黒斑。火熱受け器面変色(明赤褐)。壷？
口～頚:ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	○	○	25	5C後半	頚部径９．３。口高２．６。外面:火熱、黒斑。
体:ハケメ？	橙	黄橙	○	○	50	5C後半	頚部径９．７。口高１．５。
口:ハケメ、ヘラミガキ、体:ハケメ	鈍い黄橙	灰	○	○	75	5C	頚部径１８．５。外面:口～体下にかけて黒斑。
口～頚:ヨコナデ、体:ハケメ	浅黄橙	浅黄橙	△	○	25	5C後半	頚部径１４．２。口高３．３。
口～頚:ヨコナデ、体:ハケメ	浅黄橙	明黄褐	△	○	25	5C後半	頚部径２１．８。口高２．８。体部外面に黒斑大。
ヘラミガキ	浅黄橙	灰白	△	○	34	5C後半	
受下～脚:ユビナデ	橙	灰白	○	○	67	5C後半	受高２．３～、脚高５．～、頚部径２．２。透孔なし。
回転ヘラケズリ	灰白	灰白	○	○	50	5C後半	
回転ヘラケズリ	灰	灰	○	○	67	5C後半	底部外面:ヘラ描き 「記号」 V
回転ヘラケズリ	灰	灰白	○	○	90	5C後半	
回転ヘラケズリ	灰・褐灰	灰	○	○	65	5C後半	
回転ヘラケズリ	灰	灰	○	○	60	5C後半	
天井部回転ヘラケズリ	灰・灰白	灰	○	○	58	5C後半	つまみ径３．１、高０．６。
天井部回転ヘラケズリ	灰・灰白	青灰	△	○	60	5C後半	つまみ径３．４、高１．２。砂粒多。
波状文＋凸帯＋波状文	灰	灰	○	○	15	5C後半	
回転ヘラケズリ	褐灰	灰黄褐	○	○	40	5C後半	推定接合部径４．７
波状文、回転ヘラケズリ	灰	灰	○	○	18	5C後半	

遺物観察表（6）

図版番号	No.	実測番号	遺構	層位	種類	器種	法量					調整
							口径	最大径	底径	器高	最大厚	内面
第99図	234	148	SK129	2面・埋土	土師器	壷	(20.6)	－	－	7.7～	0.5～0.85	口：ハケメ
第99図	235	149	SK129	2面・埋土	土師器	甕	(24.8)	37.3～	－	9.4～	0.3～0.7	ハケメ
第100図	236	156-2	SE03	2面・埋土	須恵器	大甕	27.5	49.5	－	45.3	0.6～1.7	タタキ（青海波）
第100図	237	136	SE03	2面・埋土	須恵器	壷	21.5	36.2	－	36.5	0.25～0.95	タタキ（青海波？）、ナデ
第102図	238	114	SK23	2面・埋土	須恵器	坏蓋	(13.6)	－	－	4.3	0.3～0.7	回転ナデ
第102図	239	12	SK38	2面・埋土	須恵器	坏蓋	12.2	－	－	4.5	0.3～0.7	回転ナデ
第102図	240	6	SK111	2面・アゼ	須恵器	坏身	(9.8)	11.9	－	4.7	0.2～0.9	回転ナデ
第102図	241	115	SK23	2面・埋土	須恵器	坏身	(13.0)	(15.4)	－	3.8	0.3～0.9	回転ナデ
第102図	242	116	SK20	2面・埋土	須恵器	坏身	(10.8)	(12.4)	－	4.3	0.2～0.6	回転ナデ
第102図	243	117	SK20	2面・埋土	須恵器	坏身	(10.6)	(13.2)	－	4.6	0.2～0.7	回転ナデ
第102図	244	104	SP1406	2面・埋土	須恵器	有蓋高坏	(10.2)	(12.4)	9.3	9.8	0.2～1.0	回転ナデ
第102図	245	110	SP1481	2面・埋土	須恵器	短頸壷	－	12.5	－	9.8～	0.15～0.9	ナデ
第102図	246	113	SK23	2面・埋土	須恵器	甕口	－	－	36.0～	14.0～	0.9～2.8	ナデ
第103図	248	11	包含層	2面・埋土	須恵器	坏蓋	14.2	－	－	4.0	0.3～0.7	回転ナデ
第103図	249	18	表採	－	須恵器	高坏蓋	(12.6)		－	5.3	0.2～0.6	回転ナデ
第103図	250	106	包含層I－2G	2面上層	須恵器	坏身	11.3	13.2	－	4.2～5.2	0.2～0.6	回転ナデ
第103図	251	121	包含層I－2G	2面上層	須恵器	坏身	10.9	13.0	－	5.0～5.7	0.3～0.6	回転ナデ
第103図	252	97	包含層I－3G	2面上層	須恵器	坏身	(10.4)	12.4	－	5.0	0.2～0.6	回転ナデ
第103図	253	140	SP1412	2面・埋土	須恵器	坏身	－	(12.8)	－	3.4～	0.2～0.6	回転ナデ
第103図	254	82	包含層F・G－6G	2面上層	須恵器	坏身	10.9	13.0	－	5.4	0.2～0.8	回転ナデ
第103図	255	152	包含層I－2G	2面上層	土師器	小型丸底鉢	11.4	－	－	8.3	0.25～0.8	口：ナデ、体：ハケメ、ミガキ
第103図	256	197	包含層I－2G	2面上層	土師器	小型丸底鉢	10.8	12.6	－	11.0	0.35～0.8	口：ハケメ、体：ヘラミガキ
第103図	257	91	包含層G・H－2G	2面上層	須恵器	高坏脚部	－	－	10.8	6.0～	0.2～1.1	回転ナデ
第103図	258	196	包含層I－2G	2面上層	土師器？	甕	14.8	16.2	4.0	17.0	0.45～1.0	口：ヨコナデ、体：タタキ、ナデ
第103図	259	191	包含層I－2G	2面上層	土師器	壷	16.7～17.3	26.4	－	16.1～	0.3～0.7	口：ヘラナデ、体：ハケメ
第103図	260	192	包含層I－2G	2面上層	土師器	丸底鉢	14.0～20.8	19.0	－	13.5	0.6～0.9	口：ヨコナデ、体：ハケメ、ヘラケズリ、ナデ
第103図	261	381	包含層I－1G	2面上層	土製品	羽口	－	－	－	－	0.65～1.1	－
第105図	262	184	SD74	2面・埋土	土師器	大型坏蓋	(27.8)	－	－	2.4～	0.3～0.7	回転ナデ
第105図	263	183	SD74	2面・埋土	土師器	大型坏蓋	(32.6)	－	－	2.6～	0.4～0.65	回転ナデ
第105図	264	181	SD74	2面・埋土	土師器	高台付皿	(28.2)	－	(21.4)	3.4	0.3～0.7	暗文
第105図	265	182	SD74	2面・埋土	土師器	大型皿	(26.0)	－	(19.2)	3.7	0.3～0.65	回転ナデ
第105図	266	180	SD74	2面・埋土	土師器	高坏	－	－	(14.6)	8.9～	0.6～1.0	しぼり目、ハケメ
第105図	267	29	SP1275	1面・埋土	須恵器	瓶	－	9.7	6.0	5.4～	0.5	回転ナデ
第106図	268	249	SP308	2面・埋土	瓦	平瓦	－	－	－	－	－	布目
第106図	269	248	SP743	2面・埋土	瓦	平瓦	－	－	－	－	－	布目
第106図	270	247	HH01－1	SP－25	瓦	平瓦	－	－	－	－	－	－
第107図	271	324	包含層F－G3G	2面・埋土	須恵器	甕	－	－	－	7.0～	0.6～1.0	ナデ
第107図	272	325	包含層F－G3G	2面・埋土	瓦	平瓦	－	－	－	－	2.5	布目
第107図	274	336	包含層F－G3G	2面・埋土	須恵器	すり鉢	－	10.4～	9.4	2.6～	1.7～	－
第110図	275	334	SB501	SP481	瓦器	椀	(14.0)	－	－	3.0～	0.2～0.35	（放射状）ヘラミガキ
第110図	276	333	SB501	SP481	瓦器	椀	(13.6)	－	－	3.2～	0.25～0.4	ヘラミガキ
第110図	277	253	SB501	SP469	瓦器	椀	(13.2)	－	(4.0)	3.7	0.15～0.35	（ヨコ）ヘラミガキ
第110図	278	252	SB501	SP469	瓦器	椀	－	－	(4.2)	2.0～	0.15～0.35	ヘラミガキ

調整	色調		胎土	焼成	残存(%)	時期	備考
外面	外面	内面					
口・頚:ナデ、体:ハケメ	明赤褐～橙	灰赤	○	○	20		やや摩滅。
ハケメ、、ナデ	浅黄橙・黒	浅黄橙・黒	△	○	25		粗砂多。
口:カキメ、体:タタキ(平行)、カキメ	褐灰・灰白	灰	○	△	75	5C	体部中央～下半にかけて火膨れ。
口:カキメ、体:タタキ(格子)、ナデ	灰	灰	△	○	92	5C後半	口高５．９、体高３０．６、頚部径１６．０。粗砂多。
天井部回転ヘラケズリ	灰・明緑灰	灰白	○	○	40	5C後半	
天井部回転ヘラケズリ	灰白・鈍い黄橙	褐灰	○	○	90	5C後半	
回転ヘラケズリ	灰	灰	○	○	60	5C後半	
回転ヘラケズリ	灰白	灰白	△	○	45	5C後半	底部に重ね焼きによる融着片。自然釉多量付着。黒い粗砂～細砂多。
回転ヘラケズリ	灰	灰白	○	○	34	5C後半	
回転ヘラケズリ	灰・灰白	灰白	△	○	34	5C後半	粗砂多。
回転ヘラケズリ	灰白	灰白	○	○	80	5C後半	受部高５．０、脚部高４．８、接合部径４．６。透孔(円形)３孔、径１．３。
体上半カキメ、・底タタキ(平行)	灰・灰白	灰白	○	○	67	5C後半	頚部径５．８、体部高８．９。
カキメ・２段波状文	灰	灰	○	○	25	5C	接合部径２９．０
天井部回転ヘラケズリ	灰白	灰白	○	△	100	6C前半	
天井部回転ヘラケズリ	灰・灰白	灰	○	○	４０	5C後半	つまみ径２．４～２．６、高１．０。
回転ヘラケズリ	灰	灰白	○	○	100	5C後半	歪み大。
回転ヘラケズリ	灰白	灰白	○	○	90	5C後半	歪み大。
回転ヘラケズリ	灰白	灰白	△	○	80	5C後半	粗砂多。
回転ヘラケズリ	灰白・黒	灰白	○	×	67	5C後半	底部外面多量の煤付着。
回転ヘラケズリ	灰	灰	△	○	98	5C後半	底部外面:ヘラ描き 「記号」 △。
口:(ヨコ)ヘラミガキ、体:ハケメ、ヘラミガキ	淡黄	淡黄	△	○	92	5C	口高１．７、体高６．４、頚部径１０．３。粗砂多。
口～頚:ヨコナデ、体:ハケメ	黄橙・浅黄橙	明黄褐	○	○	95	5C	頚部径１０．４、口高１．５、体高９．４。外面体部に黒斑。
回転ナデ	褐灰	灰白	△	○	54	5C	脚部高５．１、接合部径４．０。透孔なし。黒い粗砂～細砂多。
口～頚:ヨコナデ、体:タタキ(平行)	浅黄橙・橙	鈍い黄橙	△	○	98	庄内式併行期	頚部径１２．２。外面:口～体下端に黒斑。底部木葉痕。下田Ⅱ式－3。
口:ヨコナデ、体:摩滅	橙	浅黄橙	○	△	40	5C	頚部径１４．３。外面体上半に煤付着。
口:ハケメ、ヨコナデ、体:ハケメ、底:ナデ	浅黄橙	浅黄橙・明褐	△	○	50	5C	歪み大。内面:口～体上半に丹塗り？
－	黄橙・褐灰	黄橙	○	○	15	弥生～古墳?	残存長５．４～、巾３．０～３．９、孔径１．４～２．１。
手持ちヘラケズリ	橙	橙	○	○	15	8C?	つまみ付き。端部内外面にヘラ沈線。
回転ヘラケズリ	橙	橙	○	○	15	8C?	つまみ付き。
回転ナデ	浅黄橙	橙	○	○	25	8C?	底部外面に黒斑顕著。
回転ナデ、底部:手持ちヘラケズリ	橙	浅黄橙	○	○	25	8C?	底部外面に黒斑顕著。
ナデ、ヘラケズリ	橙	浅黄橙	○	○	52	8C?	脚高８．０、接合部径４．４。
回転ヘラケズリ	灰白	灰	○	○	50	8C?	
?	暗灰	青灰	○	○	20	古代	長:１２．７～×１１．８～、厚:２．３～２．５。２４８と同類。
?	暗灰	青灰	○	○	15	古代	長:１０．０～×８．０～、厚:２．６。
格子目	淡黄	淡黄	○	△	25	7C後半?	長:１４．６～×１１．２～、厚:２．０～２．７５。(穂積廃寺出土遺物－平成１４年度概報参考)
タタキ(格子目)	褐灰	褐灰	○	○	15	5C後半	
?	灰白	浅黄橙	○	△	10	7C後半?	長軸１０．０×短軸６．４
－	灰	灰	○	○	20	7C前半	ＴＫ２０９？
(タテ)ヘラミガキ	口:黒、体:灰白	暗灰	○	○	18	13C前半	和泉型Ⅲ－２段階
(放射状)ヘラミガキ	灰白	暗灰	○	○	25	13C前半	和泉型Ⅲ－２段階
ユビオサエ	黒褐	黒褐	○	○	25	13C前～後	和泉型Ⅳ段階
－	浅黄橙	黒褐	○	△	25	13C前～後	和泉型Ⅳ段階

遺物観察表（7）

図版番号	No.	実測番号	遺構	層位	種類	器種	法量					調整
							口径	最大径	底径	器高	最大厚	内面
第110図	279	329	SB501	SP475	瓦器	椀	(12.6)	－	－	3.7～	0.2～0.4	摩滅
第110図	280	328	SB501	SP475	瓦器	椀	(12.8)	－	3.4	4.1	0.15～0.35	暗文
第110図	281	331	SB501	SP475	瓦器	椀	(13.3)	－	－	3.3～	0.15～0.3	ヘラミガキ
第110図	282	330	SB501	SP475	瓦器	椀	(12.8)	－	－	3.3～	0.2～0.4	ヘラミガキ
第110図	283	327	SB501	SP475	瓦器	椀	(12.8)	－	4.0	3.5	0.1～0.4	ヘラミガキ
第110図	284	326	SB501	SP475	瓦器	椀	(12.7)	－	3.8	4.7	0.1～0.4	ヘラミガキ、ヨコナデ
第110図	285	375	SB501	SP503	瓦器	椀	(13.0)	－	4.2	3.2	0.1～0.35	ヘラミガキ
第110図	286	374	SB501	SP503	瓦器	椀	(13.8)	－	3.3	3.6	0.2～0.5	ヘラミガキ
第110図	287	373	SB501	SP503	瓦器	椀	13.8	－	4.0	2.9～3.9	0.25～0.35	ヘラミガキ
第110図	288	335	SB501	SP481	土師器	皿	(8.6)	－	6.4	1.2	0.25～0.3	－
第110図	289	332	SB501	SP475	瓦器	羽釜	(19.6)	(27.9)	－	5.2～	0.5～1.2	ナデ
第110図	290	382	SB501	SP475	土師器	羽釜	(26.6)	(35.4)	－	11.7～	0.55～1.05	ヘラナデ、ヨコナデ
第111図	291	337	SP240	1面・埋土	土師器	皿	9.9	－	7.8	1.3	0.2～0.45	－
第111図	292	277	SP645	1面・埋土	土師器	皿	(9.2)	－	6.8	1.2	0.2～0.4	摩滅
第111図	293	276	SP645	1面・埋土	土師器	皿	(10.6)	－	7.0	0.9	0.25～0.35	ミガキ
第111図	294	275	SP645	1面・埋土	土師器	皿	(9.2)	－	6.8	0.7	0.25～0.4	ミガキ
第111図	295	295	SP1448	1面・埋土	土師器	皿	9.7	－	－	1.6	0.25～0.45	ナデ
第111図	296	243	SP751	2面・埋土	土師器	皿	(9.2)	－	5.2	1.3	0.3	ナデ
第111図	297	347	SP730	1面・埋土	土師器	皿	10.3	－	－	1.3～1.9	0.2～0.3	ナデ
第111図	298	351	SP730	1面・埋土	黒色土器	椀	15.8	－	4.6	5.0	0.25～0.4	口:沈線、体:ヘラミガキ
第111図	299	376	SP730	1面・埋土	黒色土器	椀	(15.2)	－	5.8	4.6	0.25～0.55	ヘラミガキ
第111図	300	348	SP730	1面・埋土	黒色土器	椀	16.0	－	5.5	5.4	0.35～0.5	ヘラミガキ
第111図	301	377	SP730	1面・埋土	黒色土器	椀	(16.2)	－	－	4.4～	0.25～0.4	口:ヨコナデ、体:ヘラミガキ
第111図	302	350	SP730	1面・埋土	黒色土器	椀	(16.0)	－	－	4.8～	0.25～0.45	口:沈線、体:ヘラミガキ
第111図	303	349	SP730	1面・埋土	黒色土器	椀	(16.2)	－	－	4.6～	0.3～0.4	口:沈線、体:ヘラミガキ
第111図	304	296	SP1448	1面・埋土	瓦器	椀	(13.4)	－	－	4.6～	0.2～0.35	摩滅
第111図	305	379	SP730	1面・埋土	黒色土器	椀	－	－	5.6	2.3～	0.25～0.65	ヘラミガキ
第111図	306	378	SP730	1面・埋土	黒色土器	椀	－	－	5.8	2.1～	0.2～0.5	(ヨコ)ヘラミガキ
第111図	307	292	SP119	1面・埋土	施釉陶器	小坏	－	7.3	5.0	2.0～	0.3～0.5	－
第111図	308	281	SP349	1面・埋土	施釉陶器	四耳壺底？	－	14.3～	(9.0)	7.4～	0.9～1.5	ナデ
第113図	311	358	SI518	1面・埋土	土師器	皿	9.8	－	7.8	1.4～2.1	0.3～0.45	ナデ
第113図	312	344	SI518	1面・埋土	土師器	皿	9.6	－	－	1.5～1.8	0.3～0.6	ナデ
第113図	313	345	SI518	1面・埋土	土師器	皿	10.2	－	5.0	1.4～1.9	0.3～0.45	ナデ
第113図	314	341	SI518	1面・埋土	土師器	皿	10.2	－	7.4	1.6	0.25～0.4	ナデ
第113図	315	342	SI518	1面・埋土	土師器	皿	9.4	－	5.4	1.2～2.0	0.3～0.5	ナデ
第113図	316	343	SI518	1面・埋土	土師器	皿	9.5	－	7.8	1.5～1.7	0.2～0.45	ナデ
第113図	317	359	SI518	1面・埋土	土師器	皿	9.9	－	8.2	1.8	0.3～0.5	ヨコナデ
第113図	318	354	SI518	1面・埋土	土師器	皿(中)	14.6	－	10.0	2.5～3.5	0.4～0.5	ヘラミガキ
第113図	319	353	SI518	1面・埋土	土師器	皿(中)	15.0	－	11.0	2.8	0.3～0.6	ヘラミガキ
第113図	320	363	SI518	1面・埋土	瓦器	椀	15.2	－	5.1	4.9	0.25～0.45	ヘラミガキ
第113図	321	365	SI518	1面・埋土	瓦器	椀	15.4	－	4.8	5.0	0.3～0.4	ヘラミガキ
第113図	322	314	SP1341	1面・埋土	瓦器	椀	(15.0)	－	－	3.8～	0.2～0.4	ヘラミガキ
第113図	323	155	SI518	1面・埋土	瓦器	椀	15.6	－	4.8	5.3	0.2～0.4	ヘラミガキ

調整	色調		胎土	焼成	残存(%)	時期	備考
外面	外面	内面					
ヘラミガキ、ユビオサエ	口:暗灰、体:灰白	灰白	○	○	20	13C前～中	和泉型Ⅳ－１段階？
(ヨコ)ヘラミガキ	灰～暗灰	灰～暗灰	○	○	50	13C前～中	和泉型Ⅳ－１段階
ヘラミガキ	暗灰	暗灰	○	○	20	13C前～中	和泉型Ⅳ－１段階
(ヨコ)ヘラミガキ	暗灰～灰	暗灰～灰	○	○	20	13C前～中	和泉型Ⅳ－１段階
ヨコナデ、ユビオサエ	暗灰	暗灰	○	○	25	13C前半	和泉型Ⅲ－２・３段階？
ヨコナデ、ユビオサエ	鈍い黄橙	灰白	○	○	67	13C前半	和泉型Ⅲ－２・３段階？
口:ヨコナデ、体:ユビオサエ	灰	灰	○	○	25	13C前半	和泉型Ⅳ－１段階。
ユビオサエ	灰白	灰	○	○	50	13C前葉	和泉型Ⅲ－３段階。
口:ヨコナデ、体:ユビオサエ	暗灰	暗灰	○	○	75	13C前半	和泉型Ⅳ－１段階、歪み大。
ナデ	浅黄橙	浅黄橙	○	△	34	13C前～中	Ｊｂタイプ
ナデ	暗灰	暗灰	○	○	10	13C前半	和泉型瓦質土器。
ヨコナデ、ナデ	灰	褐灰	○	○	25	14C中葉?	
ナデ	浅黄橙	浅黄橙	△	△	100	10C末～11C初	Ｂａタイプ、ての字口縁。
摩滅	橙	橙	○	○	34	11C前葉	Ｂａタイプ、ての字口縁。内面:丹塗り？
ミガキ	黒褐	浅黄橙	○	△	34	11C前葉	Ｂａタイプ、ての字口縁。
ミガキ	暗褐	鈍い黄橙	○	○	67	11C前葉	Ｂａタイプ、ての字口縁。外面に煤付着。
ナデ	浅黄橙	橙	○	△	50	11C末～12C初	Ｂｃタイプ、ての字口縁
ナデ	灰白	灰白	○	△	100	10C後半～	ての字口縁。手づくね。Ｂａタイプ
口:ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	○	○	75	10C末～11C初	Ｂａタイプ、ての字口縁。
(ヨコ)ヘラミガキ精緻	黒	黒	○	○	67	11C中～後半	黒色土器Ｂ類。(畿内系Ⅴ類)
ヘラミガキ、ユビオサエ	黒	黒	○	○	50	11C前葉	黒色土器Ｂ類。(畿内系Ⅴ類)○
ヘラミガキ、体下～高台:ナデ	鈍い黄橙、口唇:黒	黒	○	○	90	10C前半	黒色土器Ａ類。(畿内系Ⅲ類)
口:ヨコナデ、体:ヘラミガキ	黒	黒	○	○	25	10C後葉～11C前葉?	黒色土器Ｂ類。(畿内系Ⅴ類)○
口:ヨコナデ、体:ヘラミガキ	黒	黒	○	○	35	11C末	黒色土器Ｂ類。(畿内系Ⅴ類)
口:ヨコナデ、体:ヘラミガキ	口:黒、体:橙	黒	○	○	34	10C後葉～末	黒色土器Ａ類。(畿内系Ⅲ類)
摩滅	鈍い黄橙	鈍い黄橙	○	△	25	11C末～12C初	和泉型Ｉ－３段階
摩滅	橙	黒	○	○	25	10C中～後半	黒色土器Ａ類。(畿内系Ⅲ類)○
(ヨコ)ヘラミガキ	黒	黒	○	○	35	11C前葉	黒色土器Ｂ類。(畿内系Ⅴ類)○
－	浅黄	浅黄	○	○	50	?	古瀬戸？
－	暗オリーブ	灰白	○	○	25	12C後半?	
ナデ	黄橙	浅黄橙	○	○	100	12C前半	Ａｂタイプ
ナデ	黄橙	黄橙、浅黄橙	○	○	100	12C後半?	
ナデ	橙	橙	△	○	100	13C中	Ｊｂタイプ。
ナデ	浅黄橙	浅黄橙	○	○	95	13C中	Ｊｂタイプ。
ナデ	浅黄橙	黄橙	○	○	100	13C中	Ｊｂタイプ。歪み大。
口:ヨコナデ	浅黄橙、橙	橙	○	○	100	13C中	Ｊｂタイプ。内面口に朱彩。
ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	○	○	100	12C前半	Ａｂタイプ
ヨコナデ、ナデ	浅黄橙	浅黄橙	○	○	96	12C前半	Ａタイプ
ヨコナデ、ナデ	鈍い黄橙	明黄褐	○	○	80	12C前半	Ａタイプ
口:ヨコナデ、体:ヘラミガキ、ユビオサエ	暗灰・灰白	暗灰・灰白	○	○	85	12C中～後	樟葉型Ⅱ－２段階
口:ヨコナデ、体:ヘラミガキ、ユビオサエ	暗灰	暗灰	○	○	95	12C中～後	樟葉型Ⅱ－２段階
(ヨコ)ヘラミガキ、ユビオサエ	褐灰	鈍い黄橙	○	○	34	12C後半	和泉型Ⅱ－３段階？
ヘラミガキ	灰	灰・灰白	○	○	100	12C前	樟葉型Ｉ段階

遺物観察表（8）

図版番号	No.	実測番号	遺構	層位	種類	器種	法量					調整
							口径	最大径	底径	器高	最大厚	内面
第113図	324	357	SI518	1面・埋土	瓦器	椀	(15.0)	－	4.2	4.2～4.9	0.2～0.45	ヘラミガキ
第113図	325	360	SI518	1面・埋土	瓦器	椀	15.2	－	5.2	5.0	0.3～0.4	ヘラミガキ
第113図	326	356	SI518	1面・埋土	瓦器	椀	(15.3)	－	5.2	4.5～5.3	0.25～0.5	ヘラミガキ
第113図	327	364	SI518	1面・埋土	瓦器	椀	15.5	－	4.8	5.0	0.2～0.5	口:ヨコナデ、体:ヘラミガキ
第113図	328	361	SI518	1面・埋土	瓦器	椀	15.2	－	4.5	5.2	0.25～0.5	ヘラミガキ
第113図	329	366	SI518	1面・埋土	瓦器	椀	15.4	－	4.7	4.4～5.1	0.25～0.45	口:ヨコナデ、体:ヘラミガキ
第113図	330	355	SI518	1面・埋土	瓦器	椀	(16.2)	－	4.2	4.8	0.3～0.5	(タテ、ヨコ)ヘラミガキ
第113図	331	367	SI518	1面・埋土	瓦器	椀	15.4	－	5.2	4.8～5.7	0.4～0.55	ヘラナデ？、ヘラミガキ
第113図	332	313	SP1341	1面・埋土	瓦器	椀	(14.4)	－	－	4.8～	0.25～0.45	(放射状、ヨコ)ヘラミガキ
第113図	333	362	SI518	1面・埋土	瓦器	椀	15.7	－	4.6	5.0～5.7	0.25～0.55	ヘラミガキ
第113図	334	156	SI518	1面・埋土	瓦器	椀	15.2	－	5.2～5.5	4.6～5.8	0.15～0.5	ヘラミガキ
第113図	335	346	SI518	1面・埋土	白磁	皿	－	7.7	3.2	1.5～	0.25～0.65	リング
第114図	336	268	SI518	1面・埋土	白磁	椀	(19.2)	－	－	4.9～	0.35～0.7	－
第114図	337	267	SI518	1面・埋土	白磁	椀	(18.4)	－	－	4.5～	0.3～0.65	－
第114図	338	193	SI518	2面・埋土	土師器	甑	－	24.3～	9.6	12.6～	0.65～1.45	体:ハケメ(ハード)
第118図	341	291	SD521	1面・埋土	土師器	皿	(8.7)	－	5.3	1.3	0.2～0.4	ヘラミガキ
第118図	342	311	SD521	1面・埋土	土師器	皿	(8.5)	－	－	(1.1)	0.2～0.4	－
第118図	343	260	SD521	1面・埋土	土師器	皿	(12.8)	－	8.6	1.9	0.35～0.5	ヨコナデ
第118図	344	312	SD521	1面・埋土	瓦器	椀	－	－	4.8	1.1～	0.3	－
第118図	345	310	SD521	1面・埋土	土師器	中皿	(16.8)	－	(10.3)	1.8	0.3～0.4	ミガキ
第118図	346	258	SD521	1面・埋土	瓦器	椀	(12.7)	－	－	2.4～	0.2～0.3	(ヨコ)ヘラミガキ
第118図	347	371	SD521	1面・埋土	瓦器	椀	13.3	－	4.0	3.7	0.15～0.35	暗文
第118図	348	369	SD521	1面・埋土	瓦器	椀	13.5	－	3.8	4.1	0.15～0.6	暗文
第118図	349	368	SD521	1面・埋土	瓦器	椀	13.6	－	4.4	2.4～4.3	0.1～0.4	ヨコナデ、暗文
第118図	350	370	SD521	1面・埋土	瓦器	椀	(15.9)	－	4.2	3.4～4.0	0.15～0.5	口:ヨコナデ、体:暗文
第118図	351	257	SD521	1面・埋土	瓦器	椀	12.3	－	(3.0)	2.5	0.15～0.3	口:ヨコナデ
第118図	352	261	SD521	1面・埋土	瓦器	椀	(12.8)	－	4.0	4.1	0.15～0.4	(ヨコ)ヘラミガキ
第118図	353	372	SD521	1面・埋土	瓦器	椀	14.3	－	(4.0)	3.8	0.25～0.6	ヘラミガキ
第118図	354	259	SD521	1面・埋土	瓦器	椀	(12.2)	－	－	3.2～	0.25～0.4	(ヨコ)ヘラミガキ
第118図	355	322	SD521	1面・埋土	施釉陶器	椀	－	－	(4.8)	2.4～	0.3～0.7	－
第118図	356	323	SD521	1面・埋土	施釉陶器	小坏	(12.3)	－	－	2.3～	0.15～0.4	－
第118図	357	289	SD521	1面・埋土	施釉陶器	椀	－	－	4.3	2.1～	0.35～1.25	－
第118図	358	290	SD521	1面・埋土	白磁	皿？	－	－	(5.3)	0.7～	0.3～0.6	－
第118図	359	251	SD521	1面・埋土	白磁	瓶底	－	8.2～	(5.5)	1.4～	0.25～0.5	－
第118図	360	288	SD521	1面・埋土	磁器	小坏	(9.0)	－	－	2.7～	0.25～0.5	－
第118図	361	250	SD521	1面・埋土	緑釉陶器？	壷口	13.2	－	－	4.7～	0.45～0.75	－
第118図	362	317	SD521	1面・埋土	施釉陶器	花器台？	13.7	－	－	6.9～	0.8～1.1	－
第118図	363	319	SD521	1面・埋土	須恵器？	大甕	(34.6)	－	－	6.4～	0.5～1.2	タタキ
第119図	364	320	SD521	1面・埋土	東播系須恵器	片口鉢	－	17.8～	(8.3)	4.8～	0.4～0.95	ナデ
第119図	365	316	SD521	1面・埋土	東播系須恵器	片口鉢	(28.0)	－	(8.3)	10.9	0.55～1.2	ナデ
第119図	366	287	SD521	1面・埋土	白磁	椀	(16.3)	－	－	3.8～	0.4～0.5	－
第119図	367	286	SD521	1面・埋土	白磁	椀	(17.0)	－	－	4.2～	0.3～0.6	－
第119図	368	321	SD521	1面・埋土	陶器	壷底	－	14.3～	9.8	4.3～	0.5～0.9	ナデ

調整	色調		胎土	焼成	残存(%)	時期	備考
外面	外面	内面					
ヘラミガキ	黒	黒	○	○	50	12C前半	樟葉型Ⅱ－１段階
ヘラミガキ、ユビオサエ	灰白	暗灰	○	○	100	12C前半	樟葉型Ⅱ－１段階？
ナデ、摩滅	暗灰	暗灰	○	○	67	12C前半	樟葉型Ⅱ－１段階
口:ヨコナデ、体:ヘラミガキ、ユビオサエ	暗灰	暗灰	○	○	80	12C中～後	樟葉型Ⅱ－２段階
ヘラミガキ、ユビオサエ	灰	灰	○	○	67	12C前半	樟葉型Ⅱ－１段階？
口:ヨコナデ、体:ヘラミガキ	黒	黒	○	○	98	12C中～後	樟葉型Ⅱ－２段階
摩滅	灰・灰白	灰・灰白	○	○	67	12C前半～中	和泉型Ⅱ－２段階
口:ヨコナデ、体:ヘラミガキ、ユビオサエ	暗灰・浅黄橙	暗灰・浅黄橙	○	○	100	12C前半	樟葉型Ⅱ－１段階
(ヨコ)ヘラミガキ	灰白	暗灰	○	○	34	12C後半	
口:櫛描平行沈線、ヘラミガキ、ユビオサエ	暗灰	暗灰	○	○	100	12C中～後	樟葉型Ⅱ－２段階
ヘラミガキ	灰白・黒褐	灰白・黒	○	○	100	12C前	樟葉型Ⅰ段階
－	灰白	灰白	○	○	25	12C後半～13C初	龍泉窯系青磁　ⅢⅠ類(大宰府編年)？白磁ⅢⅥ類１２Ｃ前半。
－	明オリーブ灰	明オリーブ灰	○	○	15	12C前	白磁Ⅵ類
－	明オリーブ灰	明オリーブ灰	○	○	25	12C前	白磁Ⅵ類
体:ハケメ、ヘラミガキ	浅黄橙	灰白	○	○	40	－	外面体下半に煤付着。底部焼成前穿孔(楕円形)２孔。長軸７．７～８．４、短軸３．３～３．８。
ナデ	明褐灰	橙	○	○	100	12C中～後	内面:丹塗り
－	浅黄橙	浅黄橙	○	△	25	10C末～11C初	Ｂａタイプ、ての字口縁　ＳＥＣ①より西
ヨコナデ	浅黄橙	浅黄橙	○	○	34	13C前半	Ｄタイプ
－	黒	黒	○	○	20	12C	貼付高台:断面三角形
ナデ、ユビオサエ	浅黄橙	浅黄橙	○	△	25	10C末～11C初	ＳＥＣ①より西
口:ヨコナデ、体下:ユビオサエ	灰白	灰白・黒	○	○	20	13C前葉	和泉型Ⅲ段階
口:ヨコナデ、体:ユビオサエ	暗灰	灰	○	○	25	13C前葉	和泉型Ⅲ－３段階。
口:ヨコナデ、体:ユビオサエ	暗灰	灰	○	○	67	13C前半	和泉型Ⅳ－１段階
口:ヨコナデ、体:ユビオサエ	灰白	灰	○	○	67	13C前葉	和泉型Ⅲ－３段階、歪み大。
口:ヨコナデ、体:ユビオサエ	暗灰	暗灰	○	○	50	13C前葉	和泉型Ⅲ－３段階、歪み大。
ヨコナデ、ユビオサエ	灰白	黒褐	○	○	34	13C前葉	和泉型Ⅲ段階
口:ヨコナデ、体下:ユビオサエ	灰白	灰白・黒	○	△	40	13C前～中	和泉型Ⅳ段階
口:ヨコナデ、体:ヘラミガキ(細)、ユビオサエ	暗灰・浅黄橙	暗灰・灰白	○	○	35	13C前葉	和泉型Ⅲ－３段階。
口:ヨコナデ	黒	黒・灰白	○	○	18	13C前半	樟葉型Ⅲ段階
－	灰	灰オリーブ	○	○	25	12C?	
－	灰	灰、口唇:鈍い黄橙	○	○	15	12C?	古瀬戸？
－	鈍い赤褐色	鈍い黄褐	○	○	50	?	底部外面墨書「十」カ
－	灰白	灰白	○	○	25	12C前半	白磁Ⅴ類
底:回転ヘラ切	灰白	灰白	○	○	15	中世	？？？？？？？
－	灰白	灰白	○	○	20	?	鈍い赤褐～浅黄のリング？
頚:カキメ	灰白	灰白	○	○	25	12C後半	緑釉？古瀬戸？
－	オリーブ灰	灰黄褐	○	○	35	12C?	
タタキ(格子目)	口:灰、体:灰白	口:褐灰、体:灰白	△	○	15	5C後半	
ナデ	灰	灰	△	○	15	12C?	
ナデ	口:暗灰、体:褐灰	褐灰	△	○	35	12C末～13C初	第Ⅱ期第２段階
－	灰白	灰白	○	○	15	12C前半	白磁Ⅵ類？
－	灰白	灰白	○	○	15	12C前半	白磁Ⅵ類
回転ヘラケズリ	灰	褐灰	○	○	10	12C?	

遺物観察表（9）

図版番号	No.	実測番号	遺構	層位	種類	器種	法量					調整
							口径	最大径	底径	器高	最大厚	内面
第119図	371	247	SD521	1面・埋土	瓦	平瓦	—	—	—	—	—	布目
第120図	372	299	SF501	1面・検出面	黒色土器	椀	—	10.5～	(5.6)	2.1～	0.25～0.45	摩滅
第120図	373	298	SF501	1面・検出面	土師器	皿	—	13.0～	(11.1)	1.7～	0.3～0.45	摩滅
第120図	374	300	SF501	1面・検出面	土師器	羽釜	—	—	—	4.5～	0.5～0.8	—
第120図	375	297	SF501	1面・埋土	陶器	壷底	—	20.7	(14.0)	6.2～	1.0～1.7	—
第121図	376	304	SD579	1面・埋土	土師器	皿	(8.4)	—	5.6	1.1	0.15～0.4	摩滅
第121図	377	340	SD579	埋土上層	土師器	皿	8.1	—	3.7	0.8～1.2	0.25～0.35	ナデ
第121図	378	339	SD579	埋土上層	土師器	皿	8.4	—	6.2	1.1～1.6	0.15～0.45	ナデ
第121図	379	307	SD523	1面・埋土	瓦器	椀	—	—	(4.8)	1.7～	0.3～0.45	ミガキ
第121図	380	309	SD523	1面・埋土	施釉陶器	椀	—	—	(5.0)	2.3～	0.6	—
第121図	381	308	SD523	1面・埋土	陶器	瓶底	—	9.8～	(6.0)	4.6～	0.8～1.3	—
第121図	382	306	SD523	1面・埋土	陶器	擂鉢	(28.6)	(30.1)	—	5.6～	0.6～1.8	回転ナデ、擂り目
第121図	383	305	SD523	1面・埋土	陶器	甕	—	—	—	5.8～	0.9～1.2	ケズリ、ナデ
第122図	384	246	SK532	1面・埋土	白磁	坏	11.0	—	4.2	2.7	0.15～0.5	リング
第122図	385	244	SK532	1面・埋土	白磁	坏	(10.6)	—	3.9	3.1	0.15～0.8	リング
第122図	386	245	SK532	1面・埋土	土師器	皿	(9.0)	—	3.7	1.1	0.3	ナデ
第122図	387	255	SK508	1面・埋土	瓦器	椀	—	—	6.25	1.7～	0.4～0.65	—
第122図	388	254	SK508	1面・埋土	瓦器	椀	(15.4)	—	—	4.9～	0.3～0.5	(ヨコ)ヘラミガキ
第122図	389	256	SK508	1面・埋土	陶器	甕口	(33.3)	—	—	4.2～	0.7～0.95	—
第123図	390	338	包含層F－1G	2面上層	土師器	皿	9.7	—	8.2	1.6～2.1	0.2～0.5	ナデ
第123図	391	315	SI23	SP1341	瓦器	椀	—	—	4.2	1.2～	0.25～0.4	ヘラミガキ
第123図	392	352	SD57・58	C－7G	瓦器	椀	(14.2)	—	3.7	3.7	0.2～0.35	ヘラミガキ
第123図	393	302	包含層C・D－3・4G	2面上層	白磁	椀	(16.4)	—	—	2.2～	0.3～0.65	—
第123図	394	293	SD57・58	1面・埋土	青磁	椀	—	12.8～	5.6	3.8～	0.4～1.1	沈線
第123図	395	283	包含層F－3G	2面上層	白磁	椀	(16.5)	—	—	5.7～	0.2～0.6	—
第123図	396	278	包含層G－5G	2面上層	施釉陶器	椀	—	—	(6.0)	1.4～	0.4～0.8	—
第123図	397	279	包含層G－5G	2面上層	施釉陶器	椀	—	—	(6.3)	1.4～	0.4～0.6	—
第123図	398	284	包含層C－5G	2面上層	施釉陶器	椀	—	—	6.3	2.0～	0.3～1.35	—
第123図	399	274	包含層C－3G	2面上層	施釉陶器	小坏	—	—	—	2.5～	0.2～0.3	—
第123図	400	280	包含層G－5G	2面上層	白磁	椀	(18.2)	—	—	3.1～	0.3～0.7	—
第123図	401	271	包含層E－3G	2面上層	白磁	椀	—	—	7.0	1.9～	0.55～1.1	—
第123図	402	285	包含層H－3G	2面上層	施釉陶器	椀	—	—	7.2	2.3～	0.4～0.7	—
第123図	403	301	包含層C・D－3・4G	2面上層	東播系須恵器	片口鉢	(29.2)	—	—	6.9～	0.4～0.7	ナデ
第123図	404	282	SD587	1面・埋土	東播系須恵器	片口鉢	(29.5)	—	(6.9)	(11.5)	0.3～1.0	ナデ
第123図	405	303	SD579	1面・埋土	石製品	鍋	(17.2)	(23.4)	—	4.2～	1.4～1.6	—
第123図	406	294	SD57・58	1面・埋土	施釉陶器	四耳壷	—	—	—	4.8～	0.55～1.05	—
第123図	407	273	包含層C－3G	2面上層	施釉陶器	四耳壷？	—	—	—	5.1～	0.4～0.9	—
第123図	408	272	包含層C－3G	2面上層	陶器	壷底	—	14.7～	(11.3)	4.4～	0.6～1.0	—

調整	色調		胎土	焼成	残存(%)	時期	備考
外面	外面	内面					
コビキ	灰白	灰白	○	○	15	古代	長:8.4×8.0、厚:1.3～1.65。
摩滅	黒	黒	○	○	18	11C後半～末?	畿内系Ⅴ類、黒色土器B類。
摩滅	灰白	灰白	○	△	18	12C後半～13C中	
―	黒褐	灰白	○	△	10	―	内外面煤付着。
体下:回転ヘラケズリ	褐灰	灰白	○	○	10	?	
摩滅	橙	鈍い黄橙	○	△	67	12C後半	Jタイプ。
ナデ	鈍い黄橙	鈍い黄橙	○	△	98	12C後半	Jタイプ。
ナデ	浅黄橙	浅黄橙	△	△	100	12C後半	Jタイプ。
―	暗灰	暗灰	○	○	15	11C末～12C初?	
―	明緑灰	明緑灰	○	○	18	13C後半～14C前葉?	古瀬戸中Ⅰ期?
―	灰白	灰白	○	○	15	?	瓶子・水注?
回転ナデ	褐灰	鈍い橙	△	○	15	14～15C?	備前焼Ⅳ期?
タタキ(蓮ぐう文)	褐灰	褐灰	△	○	5	?	
―	灰白	灰白	○	○	35	?	C群皿Ⅴ2
―	灰白	灰白	○	○	35	?	C群皿Ⅴ2
ナデ	浅黄橙	浅黄橙	○	△	75	11C	Aaタイプ
―	浅黄橙	黒褐	○	○	25	11C末～12C初	樟葉型Ⅰ段階
(ヨコ)ヘラミガキ	黒褐	黒褐	○	○	70	12C初	樟葉型Ⅰ段階
―	灰	灰白	△	○	10	12C?	
ナデ	淡橙	淡橙	△	○	100	11C	Aaタイプ
―	黒	黒	○	○	20	11C末?	
ナデ、ユビオサエ	暗灰	灰白	○	○	67	12C末～13C初	和泉型Ⅲ－2段階、内面に火襷有。
―	灰白	灰白	○	○	15	12C前半	白磁Ⅳ類
―	灰オリーブ	灰オリーブ	○	○	60	12C後半?	龍泉窯系青磁碗Ⅰ－4類(大宰府編年)
―	灰白	灰白	○	○	33	12C前半	白磁Ⅴ類3－a
体下:回転ヘラケズリ	灰黄	灰オリーブ	○	○	34	中世	奈良三彩系?
―	明緑	明緑	○	○	25	12C?	南部系山茶碗(渥美・湖西型)?
―	灰白	淡黄	○	○	45	12C前半?	南部系山茶碗(渥美・湖西型)?
―	灰	灰	○	○	15	12C?	古瀬戸?
―	灰白	灰白	○	○	15	12C	白磁Ⅵ類
―	灰黄	淡黄	△	○	50	12C前?	白磁Ⅱ類
―	灰白	灰黄	○	○	30	?	
ナデ	灰白・口:灰	灰白	○	○	15	12C末～13C初	第Ⅱ期第2段階
―	口:暗灰、体:褐灰	褐灰	○	○	40	12C末～13C初	第Ⅱ期第2段階
―	黒	黒	―	―	20	12C後半?	滑石製。
―	明緑	灰白	○	○	15	12C後半?	
―	灰黄褐	灰白	○	○	10	12C?	産地不明。
体下端:回転ヘラケズリ	灰白	灰黄褐	○	○	18	12C後?	古瀬戸、四耳壷?

遺物観察表（石器）

図版番号	No.	実測番号	遺構	層位	器種	石材	法量				色調	残存(%)	時期	備考
							最大長	最大幅	最大厚	重（g）				
第33図	13	19	SD202	2面・埋土	不明	石灰岩	11.7	―	5.5～7.1	316	灰白	100	弥生中期	円柱状。両端磨面、条痕4段。
第34図	17	2	SD221	2面・埋土	砥石	不明	5.9	5.4	1.8	83	灰白	90	？	3面使用擦痕有。
第47図	19	21	SD197	2面・埋土	砥石	泥岩	19.4	5.9～6.4	5.3～6.0	1030	浅黄橙	100	弥生中期？	四角柱状、短冊形。4面使用。
第55図	26	1	包含層	2面上層	削器	サヌカイト	8.2	3.9	2.0	57	灰	100	不明	1側縁刃部調整
第55図	27	10	包含層	2面上層	石べら	凝灰岩？	7.4	0.9～2.8	1.3	20	青灰	100	不明	両側縁刃部調整。
第55図	28	7	包含層I－1G	2面上層	勾玉	滑石	4.5	0.8～1.5	0.6～	7	暗オリーブ灰・暗緑灰	45	不明	断面形状円形、孔径0.3、
第60図	67	12	SD58	2面・埋土	砥石	砂岩系	11.0～	6.5～	8.1～	590	オリーブ灰・黄橙	40	5C後半	直方体、2面使用。
第60図	68	3	SD58	2面・埋土	磨石	頁岩？	6.3	2.9	2.6	77	暗赤	100	5C後半	四角柱状、磨面4面有。
第74図	152	14	SI07	2面・埋土	砥石？	頁岩？	15.7	9.2	9.3	1400	鈍い黄橙	60	5C後半	楕円礫使用。2面使用。
第75図	153	11	SI07	2面・埋土	砥石？	凝灰岩	11.1～	9.0～	6.1～9.5	1400	明黄褐・青灰	55	5C後半	直方体、4面使用。条痕、擦痕、窪み有。
第75図	154	13	SI07	2面・埋土	砥石	緑色凝灰岩	9.0	9.1	5.1～5.8	625	明青灰	85	5C後半	直方体、3面使用。擦痕、条痕有。
第76図	155	20	SI07	2面・埋土	砥石	砂岩系	6.9～	4.8～9.7	1.3～6.2	382	褐灰	30	5C後半	欠損、条痕有。4面使用。
第76図	156	18	SI07	2面・埋土	砥石	砂岩系	14.5～	15.0	3.7～6.4	1600	灰オリーブ	50	5C後半	楕円礫使用。V字に研面、深い条痕有。
第77図	157	17	SI07	2面・埋土	砥石	砂岩系	11.8～	10.5	7.4～9.8	1400	明青灰・明黄褐	45	5C後半	四角柱状、磨面3面有。
第77図	158	15	SI07	2面・埋土	砥石	頁岩	17.5	9.3～11.1	7.3～7.5	2600	暗青灰・灰白	100	5C後半	直方体、4面使用。条痕、擦痕、凹み。
第78図	159	16	SI07	2面・埋土	砥石	頁岩	27.5～	12.9～	6.8～10.4	5200	黄灰	90	5C後半	直方体、5面使用。条痕、擦痕、凹み、火熱。
第90図	195	6	SI14	2面・埋土	砥石	凝灰岩	13.0	3.0～5.9	1.7	228	灰	100	5C後半	板状、3面使用。
第90図	196	4	SI14	2面・埋土	紡錘車	滑石	4.4	―	1.5	42	オリーブ灰	100	5C後半	上面径2.2、下面径4.0、孔径0.6
第102図	210	5	SK20	2面・埋土	砥石	泥岩？	12.5	4.0～5.2	1.5～3.2	278	明オリーブ灰	95	5C後半	四角柱状短冊形、6面使用。
第114図	339	9	SI518	1面・埋土	不明	不明	21.0	10.5	6.5	1900	暗赤褐	75	12～13C	直方体、磨面5面有。
第115図	340	8	SI518	1面・埋土	砥石	不明	11.6～	9.2～12.9	8.2	2000	明オリーブ灰	40	12～13C	直方体、4面使用。擦痕、条痕有。

遺物観察表（金属器）

図版番号	No.	実測番号	遺構	層位	器種	材質	法量				色調	残存(%)	時期	備考
							最大長	最大幅	最大厚	重（g）				
第107図	267	5	包含層F～G3G	2面・埋土	不明	鉄	6.3～	3.9～4.6	0.3	―	―	―	7C	方形板状。
第111図	309	1	SP1317	1面・埋土	釘	鉄	3.2	―	―	―	―	95	中世？	釘頭巾1.1～1.5、身巾0.4～0.7。
第111図	310	4	SP05	1面・埋土	不明	鉄	3.3～	4.1	0.4～1.0	―	―	―	中世？	方形板状。
第119図	369	3	SD521	1面・埋土	鏃	鉄	7.2～	0.3～1.5	0.2～1.1	―	―	65	12～13C	鏃部欠損。
第119図	370	2	SD521	1面・埋土	鏃	鉄	3.6～	0.6～0.8	0.3～0.8	―	―	55	12～13C	鏃部欠損。

写　真　図　版

郡遺跡調査区全景（真上から）

東調査区第2面北側全景（南西から）

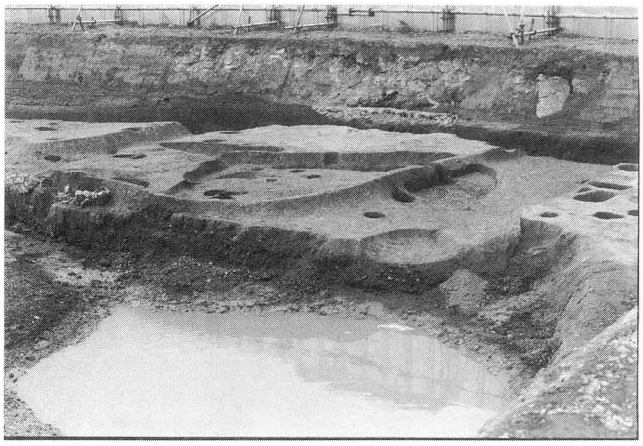
東調査区第2面南側全景（北西から）

東調査区第2面全景（南から）

東調査区第2面中央部（南西から）

西調査区第2面南側全景（北東から）

西調査区第2面南西部全景（東から）



調査区北西端　方形周溝墓1(東から)

調査区北西部　方形周溝墓2(上)・3(下)(南から)

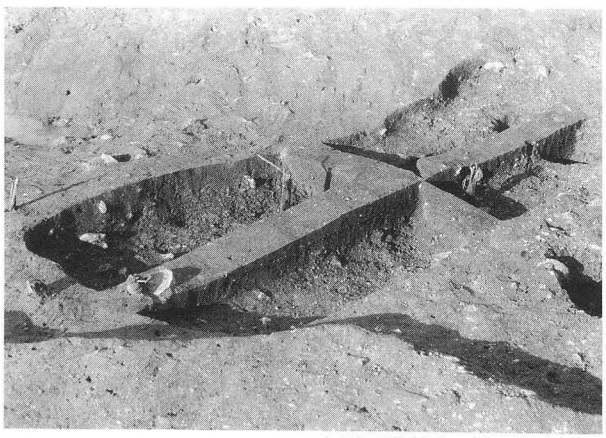
方形周溝墓2・3 共有溝断面(SD67)(西から)

方形周溝墓2・3 共有溝遺物出土状況(北から)

方形周溝墓2・3 共有溝遺物出土状況
右:方形周溝3(西から)

東調査区北中央　方形周溝墓4全景
左:方形周溝5(東から)
左下:方形周溝11

方形周溝墓4　棺1(南から)



方形周溝墓4　棺2(南東から)